中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄府尹郡守島司ニ申告スヘシ殘餘財產ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第二十條　合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ三十日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資產ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第二十一條　朝鮮所得稅令第二十三條ノ規定ニ依ル所得金額ノ決定ハ府尹、郡守又ハ島司之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ府尹、郡守又ハ島司ハ納稅義務アル法人ニ其ノ所得金額ヲ通知スヘシ

第二十二條　朝鮮所得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ其ノ旨納稅地ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ申告スヘシ

納稅地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新納稅地ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第二十三條　朝鮮ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人其ノ本店又ハ主タル事務所ヲ朝鮮外ニ移サムトスルトキハ其ノ旨所轄府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第二十四條　朝鮮所得稅令第二十七條ノ規定ニ依リ納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ所轄府尹郡守島司ニ申告スヘシ納稅管理人ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

納稅管理人ハ納稅地ノ府郡島ニ住所又ハ居所ヲ有スル者タルコトヲ要ス

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ納稅管理人ヨリ其ノ旨所轄府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第二十五條　本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スヘキモノハ所轄府尹郡守島司ヲ經由スヘシ

附　則（大正十五年朝鮮總督府令第六十四號）

本令ハ大正十五年制令第十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年制令第十二號附則第二項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ第八條第一項、第三項及第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

●臺灣所得稅令

（大正十年四月十四日律令第四號）
改正　大正一一年第五號、一三年第二號、第四號、一四年第一號　昭和二年第一號

臺灣所得稅令改正ノ件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

大正九年律令第七號臺灣所得稅令左ノ通改正ス

臺灣所得稅令

第一條　臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一　臺灣ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキ
二　臺灣ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ
三　臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條　所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ國債、貯蓄債券法ニ依リ發行シタル貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券法ニ依リ發行シタル復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セス

第一種
甲　法人ノ普通所得
乙　法人ノ超過所得
丙　法人ノ清算所得

第二種
甲　臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金ノ利子
乙　第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種
第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第四條　法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ臺灣ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條　法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條　第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　本令ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條　削除

第十條　削除

第十一條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ所得稅法施行地、朝鮮、關東州、樺太又ハ臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十五條　第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　營業ニ非サル貸金ノ利子竝第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額
二　山林伐採ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額
四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額
五　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額
六　田、畑及養魚池ノ所得ハ前三年間每年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル金額但シ前三年以來引續キ自作シ、小作シ又ハ小作ニ付シタルニ非サル田、畑又ハ養魚池ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル金額
七　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

山林ノ立竹木ノ讓渡ニ因ル所得ハ之ヲ山林伐採ノ所得ト看做ス

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戾トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號及第七號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十六條　前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬八千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得（前條第一項第三號及第五號ノ所得）ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一　所得中ニ勤勞所得以外ノ所得ナキトキハ所得總額中三千圓以下ノ金額ニ付十分ノ四、三千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ三、七千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ二、一萬二千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ一ヲ乘シタル金額ノ合計金額
二　所得中ニ勤勞所得以外ノ所得アルトキハ所得總額ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヨリ勤勞所得以外ノ所得ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヲ控除シタル金額

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十七條　前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林伐採ノ所得ト其ノ以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林伐採ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林伐採ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癈疾者ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十七條ノ二　自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第十八條　左ニ揭クルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　臺灣總督ノ指定スル公共團體
二　民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ臺灣總督ノ指定スルモノ

第十九條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ第一種甲及乙竝第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セス

第二十條　所得稅法施行地又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セス

所得稅法施行地若ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ臺灣ニ住所ヲ有セスシテ所得稅法施行地若ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ揭クル場合ヲ除クノ外所得稅ヲ課セス

一　臺灣ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後所得稅法施行地又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ
二　所得稅法施行地又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者所得稅法施行地又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前臺灣ニ住所ヲ移轉シタルトキ
三　臺灣、所得稅法施行地又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第二十一條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當
二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三　旅費、學資金及法定扶養料
四　郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五　所得稅法施行地又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル所得
六　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣、所得稅法施行地及樺太外ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第二十二條　臺灣總督ノ指定スル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受クル重要物產ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第二十三條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス

第二十三條ノ二　臺灣ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得ニ付同樣ノ免稅ヲ爲サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　第三種ノ所得千五百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十六條乃至第十七條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲千五百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十五條　第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲　普通所得
　臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人　百分ノ五
　臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人　百分ノ十
乙　超過所得
　超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ逐次ニ各稅率ヲ適用ス
　普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スル金額　百分ノ四
　同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十
　同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ二十
丙　清算所得
　清算所得金額中積立金[illegible]ヨリ成ル金額　百分ノ五
　其ノ他ノ金額　百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ[illegible]之ヲ控除ス

前項ノ規定ニ依リ控除スヘキ[illegible]

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條ノ二　[illegible]テ留保[illegible]

ル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ八、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十二、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十六、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ税率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額（各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方）ニ付適用シテ算出シタル税額ヲ普通所得ニ得スル所得税ニ加算スルコトヲ得

一　事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二　事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本令ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十六條　第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲　公債ノ利子　百分ノ四
　　其ノ他　百分ノ五
乙　百分ノ七、五

第二十七條　第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林伐採ノ所得ハ其ノ以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ税額トス

千五百圓以下ノ金額	百分ノ〇・五
千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ一
二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ三
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六・五
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九・五
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ税額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十八條　第一種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書竝第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ臺灣ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得税ヲ課セラルヘキ法人ニシテ其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十七條又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第三十條　第一種及第三種ノ所得金額ハ前二條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第三十一條　各税務官署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置キ第三種所得ノ調査ニ關スル事項ヲ諮問ス但シ税務官署所轄内ニ在ル市又ハ街ニ付テハ臺灣總督ハ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十二條　調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ前年第三種ノ所得税ヲ納メ其ノ年第二十九條ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ知事又ハ廳長之ヲ命ス調査委員ノ任期ハ二年トス

第三十三條　調査委員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

一　第三種ノ所得ニ付納税義務ヲ有セサルニ至リタルトキ

二　所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居セサルニ至リタルトキ

調査委員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ知事又ハ廳長ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十四條　調査委員ニハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第三十五條　所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十六條　五月三十一日迄ニ所得調査委員會諮問事項ヲ議了セサルトキハ政府ハ直ニ所得金額ヲ決定ス

第三十七條　所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納税義務アルコトヲ申出テ又ハ納税義務者所得金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ政府ハ所得調査委員會ニ諮問セス其ノ金額ヲ決定ス

第三十八條　臺灣ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一　公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二　利子支拂期限及利率

三　償還ノ方法及期限

四　數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第三十九條　第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ臺灣總督ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第四十條　税務官吏ハ調査上必要アルトキハ納税義務者、納税義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問シ又ハ其ノ所得若ハ支拂ニ關スル帳簿及物件ヲ檢査スルコトヲ得

第四十一條　税務官吏ハ調査上必要アルトキハ納税義務者又ハ納税義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第四十二條　第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ税額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

臺灣ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第四十三條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者第十五條第一項第五號乃至第七號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限

ニ在ラス

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第四十四條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ查覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第四十五條　第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得税ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ其ノ所得税ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四十六條　前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得税ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國税徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第四十七條　法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得税又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル税金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

第四十八條　第四十三條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十九條　第三種ノ所得ニ付二以上ノ税務官署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納税義務者ノ住所地以外、住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第五十條　所得税ヲ納ムル義務アル法人臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサルトキハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第五十一條　第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ納税義務者ノ住所地、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

市街庄又ハ區ノ區域内ニ住所及居所ナキ者ハ市街庄又ハ區ノ區域内ニ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第五十二條　納税義務者臺灣ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第五十二條ノ二　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主、社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脱ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第五十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得税ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務官署ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得税ヲ逋脱シタル者ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問セス政府之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第五十四條　正當ノ事由ナクシテ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者又ハ第四十條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ物件ノ檢査ヲ妨ケタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第三十九條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第五十五條　第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ依ル税務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十六條　所得ノ調査ニ關與シ又ハ關與シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得税ヨリ、第十三條ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレタル法人又ハ所得税法ニ依リ所得税ヲ免除セラレタル法人ノ大正九年七月三十一日前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分ニ依ル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ本令ヲ適用セス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

大正十年中ニ任命スヘキ所得調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ其ノ年第二十九條ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ知事又ハ廳長之ヲ命ス

附　則（昭和二年律令第一號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和二年分所得税ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十九條及第三十六條ノ改正規定ハ昭和三年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第十五條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十五年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ昭和二年分第三種所得トシテ計算セス

第十七條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ昭和二年ニ限リ四月一日トス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●臺灣所得税令施行規則

（大正十年四月二十五日臺灣總督府令第八十五號）
（改正　大正一〇年第一二八號、一一年第六號、第三三號、第一二〇號、一三年第三〇號、一四年第四七號
昭和二年第二一號、第六五號）

大正九年府令第四十九號臺灣所得税令施行規則左ノ通改正ス

臺灣所得税令施行規則

第一條　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第一條ノ二　法人ノ超過所得[illegible]資本金額[illegible]ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定[illegible]規定ニ依[illegible]之ヲ準用ス

第二條　臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル臺灣ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ[illegible]其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條　所得税ヲ課スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ[illegible]課スヘキ[illegible]總資本金額ニ[illegible]テハ前條[illegible]

第四條　臺灣[illegible]リ清算所得[illegible]金額ハ解[illegible]ニ於テ留[illegible]中ニ生[illegible]課セラレ[illegible]依ル

前項ノ[illegible]

第五條　臺灣所得税令[illegible]ニ依リ普[illegible]テハ普通[illegible]

業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　臺灣所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二　臺灣所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ臺灣所得稅令第二十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務官署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第六條ノ三　知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第七條　臺灣所得稅令第十五條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條　第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ

臺灣所得稅令第十五條第一項第六號又ハ第七號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號乃至第七號ノ規定ニ依ル所得ノ合算額ヨリ之ヲ差引キ計算ス

第八條ノ二　臺灣所得稅令第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス

第九條　臺灣所得稅令第十七條ノ不具癈疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二　臺灣所得稅令第十七條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セサルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ知事又ハ廳長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム

第十條　臺灣所得稅令第十七條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癈疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者臺灣所得稅令第十七條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

臺灣所得稅令第十七條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第十一條　知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍、戶口調査簿、除戶簿ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條ノ二　臺灣所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ臺灣所得稅令第十五條乃至第十七條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス但シ臺灣所得稅令第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

同一人ニシテ山林伐採ノ所得ト山林伐採以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林伐採以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林伐採ノ所得ニ及フ

第十一條ノ三　臺灣所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　保險者ノ住所及名稱
二　保險ノ種類
三　保險金額
四　保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄
五　前年中ニ拂込ミタル保險料金額

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者臺灣所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條ノ四　知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條　左ニ掲クルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　州、市、街、庄、州組合、市街庄組合、街庄組合、廳地方費、公共埤圳組合、公共埤圳聯合會、官設埤圳水利組合、水利組合、水利組合聯合會、水產會、重要物產同業組合、重要物產同業聯合會、農會其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ及神社、寺院、祠宇、佛堂、臺灣ノ舊慣ニ依ル寺廟
二　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

第十三條　左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ臺灣所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、錫又ハアルミニウムノ地金
二　鐵ノ條、竿、テー形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
五　燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
六　製紙用パルプ
七　板硝子
八　コンデンスドミルク
九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條　臺灣所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同令第二十八條又ハ第二十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務官署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十五條　法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ二十日內又ハ清算著手ノ日ヨリ十四日內ニ之ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

第十六條　解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ殘餘財產ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十七條　合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資產ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

第十八條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資產營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

臺灣所得稅令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第十九條　臺灣所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ每年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ每年三月十五日限
二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ每年三月十五日限
三　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料、又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ每年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ每年三月十五日限

第二十條　前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ別記第一號書式ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ

一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日
二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受クル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎
三　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十一條　第十九條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ別記第一號書式ノ異動調書ヲ提出スヘシ

第二十二條　第十九條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタルモノニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人每ニ一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ七月末日迄ニ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

第二十三條　臺灣所得稅令第三十一條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調査委員會ヲ置クヘキ市及街左ノ通之ヲ定ム

臺灣市制施行地
新竹街、彰化街、嘉義街

第二十四條　調査委員ノ定數ヲ左ノ如ク定ム

臺北市、臺中州稅務課所轄（臺中市、彰化街ヲ除ク）	各七人
臺南市、臺北州稅務課所轄（臺北市、基隆市ヲ除ク）、臺南州嘉義稅務出張所所轄（嘉義街ヲ除ク）	各六人
其ノ他	各五人

第二十五條　所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域內ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ	三十日以內
三千人以上ナルトキ	二十五日以內
千人以上ナルトキ	二十日以內
五百人以上ナルトキ	十五日以內
五百人未滿ナルトキ	十日以內

第二十六條　所得調査委員會ハ知事又ハ廳長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條　所得調査委員會ニ會長ヲ置ク會長ハ每年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ知事又ハ廳長之ヲ命ス

會長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者會長ノ事務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條　所得調査委員會ノ議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第三十條　調査委員ハ自己又ハ其ノ家族ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十一條　稅務官吏ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十二條　所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ知事又ハ廳長ニ報告スヘシ

第三十三條　調査委員職務ニ從事シタルトキハ一會期ニ付左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

其ノ會期ニ於テ所得調査委員會ニ諮問シタル納稅者數	
五千人以上ナルトキ	百圓
同　三千人以上ナルトキ	八十圓
同　千人以上ナルトキ	七十圓
同　千人未滿ナルトキ	五十圓

所得調査委員會開會中ニ退職又ハ新任シタル者ニハ前項ノ手當ハ委員會開會ノ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

調査委員其ノ職務ノ爲旅行シタルトキハ州協議會員其ノ職務ノ爲旅行スル場合ニ準シ旅費ヲ支給ス

第三十四條　知事又ハ廳長第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ臺灣所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十五條　臺灣所得稅令第四十二條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ府報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十六條　納稅義務者臺灣所得稅令第四十三條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ同時ニ臺灣所得稅令第十七條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第三十七條　臺灣所得稅令第四十三條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ知事若ハ廳長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十八條　知事又ハ廳長臺灣所得稅令第四十四條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十九條　所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ臺灣所得稅令第十六條第二項、第十七條第二項、第二十四條第二項及第二十七條第二項ノ規定ノ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第四十條　所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第四十一條　第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第二號書式ノ拂込書及別記第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄內ノ日本銀行代理店ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ尙別記第五號書式ニ依リ其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ

日本銀行前項ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記

第三號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官ニ（稅務出張所ノ分掌區域内ニ在ル者ハ歳入徵收分掌官ヲ經由シ）送付スヘシ

第四十一條ノ二　第二種ノ所得ニ付所得稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ヲ管轄スル州知事又ハ廳長ニ請求書ヲ提出スヘシ

第四十二條　第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第二期　翌年三月一日ヨリ二十五日限

特別ノ事情アル場合ニ於テハ知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前項ノ納期ヲ變更シ又ハ納期ヲ定メテ一時ニ其ノ年額ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條　臺灣所得稅令第五十條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ稅務官署ニ申告スヘシ申告ナキトキハ知事又ハ廳長其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十四條　第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキハ其ノ旨居所地ノ稅務官署ニ申告スヘシ

第四十五條　納稅義務者納稅地ノ稅務官署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地ノ稅務官署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第四十六條　納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務官署ニ申告スヘシ

第四十七條　納稅義務者臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務官署ニ申告スヘシ

第四十八條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務官署ニ申告スヘシ

第四十九條　臺灣所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル

臺灣所得稅令第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第五十條　臺灣所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務官署ニ申請スヘシ

第十四條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　稅務官吏臺灣所得稅令第四十條ノ規定ニ依リ帳簿、物件ヲ檢査スルトキハ左ノ檢査章ヲ示スヘシ

用紙厚質白紙　縦三寸三分　横二寸二分

表

何號

檢査章

州廳又ハ稅務出張所印

裏

何州廳又ハ稅務出張所

官氏名

附　則

第五十二條　本令ハ大正十年律令第四號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第五十三條　本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル所得稅免除ノ申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十四條　臺灣所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ此ノ際第二十條ノ規定ニ依リ記載シタル支拂調書ヲ左ノ期限ニ從ヒ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ大正十年五月末日限

二　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ大正九年四月一日ヨリ大正十年三月三十一日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十年五月末日限、大正十年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十年六月末日限

三　大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ大正十年三月三十一日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十年五月末日限、大正十年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十年六月末日限、大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利益若ハ利息ノ配當ニシテ大正十年三月三十一日迄ニ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタルモノハ大正十年五月末日限

第五十五條　第二十一條及第二十二條ノ規定ハ前條ノ支拂調書ヲ提出シタルモノニモ之ヲ適用ス

第五十六條　大正十年ニ於ケル第二十五條ノ開會日數ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

附　則（昭和二年臺灣總督府令第二十一號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和二年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十四條、第十九條及第二十一條ノ改正規定ハ昭和三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和二年ニ限リ第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス

（別記）

（書式略ス）

●樺太所得稅令

（大正十一年四月十五日勅令第二百二號／改正　大正一三年第二六六號、一四年第五號／昭和二年第四三號）

朕樺太所得稅令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太所得稅令左ノ通改正ス

樺太所得稅令

第一條　樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一　樺太ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキ

二　樺太ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ

三　樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條　所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ國債、貯蓄債券法ニ依リ發行シタル貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券法ニ依リ發行シタル復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セス

第一種

甲　法人ノ普通所得

乙　法人ノ超過所得

丙　法人ノ清算所得

第二種

甲　樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金ノ利子

乙　第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種　第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第四條　法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ樺太ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條　法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條　第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　本令ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條　削除

第十條　削除

第十一條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十五條　第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之カ算出ス

一　營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五　俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十六條　前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得（前條第一項第三號及第五號ノ所得）ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一　所得中ニ勤勞所得以外ノ所得ナキトキハ所得總額中三千圓以下ノ金額ニ付十分ノ三、三千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ二、六千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ一ヲ乘シタル金額ノ合計金額

二　所得中ニ勤勞所得以外ノ所得アルトキハ所得總額ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヨリ勤勞所得以外ノ所得ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヲ控除シタル金額

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十七條　前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具廢疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト其ノ以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第十七條ノ二　自己若ハ[illegible]第一項ノ不[illegible]ヲ保險金受取人トスル[illegible]拂込ミタル[illegible]廳長官ノ定[illegible]其ノ所得[illegible]

第十八條　左ニ揭クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一　樺太[illegible]ル法人[illegible]

二　民法[illegible]廳長官[illegible]

第十九條　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ第一種[illegible]所得稅ヲ課セス

第二十條　[illegible]ハ一年以上[illegible]所得ニ付[illegible]所得稅法[illegible]人又ハ樺[illegible]行地若ハ[illegible]除クノ外[illegible]

一　樺太[illegible]所得稅[illegible]タルトキ

二　所得[illegible]ル者所[illegible]合ニ依[illegible]轉シタルトキ

三　樺太[illegible]又ハ[illegible]居所[illegible]ルトキ

第二十一條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料

三　旅費、學資金及法定扶養料

四　郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五　所得税法施行地又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依ル第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スル所得
六　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ樺太、臺灣及所得税法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第二十二條　樺太廳長官ノ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得税ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得税ノ免除ヲ受クル重要物産ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得税ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第二十三條　所得税法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ所得税ヲ免除ス

第二十三條ノ二　樺太ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得税ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得ニ付同樣ノ免税ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　第三種ノ所得ハ千五百圓ニ滿タサルトキハ所得税ヲ課セス第十六條乃至第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千五百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十五條　第一種ノ所得ニ對スル所得税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲　普通所得
樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人　百分ノ五
樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人　百分ノ十

乙　超過所得
超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用ス
普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ二十

丙　清算所得
清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各税率ヲ適用ス
積立金又ハ本令ニ依リ所得税ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額　百分ノ五
其ノ他ノ金額　百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得税額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得税ニ付之ヲ準用ス

第二十五條ノ二　同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ八、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十二、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十六、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ税率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額（各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方）ニ付適用シテ算出シタル税額ヲ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スルコトヲ得

一　事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額
二　事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本令ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十六條　第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲　公債ノ利子　百分ノ四
其ノ他　百分ノ五
乙　百分ノ七・五

第二十七條　第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ税額トス

千五百圓以下ノ金額　百分ノ〇・六
千五百圓ヲ超ユル金額　百分ノ一・五
二千圓ヲ超ユル金額　百分ノ二
三千圓ヲ超ユル金額　百分ノ三
五千圓ヲ超ユル金額　百分ノ四
七千圓ヲ超ユル金額　百分ノ五
一萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ六・五
一萬五千圓ヲ超ユル金額　百分ノ八
二萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ九・五
三萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十一
四萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十三
五萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十五
七萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十七
十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十九
二十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十一
五十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十三
百萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十五
二百萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十七
三百萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ三十
四百萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ三十三

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ税額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十八條　第一種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書竝第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ樺太ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得税ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十七條又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第三十條　第一種ノ所得金額ハ第二十八條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納税義務アルコトヲ申出テ又ハ納税義務者所得金額ノ增加アルコトヲ申出テタル

トキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十條ノ二　支廳長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納税義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　各支廳所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三十二條　調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且ツ其ノ決定ヲ受ケタル者ニ就キ支廳長之ヲ命ス

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前任命ノ要アル場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得税又ハ營業收益税ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ法定ノ申告期限前ナルトキハ前年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シタルコトヲ以テ其ノ年法定ノ期限迄ニ申告ヲ爲シタルモノト看做ス

前三項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納税又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納税又ハ申告ト看做ス

第三十二條ノ二　調査委員ノ任期ハ任命ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス

所得調査委員會ノ屬スル區域ノ變更ニ因リ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ增減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員ノ任期ハ其ノ區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

前條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前所得調査委員會ノ屬スル區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　調査委員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

一　第三種ノ所得ニ對スル所得税若ハ營業收益税ノ何レニ付テモ納税義務ヲ有セサルニ至リタルトキ
二　所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居セサルニ至リタルトキ

調査委員職務ヲ怠リ若ハ體面ヲ汚損シタルトキ又ハ職務ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ支廳長ハ之ヲ免スルコトヲ得

第三十四條　調査委員ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第三十五條　所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三十六條　五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキ又ハ所得調査委員會開會ノ日ヨリ樺太廳長官ノ定ムル開會期間内若ハ五月三十一日迄ニ諮問事項ヲ議了セサルトキハ政府ハ直ニ所得税額ヲ決定ス

第三十七條　削除

第三十八條　樺太ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一　公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額
二　利子支拂期限及利率
三　償還ノ方法及期限
四　數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第三十九條　第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ樺太廳長官ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第四十條　税務官吏ハ調査上必要アルトキハ納税義務アル者、納税義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問シ又ハ其ノ所得若ハ支拂ニ關スル帳簿及物件ヲ檢査スルコトヲ得

第四十一條　税務官吏ハ調査上必要アルトキハ納税義務者又ハ納税義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第四十二條　第三十條若ハ第三十六條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ税額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

義務者ニ通知スヘシ樺太ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納税義務者ニ付前項ノ場合ニ於テ納税管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第四十二條ノ二　納税義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算税額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ不服ノ事由ヲ詳具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ト雖政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス

第四十二條ノ三　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査[illegible]タル者ニ[illegible]スルコトヲ得

第四十二條ノ四　所得審査委員會ハ樺太廳ニ之ヲ置ク

所得審査委員會ハ會長一人及委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ樺太廳高等官中ヨリ樺太廳長官之ヲ命ス

委員ハ税務官吏中ヨリ三人及所得調査委員中ヨリ三人[illegible]廳長官之[illegible]

所得審査[illegible]

第四十二條ノ五　[illegible]ル審査委員[illegible]リ日當及旅費ヲ給ス

第四十三條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者第十五條第一項第五號及第六號ノ所得[illegible]二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

[illegible]所得金額[illegible]定ヲ適用[illegible]

第四十四條　[illegible]ハ政府ハ所[illegible]減損アル[illegible]

第四十五條　[illegible]毎ニ所得税[illegible]清算又ハ合[illegible]

第二種ノ所[illegible]拂者其ノ所[illegible]政府ニ納[illegible]

第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ其ノ年額ヲ四分シ左ノ四期[illegible]者納税管理[illegible]住所又ハ居[illegible]ヲ徴收ス

第一期　其ノ年七月一日ヨリ同月三十一日限
第二期　其ノ年十月一日ヨリ同月三十一日限
第三期　翌年一月一日ヨリ同月三十一日限
第四期　翌年三月一日ヨリ同月三十一日限

第四十六條　[illegible]ヘキ所得[illegible]シタル税[illegible]

第四十七條　[illegible]

第四十八條　[illegible]

第四十九條　[illegible]

第五十條　[illegible]

第五十一條　[illegible]

地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

樺太ニ住所及居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第五十二條　納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ樺太外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第五十二條ノ二　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脱ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第五十三條　本令ニ定ムルモノノ外所得税ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

大正十一年中ニ任命スヘキ所得調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ其ノ年第二十九條ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ支廳長之ヲ命ス

附　則（大正十四年勅令第五號）

本令ハ大正十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條ノ二及第二十四條ノ改正規定ハ大正十四年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

樺太ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本令施行前ニ在ルモノニ限リ大正十四年分第三種所得トシテ計算ス

附　則（昭和二年勅令第四十三號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和二年分所得税ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十九條、第三十六條及第四十五條ノ改正規定ハ昭和三年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第十五條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十五年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ昭和二年分第三種所得トシテ計算セス

第十七條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ昭和二年ニ限リ四月一日トス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

所得調査委員ニ關シテハ昭和二年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル所得調査委員ノ任期ハ昭和二年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十二條及第三十三條ノ改正規定中營業收益税ニ關スルモノハ昭和二年分ニ付テハ之ヲ營業税ニ關スルモノトス

●樺太所得税令施行規則

（大正十一年四月二十五日樺太廳令第四十一號）
（改正　大正一四年第一六號　昭和二年第一六號）

樺太所得税令施行規則左ノ通改正ス

樺太所得税令施行規則

第一條　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第一條ノ二　法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ樺太所得税令第二十五條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條　樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條　所得税ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得税ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條　樺太所得税令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ税率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金（最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム）及清算期間中ニ生シタル樺太所得税令ニ依リ所得税ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得税令ニ依リ所得税ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得税令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條　樺太所得税令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　樺太所得税令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得税額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得税額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得税額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得税額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二　樺太所得税令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得税額ヨリ第二種ノ所得税額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ樺太所得税令第二十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子、納付シタル税額及控除ヲ受クヘキ税額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第六條ノ三　樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規程ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第七條　樺太所得税令第十五條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條　第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ

樺太所得税令第十五條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス

第八條ノ二　樺太所得税令第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納税義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス

第九條　樺太所得税令第十七條ノ不具廢疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二　樺太所得税令第十七條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セサルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ樺太廳支廳長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム

第十條　樺太所得税令第十七條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齢十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具廢疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具廢疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納税義務アルニ至リタル者樺太所得税令第十七條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

樺太所得税令第十七條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第十一條　樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戸籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條ノ二　樺太所得税令第十七條ノ二ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ樺太所得税令第十五條乃至第十七條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第十一條ノ三　樺太所得税令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

一　保險者ノ住所及名稱
二　保險ノ種類
三　保險金額
四　保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄
五　前年中ニ拂込ミタル保險料金額

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納税義務アルニ至リタル者樺太所得税令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條ノ四　樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條　左ニ揭クルモノニハ所得税ヲ課セス

一、町村、水産組合、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ及神社、寺院、祠宇、佛堂
二　所得税法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

第十三條　左ニ揭クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ樺太所得税令第二十二條ノ規定ニ依リ所得税ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
二　鐵ノ條、竿、テー形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及原動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
五　燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アンモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
六　製紙用パルプ
七　板硝子
八　コンデンスドミルク
九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物
十　甜菜糖

前項第九號ノ物産ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條　樺太所得税令第二十二條ノ規定ニ依リ所得税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同令第二十八條又ハ第二十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納税義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十五條　法人ノ各事業年度ノ所得ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日内ニ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十六條　解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

殘餘財産ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十七條　合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十八條　第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

樺太所得税令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第十九條　樺太所得税令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限
二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限
三　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十條　前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規

定ニ從ヒ別記第一號書式ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ

一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日

二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受クル者ノ拂込金額、株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

三　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十一條　第十九條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ別記第一號書式ノ異動調書ヲ提出スヘシ

第二十二條　第十九條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタルモノニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人每ニ一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書提出後三十日以內ニ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

第二十三條　調査委員ノ定數ヲ左ノ如ク定ム

豐原支廳所轄內	五人
大泊支廳所轄內	六人
眞岡支廳所轄內	五人
泊居支廳所轄內	五人
其ノ他支廳所轄內	各四人

第二十四條　所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域內ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得税ヲ納メタル者及所得税ヲ納メスシテ個人ノ營業ニ付營業收益税ヲ納メタル者ノ合計數ニ從ヒ左ノ範圍內ニ於テ樺太廳支廳長適宜之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ	三十日以內
三千人以上ナルトキ	二十五日以內
千人以上ナルトキ	二十日以內
五百人以上ナルトキ	十五日以內
五百人未滿ナルトキ	十日以內

第二十五條　所得調査委員會ハ樺太廳支廳長ノ通知ニヨリ之ヲ開ク

第二十六條　所得調査委員會ニ會長ヲ置ク

會長ハ每年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ樺太廳支廳長之ヲ命ス

會長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者會長ノ事務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

第二十八條　所得調査委員會ノ議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニヨル

第二十九條　調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍內ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條　税務官吏ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十一條　所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ樺太廳支廳長ニ報告スヘシ

第三十二條　樺太廳支廳長樺太所得税令第三十條若ハ第三十六條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ樺太所得税令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ税額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第三十三條　樺太所得税令第四十二條第二項ノ公告ハ納税義務者ノ氏名及所得金額ヲ公報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十三條ノ二　樺太所得税令第四十二條ノ二第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ所得金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ申出ツヘシ

第三十三條ノ三　所得審査委員會ハ樺太廳長官ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第三十三條ノ四　第二十六條第三項、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ所得審査委員會ニ之ヲ準用ス

第二十九條ノ規定ハ審査委員ニ之ヲ準用ス

第三十三條ノ五　所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中税務官吏ノ上席者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十三條ノ六　所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第三十三條ノ七　樺太廳長官樺太所得税令第四十二條ノ三ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算税額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第三十四條　納税義務者樺太所得令第四十三條ノ規定ニヨリ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ同時ニ樺太所得税令第十七條ノ規定ニヨル控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　樺太所得税令第四十三條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十六條　樺太廳支廳長ハ樺太所得税令第四十四條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第三十七條　所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ樺太所得税令第十六條第二項、第十七條第二項、第二十四條第二項及第二十七條第二項ノ規定ノ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第三十八條　所得税ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第三十九條　第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得税ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第二號書式ノ拂込書及第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ尙別記第五號書式ニ依リ其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ

日本銀行又ハ郵便官署前項ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第三號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添付シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スヘシ

第三十九條ノ二　第二種ノ所得ニ付所得税ノ過誤納アリタル爲之カ下戾ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄樺太廳支廳長ニ請求書ヲ提出スヘシ

第四十條　削除

第四十一條　樺太所得税令第五十條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ納税地ヲ定メタルトキハ之ヲ納税地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ申告ナキトキハ樺太廳支廳長其ノ納税地ヲ指定ス

第四十二條　第三種ノ所得ニ付所得税ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得税ヲ納メムトスルトキハ其ノ旨居所地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十三條　納税義務者納税地ノ樺太廳支廳所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地ノ樺太廳支廳長ニ納税地ヲ申告スヘシ

第四十四條　納税義務者納税地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納税地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十五條　納税義務者樺太外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納税地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十六條　納税義務者納税管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納税地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十七條　樺太所得税令第二十三條ノ規定ニ依リ所得税ヲ免除スヘキ期間各當該地ノ法令ニ依リ所得税ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得税ノ免除期間ニ依ル

樺太所得税令第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得税ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第四十八條　樺太所得税令第二十三條ノ規定ニ依リ所得税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地税務官署ニ於テ其ノ地ノ用令ニ依リ所得税ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

第十四條ノ規定ハ前項ノ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　税務官吏樺太所得税令第四十條ノ規定ニ依リ帳簿、物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スヘシ

第五十條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得税ヲ逋脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務官署ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得税ヲ逋脫シタル者ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問セス所轄樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

樺太廳支廳長前項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第五十一條　正當ノ事由ナクシテ樺太所得税令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ第十九條ニ定ムル支拂調書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者又ハ樺太所得税令第四十條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ物件ノ檢査ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付樺太所得税令第三十九條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第五十二條　樺太所得税令第四十一條ノ規定ニ依ル税務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十三條　所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第九條ノ二、第二十六條第二項、第三十二條、第三十五條、第三十六條、第五十條第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外租税ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第五十六條　本令ニ依リ樺太廳支廳長ニ提出シ又ハ之ヲ經由スル文書ハ總テ所轄支廳出張所長ヲ經由スヘシ

附　則

第五十七條　本令ハ大正十一年勅令第二百二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第五十八條　樺太所得税令第二十九條ノ規定ニ依ル申告又ハ申請ハ大正十一年分所得税ニ限リ大正十一年五月末日限トス

第五十九條　銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本令施行前ニアルモノニ限リ大正十一年分第三種所得トシテ計算ス

第六十條　樺太所得税令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ此ノ際第二十條ノ規定ニ依リ記載シタル支拂調書ヲ左ノ期限ニ從ヒ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

一　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ大正十一年五月末日限

二　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十一年五月末日限、大正十一年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十一年六月末日限

三　大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十一年五月末日限、大正十一年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十一年六月末日限

大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利益若ハ利息ノ配當ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタルモノハ大正十一年五月末日限

第六十一條　第二十一條及第二十二條ノ規定ハ前條ノ支拂調書ヲ提出シタルモノニモ之ヲ適用ス

第六十二條　大正十一年ニ於ケル第二十四條ノ開會日數ハ樺太廳支廳長之ヲ定ム

（別記）

第一號書式甲（用紙美濃判）

何年分俸給其他支拂（異動）調書

年月日　（官公衙名、法人、代表者其ノ他支拂者）氏　名印

俸給、給料（歲費、年金、恩給、退隱料）		手當		賞與	摘要	支拂ヲ受クル者		
金額	計算ノ基礎	金額	計算ノ基礎			住所又ハ居所	官職名	氏名
圓		何手當　圓 何手當		何賞與　圓 何賞與				

備考

一　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料、賞與等ノ支拂調書ハ本樣式ニ依ルモノトス

二　俸給、給料（歳費、年金、恩給、退隱料）及手當ノ金額欄ニハ左ノ金額ヲ記載スルモノトス

（イ）前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額

（ロ）前年一月一日後新ニ支給ヲ受クルニ至リタル者ノ分ニ付テハ本年分支拂豫算年額但シ本年一月一日以後調書提出迄ノ間ニ於テ支給ヲ受ケサルニ至リタル者ニ付テハ本年分支拂金額

（ハ）轉勤等ノ場合ニ於テ新支拂者ニ於テ轉勤前ノ支拂金額ヲモ記載スルモノトス

三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ調書提出當時在勤セサル者ノ分ヲモ記載スルモノトス

四　賞與ノ支拂確定月日ハ備考ニ記載スルモノトス

五　年金、恩給及退隱料ニシテ代理受領ニ係ルモノニ付テハ其ノ受領者ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

六　所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ得タルトキハ本書式ト異ナリタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

第一號書式乙（用紙半紙判）

何年何期分利益（利息）配當支拂調書

年月日　何會社代表者　氏　名㊞

一配當金總額

　内無記名式株式ニ對スル分

一株式數　舊株　新株

（出資金額又ハ基金）

一一株ノ額面金額

一同拂込済金額　舊株　圓　新株　圓

一配當率

一一株ノ配當金額　舊株　圓　新株　圓

一支拂金額ノ確定シタル月日

内譯

株式數（出資金額又ハ基金）	配當金額	摘要	支拂ヲ受クル者 住所又ハ居所	支拂ヲ受クル者 氏名
舊株 新株	圓			

備考

一　摘要欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スルモノトス

（イ）優先株ニ付テハ其ノ優先權ニ基ク配當率ノ增加額

（ロ）出資金額ノ割合ニ異ル持分計算ニ依リ利益ノ配當ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ持分ノ割合

（ハ）樺太所得税令第十五條第二項ニ依リ利益ノ配當ト看做サルル金額ニ付テハ其ノ支拂ヲ受クル者カ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額又ハ株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額

二　樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セサル者ニ對スル内譯ハ別紙ニ記載シテ添附スルモノトス

三　無記名式株式ニ付テハ本書式ノ内譯ヲ要セサルモノトス

四　所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

第一號書式丙（用紙半紙判）

自何年三月
至何年二月
無記名式株式ノ利益（利息）配當支拂調書

年　月　日　何會社代表者　氏　名㊞

所屬事業年度	株式數	配當金額	支拂月日	支拂ヲ受ケタル者 住所又ハ居所	支拂ヲ受ケタル者 氏名
	舊株 新株	圓			

備考

一　利益又ハ利息ノ所屬事業年度別ニ小計ヲ付スルモノトス

第二號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分）

第二種所得税拂込書

第何號　何年度樺太廳歳入　大藏省主管
樺太歳入　租税　所得税　第二種所得税　何支廳（何出張所）

圓

頭書ノ金額拂込候也

何會社代表者　何　某㊞
（其ノ他之ニ準ス）

日本銀行何店宛
（又ハ何郵便局）

昭和何年何月何日

備考

一　本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

第三號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分二枚接續）

通知書

第何號　何年度樺太廳歳入　大藏省主管
樺太歳入　租税　所得税　第二種所得税　何支廳（何出張所）
何會社代表者　何　某　納
（其ノ他之ニ準ス）

圓

昭和何年何月何日領收

日本銀行何店㊞
（又ハ何郵便局）

何支廳（何出張所）
歳入徵收官（分掌官）氏　名宛

領收證書

第何號　何年度樺太廳歳入　第二種所得税
何會社代表者　何　某　納
（其ノ他之ニ準ス）

圓

昭和何年何月何日領收

日本銀行何店㊞
（又ハ何郵便局）

備考

一　日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

第四號書式（用紙縦八寸横五寸五分）

昭和何年何月分

第二種所得税徵收高計算書

區分		支拂フヘキ金額	支拂済金額		支拂未済金額	税額	摘要
			課税	非課税			
何公債利子		圓	圓	圓	圓	圓	
何社債利子							
配當							
賞與							
銀行預金利子	定期預金						
	特別當座預金						
	通知預金						
	當座預金						
	………						
	計						
合計							

昭和何年何月何日

何會社（其ノ他之ニ準ス）

備考

一　支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ

二　非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添附スルモノトス

第五號書式（用紙縦八寸横五寸五分）

配當及賞與明細書

住所氏名	區分	何月中支拂済額	摘要
何々 何　某	何期分配當	圓	
	〃賞與		

昭和何年何月何日

何會社

●關東州所得稅令

大正九年七月三十一日
勅令第二百二十七號
改正　大正一〇年第九一號、一三年第二六五號、一五年第二七一號
昭和二年第八四號

朕關東州所得稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州所得稅令

第一條　關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セサル法人關東州ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ資產又ハ營業ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス但シ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス
一　法人ノ普通所得
二　法人ノ超過所得
三　法人ノ清算所得

第四條　法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

前項ノ總益金、利益金又ハ剩餘金中國債、貯蓄債券法ニ依リ發行シタル貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券法ニ依リ發行シタル復興貯蓄債券ノ利子アルトキハ之ニ相當スル金額ハ總益金、利益金又ハ剩餘金ヨリ之ヲ控除ス

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ關東州ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前二項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ初ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條　法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條　第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條　本令ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條　削除

第十條　削除

第十一條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル普通所得中留保シタル金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル普通所得中留保シタル金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十二條ノ二　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　左ニ揭クル法人ニハ所得稅ヲ課セス
一　關東長官ノ指定スル公共團體
二　民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スル法人ニシテ關東長官ノ指定スルモノ

第十四條　關東長官ノ指定スル重要物產ノ製造業ヲ營ム法人ニハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受クヘキ重要物產ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル法人ハ其ノ業務ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十五條　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス

第十五條ノ二　外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得ニ付同樣ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
一　普通所得　百分ノ五
二　超過所得
超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ二十
三　清算所得　百分ノ五

第十七條　所得稅ヲ納ムル義務アル法人ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書竝第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ハ關東州ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　所得金額ハ前條ニ規定スル申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調查ニ依リ政府之ヲ決定ス

第十九條　所得稅ハ法人ノ事業年度每ニ之ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二十條　法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅ヲ納付セスシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第二十一條　所得稅ヲ納ムル義務アル法人關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ申告スヘシ申告ナキトキハ關東長官其ノ納稅地ヲ指定ス

第二十二條　所得稅ヲ納ムル義務アル法人關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ申告スヘシ關東州外ニ本店又ハ主タル事務所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第二十二條ノ二　本令ニ於テハ法人ニ非サル社團モ亦之ヲ法人ト看做ス

前項ノ社團其ノ財產ヲ以テ所得稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ稅金ニ付社員連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第二十三條　關東長官ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外所得稅ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年八月一日ヲ含ム法人ノ事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正十五年勅令第二百七十一號）

本令施行ノ期日及本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

本令ニ於テ法人ト看做サレタル社團ノ所得ニ對スル所得稅ノ賦課ニ付テハ當分ノ內第九條第二項第三項、第十條第二項、第十六條第一項第一號及同條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

（大正十五年關東廳令第五十四號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

附　則（昭和二年勅令第八十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

法人ニ非サル社團ノ所得ニ對スル所得稅ノ賦課ニ付テハ當分ノ內第三條第二號及第十六條第二號ノ規定ハ之ヲ適用セス

●關東州所得稅令施行規則

大正九年九月二十一日
關東廳令第六十號
改正　大正一五年第五五號
昭和二年第一五號

關東州所得稅令施行規則左ノ通改ム

關東州所得稅令施行規則

第一條　關東州所得稅令（以下單ニ稅令ト稱ス）第四條第三項ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ所得ヲ計算スル場合ニ於テ民政署長ハ納稅義務アル法人稅令第十七條ノ申告ヲ爲ササルトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ法人ノ總資產價額ニ對スル關東州ニ於ケル資產價額ノ割合又ハ法人ノ總收入金額ニ對スル關東州ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル收入金額ノ割合ヲ總所得金額ニ乘シタル金額ヲ以テ其ノ所得トスルコトヲ得

第一條ノ二　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第二條　法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ稅令第十六條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第三條　關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資產價額ニ對スル關東州ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第四條　所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資產價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五條　削除

第六條　削除

第七條　削除

第八條　削除

第九條　左ニ揭クル法人ニハ稅令第十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス
一　市會、水產會
二　民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人及稅令第二十二條ノ二ノ法人ニシテ營利ヲ目的トセサルモノ

第十條　左ニ揭クル物產ノ製造業ヲ營ム法人ニハ稅令第十四條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス
一　金、銀、鉛、亞鉛、錫又ハアルミニウムノ地金
二　鐵ノ條、竿、テー形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　汽鑵、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
五　燐寸、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
六　製紙用パルプ
七　板硝子
八　コンデンスドミルク
九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物
十　豆粕、豆油

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十一條　稅令第十四條第一項ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル法人ハ稅令第十七條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄民政署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十二條　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ稅令第十五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スル期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅免除期間ニ依ル

稅令第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第十三條　前條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ製造業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄民政署ニ申請スヘシ

第十一條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ二　稅令第二十二條ノ二ノ法人ニ付テハ其ノ一損益決算期間ヲ以テ一事業年度トス但シ一年ヨリ長キ期間ヲ以テ一損益決算期間ト爲スモノニ在リテハ一年以內ヲ以テ一事業年度ト看做スコトヲ得

第十四條　法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄民政署ニ申告スヘシ

第十五條　解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收入計算書ヲ添附シ之ヲ所轄民政署ニ申告スヘシ殘餘財產ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十六條　合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資產ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄民政署ニ申告スヘシ

第十七條　民政署長稅令第十八條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ申告ニ依リ所得金額ヲ決定シタル場合ニハ之ヲ適用セス

關東州內ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル納稅義務アル法人納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ第一項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ納稅義務アル法人第一項ノ通知ヲ受クルコトヲ拒ミタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ公告ハ納稅義務アル法人ノ名稱、所得金額及事由ヲ關東廳廳報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

第十七條ノ二　納稅義務アル法人前條ノ規定ニ依リ民政署長ノ通知シタル所得金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ其ノ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ所轄民政署長ヲ經由シ關東長官ニ所得金額ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ民政署長ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十七條ノ三　前條ノ請求アリタルトキハ關東長官ニ於テ其ノ所得金額ヲ審査決定ス

第十八條　民政署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ質問シ又ハ其ノ所得ニ關スル帳簿及物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十九條　民政署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第二十條　納稅義務アル法人稅令第二十一條ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ民政署ニ申告スヘシ

第二十一條　納稅義務アル法人納稅地ノ民政署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ民政其ノ所得ノ生スル地ノ民政署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第二十二條　納稅義務アル法人關東州外ニ本店又ハ主タル事務所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ民政署ニ申告スヘシ

第二十三條　納稅義務アル法人納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ民政署ニ申告スヘシ

第二十三條ノ二　稅令第二十二條ノ二ノ法人新ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ之ヲ所轄民政署長ニ申告スヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　本店又ハ主タル事務所ノ所在地及資產又ハ營業場ノ所在
二　社員ノ住所、氏名及其ノ出資ノ種類、價格
三　營業ノ種類
四　設立規約
五　代表者及業務擔當者ノ住所、氏名
六　財產目錄

第二十四條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逋脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅金ヲ追徵ス但シ自首シタル者又ハ民政署長ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

第十八條ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ帳簿及物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ第十四條乃至第十六條、第二十二條及第二十三條ノ二ニ依ル申告ヲ爲サス若ハ其ノ申告ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第二十六條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ヲ犯シタル場合ニハ明治三十三年法律第五十二號ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　本令中民政署又ハ民政署長トアルハ民政支署ノ管轄ニ付テハ民政支署又ハ民政支署長トス

附　則

本令ハ關東州所得稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年關東廳令第五十五號）

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

稅令第二十二條ノ二ノ法人ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ第二十三條ノ二ノ事項ヲ詳記シ之ヲ所轄民政署長ニ申告スヘシ

稅令第二十二條ノ二ノ法人ノ大正十五年十一月一日以降ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年勅令第二百七十一號施行期日以前ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ所得金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年勅令第二百七十一號施行期日以前ニ屬スル期間ノ所得金額ヲ控除ス

第四款　資本利子稅

●資本利子稅法

（大正十五年三月二十七日法律第十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル資本利子稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

資本利子稅法

第一條　本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子稅ヲ課ス

第二條　資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種　公債、社債、產業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種　第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ

第三條　甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條　乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル

被相續人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス

第五條　甲種ノ資本利子ニシテ左ニ揭クルモノニハ資本利子稅ヲ課セス

一　所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
二　貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

第六條　資本利子稅ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス

信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第七條　乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ每年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條　乙種ノ資本利子金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ資本利子金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條　稅務署長ハ每年乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本利子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本利子金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十一條　第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十二條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十三條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　納稅義務者前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十五條　甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第十六條　前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ資本利子稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條　乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子稅ノ納稅地トス

第十八條　收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子稅ヲ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子稅ヲ逋脫シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十條　資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ資本利子稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限リ第七條中三月十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三十日限、第十條ノ規定ニ依ル期日五月三十一日トアルハ八月三十日トス

●資本利子稅法施行規則

（大正十五年三月三十一日勅令第三十一號）

朕資本利子稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

資本利子稅法施行規則

第一條　資本利子稅法第六條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子稅徵收ノ際之ヲ控除スヘシ

第二條　稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第三條　乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告ハ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スヘシ

第四條　稅務署長資本利子稅法第八條、第十條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五條　資本利子稅法第十二條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第六條　稅務監督局長資本利子稅法第十三條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第七條　資本利子稅法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子稅ヲ課セラレサル者無記名ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

但シ所得稅法施行規則第六十四條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條　甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ

附　則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●資本利子稅法施行細則

（大正十五年四月一日大藏省令第十六號）

資本利子稅法施行細則左ノ通定ム

資本利子稅法施行細則

第一條　資本利子稅法施行規則第八條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條　日本銀行ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第三條　甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戾ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙適宜輪廓縱四寸五分橫三寸三分）

資本利子稅拂込書

大藏省主管	何年度	第何號
何稅務署	資本利子稅	租稅

圓

頭書ノ金額拂込候也

大正何年何月何日

何縣何市長
何某　印

（其ノ他ノ公共團體又ハ會社等ハ之ニ準ス）

日本銀行何店宛

備考
一　本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

第二號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分二枚接續）

通　知　書

第　何　號	何　年　度	大藏省主管
租　税	資本利子税	資本利子税	何税務署

何縣何市長

何　某　納

（其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス）

Y　圓

大正何年何月何日領收

日本銀行何店㊞

何税務署長官氏名殿

領　收　證　書

第　何　號	何　年　度	資本利子税

何縣何市長

何　某　納

（其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス）

Y　圓

大正何年何月何日領收

日本銀行何店㊞

備考

一　日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

第三號書式甲（用紙縦八寸横五寸五分）

大正何年何月分

資本利子税徴收高計算書

貸付信託以外ノ分

區　分		支拂フヘキ金額	支拂済金額		支拂未済金額	税　額	摘　要
			課　税	非課税			
何公債利子		圓	圓	圓	圓	圓	
何社債利子							
何産業債券利子							
銀行預金利子	定期預金						
	特別當座預金						
	通知預金						
	當座預金						
	、、、、						
	計						
合　計							

大正何年何月何日

何縣、市町村又ハ何會社

備考

一　支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ

二　非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

三　第二種所得税徴收高計算書ノ税額欄ノ次ニ資本利子税額ノ一欄ヲ設ケテ併用シ本計算書ヲ省略スルコトヲ得

第三號書式乙（用紙縦五寸五分横八寸）

大正何年何月分

資本利子税徴收高計算書

貸付信託ノ分

支拂フヘキ金額	支拂済金額		支拂未済金額	税		額	摘　要
	課　税	非課税		當初算出税額	内控除シタル資本利子税額	差引税額	
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	

大正何年何月何日

何々信託會社

備考

一　支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ

二　控除シタル資本利子税額ノ欄ニハ資本利子税法第六條第二項ノ規定ニ依リ控除シタル資本利子税額ヲ記載スルモノトス

三　非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

●朝鮮資本利子税令

（昭和二年三月三十一日制令第七號）

朝鮮資本利子税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮資本利子税令

第一條　朝鮮ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ資本利子税ヲ課ス

第二條　資本利子税ハ朝鮮ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債ノ利子ニ付之ヲ賦課ス

第三條　資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條　左ニ掲グル資本利子ニ付テハ資本利子税ヲ課セズ

一　朝鮮所得税令第十三條ノ規定ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ノ支拂ヲ受クル利子

二　貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

三　所得税法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セザルモノト指定セラレタル者ノ支拂ヲ受クル利子

第五條　資本利子税ノ税率ハ資本利子金額百分ノ二トス

第六條　資本利子ノ支拂者ハ其ノ金額支拂ノ際資本利子税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第七條　前條ノ規定ニ依リ徴收スヘキ資本利子税ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國税徴收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徴收ス

第八條　税務官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問シ又ハ資本利子ニ關シ支拂者ノ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　道地方費、府、面其ノ他ノ公共團體ハ資本利子税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮資本利子税令施行規則

（昭和二年三月三十一日朝鮮總督府令第二十五號）

朝鮮資本利子税令施行規則左ノ通定ム

朝鮮資本利子税令施行規則

第一條　朝鮮資本利子税令第四條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレザル者無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第二條　資本利子ノ支拂者資本利子税ヲ徴收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムヘシ

第三條　前條ノ拂込書ハ第一號書式ニ依リ、計算書ハ第三號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條　日本銀行代理店ニ於テ資本利子税ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第五條　資本利子税ノ過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子支拂地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ヲ經由シ道知事ニ請求書ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分）

資本利子税拂込書

第　何　號	何　年　度	大藏省主管	
朝鮮歳入	租　税	資本利子税	何 府 郡 島

Y　圓

頭書ノ金額拂込候也

何銀行代表者

何　某㊞

（公共團體又ハ銀行以外ノ會社等ハ之ニ準ズ）

日本銀行何代理店宛

昭和何年何月何日

備考

一　本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

第二號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分）

通　知　書

第　何　號	何　年　度	大藏省主管	
朝鮮歳入	租　税	資本利子税	何 府 郡 島

何銀行代表者

何　某　納

（公共團體又ハ銀行以外ノ會社等ハ之ニ準ズ）

Y　圓

昭和何年何月何日領收

日本銀行何代理店㊞

何府尹、郡守、島司氏名殿

領收證書

第何號	何年度	資本利子稅

何銀行代表者

何某　納

（公共團體又ハ銀行以外ノ會社等ニ之ニ準ズ）

Y　圓	

昭和何年何月何日

日本銀行何代理店印

備考　一　日本銀行代理店ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

第三號書式（用紙適宜輪廓縱八寸横五寸五分）

昭和何年何月分

資本利子稅徵收高計算書

區分	支拂フベキ金額	支拂濟金額		支拂未濟金額	稅額	摘要
		課稅	非課稅			
何公債利子	圓	圓	圓	圓	圓	
何社債利子						
計						

昭和何年何月何日

何銀行

（公共團體又ハ銀行以外ノ會社等ニ之ニ準ズ）

備考

一　支拂フベキ金額ノ欄ニハ其月ニ於テ支拂フベキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計金額ヲ揭グルモノトス

二　非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添附スルモノトス

第五款　營業收益稅

●營業收益稅法（大正十五年三月二十七日法律第十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業收益稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理・大藏大臣副署）

營業收益稅法

第一條　本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條　本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ揭クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
二　銀行業
三　無盡業
四　金錢貸付業
五　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
六　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
七　運送業（運送取扱ヲ含ム）
八　倉庫業
九　請負業
十　印刷業
十一　出版業
十二　寫眞業
十三　席貸業
十四　旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）
十五　料理店業
十六　周旋業
十七　代理業
十八　仲立業
十九　問屋業

第三條　營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條　法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條　個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

資本利子稅ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

第七條　左ニ揭クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス

一　政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
二　度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣
三　自己ノ採掘シ又ハ採取シタル鑛物ノ販賣
四　新聞紙法ニ依ル出版
五　本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
六　法人ノ漁業又ハ演劇興業
七　個人ノ自己ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條　勅令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條　個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十條　營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人　百分ノ三・六
個人　百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條　納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條　納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條　法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十四條　稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調查シ其ノ調查書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條　第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審查ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十八條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審查委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ查覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條　納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　法人ノ營業收益稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第二十三條　第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十四條　個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條　收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢查シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條　政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スヘシ

第二十七條　所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條　第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢查ヲ妨ケ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十條　營業收益稅ノ調查又ハ審查ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調查又ハ審查ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

●營業收益稅法施行規則（大正十五年九月九日勅令第三百三號）

朕營業收益稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理・大藏大臣副署）

營業收益稅法施行規則

第一條　法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第二條　營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地又ハ資本ノ利子ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三・六ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地又ハ資本ノ利子アルトキハ其ノ地租總額又ハ資本利子稅總額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第三條　營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額中公債、社債又ハ產業債券ニ對スルモノハ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル資本利子稅額ハ其ノ納付シタル資本利子稅額ヲ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第四條　營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額又ハ資本利子

税額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益税法第十一條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別又ハ資本利子ノ種類別ニ其ノ地價又ハ利子、納付シタル税額及控除ヲ受クヘキ税額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第五條　税務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條　個人ノ純益ハ營業收益税ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第七條　營業收益税法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條　營業收益税法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益税額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ營業收益税法第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

第二條第二項ノ規定ハ營業收益税ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第九條　營業收益税法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益税額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益税法第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納税義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ番號、地目、地價及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十條　左ニ揭クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益税法第八條ノ規定ニ依リ營業收益税ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、錫又ハアルミニウムノ地金
二　鐵ノ條、竿、テー形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
五　燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
六　製紙用パルプ
七　板硝子
八　コンデンスドミルク
九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物産ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十一條　前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益税ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十二條　營業收益税法第八條ノ規定ニ依リ營業收益税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第十一條又ハ第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納税義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十三條　法人ノ純益金額ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄税務署ニ申告スヘシ但シ所得税法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條　個人ノ營業ニ付納税義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄税務署ニ申告スヘシ

第十五條　税務署長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ見込額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作成シ税務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第十六條　税務署長營業收益税法第十三條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第十七條　營業收益税法第十七條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル税務署長ヲ經由シ税務監督局長ニ申出ツヘシ

第十八條　所得税法施行規則第五十六條ノ規定ハ純益金額ノ決議ニ付之ヲ準用ス

第十九條　税務監督局長營業收益税法第十八條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第二十條　營業收益税法第十九條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ税務署長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第二十一條　税務署長營業收益税法第二十條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第二十二條　納税義務者納税地ノ税務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ税務署ニ納税地ヲ申告スヘシ

第二十三條　納税義務者納税地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納税地ノ税務署ニ申告スヘシ

第二十四條　收税官吏營業收益税法第二十五條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スヘシ

附　則

本令ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ營業收益税額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子税額ハ當該事業年度ノ總日數ニ對スル大正十六年ニ屬スル日數ノ割合ヲ其ノ納付シタル地租額又ハ資本利子税額ニ乘シ之ヲ計算ス

（大正十五年九月九日大藏省令第三十五號）

營業收益税法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ收税官吏ノ携帶スヘキ檢査章書式左ノ通定ム

書式（用紙厚質白紙縱二寸五分横一寸五分）

表

第何號
檢査章
税務署印

裏

何税務署
官　氏名

●朝鮮營業税令（昭和二年三月三十一日制令第六號）

朝鮮營業税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮營業税令

第一條　朝鮮ニ營業場ヲ有シ左ニ揭クル營業ヲ爲ス者ニハ本令ニ依リ營業税ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
二　銀行業
三　保險業
四　無盡業
五　金錢貸付業
六　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
七　製造業（物品ノ加工修理ヲ含ム）
八　瓦斯供給業、電氣供給業
九　運送業

十　運送取扱業
十一　倉庫業
十二　鐵道業（軌道業ヲ含ム）
十三　請負業
十四　印刷業
十五　出版業
十六　寫眞業
十七　席貸業
十八　旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）
十九　料理店業
二十　周旋業
二十一　代理業
二十二　仲立業
二十三　問屋業
二十四　信託業

第二條　左ニ揭クル營業ハ物品販賣業トス

一　製造場ヲ有セス原料ヲ供給シ工賃ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スルモノ
二　製造場ヲ特設セス物品ヲ製造シテ販賣スルモノ

製造業トシテ營業税ヲ課セラレタル營業者カ別ニ營業場ヲ設ケテ其ノ製品ノ販賣ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條　左ニ揭クル營業ニ付テハ營業税ヲ課セス

一　産業組合、産業組合聯合會、金融組合、金融組合聯合會又ハ漁業組合ノ爲ス營業
二　取引所ノ爲ス營業
三　政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
四　度量衡器及朝鮮度量衡令第二十四條ノ規定ニ依リ指定スル計量器ノ修覆又ハ委託販賣
五　自己ノ採掘シ又ハ採取シタル鑛物ノ製錬又ハ販賣
六　新聞紙ニ關スル法令ニ依ル出版
七　自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物、水産物其ノ他朝鮮總督ノ定ムル之ニ準スヘキモノノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ營業場ヲ特設シテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第四條　左ニ揭クル營業ニシテ其ノ課税標準額カ左ノ金額ニ滿タサルモノニ付テハ營業税ヲ課セス

一　物品販賣業　一年ノ賣上金額二千圓
二　金錢貸付業、物品貸付業　一年ノ收入金額四百圓
三　製造業　一年ノ收入金額二千圓
四　運送業、印刷業、出版業、寫眞業、席貸業、旅人宿業、料理店業　一年ノ收入金額千三百圓
五　請負業　一年ノ請負金額二千圓
六　運送取扱業、周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業　一年ノ報償金額三百圓

第五條　營業税ハ左ノ課税標準及税率ニ依リ毎年之ヲ課ス

營業名	課税標準	税率
物品販賣業	賣上金額	卸賣（甲 萬分ノ四 卸賣（乙 萬分ノ六 小賣 萬分ノ十二
銀行業	資本金額 預金額 社債及借入金額	萬分ノ七 萬分ノ三 萬分ノ一
保險業	資本金額 保險料額	萬分ノ七 萬分ノ七
無盡業	資本金額 無盡掛金額	萬分ノ七 萬分ノ七
金錢貸付業	收入金額	千分ノ十二
物品貸付業	收入金額	千分ノ七
製造業	收入金額	甲 萬分ノ五 乙 萬分ノ十三
運送業、印刷業、出版業、寫眞業	收入金額	萬分ノ十三
瓦斯供給業、電氣供給業	收入金額	萬分ノ三十三
倉庫業	收入金額	萬分ノ五十三
鐵道業	收入金額	萬分ノ二十
請負業	請負金額	萬分ノ十三
席貸業、料理店業	收入金額	萬分ノ六十七
旅人宿業	收入金額	萬分ノ四十七
運送取扱業、周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	報償金額	千分ノ十

物品販賣業中穀類、肥料、鹽、煙草、石炭又ハ薪炭ノ卸賣ニ對シテハ甲ノ税率ヲ、其ノ他ノ物品ノ卸賣ニ對シテハ乙ノ税率ヲ適用ス

製造業中籾摺又ハ精米ニ對シテハ甲ノ税率ヲ、其ノ他ニ對シテハ乙ノ税率ヲ適用ス

第六條　課税標準ハ左ニ揭クル區分ニ從ヒ之ヲ計算ス

一　賣上金、保險料、無盡掛金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額ニ依ル
二　資本金、預金、社債及借入金ハ前年中ノ平均額ニ依ル

前項第二號ノ資本金、預金、社債及借入金ノ算定方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條　納税義務アル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ營業名及課税標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第十一條第二項又ハ第十二條ノ規定ニ依リ營業税ノ免除ヲ受クル營業者ニ付亦同シ

新ニ開業シタル者ハ開業ノ日ヨリ二週間內ニ前項ニ規定スル申告ヲ爲スヘシ

第八條　前條ノ規定ニ依ル申告ノ義務アル營業者カ廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ廢業ノ申告ヲ爲スヘシ

第九條　同一人カ數種ノ營業ヲ爲ストキハ各別ニ營業税ヲ課ス

第十條　營業税ハ營業場毎ニ之ヲ課ス

銀行業、保險業、無盡業又ハ鐵道業ノ營業場カ朝鮮ニ二箇以上アル場合ニ於テハ營業税ハ前項ノ規定ニ拘ラス各營業場ノ課税標準ヲ合算シテ主タル營業場ニ於テ之ヲ課ス但シ主タル營業場カ朝鮮ニ在ラサルトキハ營業場毎ニ之ヲ課ス

第十一條　新ニ開始シタル營業ニ付テハ開業ノ翌年ヨリ營業税ヲ課ス

左ニ揭クル營業ニ付テハ開業ノ翌年ヨリ三年間營業税ヲ免除ス

銀行業、保險業、製造業、瓦斯供給業、電氣供給業、運送業、倉庫業、鐵道業、印刷業、出版業

第十二條　朝鮮所得税令ニ依リ現ニ所得税ノ免除ヲ受クル製鐵事業ニ付テハ營業税ヲ免除ス

第十三條　營業ノ承繼アリタルトキ又ハ營業ノ承繼ト認ムヘキ事實アリタルトキハ納期ニ於テ現ニ營業ヲ爲ス者ヨリ營業税ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於テ前營業ニ付第十一條ノ規定ニ依リ營業税ヲ課セス又ハ之ヲ免除スル期間殘存スルトキハ現營業者ハ其ノ殘存期間ヲ承繼ス

第十四條　營業者カ廢業シタルトキハ其ノ廢業ノ月迄月割ヲ以テ營業税ヲ徴收ス

第十五條　課税標準ハ第七條ニ規定スル申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

第十六條　納税義務者ニ於テ政府ノ通知シタル課税標準ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス

第十七條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ審査ノ上政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條　課税標準中其ノ年ノ實蹟ニ依リ計算シタル額カ政府ノ決定シタル額ニ對シ三分ノ一以上減損シタルトキハ納税義務者ハ政府ニ課税標準ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタルトキハ政府ハ課税標準ヲ査覈シ三分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第十六條第一項及前條ノ規定ハ前項ノ更訂

ニ關スル處分ニ付之ヲ準用ス

第十九條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十條　營業稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ廢業ノ場合ニ於テハ未納ノ稅金ハ其ノ際之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年五月一日ヨリ同月三十一日限
第二期　其ノ年十一月一日ヨリ同月三十日限

第二十一條　第一條ノ營業ヲ爲ス者ハ仕入、賣上、受入、貸付、廻送其ノ他營業ニ關スル收支ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スベシ但シ第三條ノ營業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ營業者ニ質問シ又ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第二十三條　政府ハ必要ト認ムルトキハ營業ニ關スル事情ニ精通スル者ニ對シ營業稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ答申スベシ

第二十四條　第二十二條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ逋脫シタル稅金ハ直ニ之ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ府尹、郡守若ハ島司ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十六條　營業稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事スル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ昭和二年分營業稅ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和二年ニ限リ第七條中一月三十一日トアルハ四月三十日、第二十條中五月一日ヨリ同月三十一日トアルハ七月一日ヨリ同月三十一日トス

昭和二年一月一日以後三月三十一日迄ノ間ニ新ニ開業シタル者ハ昭和二年四月十五日迄ニ第七條第二項ノ申告ヲ爲スベシ

●朝鮮營業稅令施行規則

（昭和二年三月三十一日朝鮮總督府令第二十四號）

朝鮮營業稅令施行規則左ノ通定ム

朝鮮營業稅令施行規則

第一條　營業者ノ營業場所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ヲ以テ營業稅ノ所轄府尹、郡守又ハ島司トス但シ朝鮮營業稅令（以下營業稅令ト稱ス）第十條第二項ノ規定ニ依リ主タル營業場ニ於テ營業稅ヲ課スベキ場合ニ付テハ主タル營業場所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ヲ以テ其ノ營業稅ノ所轄府尹、郡守又ハ島司トス

第二條　營業稅令第七條第一項ノ申告ハ營業名及課稅標準ノ外營業ノ種目及營業場ノ所在ヲ詳記シタル書面ヲ以テ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スベシ

第三條　營業稅ノ課稅標準ト爲スベキ資本金、預金、社債及借入金ハ前年中各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第四條　前條ノ資本金額ハ拂込株式金額、出資金額及積立金額ニ依ル

前項ノ積立金トハ名義ノ何タルヲ問ハズ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタルモノノ中ヨリ留保シタルモノヲ謂フ

第五條　資本金額ノ計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ缺損事實ノ確實ナルコトヲ證明シタルモノニ限リ資本金額ヨリ之ヲ控除ス

前項繰越缺損金額ハ前年中各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第六條　資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業ト之ヲ課稅標準ト爲サザル營業トヲ兼營スル場合ニ於テハ課稅標準ト爲スベキ資本金額ハ資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業ニ屬スル資產價額ノ總資產價額ニ對スル割合ヲ總資本金額ニ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ資本金額ヲ課稅標準ト爲ス營業ニシテ朝鮮ト朝鮮外トニ營業場アルモノノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金額ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第七條　營業稅令第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同令第七條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄府尹、郡守又ハ島司ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス者免除ヲ受ケントスル製鐵事業ト其ノ他ノ事業トヲ營ムモノナルトキハ收入金額ヲ區分シタル計算書ヲ添附スベシ

第八條　相續、讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハズ營業ヲ繼續スル者ハ相續ノ場合ニ在リテハ其ノ繼續ノ事實ヲ知リタル後十日內ニ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ繼續後十日內ニ其ノ旨ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ申告スベシ

第九條　營業者住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シ又ハ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日內ニ之ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ申告スベシ他ノ府郡島ニ營業場ヲ移轉シタルトキハ移轉先ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニモ之ヲ申告スベシ

第十條　營業者廢業シタルトキハ十日內ニ其ノ旨ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ申告スベシ

第十一條　府尹、郡守又ハ島司ハ所轄內ノ營業ニ關スル事情ニ精通スル者ニ對シ各營業者ノ課稅標準ノ見込額、順位其ノ他營業稅ニ關シ必要ナル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル者ハ府尹、郡守又ハ島司ノ指定スル期限迄ニ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ答申スベシ

第十二條　府尹、郡守又ハ島司ハ營業稅令第十五條第一項ノ規定ニ依リ每年三月三十一日迄ニ課稅標準ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十三條　營業稅令第十六條第一項ノ規定ニ依ル審査ノ請求ハ不服ノ事由ヲ明ニシタル書類ニ證憑書類ヲ添附シ所轄府尹、郡守又ハ島司ヲ經由シ道知事ニ之ヲ爲スベシ

第十四條　道知事ニ於テ營業稅令第十七條ノ規定ニ依ル決定ヲ爲シタルトキハ納稅義務者ニ之ヲ通知スベシ

第十五條　營業稅令第十八條第一項ノ請求ハ其ノ事由ヲ明ニシタル書類ニ證憑書類ヲ添附シ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スベシ

第十六條　府尹、郡守又ハ島司ニ於テ營業稅令第十八條第二項ノ更訂ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ納稅義務者ニ之ヲ通知スベシ

第十七條　府尹、郡守又ハ島司ニ於テ營業稅令第十八條第一項ノ請求ニ付更訂スベキモノニ非ズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十八條　第十三條及第十四條ノ規定ハ營業稅令第十八條第三項ノ規定ニ依ル審査ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第十九條　營業者ガ所轄府尹、郡守又ハ島司ノ管內ニ現住セザルトキハ課稅標準ノ申告、納稅其ノ他營業稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ屆出ヅベシ

第二十條　稅務官吏ガ營業稅令第二十二條ノ規定ニ依リ營業者ニ質問シ又ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ別表樣式ノ檢査章ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和二年ニ限リ第十二條中三月三十一日トアルハ六月十五日トス

別表

樣式（用紙厚質白紙縱二寸五分橫一寸五分）

表

第「何」號
檢　查　章
府「郡島」印

裏

何府「郡島」
官　氏　名

●樺太營業收益稅規則

（昭和二年五月四日樺太廳令第二十一號　改正　昭和三年第三二號）

樺太營業收益稅規則左ノ通定ム

樺太營業收益稅規則

第一條　樺太ニ本店支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本令ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條　樺太ニ營業場ヲ有シ左ニ揭クル營業ヲ爲ス個人ニハ本令ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
二　銀行業
三　無盡業
四　金錢貸付業
五　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
六　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
七　運送業（運送取扱ヲ含ム）
八　倉庫業
九　請負業
十　印刷業
十一　出版業
十二　寫眞業
十三　席貸業
十四　旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）
十五　料理店業
十六　周旋業
十七　代理業
十八　仲立業
十九　問屋業

第三條　營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條　法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ計算シタル金額ニ依ル

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條　個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ計算シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

第七條　前條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ必要經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條　左ニ揭クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス

一　政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
二　度量衡ノ製作修覆又ハ販賣
三　自己ノ採掘シ又ハ採取シタル鑛物ノ販賣
四　新聞紙法ニ依ル出版
五　樺太外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
六　法人ノ漁業又ハ演劇興行
七　個人ノ自己ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第九條　左ニ揭クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ其ノ申請ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

一　金、銀、鉛、亞鉛、錫又ハアルミニウムノ地金
二　鐵ノ條、竿、丁形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
五　燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アンモニユム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
六　製紙用パルプ
七　板硝子
八　コンデンスドミルク及バター
九　絹、亞麻又ハ毛ノ織物
十　甜菜糖、澱粉及麥粉

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十條　前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十一條　前二條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第十九條又ハ第二十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益金額ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第九條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添付スヘシ

第十一條ノ二　樺太ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ純益ニ付同樣ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　個人ノ純益金額五百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十三條　法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル市街宅地稅額ハ其ノ申請ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ市街宅地ニ付キ納付シタル市街宅地稅額ハ其ノ申請ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ市街宅地稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ市街宅地稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル市街宅地ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル市街宅地ニ對スル市街宅地稅額ノ控除ハ其ノ市街宅地ニ付キ生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三、六ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル市街宅地アルトキハ其ノ市街宅地稅總額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價格又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第十五條　第十三條第一項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ市街宅地稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ第十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ市街宅地ノ地價、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ノ明細書ヲ提出スヘシ

第十六條　樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタルモノニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十七條　第十三條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ市街宅地稅額ハ其ノ營業用ノ市街宅地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ市街宅地稅額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

第十四條第二項ノ規定ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル市街宅地ニ對スル市街宅地稅額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第十八條　第十三條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ市街宅地稅額ノ控除ヲ受ケムトスルモノハ第二十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ市街宅地ノ番號、地價及市街宅地稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十九條　納稅義務アル法人ハ各事業年度ノ純益金額ヲ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ淸算著手ノ日ヨリ二十日內ニ純益金額計算ノ基礎ヲ詳記シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ但シ樺太所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十條　納稅義務アル個人ハ純益金額ヲ每年三月十五日迄ニ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第二十一條　法人ノ純益金額ハ第十九條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ樺太廳支廳長ノ調查ニ依リ樺太廳支廳長之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ樺太所得稅令ノ所得調查委員會ニ諮問シ樺太廳支廳長之ヲ決定ス

所得調查委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調查委員會ニ諮問シ樺太廳支廳長ハ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調查委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス樺太廳支廳長ハ其ノ純益金額ヲ決定ス

第二十二條　樺太廳支廳長ハ每年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調查シ其ノ調查書ヲ所得調查委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　樺太所得稅令第三十六條ノ規定ハ純益金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條　樺太廳支廳長第二十一條、前條又ハ第四十二條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十五條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ樺太廳支廳長ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ詳具シ證憑書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審查ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審查委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

樺太所得稅令第四十二條ノ三第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條　個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ查覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條　樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條　第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條　法人ノ營業收益稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三十三條　第二十八條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十四條　個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第三十五條　納稅義務者納稅地ノ樺太廳支廳所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ樺太廳支廳長ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第三十六條　納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第三十七條　稅務官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢查シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第三十八條　稅務官吏前條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢查スルトキハ檢查章ヲ携帶スヘシ

第三十九條　樺太廳支廳長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作製シ指定ノ期限迄ニ之ヲ提出スヘシ

第四十條　樺太所得稅令第五十二條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條　第三十七條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢查ヲ妨ケ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ逋脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第二十一條第二項ノ規定ニ拘ラス樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第四十三條　營業收益稅ノ調查又ハ審查ノ事務ニ關係シタル者其ノ調查又ハ審查ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條　本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二號、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二十條乃至第二十四條、第二十九條乃至第三十一條、第三十三條、第三十九條、第四十條及第四十二條第二項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル樺太廳支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第四十六條　本令ニ依リ樺太廳長官又ハ樺太廳支廳長ニ提出スル文書ハ總テ所轄樺太廳支廳出張所長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和三年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ昭和二年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル昭和二年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

法人ノ昭和三年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ昭和二年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ市街宅地稅額ハ當該事業年度ノ總日數ニ對スル昭和三年ニ屬スル日數ノ割合ヲ其ノ納付シタル市街宅地稅額ニ乘シ之ヲ計算ス

●樺太營業收益稅規則及樺太所得稅令施行規則ノ規定ニ依ル檢查章樣式

（大正十一年五月七日樺太廳令第四十七號）
（改正　昭和二年第四二號）

樺太營業收益稅規則第三十八條及樺太所得稅令施行規則第四十九條ニ依リ樺太廳支廳ノ交付スヘキ檢查章樣式左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式用紙厚質白紙（縱四寸橫二寸五分）

表

第「何」號

檢查章

支廳印

裏

樺太廳「何」支廳

官氏名

第六款　登錄稅

●登錄稅法

（明治二十九年三月二十八日法律第二十七號）
（改正　明治三二年第八三號、三三年第四四號、三四年第二六號、三五年第八號、三八年第九號、第五七號、第五八號、四二年第一四號、第三一號、四三年第一一號、第六四號、大正三年第二一號、七年第一四號、一一年第四六號、一四年第二一號、昭和二年第六號、四年第六三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

登錄稅法

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ五
二　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五		
三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ三十三
四　所有權ノ保存	不動產價格	千分ノ五
五　共有物ノ分割	分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格	千分ノ五
六　地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得		
存續期間十年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ一
同二十年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ二
同三十年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ四
同五十年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ七
同七十年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ十
同百年以下ノモノ	不動產價格	千分ノ十五
同百年ヲ超ユルモノ	不動產價格	千分ノ二十
存續期間ノ定メナキモノ	不動產價格	千分ノ一
存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第二條第一項ノ規定ノ適用アルモノ	不動產價格	千分ノ四
相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ	不動產價格	千分ノ五
權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス		
七　地役權ノ取得	要役地價格	千分ノ一
八　華族世襲財產ノ設定	不動產價格	千分ノ二十五
九　先取特權ノ保存又ハ取得	債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額	千分ノ五・五
十　質權、抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ五・五
十一　信託ノ登記		
所有權ニ付テハ	不動產價格	千分ノ四
所有權以外ノ權利ニ付テハ	不動產價格	千分ノ二
十二　競賣、強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ五・五
十三　假差押、假處分	債權金額	千分ノ四
十四　抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ五・五
十五　相續財產ノ分離		
所有權ニ付テハ	不動產價格	千分ノ五・五
所有權以外ノ權利ニ付テハ	不動產價格	千分ノ一
十六　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ	債權金額	千分ノ四
十七　抹消シタル登記ノ回復	不動產每一箇	金四十錢
十八　假登記	不動產每一箇	金四十錢
十九　附記登記	不動產每一箇	金二十錢
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス		
二十　登記ノ更正、變更又ハ抹消	不動產每一箇	金二十錢
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス		

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ三
二　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ三十五
三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ二十三
四　委付	船舶價格	千分ノ三
五　所有權ノ保存	船舶價格	千分ノ三
六　賃借權ノ取得	船舶價格	千分ノ一
七　抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ五・五
八　信託ノ登記		
所有權ニ付テハ	船舶價格	千分ノ三
所有權以外ノ權利ニ付テハ	船舶價格	千分ノ一
九　競賣ノ申立	債權金額	千分ノ五・五
十　假差押、假處分	債權金額	千分ノ四
十一　抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ五・五
十二　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ	債權金額	千分ノ四
十三　登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記	船舶每一箇	金一圓
十四　抹消シタル登記ノ回復	船舶每一箇	金四十錢
十五　假登記	船舶每一箇	金四十錢
十六　附記登記	船舶每一箇	金二十錢
十七　登記ノ更正、變更又ハ抹消	船舶每一箇	金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二　信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託		
不動產	不動產價格	千分ノ四
船舶	船舶價格	千分ノ三
二　委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ		

元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產ノ處分ヲ目的トスルモノ

不動產	不動產價格	千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五		
船舶	船舶價格	千分ノ三十五

三　委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者カ收益ノ受益者ナル信託

不動產	不動產價格	千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五		
船舶	船舶價格	千分ノ三十五

前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項第二號又ハ第三號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス

第三條ノ三　前條第一項各號ニ該當セサル信託（委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產ノ管理ヲ目的トスルモノ及委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託）ニ因リ不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス但シ信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納ムヘシ

第三條ノ四　委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產タル不動產又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

不動產	不動產價格	千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五		
船舶	船舶價格	千分ノ三十五

受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動產又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス

第三條ノ五　鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ一
一ノ二　信託ノ登錄	債權金額	千分ノ一
二　強制競賣、強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ一
三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二圓

第三條ノ六　工場財團登記簿、鑛業財團登記簿又ハ漁業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ一
二　信託ノ登記	債權金額	千分ノ一
三　競賣、強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ一
四　假差押、假處分	債權金額	千分ノ一
五　抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ一
六　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ	債權金額	千分ノ一
七　抹消シタル登記ノ回復	每一件	金二圓
八　假登記	每一件	金二圓
九　附記登記	每一件	金二圓
十　登記ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二圓

第四條　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄	每十噸	金五十錢
二　轉籍	每十噸	金十錢
三　除籍	每十噸	金五錢
四　登錄ノ變更	船舶每一箇	金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條　削除

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス

一　合名會社、合資會社設立	（財產ヲ目的トスル出資ノ價格）	千分ノ五
二　合名會社、合資會社出資增加	（財產ヲ目的トスル增出資ノ價格）	千分ノ五
三　株式會社設立	拂込株金額	千分ノ五
四　株式會社資本增加	增資拂込株金額	千分ノ五
五　株式會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ五
六　株式合資會社設立	（拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）	千分ノ五
七　株式合資會社資本增加	（增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）	千分ノ五
八　株式合資會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ五
九　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立	（拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）	千分ノ一
但シ合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五		
十　合併ニ因ル會社資本ノ增加	（增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）	千分ノ一
但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五		
十一　社債又ハ第二回以後ノ社債拂込		
商法第二百四條ノ拂込アリタル日（賣出ノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出滿了ノ日）ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ	每回拂込金額	千分ノ一
同三年以下ノモノ	每回拂込金額	千分ノ二
同三年ヲ超ユルモノ	每回拂込金額	千分ノ三
但シ產業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ千分ノ二		
十二　支店設置	每一箇所	金二十圓
十三　本店又ハ支店ノ移轉	每一件	金十圓
十四　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	每一件	金十圓
十五　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止	每一件	金十圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス		
十六　登記ノ更正又ハ抹消	每一件	金十圓
十六ノ二　合名會社、合資會社設立ノ取消	每一件	金七圓
十七　解散	每一件	金七圓
十八　清算人ノ選任、解任又ハ變更	每一件	金二圓
十九　清算ノ結了	每一件	金二圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　商號ノ新設又ハ取得	每一件	金十圓
二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	每一件	金十圓
三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	每一件	金十圓
四　商法第五條第七條ニ依ル登記	每一件	金五圓
五　民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記	每一件	金五圓
六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止	每一件	金二圓
七　登記ノ更正又ハ抹消	每一件	金二圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第七條　左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄	金二十圓
二　登錄換	金十圓
三　取消ノ請求	金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄		
醫師		金二十圓
藥劑師		金十二圓
獸醫		金十二圓
蹄鐵工		金五圓
假開業醫師		金五圓
假免許獸醫		金三圓
假免許蹄鐵工		金一圓
二　登錄事項ノ變更	每一件	金五十錢

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄		
甲種船長		金十五圓
甲種一等運轉士		金十圓
甲種二等運轉士		金六圓
乙種船長		金十圓
乙種一等運轉士		金四圓
乙種二等運轉士		金三圓
丙種船長		金六圓
丙種運轉士		金二圓
機關長		金十五圓
一等機關士		金十圓
二等機關士		金六圓
三等機關士		金三圓
水先人		金二十圓
二　登錄事項ノ變更	每一件	金五十錢

第十條　著作權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　著作權ノ移轉		
相續	每一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五圓
二　著作權ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ五・五
三　前號ノ權利ノ移轉		
相續	每一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
四　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄	每一件	金二圓
四ノ二　信託ノ登錄	每一件	金一圓
五　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　特許權ノ移轉		
相續	每一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
二　實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金五圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ五・五
四　前二號ノ權利ノ移轉		
相續	每一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金二圓
五　信託ノ登錄	每一件	金二圓
六　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
七　代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每一件	金五十錢
八　抹消シタル登錄ノ回復	每一件	金五十錢
九　假登錄	每一件	金五十錢
十　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金五十錢

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　意匠權ノ移轉		
相續	每一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金二圓
二　實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金一圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ五・五
四　前二號ノ權利ノ移轉		
相續	每一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
五　信託ノ登錄	每一件	金一圓
六　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
七　代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每一件	金五十錢
八　抹消シタル登錄ノ回復	每一件	金五十錢
九　假登錄	每一件	金五十錢
十　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金五十錢

第十二條ノ二　實用新案ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　實用新案權ノ移轉		
相續	每一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金五圓
二　實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金二圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	債權金額	千分ノ五・五
四　前二號ノ權利ノ移轉		
相續	每一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
五　信託ノ登錄	每一件	金一圓
六　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四
七　代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每一件	金五十錢
八　抹消シタル登錄ノ回復	每一件	金五十錢
九　假登錄	每一件	金五十錢
十　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金五十錢

第十三條　商標ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　商標權ノ移轉		
相續	每一件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
二　信託ノ登錄	每一件	金一圓
三　代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每一件	金五十錢
四　抹消シタル登錄ノ回復	每一件	金五十錢
五　假登錄	每一件	金五十錢
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金五十錢

第十四條　鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　試掘權ノ設定　毎一件　金百圓
二　試掘權ノ變更
　增區又ハ增減區　毎一件　金四十五圓
　減區　毎一件　金十圓
三　試掘權ノ移轉
　相續　毎一件　金十圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金四十五圓
四　採掘權ノ設定
　新規登錄　毎一件　金二百圓
　鑛區合併　毎一件　金五十圓
　鑛區分割　（設定鑛區）毎一箇　金五十圓
五　採掘權ノ變更
　鑛區訂正　毎一件　金五十圓
　增區又ハ增減區　毎一件　金百圓
　減區　毎一件　金二十圓
六　採掘權ノ移轉
　相續　毎一件　金二十圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金百圓
七　抵當權ノ設定
　新規登錄　債權金額　千分ノ五・五
　鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定　毎一件　金五圓
八　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　毎一件　金十圓
九　抵當權ノ移轉
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十圓
十　信託ノ登錄　毎一件　金十圓
十一　共同鑛業權者ノ脫退　毎一件　金五圓
十二　滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
十三　廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅　毎一件　金五圓
十四　抹消シタル登錄ノ回復　毎一件　金四十錢
十五　假登錄　毎一件　金四十錢
十六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二十錢

第十五條　砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　砂鑛權ノ設定
　新規登錄　採取區域（河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄）　金十五圓
　砂鑛區合併　毎一件　金三圓
　砂鑛區分割　設定砂鑛區毎一箇　金三圓
二　砂鑛權ノ變更
　增區　採取區域（河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄）　金十五圓
　減區　毎一件　金一圓
　但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
三　砂鑛權ノ移轉
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十五圓
四　抵當權ノ設定
　新規登錄　債權金額　千分ノ五・五
　砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定　毎一件　金五圓
五　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　毎一件　金十圓
六　抵當權ノ移轉
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十圓
七　信託ノ登錄　毎一件　金五圓
八　滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
九　廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅　毎一件　金一圓
十　抹消シタル登錄ノ回復　毎一件　金四十錢
十一　假登錄　毎一件　金四十錢
十二　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二十錢

第十五條ノ二　漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　漁業權ノ移轉
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金五圓
二　漁業權ノ持分ノ移轉
　相續　毎一件　金四十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金一圓
三　入漁權ノ設定　毎一件　金三圓
四　入漁權ノ保存　毎一件　金五十錢
五　入漁權ノ移轉
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
六　入漁權ノ持分ノ移轉
　相續　毎一件　金二十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金五十錢
七　賃借權ノ取得
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル取得　毎一件　金二圓
八　先取特權ノ保存又ハ取得　（債權金額又ハ工事費用豫算金額）　千分ノ五・五
九　抵當權ノ設定又ハ移轉
　設定　債權金額　千分ノ五・五
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
十　信託ノ登錄　毎一件　金二圓
十一　競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ五・五
十二　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四
十三　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ五・五
十四　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ　債權金額　千分ノ四
十五　抹消シタル登錄ノ回復　毎一件　金四十錢
十六　假登錄　毎一件　金四十錢
十七　附記登錄　毎一件　金二十錢
十八　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二十錢

第十六條　法人ノ合併ニ因ル不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

　不動產又ハ船舶ノ價格　千分ノ三

第十六條ノ二　債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登錄スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條ノ三　管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動產登記法第百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條ノ四　同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登錄ヲ受クル場合ニ於ケル登錄稅ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

一　政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登錄
二　社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
三　北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ニ關スル登記
四　府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登錄
五　市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登錄
六　市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ亙ルモノヲ消滅セシムル爲市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記
七　產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付產業組合法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記
八　自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、產業組合又ハ產業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記
九　北海道府縣市町村、產業組合又ハ產業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
十　北海道府縣市町村、產業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
十一　住宅又ハ住宅用地ニ付產業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記
十二　北海道府縣市町村、產業組合又ハ產業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、產業組合又ハ產業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記
十三　農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
十四　學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第十九條ノ二　信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登錄ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登錄
二　受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登錄但シ不動產又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル
三　信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得ノ登記又ハ登錄

前項第一號ノ規定ハ當該信託財產ニ付受益者（歸屬權利者ヲ含ム）變更ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ信託財產ハ其ノ變更ノ登記又ハ登錄ノトキニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登錄稅ヲ課ス

第十九條ノ三　登記又ハ登錄ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第十九條ノ四　外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ登錄稅ヲ免除ス但シ當該國カ帝國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同樣ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ五　登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ

第十九條ノ六　前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ七　前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ八　登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ

第十九條ノ九　當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

第十九條ノ十　評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク

第十九條ノ十一　評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ十二　評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

第二十條　本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條　現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（大正十四年法律第二十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百四十三號ヲ以テ第三條ノ五ノ改正規定ハ同年七月六日ヨリ施行）

（大正十四年勅令第二百六十七號ヲ以テ第十九條第一項第五號ノ改正規定ハ同年九月一日ヨリ施行）

附　則（昭和二年法律第六號）

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ課セラレタル不動產又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

●登錄稅法施行規則

明治三十二年五月十九日
勅令第二百五號
改正　明治三八年第七七號
大正三年第二二五號、一〇年第四一七號
昭和二年第四六號、四年第九三號

朕登錄稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（大藏大臣副署）

登錄稅法施行規則

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條　登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登錄若ハ假登錄ヲ登記所又ハ登錄官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登錄官廳ニ送付スヘシ

第四條　同一債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニ於テ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ受クル登記又ハ登錄ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記又ハ登錄ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登錄稅ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登錄中ニ登錄稅法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノト其ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ツ登錄稅法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノノ登記又ハ登錄ニ付登錄稅ヲ徵收ス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號、第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　自作農ノ創設維持事業ニ關スル國庫補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二　自作農ノ創設維持ノ爲左ニ掲クル事項ニ付前號ノ場合ト同一ノ條件ヲ以テ行フ北海道府縣ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

（イ）資金借受人ノ資格
（ロ）購入土地ノ單價及總價額ノ制限
（ハ）自作ヲ繼續スヘキ年限
（ニ）讓渡又ハ抵當權設定ノ制限
（ホ）資金借受人カ（イ）乃至（ニ）ノ事項ニ違反シタル場合ノ處置

三　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ前二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

四　第一號又ハ第二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ二　左ニ掲クル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登錄稅法第十九條第十一號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス但シ一人ニ付各一個ニ限ル

一　住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅

二　七十坪以下ノ住宅用地

第五條ノ三　學校經營ヲ目的トスル法人ノ左ニ掲クル土地建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記ニハ登錄稅法第十九條第十四號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　校舍及寄宿舍、圖書館其ノ他ノ保育又ハ教育上必要ナル附屬建物

二　前號ニ規定スル建物ノ敷地及運動場、實習用地其ノ他ノ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル土地

第五條ノ四　外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニシテ大藏大臣ニ於テ左ノ各號ニ該當スルモノト認メタルモノニハ登錄稅法第十九條ノ四ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　當該敷地又ハ建物カ直接大使館、公使館又ハ領事館ノ用ニ供セラルルコト

二　當該國カ我國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同樣ノ免稅ヲ爲スコト

第五條ノ五　管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收スヘシ

第六條　登錄稅法第十九條ノ六ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條　登錄稅法第十九條ノ十ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條　登錄稅法第十九條ノ十ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（昭和二年勅令第四十六號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル土地臺帳ノ登錄ニ對スル登錄稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

旅費額			
車馬賃（一里ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）	日當（一日ニ付）	鐵道賃船賃
七十五錢	五圓五十錢	三圓	二等旅客運賃但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃

備考

鐵道賃船賃ニハ通行稅、艀賃、棧橋賃及普通急行料金ヲ含ム但シ急行料金ハ鐵道五十哩未滿水路五十浬未滿ノ旅行及急行料金ヲ徵セサル旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

（大正三年十一月二日司法省訓令第三號）

地方裁判所
區裁判所
區裁判所出張所

登錄稅法中改正法律竝其ノ關係法規ハ本年十一月十五日ヲ以テ實施セラレムトス抑改正法ニ於テ課稅標準ノ價格ニ關スル登記所ノ認定ヲ不當トスル申請人ヲシテ評價ノ請求ヲ爲スト同時ニ差稅額ヲ納付シテ直ニ登記ヲ受クルコトヲ得セシメタルハ畢竟徵稅上ノ爭ヲシテ登記ノ手續ニ累ヲ及ホスコト莫ク以テ登記事務ヲシテ圓滿ニ進捗セシムルコトヲ圖ルニ在リ又評價人ノ評價ニ不服アルトキハ地方裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ許シタルハ則チ價額查定ノ手續ヲ鄭重ニシ以テ徵稅ノ適正公平ヲ期セムトスルニ外ナラス然ルニ登記官吏ニ於テ徵稅手續ニ關スル爭議カ直接ニ登記手續ニ支障ナク且裁判所ノ裁判ニ依リ徵稅額ノ適正ヲ期スルコトヲ得ヘシト爲シ價格ノ認定ニ愼重ノ注意ヲ缺クコトアラムカ啻ニ法律改正ノ趣旨ニ副ハサルノミナラス遂ニ申請人ノ不滿ヲ招キ延イテ登記官吏ノ威信ヲ失墜スルニ至ルヘシ故ニ改正法令實施ノ上ハ價格ノ認定ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ最初ヨリ之カ異議ナカラシメムコトヲ期スヘシ

右訓令ス

●領事官ノ取扱フ登記ノ登錄稅ニ關スル件

（明治三十九年八月十日勅令第二百十九號）

改正　大正一二年第三六四號

朕領事官ノ取扱フ登記ノ登錄稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏、外務大臣副署）

第一條　領事官ノ取扱フ登記事務ニ關シ本令ニ規定シタルモノニ付テハ登錄稅法ノ規定ヲ適用セス

第二條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スヘシ

一　合名會社合資會社設立
　財産ヲ目的トスル出資ノ價格
　一萬圓未滿　金十圓

一萬五千圓未滿　金十三圓
二萬圓未滿　金十六圓
二萬五千圓未滿　金十九圓
二萬五千圓以上五十萬圓未滿ハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓每ニ金一圓ヲ加算シ、五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓每ニ金五十錢ヲ加算ス

二　合名會社合資會社出資增加
　財産ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ登錄稅ノ金額ヨリ既ニ納付シタル設立又ハ出資增加ノ登錄稅ヲ控除シタル金額

三　株式會社株式合資會社設立
　拂込株金額又ハ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ付第一號ニ準ス

四　株式會社株式合資會社資本增加及第二回以後ノ株金拂込
　第二號ニ準ス

五　前各號ニ該當セサル登記
　每一件　金一圓

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ財産ヲ目的トスル出資ノ價格又ハ拂込株金額ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ海關兩一兩ニ相當スル額ヲ日本貨幣二圓ニ換算シテ之ヲ定ム

前二項ノ場合ニ於テ新ニ納付スヘキ登錄稅又ハ既納ノ登錄稅ト新ニ納付スヘキ登錄稅トノ合算額カ三百圓ヲ超ユルトキハ之ヲ三百圓ニ減シ既納ノ登錄稅三百圓ニ達シタルトキハ其ノ後ノ登記ニ付登錄稅ヲ課セス

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ一件每ニ金一圓ノ登錄稅ヲ納付スヘシ

第三條　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ一件每ニ金一圓ノ登錄稅ヲ納付スヘシ

一　商號ノ新設又ハ取得
二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
四　商法第五條及第七條ニ依ル登記
五　民法第七百九十四條、第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
七　登記ノ更正又ハ抹消

第四條　印紙ヲ以テ登錄稅ヲ納付スルコト能ハサルトキハ現金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ登錄稅ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮登錄稅令

（明治四十五年三月二十二日制令第十六號）

改正　大正三年第一八號、第一九號、四年第六號、五年第一號、七年第四號、八年第九號、一五年第三號、昭和二年第五號、三年第三號

朝鮮登錄稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮登錄稅令

第一條　不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　相續ニ因ル所有權ノ取得
　不動産價格　千分ノ七
二　贈與、遺贈其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
　不動産價格　千分ノ三十八
　但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五
三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
　不動産價格　千分ノ三十三
四　所有權ノ保存
　不動産價格　千分ノ五
五　共有物ノ分割
　分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格　千分ノ五
六　地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得
　存續期間十年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ一
　同二十年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ二
　同三十年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ四
　同五十年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ七
　同七十年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ十
　同百年以下ノモノ
　　不動産價格　千分ノ十五
　同百年ヲ超ユルモノ
　　不動産價格　千分ノ二十
　存續期間ノ定ナキモノ
　　不動産價格　千分ノ一
　存續期間ノ定ナキモノニシテ民法第二百六十八條又ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ
　　不動産價格　千分ノ四
　權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス
七　地役權ノ取得
　要役地價格　千分ノ一
八　朝鮮貴族世襲財産ノ設定
　不動産價格　千分ノ十五
九　先取特權ノ保存又ハ取得
　債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額　千分ノ五・五
十　質權又ハ抵當權ノ取得
　債權金額　千分ノ五・五
十一　競賣又ハ強制管理ノ申立
　債權金額　千分ノ五・五
十二　假差押又ハ假處分
　債權金額　千分ノ四
十三　抵當アル債權ノ差押
　債權金額　千分ノ五・五
十四　相續財産ノ分離
　所有權ニ付テハ
　　不動産價格　千分ノ五・五
　所有權以外ノ權利ニ付テハ
　　不動産價格　千分ノ一
十五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ
　債權金額　千分ノ四
十六　抹消シタル登記ノ回復
　不動産每一箇　四十錢
十七　假登記
　不動産每一箇　四十錢
十八　附記登記
　不動産每一箇　二十錢
　但シ一件ニ付稅額二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
十九　登記ノ更正、變更又ハ抹消
　不動産每一箇　二十錢
　但シ一件ニ付稅額二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第一條ノ二　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　相續ニ因ル所有權ノ取得
　船舶價格　千分ノ三
二　贈與、遺贈其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
　船舶價格　千分ノ三十五
三　前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
　船舶價格　千分ノ二十三
四　委付
　船舶價格　千分ノ三
五　所有權ノ保存
　船舶價格　千分ノ三
六　賃借權ノ取得
　船舶價格　千分ノ一
七　抵當權ノ取得
　債權金額　千分ノ五・五
八　競賣ノ申立
　債權金額　千分ノ五・五
九　假差押又ハ假處分
　債權金額　千分ノ四
十　抵當アル債權ノ差押
　債權金額　千分ノ五・五
十一　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處

分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ
債權金額　千分ノ四

十二　登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記
船舶每一箇　一圓

十三　抹消シタル登記ノ回復
船舶每一箇　四十錢

十四　假登記
船舶每一箇　四十錢

十五　附記登記
船舶每一箇　二十錢

十六　登記ノ更正、變更又ハ抹消
船舶每一箇　二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第一條ノ三　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　每十噸　五十錢
二　轉籍　每十噸　十錢
三　除籍　每十噸　五錢
四　登錄ノ變更　船舶每一箇　十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數百石迄每ヲ十噸トシテ計算ス

第一條ノ四　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄
甲種船長　十五圓
甲種一等運轉士　十圓
甲種二等運轉士　六圓
乙種船長　十圓
乙種一等運轉士　四圓
乙種二等運轉士　三圓
丙種船長　六圓
丙種運轉士　二圓
機關長　十五圓
一等機關士　十圓
二等機關士　六圓
三等機關士　三圓
水先人　二十圓

二　登錄事項ノ變更
每一件　五十錢

第一條ノ五　工場財團登記簿又ハ鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
二　競賣又ハ強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　假差押又ハ假處分　債權金額　千分ノ一
四　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ一
五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ　債權金額　千分ノ一
六　抹消シタル登記ノ回復　每一件　二圓
七　假登記　每一件　二圓
八　附記登記　每一件　二圓
九　登記ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　二圓

第一條ノ六　鐵道抵當原簿及軌道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
二　強制競賣、強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　二圓

第二條　本令ノ適用ニ付テハ典當權ハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ質權又ハ抵當權ト看做シ永代借地權ハ之ヲ所有權ト看做ス

第三條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人カ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號、第三號又ハ第六號ノ場合ニ於テ稅額十三圓未滿ナルトキハ十三圓トス

一　合名會社、合資會社設立
（財產ヲ目的トスル出資ノ價格）　千分ノ三

二　合名會社、合資會社出資增加
（財產ヲ目的トスル增出資ノ價格）　千分ノ三

三　株式會社、株式合資會社設立
（拂込株金額又ハ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）　千分ノ三

四　株式會社、株式合資會社資本增加
（增資拂込株金額又ハ增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格）　千分ノ三

五　株式會社、株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
每回拂込株金額　千分ノ三

六　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格
千分ノ〇・五

但シ合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ三

七　合併ニ因ル會社資本ノ增加
增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格
千分ノ〇・五

但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ三

八　社債又ハ第二回以後ノ社債拂込

商法第二百四條ノ規定ニ依ル拂込アリタル日（賣出ノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出滿了ノ日）ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ
每回拂込金額　千分ノ〇・五

同三年以下ノモノ
每回拂込金額　千分ノ一

同三年ヲ超ユルモノ
每回拂込金額　千分ノ一・五

但シ朝鮮殖產債券ニ付テハ千分ノ一

九　支店設置　每一箇所　十三圓
十　本店又ハ支店ノ移轉　每一件　四圓
十一　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　四圓
十二　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件　四圓
十三　登記ノ更正又ハ抹消　每一件　四圓
十四　合名會社、合資會社設立ノ取消　每一件　三圓
十五　解散　每一件　三圓
十六　清算人ノ選任、解任又ハ變更　每一件　一圓五十錢
十七　清算ノ結了　每一件　一圓五十錢

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ內地、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ

第四條　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　商號ノ設定又ハ取得　每一件　七圓
二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　四圓
三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　四圓
四　商法第五條又ハ第七條ノ規定ニ依ル登記　每一件　三圓
五　民法第七百九十四條、第七百九十五條又ハ第七百九十七條ノ規定ニ依ル登記　每一件　三圓
六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件　一圓五十錢
七　登記ノ更正又ハ抹消　每一件　一圓五十錢

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件七十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第四條ノ二　法人ノ合併ニ因ル不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

不動產價格　千分ノ三
船舶價格　千分ノ二

第四條ノ三　鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　鑛業權ノ設定
新規登錄　每一件　二百圓
鑛區合併　每一件　五十圓
鑛區分割　（設定鑛區每一個）　五十圓

二　鑛業權ノ變更
朝鮮鑛業令第二十二條ノ規定ニ依ル
鑛區訂正　每一件　五十圓
增區又ハ增減區　每一件　百圓
減區　每一件　二十圓

三　鑛業權ノ移轉
相續　每一件　五十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　百圓

四　抵當權ノ設定
新規登錄債權金額　千分ノ四・五
朝鮮鑛業令第二十一條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定　每一件　五圓

五　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　每一件　十圓

六　抵當權ノ移轉
相續　每一件　五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　十圓

七　共同鑛業權者ノ脫退　每一件　五圓
八　滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
九　廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅　每一件　二圓
十　抹消シタル登錄ノ回復　每一件　四十錢
十一　假登錄　每一件　四十錢
十二　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　二十錢

第五條　債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス

第五條ノ二　管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動產登記法第百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス

第五條ノ三　同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニ於ケル登錄稅ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條　登錄稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

一　政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登錄
二　公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ニ關スル登記
三　道府面ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル道地方費府面ノ權利ノ取得又ハ其ノ道地方費府面ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登錄
四　府面ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ府面ニ移ス場合ニ於ケル府面ノ權利ノ取得又ハ其ノ府面ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登錄
五　府面又ハ府面ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ府面ニ亙ルモノヲ消滅セシムル爲府面又ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記
六　社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
七　金融組合、金融組合聯合會、產業組合又ハ產業組合聯合會ニ付金融組合令又ハ朝鮮產業組合令ニ基キテ爲ス登記
八　學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第七條ノ二　登記又ハ登錄ノ抹消、錯誤又ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第八條　登記所カ登記申請人ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請人ニ告知スヘシ

第九條　前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請人ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十條　登記申請人カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ

第十一條　當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

第十二條　評價人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク

第十三條　評價ニ要シタル費用ハ登記申請人ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　評價ノ費用ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年制令第一號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

明治四十四年制令第九號ハ之ヲ廢止ス

朝鮮鑛業令第六十二條ノ規定ニ依ル鑛業ノ出願ノ許可ニ基キ鑛業權ノ新規登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス

●朝鮮登錄稅令施行規則

（大正五年朝鮮總督府令第十七號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

朝鮮登錄稅令施行規則左ノ通定ム

（大正五年三月二十三日朝鮮總督府令第十八號）
改正　昭和三年第四一號

朝鮮登錄稅令施行規則

第一條　收入印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登記又ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

第二條　登錄稅額二百圓以上ナルトキハ府尹、郡守又ハ島司ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

前項ニ依リ現金ヲ以テ登錄稅ヲ納メタルトキハ其ノ領收證書ヲ登記又ハ登錄ニ關スル書類ニ添附スヘシ

第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登錄若ハ假登錄ヲ登記所又ハ登錄官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ其ノ官廳又ハ公署ハ登錄稅ヲ納ムヘキ者ヲシテ稅額ニ相當スル收入印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出セシメ囑託書ニ其ノ收入印紙ヲ貼付シ又ハ其ノ領收證ヲ添附シテ登記所又ハ登記官廳ニ送付スヘシ

第三條ノ二　同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニ於テ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ受クル登記又ハ登錄ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記又ハ登錄ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登錄稅ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登錄中ニ朝鮮登錄稅令第一條ノ五又ハ第一條ノ六ニ該當スルモノト其ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ヅ朝鮮登錄稅令第一條ノ五又ハ第一條ノ六ニ該當スルモノノ登記又ハ登錄ニ付登錄稅ヲ徵收ス

第三條ノ三　學校經營ヲ目的トスル法人ノ左ニ揭グル土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記ニハ朝鮮登錄稅令第七條第八號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　校舍及寄宿舍、圖書館其ノ他ノ保育又ハ教育上必要ナル附屬建物

二　前號ニ規定スル建物ノ敷地及運動場、實習用地其ノ他ノ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル土地

第四條　船舶法第十四條第二項ニ依リ管海官廳カ抹消ノ登錄ヲ爲シ府尹、郡守又ハ島司ニ通知シタルトキハ府尹、郡守又ハ島司ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收スヘシ

第五條　朝鮮登錄稅令第九條ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ

登記申請人ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第六條　朝鮮登錄稅令第十二條ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス

第七條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第七條　朝鮮登錄稅令第十二條ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年朝鮮總督府令第三十一號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

旅費額		
	車馬賃（一里ニ付）	九十五錢
	宿泊料（一夜ニ付）	五圓五十錢
	日當（一日ニ付）	三圓
	鐵道賃　船賃	二等旅客運賃但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃

第七款　相續稅

●相續稅法

（明治三十八年一月一日法律第十號）
改正　明治四三年第四號、大正三年第二二號、一一年第四八號、一五年第一三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル相續稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏、司法大臣副署）

相續稅法

第一條　相續開始シタルトキハ開始地カ帝國內ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ揭クル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

一　本法施行地ニ在ル動產及不動產

二　本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利

三　前二號ニ揭ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年內ニ本法施行地內ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地內ニ在ルモノト看做ス

第三條　被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　公課

二　被相續人ノ葬式費用

三　債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年內ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一　其ノ財產ニ係ル公課

二　其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三　其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第四條　相續財產ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル

地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

一　地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	二倍
殘存期間三十年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	三倍
殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定ナキモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	五倍
殘存期間百年以下ナルモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	七倍
殘存期間百年ヨリ長キモノ	地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	十二倍

二　永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	二倍
殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存續期間ノ定メナキモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	三倍
殘存期間五十年以下ナルモノ	永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格	五倍

三　有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

四　無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

五　終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齡ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

二十歲未滿ノ者	十年
三十歲未滿ノ者	八年
四十歲未滿ノ者	六年
五十歲未滿ノ者	四年
六十歲未滿ノ者	二年
六十歲以上ノ者	一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條　條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條　課稅價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺產相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス

第七條　軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續			
課稅價格	稅率		
	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系卑屬又ハ入夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ二十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ七十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ八十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百二十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百十	千分ノ百三十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百三十	千分ノ百五十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ百四十	千分ノ百六十

遺產相續

課稅價格	稅率		
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ六十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十五	千分ノ八十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	千分ノ七十五	千分ノ九十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十五	千分ノ百五
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	千分ノ九十五	千分ノ百十五
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	千分ノ百五	千分ノ百二十五
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五	千分ノ百十五	千分ノ百三十五
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十五	千分ノ百二十五	千分ノ百四十五
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十五	千分ノ百三十五	千分ノ百五十五
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十五	千分ノ百四十五	千分ノ百六十五
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百六十	千分ノ百八十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十五	千分ノ百七十五	千分ノ百九十五
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ百九十	千分ノ二百十

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第九條　相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ稅金ノ差額ヲ追徵シ又ハ還付ス

第十條　相續稅ヲ課セラレタル後五年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

相續稅ヲ課セラレタル後七年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十一條　相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以內ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以內ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條　戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

一　死亡又ハ失踪

二　戶主ノ隱居又ハ國籍喪失

三　戶主カ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四　入夫婚姻ニ因リ女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト

五　戶主タル入夫ノ離婚

第十三條　課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

第十四條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條　前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ七年以內ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以內ニ政府ニ出願スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十八條　審査ヲ求メ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ稅金ヲ納付スヘシ

第十九條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　相續財產ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年內ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財產ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人期限內ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人其ノ期間內ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及稅金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ヨリ徵收スルコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徵收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動產及船舶以外ノ財產ニ付爲シタル贈與ノ價額カ千圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條ノ二　信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動產又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者ノ直系卑屬ヲ受益者ト爲シタルモノト看做シ其ノ受託者ヲ相續財產管理人ト看做ス

第二十四條　第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ稅金ヲ徵收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條　第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條　府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●相續稅法施行規則

（明治三十八年三月二十三日勅令第六十八號）

朕相續稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

相續稅法施行規則

第一條　相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財產所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相續財產カ二箇以上ノ稅務署管內ニ在ルトキハ其ノ主タル財產ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條　相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル期間內ニ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一　被相續人ノ氏名

二　相續開始地

三　相續開始ノ日

四　家督相續、遺產相續ノ區別

五　被相續人カ相續開始前一年內ニ相續稅法施行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六　相續人ノ住所氏名

七　相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ第一項第六號及第七號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條　稅務署長ハ相續財產ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四條　課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間內ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條　稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　各稅務署所轄內ニ相續稅審査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄內ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審査委員會ヲ置クコトヲ得

第七條　審査委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條　審査委員ノ任期ハ三年トス

審査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條　審査委員會ハ每年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第十條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　審査委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條　相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財產ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條　相續稅ノ年賦延納ヲ求メムトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間內ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條　擔保ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二　土地

三　建物

四　稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條　擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條　稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條　年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條　增擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條　年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條　年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

前項ノ期間內ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附　則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八款　酒稅

●酒造稅法

（明治二十九年三月二十八日法律第二十八號）
改正　明治三一年第二三號、三四年第七號、三八年第三號、四一年第一八號、大正七年第六號、九年第一四號、一一年第一六號、一五年第一四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒造稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

酒造稅法

第一條ノ一　此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

第一條ノ二　此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クル者ハ清酒ト看做ス

一　前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二　清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三　清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三　此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四　此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五　此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クルモノハ味淋ト看做ス

一　前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二　味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

第一條ノ六　此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

一　清酒

二　濁酒

三　味淋粕

四　米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷若ハ味淋粕ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ一酒造年度トス

第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒
一石ニ付三十六圓

第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎
一石ニ付四十圓

第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎
一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度每ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額

第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎
一石ニ付酒精分一度每ニ一圓八十錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條　政府ハ一酒造年度間清酒ハ三百石濁酒ハ百石燒酎ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ查定シタルモノト看做シ濁酒ニ在リテハ一石ニ付三十六圓、清酒又ハ燒酎ニ在リテハ一石ニ付四十圓ノ割合ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス

第六條　造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期　七月十六日ヨリ同三十一日限
前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期　十月十六日ヨリ同三十一日限
同上

第三期　翌年二月十六日ヨリ同二十八日限
同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期　翌年三月十六日ヨリ同三十一日限
前納額ノ殘數

第七條　第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ查定ス

酒類ノ造石數ヲ查定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ查定石數ノ百分ノ七以內、味淋ハ查定石數ノ百分ノ三以內、燒酎ハ查定石數ノ百分ノ二以內ノ津引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ查定ス

第八條ノ二　同一製造場內ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ查定ス

第十條　酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ查定ス

一　他人ニ讓渡ストキ

二　公賣セラルルトキ

三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ查定石數トシ造石稅ヲ課ス

第十一條　酒類ヲ製造スル者既ニ查定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條　左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二　腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ

四　容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條　酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數查定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

每酒造年度ノ見込造石數又ハ查定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上增加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ增補スヘシ

每酒造年度ノ見込造石數又ハ查定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石稅ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石稅全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ增減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一　相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ

二　納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三　造石稅ヲ前納シタルトキ

四　酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ

第十五條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ稅金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條　酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條　酒類ヲ製造スル者ハ造石數查定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條　收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢查シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條、第二十一條　削除

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其ノ造石稅ヲ徵收ス

第二十三條　削除

第二十四條　酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十五條　酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十六條　納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十七條　酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢查ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條　此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及減輕、再犯加重、【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス但シ刑法【第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第三十三條　第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條　酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條　府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス

第三十五條ノ二　此ノ稅法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ稅法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ稅法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第三十五條ノ三　政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附　則

第三十六條　神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢查濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

附　則（大正七年法律第六號）

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類製造ノ免許ヲ受ケ本法施行ノ際現ニ酒類製造者タルモノニ限リ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒類ヲ製造セサルモノニ付テハ第三十三條第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（大正十五年法律第十四號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

●酒造稅法施行規則

（明治二十九年八月十八日勅令第二百八十七號）
改正　明治三一年第三六二號、三四年第一六四號、三五年第二五三號、三八年第三號、四一年第三八號、大正七年第三二二號、九年第二二九號、第五八二號、一一年第四九號、一五年第三二號

朕酒造稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

酒造稅法施行規則

第一條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申

請シタルトキ

第二條　酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ税務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ税務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ税務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條　酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造税法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二　酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄税務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條ノ三　酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第六條ノ四　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造税法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七條　酒類ノ造石税ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徴收ス

第八條　酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條　酒造税法第八條第二項但書ニ依リ控除スル滓引減量又ハ貯藏減量ハ清酒ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ七、味淋ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ三、燒酎ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒、味淋又ハ燒酎ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス

第十條　酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條　削除

第十二條　削除

第十三條　酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ税務署長ニ申告スヘシ

第十四條　酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキハ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條　酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條　酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造税法第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ税務署長ニ申告スヘシ

第十七條　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ税務署長ニ申告スヘシ

第十八條　酒造税法第十二條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ税務署長ニ申請スヘシ

第十九條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ税務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條　酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨税務署長ニ申請スヘシ

保證物ヲ增補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條　保證物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢

二　國債

三　土地

四　火災保險ニ附シタル建物

第二十二條　保證物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外税務署長ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ向記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ税務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十四條　保證物トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ税務署長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條　酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收税官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條　納税保證人ハ税務署長ニ於テ納税保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條　税務署長ハ納税保證人ノ資力納税保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條　收税官吏ハ納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條　税務署長ハ納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納税保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條　酒類製造主ハ税務署長ニ申出保證物、納税保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシムヘシ

納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ税金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍税金ニ不足アルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條　同一製造場内ニ於テ清酒竝ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ税務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　税務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條　收税官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條　收税官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收税官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得

收税官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得

第三十六條　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條　收税官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十八條　酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條　左ニ揭クル場合ニ於テ收税官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ

二　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ

三　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

四　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ

五　原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

六　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ

七　前各號ノ外收税官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十條　酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ税務署長ニ申告スヘシ

第四十一條　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ榨揚ケムトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條　酒粕ハ其ノ榨揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十二條ノ二　酒造税法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他半製品現存スルトキハ税務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

第四十三條　酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、增減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二　收税官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第四十三條ノ三　酒造税法第三十五條ノ三第一項ニ依リ税務署長ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ毎酒造年度間ニ於テ所屬組合員ノ製造酒類中造石數ヲ査定シタル酒類ノ査定石數（滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタルモノ）十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ十石未滿ノ端數アルトキハ之ヲ十石トシテ計算ス

第四十三條ノ四　前條ノ酒造組合前條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得

第四十三條ノ五　沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港税法施行規則第二條乃至第四條ヲ準用ス但シ同規定中樺太廳支廳トアルハ税務署トシ樺太廳長官トアルハ大藏大臣トス

附　則

第四十四條　酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ仍ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ

第四十五條　酒造税法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

● 酒造税法施行規則ノ規定ニ依リ沖繩縣ヨリ移出スル酒類ニ付交付スヘキ船積免狀ノ樣式

（大正十五年四月一日大藏省令第十七號）

酒造税法施行規則第四十三條ノ五第二項ニ依リ沖繩縣ヨリ移出スル酒類ニ付交付スヘキ船積免狀ノ樣式左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第　　號　　船積免狀

移出者ノ住所氏名又ハ名稱	
酒類ノ種目及數量	
含有純酒精ノ容量	
容器ノ種類及個數	
出港税納付濟年月日	
積載スヘキ船舶ノ名稱	
移出年月日	

大正　　年　　月　　日

何税務署　印

（注意）積載スヘキ船舶又ハ移出年月日ノ變更ヲ要スルトキハ本免狀ヲ返付シ其ノ書換ヲ求ムヘシ

● 沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造税ニ關スル法律

（明治四十一年三月二十七日法律第二十四號　改正　大正九年第一七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造税ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テハ酒造税法第四條ニ依ル造石税ハ當分其ノ三分ノ一トス

第二條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テ製造シタル酒類ハ之ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ酒造税法第四條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第三條　舊慣ニ依ル沖繩縣酒造免許税ハ自今之ヲ徴收セス

第四條　舊慣ニ依リ酒造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後引續キ酒類ヲ製造スルモノハ酒造税法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ製造者ニハ當分酒造税法第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附　則

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 酒精及酒精含有飲料税法

（明治三十四年三月三十日法律第八號　改正　明治三八年第四號、四一年第一九號、大正七年第七號、九年第一五號、一五年第一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精及酒精含有飲料税法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石税ヲ課ス

第二條　酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付其ノ含有純酒精ノ容量一度ニ付一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シ造石税ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　本法ニ於テ酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ謂フ

第三條ノ二　本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

左ニ揭クルモノモ亦葡萄酒ト看做ス

一　葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄ニ精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　葡萄ノ汁液又ハ前號ノモノニ[illegible]

三　[illegible]

第三條ノ三　本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條　淸酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒（ビール）及淸涼飮料ニハ本法ヲ適用セス

第五條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飮料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對スル造石稅ハ一石金四十二圓ノ割合ニ依ル

第六條　造石稅ハ每月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ卽納トス

前條第二項ニ依ル造石稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以內トス

第七條　第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ差押フルコトヲ得

第八條　同一製造場內ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石稅ヲ課ス

第十條　第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石稅ヲ課ス

一　他人ニ讓渡サレタルトキ
二　公賣セラレタルトキ
三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十六條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條　第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及減輕、再犯加重、【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス但シ刑法【第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二　第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造ノ免許ヲ取消サレタル者及ヒ其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

第二十四條ノ二　葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス

免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ノ三　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附　則

第二十五條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條　混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

附　則（大正七年法律第七號）

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飮料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

酒精及酒精含有飮料稅法第三條ノ三第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノ左ノ通相定ム（明治三十八年三月十一日大藏省令第十一號）

一　果實ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ果實ノ汁液一石ニ付精製糖三十斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　果實ノ汁液又ハ前項ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル果實ノ汁液ヲ水若ハ純炭酸石灰ヲ以テ酸ヲ調節シ醱酵セシメタルモノ

●酒精及酒精含有飮料稅法施行規則

（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十五號　改正　明治三八年第四號、四一年第三九號）

朕酒精及酒精含有飮料稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

酒精及酒精含有飮料稅法施行規則

第一條　酒精又ハ酒精含有飮料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　酒精及酒精含有飮料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條　酒精又ハ酒精含有飮料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飮料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飮料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　酒精又ハ酒精含有飮料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飮料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飮料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二　酒精又ハ酒精含有飮料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飮料稅法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第八條　酒精及酒精含有飮料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飮料ハ製造場內ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飮料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條　酒精又ハ酒精含有飮料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　酒精及酒精含有飮料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三　製造シタル酒精又ハ酒精含有飮料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日
四　他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飮料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　酒精又ハ酒精含有飮料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル酒精又ハ酒精含有飮料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先
二　販賣シタル酒精又ハ酒精含有飮料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飮料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飮料、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飮料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飮料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
二　濾過、蒸餾又ハ調合ニ著手セムトスルトキ
三　原料用酒精又ハ酒精含有飮料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
四　酒精又ハ酒精含有飮料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ
五　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
六　製造場外ヨリ製造場內ニ酒精又ハ酒精含有飮料ヲ移入セムトスルトキ
七　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　酒精及酒精含有飮料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシム[illegible]

第十七條　收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飮料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條[illegible]第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條　[illegible]料ヲ製造[illegible]四條第二[illegible]

●酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律

（明治四十三年三月二十五日法律第六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣　大藏大臣副署）

第一條　酒精及酒精含有飮料稅法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ[illegible]者猶豫期間內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ稅金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　造石稅ノ[illegible]

ヲ其ノ猶豫期間內ニ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ノ規定スル所ニ從ヒ工業用ニ使用又ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ相當スル酒精ニ付テハ造石稅ヲ免除ス

第三條　前條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ其ノ酒精カ造石稅ノ徵收猶豫ヲ受ケタルモノナルコトヲ證スヘキ書類竝工業用ニ使用又ハ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律施行ニ關スル件

明治四十三年三月二十九日
勅令第百八十四號
改正　大正九年第五八九號

朕明治四十三年法律第六號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　明治四十三年法律第六號第一條ニ依リ徵收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

一　酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱
二　擔保物ノ種類、數量及價格
三　猶豫ヲ請ハムトスル期間
四　擔保物提供者ノ住所、氏名又ハ名稱
五　前各號ノ外必要ナル事項

第二條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條　削除

第四條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ造石稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ造石稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　明治四十三年法律第六號第三條ノ申請書ニハ其ノ酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、免除スヘキ稅額、査定ノ年月日、製造場及請求者ノ住所、氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ト酒精ヲ工業用ニ使用又ハ供給シタル者ト異リタル場合ニ於テハ免除申請者ハ使用者又ハ供給者ニ其ノ酒精ヲ交付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ申請書ニ添附スヘキ酒精造石稅徵收猶豫證明書又ハ酒精使用證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則ハ前項ノ酒精使用證明書ヲ下付スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五八九號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ造石稅ヲ徵收ス

●麥酒稅法

明治三十四年三月三十日
法律第十二號
改正　明治三八年第五號、四一年第二〇號、大正七年第八號、九年第一六號、第五八號、一五年第一七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル麥酒稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

麥酒稅法

第一條　麥酒（ビール）ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス

第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　麥酒稅ハ麥酒一石ニ付二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第三條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒稅ヲ課ス

第四條　麥酒稅ハ每月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ卽納トス

前條第二項ニ依ル麥酒稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以內トス

第五條　第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ麥酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第六條　麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條　災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十二條　麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條　麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及減輕、【再犯加重】、【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス但シ刑法【第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條ノ二　第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ麥酒ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十條　麥酒製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

第二十條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第三條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以內ニ於テ製造場一箇所每ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

●麥酒稅法施行規則

明治三十四年八月二十四日
勅令第百六十八號
改正　明治三八年第五號、四一年第四〇號

朕麥酒稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

麥酒稅法施行規則

第一條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條　麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二　麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第八條　製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條　麥酒醸造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三　製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日
四　他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先
二　販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ
二　醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
三　麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ
四　麥酒ノ殘滓等ヲ用ヰ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ
五　麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ
六　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
七　製造場外ヨリ製造場內ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ
八　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　麥酒稅法第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

第十七條　收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限リ麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製

造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

●酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料輸出下戻金ニ關スル法律

（明治三十四年三月三十日法律第十號）
改正　明治三七年第五號　大正元年第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　命令ノ定ムル所ニ依リ造石税若ハ出港税ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒税ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石税若ハ出港税又ハ麥酒税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス

一　納税濟證明書
二　輸出免狀
三　外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

第三條　納税濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納税濟證明書ニ代フルコトヲ得

附　則

第四條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條　明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

附　則（明治三十七年法律第五號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニ之ヲ適用ス

造石税又ハ麥酒税納付濟ノ酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ニハ仍舊法ヲ適用ス

●明治三十四年法律第十號施行規則

（明治三十四年八月二十四日勅令第百六十六號）
改正　明治三七年第八七號、四〇年第二六三號、四二年第三二四號　大正元年第一一號、九年第五八三號

朕明治三十四年法律第十號施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

明治三十四年法律第十號施行規則

第一條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付納税濟證明書又ハ擔保提供證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル申請書ヲ製造場所轄税務署ニ提出スヘシ

第二條　酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付税額ニ相當スル擔保ヲ提供セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、擔保ノ種類、價格及税金不納ノ場合ニ於テハ其ノ擔保物ヲ以テ税金ノ納付ニ充ツヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ製造場所轄税務署ニ提出スヘシ

第三條　擔保ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ税務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條ノ二　外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニ積載スヘシ但シ航路其ノ他ノ事由ニ因リ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ヲ用ウル能ハサル地方ニ輸出スル場合ニ於テ豫メ政府ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ船舶カ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ内國沿岸ニ寄港シタルトキハ金額ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場及輸出先竝積載スヘキ船舶名及其ノ内國寄港地ヲ記載スヘシ

第五條　前條ノ申告アリタルトキハ税關ハ酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ノ種類、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定スヘシ

第六條　第一條、第二條、第四條及第五條ノ場合ニ於テ淸酒、濁酒、白酒、味淋、麥酒ニ限リ含有純酒精ノ容量ヲ記載シ又ハ檢定スルコトヲ要セス

第六條ノ二　出港税納税濟證明書ノ交付又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一條及第四條ニ定メタル査定ノ日及製造場ニ代ヘ納税ノ日及移出港ヲ記載シ第一條ノ申請書ハ沖繩縣ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル税務署ニ、樺太ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル樺太廳支廳ニ提出スヘシ

第六條ノ三　明治三十四年法律第十號第二條ノ申請書ハ之ヲ輸出港税關ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ

第七條　【韓國】ニ陸揚シタル酒精、酒類又ハ其ノ他ノ酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求スル場合ニ於テ同法第二條第三號ノ添附書類ハ【韓國】税關ノ輸入免狀又ハ其ノ證明シタルモノニ限ル

●工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法

（明治三十九年四月二十四日法律第四十六號）
改正　大正元年第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法

第一條　造石税又ハ出港税納付濟ノ酒精ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル工業ノ用ニ供スル者ハ政府ノ承認ヲ得テ毎回一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限リ其ノ造石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二條　造石税又ハ出港税納付濟ノ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル政府ノ工業用ニ供給スル者ハ毎回一石以上ノ供給ヲ爲ストキニ限リ其ノ造石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第三條　前二條ノ請求ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ使用又ハ供給後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　第一條ノ酒精ニ對シ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルコトヲ得

第五條　第一條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ造石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ造石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求シタル者ハ其ノ造石税又ハ出港税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七條　間接國税犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附　則

醫藥用工業用酒精戻税法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行後三箇月迄ニ造石税ノ賦課ヲ受ケタル醫藥用酒精ノ税金下戻ニ關シテハ本法施行後六箇月ニ限リ醫藥用工業用酒精戻税法ヲ適用ス

●工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法施行規則

（明治三十九年四月二十四日勅令第八十六號）
改正　大正元年第一〇號、六年第二二九號、一一年第三三三號、一五年第九六號、昭和三年第二七八號

朕工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法施行規則

第一條　酒精ヲ左ニ揭クル物品ノ製造ニ使用シタルトキハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一　ハイドロ亞硫酸曹達鹽類（ハイドロサルファイト）
二　エチレン及其ノハロゲン誘導體
三　タンニン酸
四　苛性加里
五　エーテル
六　醋酸エーテル
七　脂肪酸エーテル
八　樟腦
九　クロロフォルム
十　ヨードフォルム
十一　アセチールサリチール酸（アスピリン）
十二　サリチール酸フェニール（ザロール）
十三　フェナセチン
十四　モノフェニール尿素
十五　硫酸キニーネ
十六　鹽酸キニーネ
十七　エチール炭酸キニーネ（オイヒニン）
十八　炭酸グアヤコール（ヅオタール）
十九　硫酸アトロピン
二十　ブローム樟腦
二十一　抱水クロラール
二十二　ヘキサメチレンテトラアミン（ウロトロピン）
二十三　プロテイン銀（プロタルゴール）
二十四　サルヴァルサン類
二十五　ヴィタミン類
二十六　ヂアスターセ類
二十七　ヂギタリス製劑
二十八　クロールエチール
二十九　ブロームエチール
三十　ヨードエチール
三十一　エチール硫酸鹽類
三十二　クロール炭酸エチール
三十三　ベンチヂン
三十四　トリヂン
三十五　エチールアニリン
三十六　パラフェニレンダイアミン（パラミン）
三十七　サルファーブリュー
三十八　カーバゾールヴァフトブリュー（ヒドロンブリュー）
三十九　アリザリンブリュー
四十　アンスラセン
四十一　ブロームインヂゴ
四十二　テトラメチールヂアミノベンゾフェノン（ミヒラー氏ケトン）
四十三　ローダミン
四十四　アシッドヴァイオレット
四十五　龍腦
四十六　シトロネロール
四十七　セラニオール
四十八　外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液
四十九　外國ニ輸出スル煙草香料
五十　食酢
五十一　ヴァニシュ（尼斯）
五十二　コロヂオン（瓦斯マントル、寫眞材料、寫眞製版若ハ擬革ノ製造又ハ塗料ニ供スルモノニ限ル）
五十三　セリュロイド
五十四　石鹼
五十五　火藥
五十六　ヂフェニールヂエチール尿素（セントラリット）
五十七　燃料用變性酒精
五十八　礦油
五十九　外國ニ輸出スル擬眞珠

第二條　酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル者ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第二條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スヘキ酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ定メ所轄税務署ニ申請スヘシ

第四條　前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトヲ得

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、製品、殘滓、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得

當業者前項ノ檢査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ既ニ與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ得

第五條　酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ税務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第六條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄税務署ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液、煙草香料又ハ擬眞珠ノ製造用ニ供シ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第一條ニ依リ樺太酒類出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第二條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精酒類其ノ他酒類含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第七條　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二　使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及使用ノ日
三　政府ニ供給シタル酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量及供給ノ日
四　製品アルトキハ其ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
五　作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量
六　殘滓アルトキハ其ノ種類、數量及處理ノ顚末

第八條　當該官吏ハ第一條ノ工業用ニ酒精ヲ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九條　本令中税務署トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳トス

附　則

本令ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物

品ノ種類及數量等

（大正十五年五月五日大藏省令第二十二號　改正　昭和三年第一三號）

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第四條ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等左ノ通相定ム

第一條　左ニ揭クル物品ノ製造ニ使用スル酒精ノ變性ニ際シ酒精一石ニ付混和スヘキ物品及其ノ數量ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一　ハイドロ亞硫酸曹達鹽類（ハイドロサルファイト）
著色料（「ベンゾファストスカーレット」4BS及「ローダミン」B（サフラニン）ヲ等量ニ混和シタルモノ以下同シ）一瓦以上
木精十三瓩以上

二　エチレン及其ノハロゲン誘導體
著色料一瓦以上
「エーテル」十三瓩以上

三　タンニン酸
樟腦油（赤油又ハ白油）二瓩以上
五倍子末百十三瓩以上

四　エーテル
著色料一瓦以上
比重〇、七三以下ノ「エーテル」及比重一、八三以上ノ硫酸各二瓩以上又ハ「エーテル」製造殘渣十九瓩以上

五　醋酸エーテル
著色料一瓦以上
比重一、八三以上ノ硫酸二瓩以上
「醋酸ナトリウム」又ハ比重一、〇四以上ノ醋酸二瓩以上
比重〇、九一以下ノ「醋酸エーテル」二瓩以上

六　脂肪酸エーテル
著色料一瓦以上
「アセトン」、「アセトン油」、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十二瓩以上

七　樟腦
製品一瓩以上又ハ其ノ製造殘渣二瓩以上
「エーテル」、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」、「クロロフォルム」、二硫化炭素、四鹽化炭素ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上

八　山製樟腦、再製樟腦ノ一種又ハ二種ヲ通シテ四瓩以上
　クロロフォルム
「クロール石灰」（有效「クロール」三十「パーセント」以上ヲ含有スルモノ）百八十八瓩以上
比重一、四九ノ「クロロフォルム」二瓩以上

九　ヨードフォルム
「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ十四瓩以上
製品一瓩以上

十　苛性加里、アセチールサリチール酸（アスピリン）、サリチール酸フェニール（ザロール）、フェナセチン、モノフェニール尿素、硫酸キニーネ、鹽酸キニーネ、エチール炭酸キニーネ（オイヒニン）、炭酸グアヤコール（ヅオタール）、硫酸アトロピン、ブローム樟腦、抱水クロラール、ヘキサメチレンテトラアミン（ウロトロピン）
木精、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十四瓩以上
各原料品十三瓩以上又ハ各製品一瓩以上

十一　プロテイン銀（プロタルゴール）
木精十五瓩以上

十二　サルヴァルサン類
「エーテル」三十八瓩以上

十三　ヴィタミン類
分離酒精三十八瓩以上
甲方法
肝油鹼化殘渣酒精一瓩以上
製造殘渣八瓩以上
乙方法
木精、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上
製造殘渣八瓩以上

十四　ヂアスターゼ類
木精七瓩以上又ハ「エーテル」三十八瓩以上

十五　ヂギタリス製劑
木精二瓩以上
使用スヘキ原料品ノ全部

十六　クロールエチール
著色料一瓦以上
鹽化亞鉛溶液（鹽化亞鉛六十九「パーセント」以上ヲ含有スルモノ）三百七十五瓩以上
製品二瓩以上

十七　ブロームエチール
甲方法
著色料一瓦以上
比重一、八三以上ノ硫酸二瓩以上
「ブローム加里」十三瓩以上
比重一、四五以上ノ「ブロームエチール」二瓩以上
乙方法
比重一、四五以上ノ「ブロームエチール」十九瓩以上
分離酒精七十五瓩以上

十八　ヨードエチール
著色料一瓦以上
「ヨード」十三瓩以上
赤燐二瓩以上
比重一、九四以上ノ「ヨードエチール」二瓩以上

十九　エチール硫酸鹽類
著色料一瓦以上
比重一、八三以上ノ硫酸三十八瓩以上
製品二瓩以上

二十　クロール炭酸エチール
比重一、一三七ノ「クロール炭酸エチール」二瓩以上

二十一　ベンチヂン、トリヂン
「アニリン」十九瓩以上
木精十三瓩以上
各製品一瓩以上又ハ各其ノ製造殘渣二瓩以上

二十二　エチールアニリン
著色料一瓦以上
「アニリン」百三十一瓩以上
製品一瓩以上

二十三　パラフェニレンダイアミン（パラミン）
「アニリン」三十八瓩以上
木精十五瓩以上
鹽酸十三瓩以上

二十四　サルファーブリュー、カーバゾールヴァットブリュー（ヒドロンブリュー）
木精十三瓩以上
「インドフェノール」二瓩以上

二十五　アリザリンブリュー、アンスラセン、ブロームインヂゴ、テトラメチールヂアミノベンゾフェノン（ミヒラー氏ケトン）
木精、「ベンゾール」、「石油ベンヂン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上
各製品一瓩以上

二十六　ローダミン
木精二瓩以上
製品二瓩以上

二十七　アシッドヴァイオレット
「オキシメチールヂフェニールアミン曹達鹽類」二瓩以上
「クロールエチール」一瓩以上

二十八　龍腦
著色料一瓦以上
樟腦十三瓩以上

二十九　シトロネロール、ゲラニオール
著色料一瓦以上
山椒油六瓩以上
各製品一瓩以上

三十　外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液及煙草香料
使用スヘキ原料品ノ全部

三十一　食酢
酸量（醋酸トシテ）一「パーセント」以上、酒精分十五「パーセント」以下トナル程度以上ノ種酢又ハ種酢及水

三十二　ヴァニシュ（尼斯）
樟腦、樟腦油（赤油又ハ白油）ノ一種又ハ二種ヲ通シテ二瓩以上

三十三　コロヂオン
樹脂又ハ樹脂類似品三十二瓩以上

（イ）　瓦斯マントル用、寫眞材料用、寫眞製版用
「エーテル」百三十一瓩以上
硝化纖維素八瓩以上
木精八瓩以上又ハ「コロヂオン」三十八瓩ニ付「臭化カドミウム」及「臭化アンモニウム」各七十五瓦以上

（ロ）　捺革用、塗料用
木精、「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上
硝化纖維素又ハ醋酸纖維素十五瓩以上

三十四　セリュロイド
木精、「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上
硝化纖維素及樟腦又ハ「セリュロイド」百八十八瓩以上

三十五　石鹼
苛性曹達四百五十瓦以上ノ水溶液
樟腦油（赤油又ハ白油）若ハ芳香性揮發油一瓩以上又ハ香料及石鹼ノ適量

三十六　火藥
（イ）　雷汞
再餾凝縮液（凝縮液ヲ蒸餾シタルモノニシテ酒精、「アルデヒード」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スルモノ）六瓩以上
（ロ）　爆粉
凝縮液（雷汞化成作業中蒸發スル瓦斯ヲ凝縮瓶ニ導キ凝縮中和セシメタルモノニシテ水分、酒精、「アルデヒード」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スルモノ）八瓩以上
再餾酒精（爆粉製造ノ際使用シタル稀薄酒精ヲ再餾シタルモノニシテ七十三乃至八十七「パーセント」ノ酒精分ヲ含有スルモノ）十六瓩以上

三十七　ヂフェニールヂエチール尿素（セントラリット）
木精十三瓩以上
製品一瓩以上

三十八　燃料用變性酒精
甲方法
「エーテル」、「ベンゾール」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三十八瓩以上
「ピリヂン鹽基」七瓩以上
「アンモニア水」（日本藥局方）一瓩以上
乙方法
著色料〇、二瓦以上
比重〇、八六六以下ノ石油（攝氏二百八十度以下ニ於テ石油原油ヨリ餾出シタルモノ）二瓩以上
「フォルマリン」（日本藥局方）三十瓦以上

三十九　礦油
木精十三瓩以上
原料品三十八瓩以上

四十　外國ニ輸出スル擬眞珠
樟腦、樟腦油（赤油又ハ白油）ノ一種又ハ二種ヲ通シテ二瓩以上
「アセトン」、「アセトン油」、「テレビン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ十三瓩以上

第二條　前條ノ規定ニ據リ難キ場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ變性方法ノ一部又ハ全部ヲ變更スルコトヲ得

　附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年大藏省令第三十六號ハ之ヲ廢止ス

●酒母、醪及麴取締法

（明治三十八年一月一日法律第七號　改正　明治四一年第二六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒母、醪及麴取締法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理・大藏大臣副署）

　酒母、醪及麴取締法

第一條　本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

第二條　酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第四條　收稅官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收稅官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五條　收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ檢査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場內ニ酒母、醪、麴、製造用容器、器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ檢査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條　醪ハ之ヲ讓渡シ、買入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

第八條　酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ買入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

第九條　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醪又ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス

前項ノ酒母、醪ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

第十條　酒母、醪又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、【再犯加重】、【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス

第十四條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條　第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十八條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒母、醪又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母、醪又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

　附　則

第十九條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條　本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醪製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條　本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以內ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間內ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

●酒母、醪及麴取締法施行規則

（明治三十八年一月一日勅令第七號）

朕酒母、醪及麴取締法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

　酒母、醪及麴取締法施行規則

第一條　酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒母、醪及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條　酒母、醪又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醪又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　酒母、醪又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ

酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒母、醪又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

第八條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條　收稅官吏ハ隨時酒母、醪又ハ麴ノ製造場若ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ施サムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條　收稅官吏カ必要ト認メテ酒母、醪、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、貸入、消費又ハ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　酒母ヲ買入レムトスル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

第十三條　酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非サレハ酒母ヲ讓渡スコトヲ得ス

酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十四條　酒母ヲ麴ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條　酒母、醪又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三　製造シタル酒母、醪又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日
四　酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日
五　使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醪若ハ麴ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條　麴請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル麴ノ數量、價額、引取ノ日及引取先
二　販賣シタル麴ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十七條　收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條　酒母、醪及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒母、醪及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

●酒稅令

大正五年七月二十五日
制令第二號

改正　大正八年第五號、九年第二三號、一一年第六號
昭和二年第九號

酒稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　本令ニ於テ酒類ト稱スルハ酒精及酒精ヲ含有スル飲料ヲ謂フ

本令ニ於テ朝鮮酒ト稱スルハ朝鮮在來ノ方法ニ依リ製成シタル濁酒、藥酒及燒酎ヲ謂フ

本令ニ於テ酒精ト稱スルハ原容量百分中純酒精ノ容量八十五以上ノモノヲ謂フ

第二條　酒類ヲ分チテ左ノ三類トス

一　釀造酒　清酒、濁酒、藥酒、麥酒ト稱スル類ニシテ醪其ノ他ノ醱酵液ヨリ製成シタルモノ
二　蒸餾酒　燒酎、高粱酒、酒精ト稱スル類ニシテ醪其ノ他ノ醱酵液、酒類、酒粕其ノ他ノ物ヨリ蒸餾シテ製成シタルモノ
三　再製酒　白酒、味淋、松露酒、甘紅露、梨薑酒ト稱スル類ニシテ釀造酒又ハ蒸餾酒ノ一種ト他ノ釀造酒若ハ蒸餾酒又ハ再製酒其ノ他ノ物トヲ混和シテ製成シタルモノ

清酒又ハ釀造酒タル果實酒ニ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ蒸餾酒ヲ混和シテ製成シタル飲料ハ釀造酒ト看做シ再製酒ノ一種ト他ノ再製酒其ノ他ノ物トヲ混和シテ製成シタル飲料又ハ清酒ニ加工シテ製成シタル飲料ハ之ヲ再製酒ト看做ス

第三條　酒類ニハ左ノ割合ニ依リ酒稅ヲ課ス

一　釀造酒		
朝鮮酒タル濁酒	一石ニ付	三圓二十錢
朝鮮酒タル藥酒	一石ニ付	十圓
麥酒	一石ニ付	十六圓
前記以外ノ釀造酒	一石ニ付	三十圓
二　酒精以外ノ蒸餾酒		
原容量百分中純酒精ノ容量二十五以下ノモノ	一石ニ付	十二圓
原容量百分中純酒精ノ容量三十以下ノモノ	一石ニ付	十四圓
原容量百分中純酒精ノ容量三十五以下ノモノ	一石ニ付	十六圓
原容量百分中純酒精ノ容量四十以下ノモノ	一石ニ付	二十圓
原容量百分中純酒精ノ容量四十五以下ノモノ	一石ニ付	二十五圓
原容量百分中純酒精ノ容量五十以下ノモノ	一石ニ付	三十圓
原容量百分中純酒精ノ容量五十ヲ超ユルモノ	一石ニ付	三十圓ニ原容量百分中純酒精ノ容量五十ヲ超ユル一箇毎ニ一圓ヲ加ヘタル金額
三　酒精	一石ニ付	原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓
四　再製酒	一石ニ付	原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓 但シ一石ニ付三十三圓ニ滿タサルトキハ三十三圓トス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第四條　酒造年度ハ其ノ年九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス

第五條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ免許ヲ受クヘシ

酒類製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條　酒類製造營業ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得

一製造場ニ於テ一酒造年度間清酒ハ百石以上、麥酒ハ五百石以上、酒精又ハ朝鮮酒ニ非サル濁酒ハ五十石以上、燒酎又ハ朝鮮酒タル濁酒若ハ藥酒ハ二十石以上其ノ他ノ酒類ハ一種ニ付十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス

二種以上ノ酒類ヲ製造スル場合ニ於テ制限石數ノ多キモノヲ制限石數以上製造スルトキ又ハ制限石數ノ同一ナルモノニ付其ノ一種ヲ制限石數以上製造スルトキハ他ノ酒類ニ付テハ前項ノ制限ヲ適用セス

試驗ノ爲釀造スル果實酒ニ付テハ相當ノ期間ヲ定メ第一項ノ規定ニ拘ラス製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第七條　酒類製造者ニハ造石數ニ應シ酒稅ヲ課ス

酒類製造者前條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル酒稅ヲ課ス其ノ製造ヲ爲ササリシ石數ニ付テハ酒造年度末日ニ査定シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ製造ヲ爲ササリシ石數ニ對スル酒稅ハ一石ニ付酒精以外ノ蒸餾酒ハ十二圓、酒精ハ八十五圓、再製酒ハ三十三圓ノ割合ニ依ル

第八條　酒稅ハ左ノ納期ニ依リ之ヲ徵收ス

清酒及朝鮮酒ニ非サル濁酒ノ酒稅

第一期　七月一日ヨリ同三十一日限
前年九月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル石數ニ係ル稅額ノ四分ノ一

第二期　十一月一日ヨリ同三十日限
同上

第三期　翌年二月一日ヨリ同末日限
同上及其ノ年五月一日ヨリ八月三十一日迄ニ査定シタル石數ニ係ル稅額ノ二分ノ一

第四期　翌年三月一日ヨリ同三十一日限
前納額ノ殘額

其ノ他ノ酒稅

第一期　二月一日ヨリ同末日限
前年九月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ査定シタル石數ニ係ル稅額

第二期　七月一日ヨリ同三十一日限
其ノ年一月一日ヨリ四月三十日迄ニ査定シタル石數ニ係ル稅額

第三期　十月一日ヨリ同三十一日限
其ノ年五月一日ヨリ八月三十一日迄ニ査定シタル石數ニ係ル稅額

第九條　酒類製造者製造ノ免許ヲ取消サレタルトキ又ハ納稅擔保物ノ免除ヲ得スシテ擔保物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定又ハ國稅徵收法第四條ノ一ノ規定ニ依リ酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第十條　同一製造場内ニ於テ酒類ヲ製造スル爲原料トシテ製造スル酒類ニハ製成ノトキ檢定ヲ受ケタル場合ニ限リ酒稅ヲ課セス

第十一條　酒類ノ造石數ハ製成ノトキ實測シテ之ヲ査定ス但シ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七以内、燒酎及高粱酒ハ査定石數ノ百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ造石數ヲ査定ス

第十二條　粕漉シタル清酒ハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミニ付造石數ヲ査定ス

第十三條　第十條ノ檢定ヲ受ケタル酒類左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定石數ヲ以テ査定石數ト看做シ酒稅ヲ課ス

一　他人ニ讓渡ストキ
二　公賣セラルルトキ
三　酒類製造用外ニ消費スルトキ

第十三條ノ二　酒類製造者ノ製造ニ係ル酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ヲ他人ニ讓渡ストキ又ハ酒類製造用外ニ消費スルトキハ稅務官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　酒類製造者ノ製造ニ係ル酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ニシテ第十三條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ麥酒ノ醱酵液ハ麥酒、朝鮮酒ノ酒母又ハ醪ハ朝鮮酒タル濁酒、其ノ他ノ醱酵液ハ朝鮮酒ニ非サル濁酒ヲ製成シタルモノト看做シ其ノ石數ヲ査定シ酒稅ヲ課ス但シ稅務官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ酒類製造者ノ酒類製造用ニ供スル爲之ニ讓渡ストキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ルトキハ引取人ヨリ酒稅ヲ徵收ス但シ引取人ニ於テ酒稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ三月内酒稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

酒稅納付前又ハ擔保物提供前ニ於テハ保稅地域ヨリ酒類ヲ引取ルコトヲ得ス

第一項ノ擔保物ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十五條ノ二　釀造酒タル果實酒以外ノ輸入酒類ニハ酒稅ヲ課セス

第十六條　左ノ酒類ハ酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ搬出シ又ハ保稅地域ヨリ引取リタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
二　腐敗シタル酒類ニシテ稅務官吏ノ承認ヲ得飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ蒸餾酒ノ製造ニ供スルモノ
四　容器ノ損傷又ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ因リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十七條　酒類ヲ工業用ニ供シ、政府ノ火藥製造用若ハ煙草醱酵用ニ供給シ又ハ朝鮮外ニ輸移出シタル者ニ對シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ酒稅ヲ免除シ又ハ酒稅ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第十八條　酒類製造者ハ豫メ納稅ノ保證トシテ一酒造年度ニ於ケル見込造石數ノ酒稅額ノ三分ノ一以上ニ相當スル擔保物ヲ提供スヘシ但シ許可ヲ受ケ造石數ノ査定毎ニ其ノ酒稅額ノ三分ノ一以上ニ相當スル擔保物ヲ提供スルコトヲ得

前項ノ擔保物ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十九條　左ノ場合ニ於テハ前條ニ規定スル擔保物ノ提供ヲ免除ス

一　相當ノ納稅保證人ヲ立テタルトキ
二　納稅ノ保證トシテ酒稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
三　酒稅ヲ前納シタルトキ

第二十條　納稅保證人ハ酒類製造者カ酒稅ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於テハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔ス

第二十一條　酒類製造者納稅ノ保證トシテ保存スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、貸入シ、消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第二十二條　酒類製造者又ハ引取人酒稅ヲ納付セサルニ因リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ擔保物又ハ納稅ノ保證トシテ保存スル酒類ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收スヘシ但シ擔保物又ハ納稅ノ保證トシテ保存スル酒類ノ價格カ徵收スヘキ稅金及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ付滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十三條　自家用ノ爲朝鮮酒ヲ製造セムトスル者ニハ一酒造年度濁酒又ハ藥酒ニ付テハ二石以下、燒酎ニ付テハ一石以下ヲ限リ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

二種以上ノ朝鮮酒ヲ製造スル場合ニ於テハ各種ヲ通シテ一酒造年度二石以下ヲ限リ前項ノ免許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル場合ニ於テ燒酎ノ製造ハ一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニハ毎酒造年度左ノ酒稅ヲ課ス

濁酒　六圓
藥酒　二十圓
燒酎　十圓

前條第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニハ前項藥酒ノ例ニ依リ酒稅ヲ課ス

第二十五條　前條ノ酒稅ノ納期ハ十月一日ヨリ同三十一日限トス但シ納期後免許ヲ與ヘタルトキハ直ニ酒稅ヲ徵收ス

第二十五條ノ二　文廟ノ祭祀用トシテ朝鮮酒ヲ製造セムトスル者ニハ自家用ノ爲朝鮮酒ヲ製造セムトスル者ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ニ規定スル者ニ對シテハ一酒造年度間ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ酒稅ヲ課セス

第二十六條　酒類製造者ハ造石數査定前ニ於テ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、酒類製造用外ニ消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ朝鮮酒ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第二十七條　酒類製造者又ハ酒類販賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒類ノ製造出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ但シ第二十三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　稅務官吏ハ酒類製造者若ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、酒母、醪其ノ他ノ醱酵液、酒粕、滓及酒類ノ製造出入ニ關スル帳簿、書類竝酒類ノ製造若ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　稅務官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒類製造者又ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類又ハ酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ノ見本ヲ徵スルコトヲ得

第三十條　酒類製造者ニ非サル者酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造セムトスルトキハ製造場一箇所毎ニ免許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ製造シタル酒母醪ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、飮料トシテ消費シ又ハ稅務官吏ノ承認ヲ得スシテ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第五條第二項第三項、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ麴又ハ麯子ノ請賣ヲ爲ス者ニ之ヲ準用ス

第三十一條　免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テ其ノ酒類ノ容器ハ製造ノ用ニ供セサルモノト雖製造者ニ屬スルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

前項ノ酒類ニ付テハ直ニ酒稅ヲ徵收ス

第三十二條　酒類製造者詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキハ其ノ酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス

酒類引取人前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ罰前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ逋脫シタル酒稅ハ直ニ之ヲ徵收ス

第三十三條　第十三條ノ二又ハ第十四條但書ノ規定ニ違反シテ酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ヲ他人ニ讓渡シ又ハ酒類製造用外ニ消費シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條　第十五條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ酒稅ハ直ニ之ヲ徵收ス

第三十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ第十七條ニ規定スル金額ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ハ交付金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ交付ヲ受ケタル金額ハ之ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ國稅徵收令ヲ準用ス

第三十六條　第三十二條、第三十四條及前條ニ規定スル罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

第三十七條　第二十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因テ稅金ヲ完納スルコト能ハサルニ至リタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第二十三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者其ノ製造シタル酒類、酒母又ハ醪ヲ讓渡シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條　第二十三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者製造石數ノ制限ヲ超過シ酒類ヲ製造シタルトキハ超過石數ニ對シ第三條第一項ノ割合ニ依リ酒稅ヲ課シ其ノ酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ酒稅ハ直ニ之ヲ徵收ス

第四十條　第二十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條　免許ヲ受ケスシテ酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テ其ノ酒母、醪、麴又ハ麯子ノ容器ハ製造ノ用ニ供セサルモノト雖製造者ニ屬スルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

前項ノ酒母醪ハ朝鮮酒ノ酒母醪ニ在リテハ朝鮮酒タル濁酒、其ノ他ノ酒母醪ニ在リテハ朝鮮酒ニ非サル濁酒ト看做シ直ニ酒稅ヲ徵收ス

第四十二條　第三十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ酒母又ハ醪ヲ處分シタルトキハ前條第二項ノ規定ニ準シ酒稅ヲ徵收ス

第四十三條　酒類製造者、酒類販賣者、第三十條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者又ハ麴若ハ麯子ノ請賣ヲ爲ス者第二十七條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ隱匿シタルトキ又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十四條　稅務官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十五條　酒類製造者又ハ第三十條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ期間內製成其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ヲ適用ス

第四十六條　酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ニ對シテハ酒稅完納前ニ在リテハ本令ヲ適用ス

前項ノ規定ハ酒類製造者ノ相續人酒類製造營業ヲ承繼セサル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　大正元年制令第四號第二條ノ規定ハ第三十條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者、酒類販賣者及麴又ハ麯子ノ請賣ヲ爲ス者ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十八條　本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條　本令施行ノ際現ニ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ酒類製造者ニシテ自家用ノ爲朝鮮酒ヲ製造セムトスルモノ本令施行ノ日ヨリ一月內ニ製造酒ノ種別石數ヲ定メ申告ヲ爲シタルトキハ第二十三條ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

第五十條　前條第一項ノ酒類製造者ニシテ本令施行ノ日ヨリ二月內ニ第五條第二項ノ規定ニ依リ免許ノ取消ヲ求メタルモノニ付テハ第七條第二項ノ規定ヲ適用セス

前條第一項ノ酒類製造者ニシテ清酒又ハ朝鮮酒ニ非サル濁酒ヲ製造スルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ三酒造年度間第七條第二項ノ規定ヲ適用セス

第五十一條　本令施行ノ際酒類製造營業者又ハ酒類販賣者カ所有又ハ所持スル酒類ニ付テハ其ノ石數ヲ査定シ第三條第一項ノ割合ニ依リ酒類製造營業者又ハ酒類販賣者ニ酒稅ヲ課ス

前項ノ酒稅ハ大正五年十一月三十日迄ニ之

ヲ納付スヘシ但シ酒稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ三月內酒稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ擔保物ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十二條ノ規定ハ第二項ノ擔保物ヲ提供シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　前條第一項ノ酒類製造營業者又ハ酒類販賣者詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキハ其ノ酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

第五十三條　本令施行ノ際酒類製造者ニ非スシテ現ニ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二月間仍從前ノ例ニ依リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

附　則（昭和二年制令第九號）

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者タル者ニ限リ第六條及第十九條ノ改正規定ニ拘ラス昭和五年八月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ル

●酒稅令施行規則

（大正五年八月二十二日朝鮮總督府令第六十八號）
（改正　大正五年第七三號、八年第三四號、九年第一三一號、一〇年第二號、一一年第七一號、一二年第四五號、一五年第八四號、昭和二年第二七號、四年第一〇號）

酒稅令施行規則左ノ通定ム

酒稅令施行規則

第一條　清酒又ハ釀造酒タル果實酒ニ其ノ容量百分ノ一以內ノ蒸餾酒ヲ混和シタルモノハ之ヲ釀造酒ト看做ス

第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場ノ位置、製造スヘキ酒類ノ種別、造石數及製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ヲ記載シタル免許申請書ヲ製造場所在地ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ酒類ノ製造ヲ免許セス

一　府郡島廳所在ノ府面又ハ朝鮮總督ノ指定シタル市街地以外ノ場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

二　酒稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者又ハ府尹郡守島司ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認メタル者カ免許ヲ申請シタルトキ

前項第一號ニ該當スル場合ト雖府尹郡守島司ニ於テ製造上又ハ監督上特別ノ便宜アリト認メタルトキハ酒類ノ製造ヲ免許スルコトヲ得

第四條　酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第五條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ土地建物ノ詳細ナル圖面竝酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ府尹郡守島司ニ提出スヘシ但シ酒類ノ種別變更ノ場合ニ於テ製造場又ハ容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第六條　酒類製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ府尹郡守島司ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ

檢定ヲ受ケタル後ニ非サレハ酒類製造者ハ容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　酒類製造者ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ酒類ノ種別毎ニ見込造石數、製造期間、製造方法、仕込數ヲ記載シ酒造年度開始前ニ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

酒類製造者一酒造年度ヲ通シ製造ヲ休止セムトスルトキハ毎酒造年度開始前ニ其ノ事由ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

前三項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮酒ニ非サル酒類ノ製造方法ヲ變更スル場合ニ在リテハ承認ヲ受ケ其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ都度申告スヘシ

第八條　酒類製造者其ノ住所、氏名若ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第九條　酒類製造營業者ノ相續人ハ戶籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ相續ノ屆出ヲ爲シタル日ヨリ三十日內ニ府尹郡守島司ニ申告シ其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

前項ノ申告書ニハ相續開始ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人カ營業ヲ承繼セムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第一項ノ申告アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ營業ヲ承繼シタルモノト看做ス

第十條　酒類製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ但シ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　酒類製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第十二條　酒稅令第七條第二項ノ證明ハ酒造年度終了後三十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　朝鮮酒製造者ハ府尹郡守島司ノ指定シタル期限ニ酒類ノ造石數及燒酎ニ在リテハ含有純酒精容量ヲ申告スヘシ

朝鮮酒ノ造石數ハ酒類製造者ノ申告及證憑物件ニ依リ之ヲ査定ス

第十四條　犯則其ノ他ノ事由ニ因リ製成ノトキ酒類ノ造石數ヲ實調シ難キ場合ニ於テハ證憑物件ニ依リ之ヲ査定ス

第十五條　酒稅令第十一條第一項但書ノ規定ニ依リ滓引減量又ハ貯藏減量トシテ控除スルハ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七、燒酎及高粱酒ハ査定石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル酒類ニ付テハ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス

第十六條　酒類製造者清酒ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量及時期ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

清酒ノ粕漉ヲ爲シタルトキハ其ノ原清酒ノ石數ヲ證明スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ付造石數ヲ査定スヘシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ酒類製造者ハ直ニ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

一　酒稅令第十條ニ規定シタル原料用酒類ヲ他人ニ讓渡シ又ハ酒類製造用外ニ消費シタルトキ

二　酒母醪其ノ他ノ醱酵液又ハ酒稅令第十條ニ規定シタル原料用酒類ヲ公賣セラルトキ

三　酒母醪其ノ他ノ醱酵液又ハ酒稅令第十條ニ規定シタル原料用酒類[illegible]失其ノ他[illegible]

四　製造[illegible]

第十七條ノ二　酒稅令第十三條ノ二ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケムトスルトキハ酒類製造者ハ其ノ事由ヲ具シ府尹郡守島司ニ申請スヘシ

前項ノ申請者ニシテ酒稅令第十四條但書ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ其ノ旨附記スヘシ

第十八條　酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ラムトスルトキハ稅關長（[illegible]所長ヲ含ム以下同シ）ニ申告スヘシ

第十九條　日本銀行ノ代理店若ハ國庫金ヲ取扱フ遞信官署ノ所在地外又ハ日本銀行ノ代理店若ハ遞信官署ノ取扱時間外ニ於テハ稅務官吏[illegible]納稅告知[illegible]シムルコトヲ得

第二十條　酒稅令第[illegible]ニ依リ[illegible]稅ヲ徵[illegible]

第二十一條　[illegible]稅關長[illegible]爲ス者[illegible]提供ス[illegible]

第二十二條　酒稅令第十五條第一項但書ノ規定シタル擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限

ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税關長ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ税關長ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第二十三條　削除

第二十四條　酒類引取人ハ擔保物ノ變更ヲ税關長ニ申請スルコトヲ得

第二十五條　酒税令第十六條ノ規定ニ依リ酒税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ申請書ヲ府尹郡守島司又ハ税關長ニ提出スヘシ

第二十六條　府尹郡守島司ノ承認ヲ受ケ毎回一石以上ノ酒精ヲ左ニ揭クル物品ノ製造ニ使用シタルトキハ酒税ヲ免除シ又ハ酒税ニ相當スル金額ヲ交付ス

一　ハイドロ亞硫酸曹達鹽類（ハイドロサルファイト）
二　エチレン及其ノハロゲン誘導體
三　タンニン酸
四　苛性加里
五　エーテル
六　醋酸エーテル
七　脂肪酸エーテル
八　樟腦
九　クロロフォルム
十　ヨードフォルム
十一　アセチールサリチール酸（アスピリン）
十二　サリチール酸フェニール（ザロール）
十三　フェナセチン
十四　モノフェニール尿素
十五　硫酸キニーネ
十六　鹽酸キニーネ
十七　エチール炭酸キニーネ（オイヒニン）
十八　炭酸グアヤコール（ヅオタール）
十九　硫酸アトロピン
二十　ブローム樟腦
二十一　抱水クロラール
二十二　ヘキサメチレンテトラアミン（ウロトロピン）
二十三　プロテイン銀（プロタルゴール）
二十四　サルヴァルサン類
二十五　ヴイタミン類
二十六　ヂアスターセ類
二十七　ヂギタリス製劑
二十八　クロールエチール
二十九　ブロームエチール
三十　ヨードエチール
三十一　エチール硫酸鹽類
三十二　クロール炭酸エチール
三十三　ベンチヂン
三十四　トリヂン
三十五　エチールアニリン
三十六　パラフェニレンダイアミン（パラミン）
三十七　サルファーブリユー
三十八　カーバゾールヴァツトブリユー（ヒドロンブリユー）
三十九　アリザリンブリユー
四十　アンスラセン
四十一　ブロームインヂゴ
四十二　テトラメチールヂアミノベンゾフェノン（ミヒラー氏ケトン）
四十三　ローダミン
四十四　アシッドヴァイオレット
四十五　龍腦
四十六　シトロネロール
四十七　セラニオール
四十八　外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液
四十九　外國ニ輸出スル煙草香料
五十　食酢
五十一　ヴァニシュ（尼斯）
五十二　コロヂオン（瓦斯マントル、寫眞材料、寫眞製版若ハ塗革ノ製造又ハ塗料ニ供スルモノニ限ル）
五十三　セリユロイド
五十四　石鹼
五十五　ヂフェニールヂエチール尿素（セントラリット）
五十六　燃料用變性酒精
五十七　礦油
五十八　外國ニ輸出スル擬眞珠

第二十六條ノ二　府尹郡守島司ノ承認ヲ受ケ毎回一石以上ノ酒類ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルトキハ酒税ヲ免除シ又ハ酒税ニ相當スル金額ヲ交付ス

前項ニ於テ酒類ト稱スルハ酒税令第三條第二項ニ規定スル純酒精ノ容量ガ原容量百分中四十五ヲ超ユル蒸餾酒又ハ純酒精ノ容量ガ原容量百分中三十ヲ超ユル再製酒ニ限ル

第二十七條　第二十六條ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ使用スヘキ酒精ヲ製造場外ニ搬出前又ハ保税地域ヨリ引取前其ノ酒精ノ所在、數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ記載シタル申請書ヲ提出シ工業用酒精使用承認書ノ交付ヲ受クヘシ

税務官吏前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、使用ノ方法、製品、殘渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ、酒精ノ變性ヲ命シ其ノ他監督上必要ト認メタル處分ヲ爲ス場合ニ於テ檢査又ハ處分ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキハ府尹郡守島司ハ承認ヲ取消スコトヲ得酒精ヲ申請書ニ記載シタル場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認メタルトキ亦同シ

第二十八條　第二十六條ノ承認ヲ受ケタル酒精ヲ工業用ニ使用シタル場合ニ於テ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精容量ニ付府尹郡守島司ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第二十八條ノ二　第二十六條ノ二ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ供給スヘキ酒類ヲ製造場外ニ搬出前又ハ保税地域ヨリ引取前酒類ノ所在、種別、含有純酒精容量、數量、供給ノ目的、場所、日時及官廳名ヲ記載シタル申請書ヲ提出シ政府工業用酒類供給承認書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十九條　工業用ニ使用シタル酒精ニ付酒税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ申請書ニ工業用酒精使用承認書及其ノ使用ノ事實ヲ證スヘキ税務官吏ノ書面ヲ添附シ保税地域ヨリ引取リタルモノニ在リテハ税關長ニ、其ノ他ノモノニ在リテハ製造場所在地ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ提出スヘシ

外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液、煙草香料又ハ擬眞珠ノ製造ノ用ニ供シタル酒精ニ付酒税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

第三十條　工業用ニ使用シタル酒精ニ付酒税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ納税濟證明書、工業用酒精使用承認書及其ノ使用ノ事實ヲ證スヘキ税務官吏ノ書面ヲ添附シ府尹郡守島司ニ提出スヘシ

前條第二項ノ規定ハ同項ニ揭クル物品製造ノ用ニ供シタル酒精ニ付酒税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス

第三十條ノ二　政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル酒類ニ付酒税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ申請書ニ政府工業用酒類供給承認書及政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ保税地域ヨリ引取リタルモノニ在リテハ税關長ニ、其ノ他ノモノニ在リテハ製造場所在地ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第三十條ノ三　政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル酒類ニ付酒税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ納税濟證明書、政府工業用酒類供給承認書及政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第三十一條　朝鮮内ニ於テ製造シタル酒類ヲ府尹郡守島司ノ承認ヲ受ケ朝鮮外ニ輸移出シ又ハ保税地域ニ在ル輸入酒類ヲ税關長ノ承認ヲ受ケ朝鮮外ニ移出シタルトキハ酒税ヲ免除シ又ハ酒税ニ相當スル金額ヲ交付ス

前項ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ酒類ヲ製造場外ニ搬出前又ハ保税地域ヨリ引取前酒類ノ所在、種別、數量、輸移出地及輸移出先ヲ記載シタル申請書ヲ府尹郡守島司又ハ税關長ニ提出シ輸移出承認書ノ交付ヲ受クヘシ

第三十二條　輸移出シタル酒類ニ付酒税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ府尹郡守島司又ハ税關長ニ提出スヘシ

一　輸移出承認書
二　輸移出免狀
三　輸出先ニ於ケル税關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

第三十三條　輸移出シタル酒類ニ付酒税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ前條ノ書類及納税濟證明書ヲ添付シ輸移出地ノ税關長ニ提出スヘシ

第三十四條　酒精ヲ工業用ニ使用シ、酒類ヲ政府ノ火藥製造用若ハ煙草醱酵用ニ供給シ又ハ酒類ヲ輸移出シタル後一年内ニ第二十九條、第三十條、第三十條ノ二、第三十條ノ三、第三十二條又ハ前條ノ申請ヲ爲ササルトキハ酒税ノ免除又ハ酒税ニ相當スル金額ノ交付ヲ爲サス

第三十五條　工業用ニ使用スル酒精、政府ノ火藥製造用若ハ煙草醱酵用ニ供給スル酒類又ハ輸移出スル酒類ニ付納税濟證明書ノ交付ヲ請ハムトスル者ハ申請書ヲ府尹郡守島司又ハ税關長ニ提出スヘシ

第三十六條　酒類製造者ハ酒類製造著手前酒税令第十八條ニ規定シタル擔保物ヲ提供スヘシ但シ同條第一項但書ノ規定ニ依リ造石數查定ノ都度擔保物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ府尹郡守島司ニ申請スヘシ

第三十七條　酒類製造者擔保物ヲ提供シタル後見込造石數ヲ十石以上增加シタルトキハ酒税令第十八條第一項ノ割合ニ依リ之ニ相當スル擔保物ヲ增補スヘシ

酒類製造者擔保物ヲ提供シタル後見込造石數ヲ十石以上減少シタルトキハ前項ノ割合ニ依リ擔保物ノ減少ヲ申請スルコトヲ得

第三十八條　酒税令第十八條ニ規定シタル擔保物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢
二　國債
三　土地
四　火災保險ニ附シタル建物

第三十九條　擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外府尹、郡守、島司ノ定ムル所ニ依ル

擔保物ノ價格減少シタルトキ又ハ擔保物ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ府尹、郡守、島司ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ府尹、郡守、島司ハ直ニ酒税ヲ徵收スヘシ

第二十二條第二項第三項及第二十四條ノ規定ハ前條ノ擔保物ニ之ヲ準用ス

第四十條　擔保物トシテ土地建物ヲ提供スル者アルトキハ府尹郡守島司ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第四十一條　酒類製造者カ酒税令第十八條第一項ノ擔保物ヲ提供セサルトキハ税務官吏ハ製造酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ税務官吏ハ酒類ニ封印ヲ施スヘシ

第四十二條　削除

第四十三條　納税保證人ハ府尹郡守島司ニ於テ納税保證ニ堪ユル資力アリト認メタル者ニ限ル

府尹郡守島司ハ納税保證人ノ資力納税保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四十四條　税務官吏ハ納税保證トシテ保存スル酒類ニ封印ヲ施スコトヲ得

府尹郡守島司ハ納税保證トシテ保存スル酒類納税保證ニ適セサルニ至リタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四十五條　酒類製造者ハ納税保證人又ハ納税ノ保證トシテ保存スル酒類ノ變更ヲ府尹郡守島司ニ申請スルコトヲ得

第四十六條　酒類製造者酒税ヲ納付セサルトキハ納税保證人ニ通知シ其ノ酒税ヲ納付セシムヘシ

納税保證人酒税ヲ完納セサルトキハ酒類製造者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍酒税ニ不足アルトキハ納税保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第四十七條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造スヘキ酒類ノ種別及居所、氏名ヲ記載シタル免許申請書ヲ府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第四十八條　自家用酒ノ製造ハ一人一箇所ニ限リ之ヲ免許ス

自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ト同居スル者ニ對シテハ自家用酒ノ製造ヲ免許セス

自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者カ他ノ自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ト同居スルニ至リタルトキハ其ノ免許ヲ取消ス

第四十九條　酒類販賣、宿屋、料理屋、飲食店、貸座敷營業者及之ト同居スル者ニ對シテハ其ノ營業ノ場所ニ於テ自家用酒ノ製造ヲ免許セス

自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者カ酒類販賣者、宿屋、料理店、飲食店、貸座敷營業者ト爲リ又ハ此等ノ營業者ト同居スルニ至リタルトキハ其ノ免許ヲ取消ス

第五十條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ居宅構内ニ限リ酒類ヲ製造スルコトヲ得

第五十一條　自家用酒ノ製造ヲ免許シタルトキハ府尹郡守島司ハ第一號樣式ノ免許證ヲ交付スヘシ

自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者免許證ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ府尹郡守島司ニ免許證ノ再交付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第五十二條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造スヘキ酒類ノ種別ヲ變更セムトスルトキ[illegible]免許申請[illegible]

前項ノ免[illegible]

第五十三條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ製造スヘキ酒類ノ種別ノ變更ハ同一酒造年度内ニ於テ之ヲ許可セス

第五十四條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ居[illegible]ノ書換ヲ[illegible]ノ府郡島[illegible]郡守島司[illegible]

第五十五條　第五十一條第二項又ハ前條ノ規定ニ依ル[illegible]トキハ手數料トシテ一枚ニ付十錢ヲ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第五十六條　自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ免[illegible]證ヲ返納[illegible]

自家用酒[illegible]ルトキハ[illegible]ヘシ

第五十六條ノ二　文廟ノ祭祀用トシテ朝鮮酒ヲ製造[illegible]

第五十七條　[illegible]於テ酒[illegible]用外ニ[illegible]ヲ得但シ[illegible]ヲ受ク[illegible]在ラス

第五十八條　酒類製造者ハ酒母醪其ノ他ノ醗酵液ニ付製造方法ノ異ナルモノ毎ニ記號ヲ附シ且一仕込毎ニ番號ヲ附シテ之ヲ區分シ税務官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第五十九條　同一製造場ニ於テ二種以上ノ酒類ヲ製造スル者ニ對シ監督上必要アリト認メタルトキハ府尹郡守島司ハ製造、藏置ニ供スル場所ヲ酒類ノ種別毎ニ特定シ承認ヲ受ケシムルコトヲ得

第六十條　稅務官吏カ監督ノ必要上事項ヲ指定シテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六十一條　酒類製造者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日、原料トシテ他ヨリ引取リタル酒類又ハ酒母醪其ノ他ノ醱酵液ノ種別又ハ種類、數量、引取ノ日及引取先
二　一仕込毎ニ仕込ノ方法及日
三　酒類ノ種別、製成ノ日及其ノ數量
四　他ニ引渡シタル酒類又ハ酒母醪其ノ他ノ醱酵液ノ種別又ハ種類、數量、價格、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ引渡先ノ記載ヲ要セス

第六十二條　第三條第一項第一號、第五條、第六條、第十七條及第五十八條ノ規定ハ朝鮮酒製造者ニ之ヲ適用セス

第六十三條　第四條、第七條、第八條、第十條、第十三條及第六十一條ノ規定ハ自家用酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ適用セス

第六十四條　酒類ヲ販賣セムトスル者ハ營業所ノ位置及住所、氏名若ハ名稱ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

前項ノ申告事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ販賣ヲ廢止シタルトキハ之ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第六十五條　酒類販賣者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　引取リタル酒類ノ種別、數量、價格、引取ノ日及引取先
二　販賣シタル酒類ノ種別、數量、價格、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ賣渡先ノ記載ヲ要セス

第六十六條　酒類製造營業者及酒類販賣者ハ店頭其ノ他見易キ場所ニ第二號樣式ノ標札ヲ揭クヘシ

第六十七條　酒精ヲ工業用ニ使用シ酒稅ノ免除又ハ酒稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　酒精ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及引取先
二　使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及日時
三　製品ノ種類、數量及製造ノ日
四　作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量
五　發流アルトキハ其ノ種類、數量及處理ノ顚末

第六十八條　政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル酒類ニ付酒稅ノ免除又ハ酒稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ酒類ノ種別、含有純酒精容量、數量、供給ノ日竝他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及引取先ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第六十九條　第二條乃至第十一條、第十七條、第五十八條、第六十條、第六十一條、第六十六條、第七十一條、第七十三條及第七十四條ノ規定ハ酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴ヲ製造スル者ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ二　第二條、第三條第一項第二號、第四條、第五條、第七條乃至第十一條、第六十條、第六十一條、第六十六條、第七十一條、第七十三條及第七十四條ノ規定ハ酒類製造者ニ非スシテ販賣ノ爲麯子ヲ製造スル者ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ三　第六十四條乃至第六十六條、第七十三條及第七十四條ノ規定ハ麴又ハ麯子ヲ請賣セムトスル者ニ之ヲ準用ス

第七十條　稅務官吏ハ酒類製造者、酒類販賣者、第二十六條ニ規定シタル工業用ニ酒精ヲ使用スル者又ハ酒類製造者ニ非スシテ酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造スル者又ハ麴若ハ麯子ヲ請賣スル者ノ營業ニ關シ知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第七十一條　酒類製造者許可ヲ受ケスシテ製造場ヲ移轉シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條　第四十一條第一項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シ又ハ第五十七條但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受クヘキ場合ニ之ヲ受ケスシテ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ搬出シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　本令ニ規定シタル申告ヲ怠リ又ハ不實ノ申告ヲ爲シタル者
二　第五條第一項、第六條第二項、第五十四條又ハ第五十八條ノ規定ニ違反シタル者
三　第七條第四項ノ承認ヲ受ケサリシ者若ハ第五十九條、第六十條ニ依リ承認ヲ受クヘキ場合ニ之ヲ受ケサリシ者又ハ事實ヲ詐リテ承認ヲ受ケタル者
四　第六十七條又ハ第六十八條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ隱匿シ又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタル者

第七十四條　第五十一條第二項、第五十六條又ハ第六十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第七十五條　本令ハ酒稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條　酒稅令第四十九條第一項ノ酒類製造者ハ自家用ノ爲朝鮮酒ヲ製造スル者ヲ除クノ外本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ第五條第一項ノ圖面、目錄ヲ提出シ及第七條第一項ノ申告ヲ爲スヘシ

第七十七條　酒稅令第四十九條第一項ノ酒類製造者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第六條第二項ヲ適用セス

第七十八條　酒稅令第四十九條第二項ノ自家用酒製造者カ從前ノ規定ニ依リ受有スル鑑札ハ第五十一條第一項ノ規定ニ依リ交付シタル免許證ト看做ス

前項ノ鑑札ハ酒稅令第四十九條第二項ノ申告ヲ爲ストキ之ヲ府尹郡守島司ニ提出シ居所及製造石數ノ區別ノ記入ヲ受クヘシ

第七十九條　本令施行ノ際現ニ酒類ヲ販賣スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ第六十四條第一項ニ規定シタル事項ヲ申告スヘシ

第八十條　酒類製造營業者又ハ酒類販賣者ハ本令施行ノ際所有又ハ所持スル酒類ニ付其ノ種別、石數、所在及酒類販賣者ニ在リテハ營業所ノ位置ヲ大正五年九月十日迄ニ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲シタル酒類販賣者ハ前條ノ申告ヲ要セス

第八十一條　酒稅令第五十一條第二項但書ノ規定ニ依リ酒稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ府尹郡守島司ニ申請シ擔保物提供書ヲ提出スヘシ

酒稅令第五十一條第二項但書ニ規定スル擔保物ノ種類ハ第三十八條ニ揭クルモノ及酒類トス

第二十二條第二項第三項、第二十三條、第二十四條、第四十條、第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ擔保物ニ之ヲ準用ス

擔保物トシテ提供シタル酒類ハ納稅義務者ニ於テ之ヲ保存スヘシ

酒稅令第二十一條ノ規定ハ前項ノ酒類ニ之ヲ準用ス

第八十二條　前條第五項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條ノ申告ヲ怠リ又ハ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第一號樣式

免許第何號

自家用酒製造免許證

一製造者ノ居所氏名　何府（郡島）何町（何面何洞（里））何番地

何　某

二製造スヘキ酒類ノ種別　濁酒（何）

右免許ス

大正何年何月何日

何府（郡島）　印

備考　厚紙縱六寸橫四寸トス

第二號樣式

免許第何號

○酒類（酒母）（醪）（麴）（麯子）製造業

何　某

○酒類販賣業（麴又ハ麯子請賣業）

何　某

備考　木製又ハ金屬製ニシテ縱一尺五寸以上橫五寸以上トス

●酒稅、砂糖消費稅ノ徵收ニ關スル件

（大正八年四月二十八日制令第十一號）
改正　大正一二年第七號

酒稅、煙草消費稅等ノ徵收ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條　酒稅令又ハ砂糖消費稅令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第二條　關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ酒稅令又ハ砂糖消費稅令ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條　酒稅令又ハ砂糖消費稅令ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ關稅若ハ移入稅ノ納付義務者、運送申告者又ハ郵便物ノ名宛人ヨリ酒稅又ハ砂糖消費稅ヲ徵收ス
一　酒類、砂糖、糖蜜若ハ糖水ニ付關稅ヲ徵收シ又ハ酒類ニ付移入稅ヲ徵收スルトキ
二　大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域間ニ運送ノ免許ヲ受ケタル砂糖、糖蜜又ハ糖水相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セサルトキ但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
三　郵便ニ依リ移入スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ名宛人ニ交付スルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正八年制令第十一號施行ニ關スル件

（大正八年四月二十八日朝鮮總督府令第七十六號）
改正　大正一〇年第一五號、一二年第四九號

大正八年制令第十一號施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　關稅法又ハ大正十二年制令第六號ニ依リ酒類、砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ運送セムトスルトキハ酒類、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種別及數量ヲ記載シタル書面ヲ稅關長（稅關支署長及稅關出張所長ヲ含ム以下同シ）ニ提出スヘシ但シ關稅法又ハ大正九年制令第十九號ニ依リ提出スヘキ運送申告書ニ依リ明瞭ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　大正八年制令第十一號第二條ニ依リ提供スヘキ擔保ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關長ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關長ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條　削除

第四條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保タル國債ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第五條　大正八年制令十一號第三條ニ依リ徵收スル稅金ハ稅關長之ヲ徵收ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル酒類ノ酒稅及砂糖消費稅等ニ關スル件

（大正八年四月二十八日朝鮮總督府令第七〇號）
改正　大正一〇年第一五號

郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル酒類、酒類及製造煙草ノ消費稅ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　郵便ニ依リ輸入又ハ移入スル酒類、砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ稅關ハ其ノ酒稅額又ハ消費稅額ヲ郵便局ニ通知スヘシ

第二條　削除

第三條　削除

第四條　第一條ニ依リ酒稅額又ハ消費稅額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便局ハ郵便物交付前ニ之ヲ受取人ニ通知スヘシ

第五條　前條ノ通知ヲ受ケタル者其ノ郵便物ヲ受取ラムトスルトキハ通知セラレタル稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼附シテ郵便局ニ提出スヘシ

第六條　受取人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ不能配達ノモノトシテ取扱ヒ郵便局ハ之ヲ稅關ニ通知スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第百五號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣酒精令

（大正十一年五月十二日律令第四號）
改正　大正一二年第四號、一五年第一號、昭和四年第一號

臺灣酒精令大正十年法律第三號第二條及第三條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條　本令ニ於テ酒精ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料ニシテ酒精分九十度以上ノモノヲ謂フ

第二條　酒精製造者ニハ酒精一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ造石數ニ應シ酒精稅ヲ課ス

第三條　本令ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量ヲ謂フ

第四條　酒精ヲ製造セムトスル者ハ製造場一

塲所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

酒精製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條　酒精ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ內地、朝鮮、樺太若ハ南洋群島ヨリ移入スルコトヲ得ス

第六條　酒精稅ハ每月中ノ查定石數ニ依リ其ノ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ

第七條　酒精ノ造石數ハ製成ノトキ實測シテ之ヲ查定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ證憑物件ニ就キ造石數ヲ查定ス

第八條　查定ヲ受ケタル酒精ヲ政府ノ承認ヲ得テ酒精製造ノ原料ニ供シタル場合ニ於テ其ノ製成シタル酒精ニ課スヘキ酒精稅額ハ原料酒精ニ對スル酒精稅額ニ超過スル金額ニ相當スル金額トス

第九條　酒精稅ハ六月以內ノ期間ヲ定メテ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

酒精稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ酒精稅額ニ相當スル擔保ヲ政府ニ提供スヘシ但シ外國ニ輸出スル酒精ニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

擔保ヲ提供シテ酒精稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十條　酒精ハ其ノ造石數查定前ニ於テ之ヲ讓渡シ、消費シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十一條　酒精製造者ハ左ニ揭クル場合ヲ除クノ外其ノ製造ニ係ル酒精ヲ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

一　政府ニ讓渡ストキ
二　外國ニ輸出スル爲讓渡ストキ
三　內地、朝鮮、樺太又ハ南洋群島ニ移出スル爲讓渡ストキ
四　臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ酒精製造場內ニ於テ燃料用變性酒精ヲ製造スルトキ

第十二條　酒精製造者本令、臺灣酒類專賣令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條　災害其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ製造場內ノ酒精ヲ廢棄シ又ハ亡失シタル場合ニ於テハ納稅義務者ハ其ノ事實ヲ證明シ其ノ酒精ニ付酒精稅ノ免除又ハ酒精稅ニ相當スル金額ノ下戾ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

內地ニ移出スル酒精ニシテ船積後陸揚前ニ於テ海難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ廢棄シ又ハ亡失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ納稅未濟ノ酒精ニ在リテハ納稅義務者ニ於テ其ノ酒精稅ノ免除ヲ、納稅濟ノ酒精ニ在リテハ移出者ニ於テ其ノ酒精稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第十四條　酒精稅納付未濟ノ酒精ヲ政府ニ讓渡シタルトキ、內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ニ依リ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキ、外國ニ輸出シタルトキ、朝鮮ニ移出シタルトキ又ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ燃料用變性酒精ヲ製造シタルトキハ納稅義務者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ酒精稅ノ免除ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

酒精稅納付濟ノ酒精ヲ政府ニ讓渡シタル者、內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ニ依リ工業用ニ使用シ若ハ供給シタル者、外國ニ輸出シタル者、朝鮮ニ移出シタル者又ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ燃料用變性酒精ヲ製造シタル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ酒精稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二　第十三條第二項及前條ノ請求ハ酒精ノ廢棄、亡失、讓渡、使用、供給、輸出、移出又ハ燃料用變性酒精製造後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　左ニ揭クル場合ニ於テハ酒精稅ハ第六條ニ規定スル納期ニ拘ラス之ヲ卽納セシム

一　酒精製造ノ免許ヲ取消シタルトキ
二　免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタルトキ
三　酒精稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキ

第十六條　政府ハ臺灣ニ於テ消費スル酒精ノ專賣權ヲ有ス但シ第十一條第四號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　臺灣酒類專賣令第五條乃至第七條及第九條ノ規定ハ前條ノ酒精ニ付之ヲ準用ス

第十八條　政府ハ酒精製造者ノ製造ニ係ル酒精ヲ買收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ酒精製造者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ政府之ヲ決定ス

第十八條ノ二　收稅官吏ハ酒精ノ製造場、藏置場其ノ他必要ノ場所ニ立入リ酒精、原料品、器具機械、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒精ヲ檢查シ必要ト認ムルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ關係人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　私ニ酒精ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者
二　第五條ノ規定ニ違反シテ酒精ノ輸入若ハ移入ヲ爲シ又ハ輸入若ハ移入ノ準備ヲ爲シタル者

第二十條　酒精販賣者ニ非スシテ第十六條ノ酒精ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　酒精小賣人ニシテ政府ノ定メタル價格以外ノ價格ヲ以テ酒精ヲ販賣シタルモノ
二　酒精販賣者ニシテ政府ノ封緘ヲ施シタル酒精ノ容器ヲ變更シ、開披シ又ハ容器ニ附シタル證票其ノ他ノ表示ヲ破毀若ハ變更シタルモノ
三　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ於テ認ムル場合ヲ除クノ外政府ノ證票ヲ附セサル酒精ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者
四　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條　收稅官吏ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ規定アルモノハ刑法ニ依ル

第二十三條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ酒精ノ造石數ノ查定ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ石數ノ酒精稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十四條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ酒精稅ノ免除又ハ酒精稅ニ相當スル金額ノ下戾若ハ交付ヲ政府ニ請求シタル者ハ其ノ石數ノ酒精稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二十五條　第十九條ノ罪ヲ犯シタル者ノ所持又ハ所有スル酒精及製造用器具機械ハ之ヲ沒收ス其ノ旣ニ讓渡シ、消費シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

前項ノ價格ハ政府之ヲ決定ス

第二十六條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ第二十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　酒精ノ製造者、輸入者若ハ移入者又ハ第十六條ノ酒精ノ販賣者カ未成年者

又ハ禁治產者ナル場合ニ於テ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ處罰スヘキトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　酒精ノ製造者、輸入者若ハ移入者又ハ第十六條ノ酒精ノ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ酒精ノ製造者、輸入者若ハ移入者又ハ第十六條ノ酒精ノ販賣者ヲ處罰ス

第二十九條　明治三十三年法律第五十二號及間接國稅犯則者處分法ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ犯罪事件ニシテ第十六條ノ酒精ニ關スルモノニ付之ヲ準用ス

第三十條　酒精製造ノ免許ヲ取消サレタル者及酒精製造者ノ相續人ニ對シテハ酒精稅完納前ニ在リテハ本令ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣酒造稅規則ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ酒精ヲ製造スル者ハ本令ニ依リ酒精製造ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

●臺灣酒精令施行規則

（大正十一年五月十二日　臺灣總督府令第百十五號）
改正　大正一四年第六九號　昭和四年第二八號

臺灣酒精令施行規則左ノ通相定ム

臺灣酒精令施行規則

第一條　酒精製造ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ臺灣總督府專賣局長（以下單ニ專賣局長ト稱ス）ニ提出スヘシ

一　製造場ノ位置
二　一年ノ製造能力
三　製造者ノ住所氏名又ハ名稱
四　事業計劃書
五　製造場ノ土地及建物ノ詳細ナル圖面（旣設建物ナキトキハ其ノ設計書）

第二條　酒精製造者前條第一號、第二號、第四號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

酒精製造者前條第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ專賣局長ニ申告スヘシ

第三條　左ニ揭クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　臺灣酒類專賣令又ハ臺灣酒精令ノ規定ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者
二　取締上不適當ト認ムル者

第四條　敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノハ之ヲ酒精ノ製造場ト看做ス

第五條　酒精製造者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ旨直ニ專賣局長ニ申告シ營業ヲ承繼スルコトヲ得但シ第三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受クルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ヲ除クノ外酒精製造ヲ承繼セムトスル者ハ製造者ト連署シタル免許承繼ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第六條　酒精製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第七條　酒精製造者ハ其ノ製造場每ニ製造用器具機械ノ目錄ヲ調製シ所轄稅務官署ニ提出シ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ檢定ヲ受ケタル器具機械ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ器具機械ヲ修理シ又ハ目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スヘシ

第八條　酒精製造者ハ每年二月中ニ其ノ年三月ヨリ翌年二月ニ至ル一年間ノ事業ニ關シ一仕込ノ製造方法、仕込數及製造見込數量ヲ記シ豫メ所轄稅務官署及專賣官署ニ申告スヘシ

前項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度之ヲ申告スヘシ但シ製造方法中醱酵作用補助ノ爲又ハ特別ノ事情ニ因リ臨機ノ處置ヲ爲サムトスルトキハ口頭ヲ以テ收稅官吏ニ之ヲ申告スルコトヲ得

第九條　臺灣酒精令第七條第一項ノ查定ハ原料一仕込又ハ一區分ノ製成ヲ了シタルトキ之ヲ行フ但シ收稅官吏ニ於テ數仕込ノ合併製成又ハ製成酒精ノ合併ヲ承認シタルトキハ其ノ合併製成又ハ製成酒精ノ合併ヲ了シタルトキ之ヲ行フ

第十條　臺灣酒精令第八條ノ規定ニ依リ酒精ヲ酒精製造用ニ供セムトスルトキハ其ノ製造方法、原料酒精ノ數量及製造ノ時期ヲ記シタル申告書ヲ所轄稅務官署ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

第十一條　臺灣酒精令第九條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シテ酒精稅ノ徵收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル擔保提供書ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　擔保スヘキ酒精稅額及造石數查定年月
二　擔保ノ種類、數量、價格及所在
三　徵收猶豫期間
四　擔保提供ノ原因
五　擔保提供者ノ住所氏名又ハ名稱

根擔保提供ノ場合ニ於テハ前項第一號中造石數查定年月ノ記載ヲ要セス

第十一條ノ二　臺灣酒精令第九條第二項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供セスシテ酒精稅ノ徵收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務官署ニ提出シテ承認ヲ受クヘシ

一　輸出スヘキ酒精ノ數量、酒精分及查定年月日
二　酒精稅額
三　徵收猶豫期間
四　酒精ノ所在

擔保ヲ提供セスシテ徵收ヲ猶豫セラレタル者其ノ徵收猶豫期間中ニ目的ヲ變更セムトスルトキハ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲シタル者其ノ酒精稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ擔保ヲ提供セスシテ猶豫ヲ爲シタル期間ヲ通シテ六月以內トス

第十二條　擔保ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　土地
二　火災保險ニ附シタル建物
三　金錢
四　國債
五　臺灣ニ於ケル工場財團

擔保ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ノ指定スル所ニ依ル

第十三條　擔保カ土地、建物又ハ工場財團ナルトキハ土地登記簿謄本、工場財團登記簿謄本其ノ他其ノ權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

擔保カ金錢又ハ國債ナルトキハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ但シ登錄國債ヲ擔保ニ提供セムトスルトキハ擔保ノ登錄ヲ爲シタル登錄濟通知書又ハ登錄簿ノ謄本ヲ提出スヘシ

第十四條　土地、建物又ハ工場財團ヲ擔保トシテ承認シタルトキハ稅務官署ハ抵當權設定登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

第十五條　知事又ハ廳長ニ於テ擔保滅失シ又ハ其ノ價格減少シタリト認ムルトキハ之ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ直ニ酒精稅ヲ徵收スヘシ

第十六條　擔保ノ公賣ニ關シテハ臺灣國稅徵收規則施行規則ノ規定ヲ準用ス

擔保公賣ノ結果擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第十七條　臺灣酒精令第十一條第四號ノ規定ニ依リ酒精製造場內ニ於テ燃料用變性酒精ヲ製造セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務官署ニ提出シテ承認ヲ受ケ收稅官吏及專賣官吏立會ノ上之ヲ製造スヘシ

一　製造ノ場所
二　使用スヘキ酒精ノ數量、酒精分及查定年月日
三　混和スヘキ物品ノ種類、數量
四　製品ノ容器、外裝ノ種類及其ノ記號
五　製造年月日

第十七條ノ二　收稅官吏及專賣官吏ハ燃料用

變性酒精ノ製造ニ關スル原料品、器具、機械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條ノ二　燃料用變性酒精ヲ製造スル者前條ノ承認ヲ受ケタル事項ニ依ラスシテ燃料用變性酒精ヲ製造シ又ハ前項ノ檢査若ハ處分ヲ拒ミタルトキハ承認ヲ取消スコトヲ得

第十七條ノ三　燃料用變性酒精ノ容器及外裝ニハ燃料用變性酒精タルコト及記號ヲ表記スヘシ

第十八條　酒精製造者、輸出者又ハ移出者酒精製造場以外ノ場所ニ酒精ヲ藏置セムトスルトキハ豫メ藏置場ヲ定メ所轄稅務官署ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條ノ二　酒精製造場又ハ藏置場ヨリ酒精ヲ搬出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務官署ニ提出シテ承認ヲ受クヘシ

一　酒精ノ所在及酒精製造者ノ住所氏名又ハ名稱
二　搬出ノ目的及搬出者ノ住所氏名又ハ名稱
三　酒精ノ數量、酒精分
四　容器ノ種類、箇數
五　査定年月日及臺灣酒精令第九條第二項但書ニ依ルモノハ其ノ旨

前項各號ノ外輸移出ノ爲ニスルモノニ付テハ輸移出年月日、輸移出港、輸移出先及仕向地竝積載船名ヲ、藏置ノ爲ニスルモノニ付テハ其ノ藏置場ヲ申請書ニ記載スヘシ

第十八條ノ三　燃料用變性酒精ヲ輸出又ハ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ燃料用變性酒精所在地ノ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　燃料用變性酒精ノ所在
二　數量及製造者ノ住所氏名又ハ名稱
三　容器、外裝ノ種類、箇數及表記事項
四　輸出又ハ移出港及輸出又ハ移出ノ日
五　輸出又ハ移出先（仕向地別）
六　輸出者又ハ移出者ノ住所氏名又ハ名稱

第十九條　臺灣酒精令第十三條第一項ノ規定ニ依リ酒精稅ノ免除又ハ下戾ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ申請書ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

臺灣酒精令第十三條第二項ノ規定ニ依リ酒精稅ノ免除又ハ酒精稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ海難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ廢棄シ又ハ亡失シタルコトヲ證スヘキ書類及酒精査定濟證（酒精査定濟證ナキトキハ其ノ事由ヲ申請書ニ記載ス）ヲ添附シ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

第二十條　臺灣酒精令第十四條ノ規定ニ依リ酒精稅ノ免除又ハ酒精稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ酒精査定濟證及讓渡、使用、供給、輸出、移出又ハ燃料用變性酒精製造ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添附シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

第二十一條　酒精査定濟證ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務官署ニ提出スヘシ

一　請求者及製造者ノ住所氏名又ハ名稱
二　酒精製造場ノ位置
三　第十八條ノ二第三號及第四號ノ事項竝査定年月日

第二十二條　酒精製造者ハ酒母又ハ醪ニ付一仕込毎ニ製造方法ノ記號、仕込順號、仕込及製成ノ日ヲ其ノ容器又ハ仕込ヲ分界スル箇所ニ標記スヘシ

第二十三條　酒精製造者ハ其ノ製造場內ニ藏置スル酒精ニ付左ノ事項ヲ標記スヘシ

一　査定未濟ノ酒精ニハ容器毎ニ仕込ノ記號、順號、製成ノ日時及臺灣酒精令第八條ノ規定ニ依リ製成シタル酒精ノ區分
二　査定濟ノ酒精ニハ藏置毎ニ酒精ノ數量及臺灣酒精令第八條ノ規定ニ依リ製成シタル酒精又ハ同第九條第二項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル酒精ノ區分

酒精製造場內ニ燃料用變性酒精ヲ藏置スルトキハ酒精ト區分シ且之ヲ標記スヘシ

藏置場內ニ於テハ臺灣酒精令第九條第二項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル酒精ト其ノ他ノ酒精トヲ區分シ且藏置毎ニ其ノ區分及數量ヲ標記スヘシ

第二十四條　酒精製造者ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　製造場ノ使用區劃ヲ爲シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ
二　檢定シタル器具機械ヲ製造場外ニ搬出セムトスルトキ
三　酒精ノ品質試驗ヲ爲ス爲査定未濟ノ酒精ヲ採取セムトスルトキ
四　數仕込ノ合併製成ヲ爲シ又ハ製成區分ノ異ナル酒精ヲ査定前合併セムトスルトキ

稅務官署長必要ト認ムルトキハ前項各號ノ外豫メ事項ヲ指定シテ承認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十四條ノ二　酒精製造者ハ酒母、醪又ハ糖蜜ニシテ腐敗、亡失其ノ他異狀アルコトヲ知リタルトキハ直ニ所轄稅務官署又ハ收稅官吏ニ申告スヘシ

第二十五條　臺灣酒精令第十六條ノ酒精ハ酒類販賣者ニ於テ之ヲ販賣スルモノトス

臺灣酒類專賣令施行規則第一條、第二條、第九條乃至第十六條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條乃至第二十八條ノ規定ハ前項ノ酒精ノ販賣及販賣者ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　酒精製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、價格、受入先及受入ノ日
二　使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日
三　酒精製造方法、一仕込毎ニ仕込ノ記號、仕込ノ日及製成ノ日時
四　酒精ノ受拂數量及受拂ノ日、他ニ引渡シタルモノニ在リテハ其ノ價格及引渡先

燃料用變性酒精製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　前項第一號及第二號ノ事項
二　燃料用變性酒精ノ製造方法及製造ノ日
三　燃料用變性酒精ノ受拂數量及受拂ノ日、他ニ引渡シタルモノニ在リテハ其ノ價格及引渡先

酒精ノ輸出者、移出者又ハ運送者ハ帳簿ヲ備ヘ酒精ノ受拂數量及受拂ノ日、他ニ引渡シタルモノニ在リテハ其ノ價格及引渡先ヲ記載スヘシ

前三項ノ帳簿ハ酒精ノ製造者、輸出者、移出者、運送者若ハ燃料用變性酒精製造者又ハ其ノ相續人ニ於テ記入ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十七條　酒精製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他ノ半製品現存スルトキハ專賣局長ハ酒精製造者ノ申請ニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ノ規定ヲ適用ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條第一項、第十八條及第十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者
二　酒精ノ製造又ハ受拂ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタル者

第二十九條　第七條第二項、第二十二條乃至第二十四條、第二十五條第二項及第二十六條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　酒精製造者、輸出者、移出者、運送者、燃料用變性酒精製造者帳簿ヲ備ヘス又ハ酒精、燃料用變性酒精ノ製造、受拂、運送ニ關シ帳簿ノ記載若ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リ又ハ第十七條ノ三ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　臺灣酒類專賣令施行規則第三十六條ノ規定ハ本令ニ依リ專賣官署ニ提出スヘキ書類ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件

（大正十一年六月一日勅令第三百五號）

朕臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏大臣副署）

臺灣酒精令第十四條ノ規定ニ依リ酒精ヲ工業用ニ使用シ又ハ供給シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第三百四十五號ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リ爲シタル證明書交付ノ申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●臺灣酒精令第十一條第四號ノ規定ニ依ル燃料用變性酒精ノ製造方法

（昭和四年四月一日臺灣總督府令第二十七號）

臺灣酒精令第十一條第四號ノ規定ニ依ル燃料用變性酒精ノ製造方法左ノ通相定ム

燃料用變性酒精ヲ製造セントスルトキハ酒精一石ニ付左記物品ヲ混和スヘシ

「ベンゾフアストスカーレット」4BS及「ローダミン」B（サフラニリン）ヲ等量ニ混和シタル著色料〇、二瓦以上

比重〇、八六六以下ノ石油（攝氏二百八十度以下ニ於テ石油原油ヨリ餾出シタルモノニシテ臺灣總督府中央研究所ノ檢査證票又ハ檢査證明書ヲ貼附又ハ添附シタルモノ）二瓩以上

「フオルマリン」（日本藥局方）三十瓦以上

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太酒造稅規則

（大正十年四月十三日樺太廳令第十九號）

改正　大正一〇年第三七號、一四年第一號

樺太酒造稅規則左ノ通定ム

樺太酒造稅規則

第一條　本令ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ左ノ事項ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

一　製造場ノ位置
二　製造スヘキ酒類ノ種別
三　住所、氏名又ハ名稱

前項ノ申告ニハ製造場ノ敷地及建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條　前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ但シ製造場ノ敷地又ハ建物ノ變更ニ付テハ其ノ詳細ナル圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　酒類製造業ヲ承繼シタル者ハ相續ニ因ル場合ヲ除クノ外五日以內ニ連署ヲ以テ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

相續ニ依リ酒類製造業ヲ承繼シタル者ハ相續開始ノ日ヨリ五日以內ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第五條　酒類製造者廢業シタルトキハ五日以內ニ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第六條　酒類製造者ハ事業著手前製造場一箇所毎ニ其ノ製造ニ使用スル容器、器具、機械ノ種類、數量ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

前項ノ容器、器具、機械ヲ修理シタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ其ノ種類、數量ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第七條　前條ノ申告アリタルトキハ所轄樺太廳支廳長ハ其ノ容器、器具、機械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

酒類製造者ハ前項ノ檢定ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一酒造年度トス

第九條　酒類製造者ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ酒類ニ關シ左ノ事項ヲ其ノ酒造年度開始前ニ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

一　每酒類ノ見込造石數
二　製造著手ノ時期
三　製造ノ方法及其仕込數

新ニ酒類ヲ製造セムトスルモノハ事業著手前前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ酒造稅ヲ課ス

第十一條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ實在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第十二條　同一製造場內ニ於テ酒類製造ノ原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ酒造原料用トシテ檢定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ヲ査定ス酒類ノ製造用ニ供スル醪ニ付亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ醪ハ濁酒ヲ製成シタルモノト看做ス

一　廢棄シタルトキ
二　他人ニ讓渡シ又ハ賃入スルトキ
三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ
四　製造場外ニ移出スルトキ
五　公賣ニ付セラルルトキ

前項第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ旨直ニ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十四條　酒類製造者酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前其ノ數量及時期等ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

粕漉シタル酒類ノ造石數ハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミニ就キ之ヲ査定ス但シ原酒類ノ石數ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ總石數ニ就キ之ヲ査定ス

第十五條　酒類製造者自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪酒精酒精含有飲料ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ總石數ニ就キ之ヲ査定ス

第十六條　一製造場ニ於ケル一酒造年度ノ製造石數精酒百石濁酒五十石未滿ナルトキハ其ノ不足石數ハ當該年度最終ノ月ニ於テ査定シタルモノト看做ス但シ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ製造シ能ハサルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

同一ノ製造場ニ於テ清酒及濁酒ヲ製造スルトキハ濁酒ノ不足石數ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項但書ノ規定ニ依ル證明ハ年度終了後一箇月以內ニ所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ爲スヘシ

第十七條　酒造稅ノ納期ヲ分チ左ノ四期トス

第一期　七月
　前年十月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一
第二期　十月
　同上
第三期　翌年二月

同上及其ノ年四月一日ヨリ九月三十日迄ノ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期　翌年三月

前納額ノ殘數

第十八條　酒類製造者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サヽルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス酒造稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ酒造稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第十九條　酒類製造者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金五圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ酒類製造著手前所轄樺太廳支廳長ニ提供スヘシ但シ樺太廳支廳長ノ許可ヲ受ケ每月見込造石數ニ對シ本條ノ割合ヲ以テ其ノ前月中ニ保證物ヲ提供スルコトヲ得

前項但書ニ依リ許可ヲ得ムトスル者ハ每酒造年度製造著手前其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

每酒造年度ノ見込石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上增加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ヲ增補スヘシ

每酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減額ヲ請フコトヲ得

酒類製造者此ノ規則ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ酒造稅ニ付テ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後五年間酒造稅全額迄ノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ增減ヲ爲サス

保證物ヲ增補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

第二十條　酒類製造者前條ニ規定スル保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ停止スルコトヲ得

第二十一條　保證物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢
二　國債
三　土地
四　火災保險ヲ附シタル建物

保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外所轄樺太廳支廳長ノ認定スル所ニ依ル

第二十二條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ樺太廳支廳長ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十三條　保證物トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造者ハ樺太廳支廳長ノ指定期限內ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十四條　左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一　納稅保證トシテ酒造稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
二　酒造稅ヲ前納シタルトキ

第二十五條　酒類製造者前條ノ規定ニ依リ保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ每酒造年度製造著手前其ノ方法ヲ選ミ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

第二十六條　收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十七條　樺太廳支廳長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條　酒類製造者ハ所轄樺太廳支廳長ニ申出保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　酒類製造者酒造稅ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格カ徵收スヘキ稅金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ其ノ酒類ニ對スル酒造稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
二　腐敗シタル酒類ニシテ收稅官吏ノ承認ヲ得酒類トシテ飮用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飮用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎又ハ酒精ノ製造用ニ供スルモノ
四　容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第三十一條　前條ノ規定ニ依リ酒造稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

第三十二條　酒類製造者其ノ製造シタル酒類ヲ製造場ヨリ直接外國ニ輸出シ又ハ出港稅ヲ納付シテ內地ニ移出シタルトキハ其ノ酒類ニ對スル酒造稅ヲ免除ス但シ製造場ヨリ移出前所轄樺太廳支廳長ノ承認ヲ受ケサルモノ又ハ造石數ノ査定後一年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　前條ノ規定ニ依リ酒造稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

一　酒類ノ種別及石數
二　積載シタル船舶ノ名稱
三　輸出シ又ハ移出シタル年月日
四　輸出ノ場合ニ於テハ輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證スル書面
五　移出ノ場合ニ於テハ出港稅ノ納付濟證

第三十四條　酒類製造者ハ酒母、醪又ハ原料用酒類廢棄若ハ亡失シタルトキハ直ニ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ腐敗シタルトキ亦同シ

第三十五條　酒類製造者ハ製造場外ヨリ酒母、醪又ハ酒類ヲ製造場內ニ移入シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申告シ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十六條　酒類製造者其ノ製造シタル醪ヲ使用セムトスルトキハ收稅官吏ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ外收稅官吏カ必要ト認メテ酒類製造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造者ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十七條　酒類製造者ハ造石數査定ノ時其ノ酒粕ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十八條　酒類製造者ハ造石數ノ査定ヲ受タル後ニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ處分シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十九條　酒類製造者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第四十條　酒類製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ命スル所ニ依リ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
二　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ
三　原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
四　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ
五　酒類製造中其ノ製造用容器、器具、機械又ハ酒造用原料ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
六　製造方法ノ異ナル酒類ノ仕込ニ使用スル酒母及醪ヲ彼此混淆シテ使用セムトスルトキ
七　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキ
八　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十一條　收稅官吏ハ酒類製造者又ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　酒類製造者ハ酒製用原料品及酒粕ノ受拂、酒類製造ノ仕込、酒類ノ藏出、受拂、增減其ノ他酒類ニ關スル一切ノ事項ヲ詳細明瞭ニ帳簿ニ記載スヘシ

第四十三條　酒類製造業ヲ繼續シ又ハ繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ酒類製造業ヲ營ム者ヨリ酒造稅ヲ徵收ス

第四十四條　本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ酒類製造者ニ對スル酒造稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第四十五條　本令ニ依リ樺太廳支廳長ニ提出スル文書ハ總テ所轄支廳出張所長ヲ經由スヘシ

第四十六條　酒類製造者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ酒造稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒類ニ對スル酒造稅ハ之ヲ卽納セシム

一　第二條ノ申告ヲ爲サスシテ酒類ヲ製造シタルトキ
二　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキ
三　第三十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

第四十八條　酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條、第四條、第五條、第十三條第二項、第三十四條及第三十五條ノ申告ヲ怠リ若ハ其ノ申告ニ虛僞ノ事項ヲ記載シタルトキ
二　第七條第二項、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ニ違反シタルトキ
三　第四十條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ命シタル事項ニ違反シタルトキ

第四十九條　酒類製造者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條　酒類製造者又ハ酒類販賣者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十一條　酒類製造者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　酒類製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者ヲ處罰ス

第五十三條　法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス

前項ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ其ノ被告人トス

附　則

本令ハ大正十年法律第七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太酒類製造營業稅規則ハ之ヲ廢止ス但シ大正十年三月三十一日以前査定濟石數ニ係ル酒類ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ檢定未濟又ハ使用未濟ノ原料用酒類若ハ仕込濟ノ酒類製造用原料品ヲ所持スルトキハ製造著手ノ時期如何ニ拘ラス本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ大正九年四月一日ヨリ大正十年三月三十一日迄ニ製造シタル酒類ハ本令施行ノ日ヨリ大正十年九月三十日迄ニ製造シタル造石數ニ合算シ第十六條ノ規定ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ酒類ヲ製造スル者ニ限リ樺太酒類製造營業稅規則第二條、第六條第一項、第八條ノ二ノ申告ハ本令第二條、第六條第一項、第九條ニ依リ申告アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樺太酒類製造營業稅規則第七條ニ依リ檢定ヲ受ケタルモノハ本令第七條ニ依リ檢定ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ酒類ヲ製造スル者ニ限リ樺太酒類製造營業稅規則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ本令第十九條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樺太酒類製造營業稅規則ニ依リ提供セル保證物ハ本令ニ依リ提供スヘキ保證物ニ之ヲ繼續スルコトヲ得但シ國債以外ノ有價證券ニ在リテハ其ノ效力ハ大正十五年三月限トス

●關東州酒稅令

大正十一年四月十五日　勅令第百九十八號
改正　大正一五年第六四號

朕關東州酒稅令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州酒稅令

第一條　本令ニ於テ酒類ト稱スルハ酒精及酒精ヲ含有スル飮料ヲ謂フ

本令ニ於テ支那酒ト稱スルハ支那在來ノ方法ニ依リ製成シタル清酒、黃酒、濁酒及燒酒ヲ謂フ

本令ニ於テ酒精ト稱スルハ原容量百分中純酒精ノ容量九十以上ノモノヲ謂フ

第二條　酒類ヲ分チテ左ノ三類トス

一　釀造酒　清酒、濁酒、黃酒、麥酒ト稱スル類ニシテ醪其ノ他ノ醱酵液ヨリ製成シタルモノ
二　蒸餾酒　燒酎、燒酒、酒精ト稱スル類ニシテ醪其ノ他ノ醱酵液、酒類、酒粕其ノ他ノ物ヨリ蒸餾シテ製成シタルモノ
三　再製酒　白酒、味淋ト稱スル類ニシテ釀造酒又ハ蒸餾酒ノ一種ト他ノ酒類其ノ他ノ物トヲ混和シテ製成シタルモノ

再製酒ノ一種ト他ノ酒類其ノ他ノ物トヲ混和シテ製成シタル飮料ハ之ヲ再製酒ト看做ス

第三條　酒類ニハ左ノ割合ニ依リ酒稅ヲ課ス

一　釀造酒	
支那酒タル清酒、黃酒、濁酒	一石ニ付　三圓
麥酒	一石ニ付　六圓
葡萄酒	一石ニ付　十六圓
前記以外ノ釀造酒	一石ニ付　十二圓
二　酒精以外ノ蒸餾酒	
原容量百分中純酒精ノ容量三十五以下ノモノ	一石ニ付　五圓
原容量百分中純酒精ノ容量三十五ヲ超ユルモノ	一石ニ付 原容量百分中純酒精ノ容量三十五以下ノモノニ課スル金額ニ原容量百分中純酒精ノ容量三十五ヲ超ユル一箇每ニ四十錢ヲ加ヘタル金額
三　酒精	一石ニ付 原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ四十錢
四　再製酒	
白酒、味淋	一石ニ付　十二圓
前記以外ノ再製酒	一石ニ付 原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ四十錢但シ一石ニ付十六圓ニ滿タサルトキハ十六圓トス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第四條　酒造年度ハ其ノ年九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス

第五條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ當該官廳ノ免許ヲ受クヘシ

酒類製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

酒類製造營業ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得

第六條 一製造場ニ於テ一酒造年度間支那酒ニ非サル清酒ハ百石以上、麥酒ハ五百石以上、支那酒ニ非サル濁酒ハ五十石以上、其ノ他ノ酒類ハ一種ニ付十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス

二種以上ノ酒類ヲ製造スル場合ニ於テ制限石數ノ多キモノヲ制限石數以上製造スルトキ又ハ制限石數ノ同一ナルモノニ付其ノ一種ヲ制限石數以上製造スルトキハ他ノ酒類ニ付テハ前項ノ制限ヲ適用セス

試驗ノ爲製造スル酒類ニ付テハ相當ノ期間ヲ定メ第一項ノ規定ニ拘ラス製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第七條 酒類製造者ニハ造石數ニ應シ酒税ヲ課ス

酒類製造者前條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル酒税ヲ課ス其ノ製造ヲ爲ササリシ石數ニ付テハ酒造年度末日ニ査定シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ製造ヲ爲ササリシ石數ニ對スル酒税ハ一石ニ付酒精以外ノ蒸餾酒ハ五圓、酒精ハ三十六圓、白酒味淋以外ノ再製酒ハ十六圓ノ割合ニ依ル

第八條 酒税ハ左ノ納期ニ依リ之ヲ徴收ス

支那酒ニ非サル清酒、濁酒ノ酒税

第一期 七月一日ヨリ同三十一日限

前年九月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル石數ニ係ル税額ノ三分ノ一

第二期 十一月一日ヨリ同三十日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ八月三十一日迄ニ査定シタル石數ニ係ル税額ノ二分ノ一

第三期 翌年二月一日ヨリ同末日限

前納額ノ殘數

其ノ他ノ酒税

第一期 四月一日ヨリ同三十日限

前年九月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ニ査定シタル石數ニ係ル税額

第二期 十月一日ヨリ同三十一日限

其ノ年三月一日ヨリ八月三十一日迄ニ査定シタル石數ニ係ル税額

第九條 酒類製造者納税擔保物ノ提供ヲ爲ササルトキ又ハ酒類製造ノ免許消滅シタルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス酒税ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ又ハ國税徴收法第四條ノ一ノ規定ニ準シ酒税ヲ徴收スル場合ニ於テハ納税ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第十條 同一製造場内ニ於テ酒類ヲ製造スル爲原料トシテ製造スル酒類ニハ製成ノトキ檢定ヲ受ケタル場合ニ限リ酒税ヲ課セス

第十一條 酒類ノ造石數ハ製成ノトキ實測シテ之ヲ査定ス但シ支那酒ニ非サル清酒ニ限リ査定石數百分ノ七以内ノ滓引減量及貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

酒類ノ造石數ヲ實測シテ査定スルコト能ハサル場合ニ於テハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ査定ス

第十二條 粕漉シタル清酒ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ付造石數ヲ査定ス

第十三條 第十條ノ檢定ヲ受ケタル酒類左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定石數ヲ以テ査定石數ト看做シ酒税ヲ課ス

一 他人ニ讓渡ストキ
二 賣入スルトキ
三 公賣セラルルトキ
四 酒類製造用外ニ消費スルトキ
五 製造場外ニ搬出スルトキ

第十四條 酒類製造者ノ製造ニ係ル酒母、醪其ノ他ノ醱酵液前條各號ニ掲クル場合ノ一ニ該當スルトキハ支那酒タル醸造酒ノ酒母又ハ醪ハ支那酒タル濁酒、麥酒ノ醱酵液ハ麥酒、其ノ他ノ醱酵液ハ支那酒ニ非サル濁酒ヲ製成シタルモノト看做シ其ノ石數ヲ査定シ酒税ヲ課ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ酒類製造者ノ酒類製造用ニ供スル爲之ニ讓渡ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ讓受ケタル酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ヲ酒類製造用外ニ供シタルトキハ前項ノ規定ニ準シ酒税ヲ課ス

第十五條 酒類ヲ保税地域又ハ郵便局ヨリ引取ルトキハ其ノ石數ニ應シ引取人ヨリ酒税ヲ徴收ス

保税地域ト稱スルハ保税倉庫其ノ他當該官廳カ課税物件ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定シ又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ引取人酒税額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ三月以内酒税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

酒税納付前又ハ擔保物提供前ニ於テハ酒類ヲ消費シ又ハ保税地域若ハ郵便局ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第一項ノ擔保物ニ關スル規定ハ關東長官之ヲ定ム

第十七條 酒類ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ酒税ヲ納付セスシテ保税地域ヨリ他ノ保税地域ニ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該酒類相當ノ期間内ニ運送先ニ到著セサルトキハ保税地域ヨリ搬出シタルトキ引取リタルモノト看做シ運送申告者ヨリ酒税ヲ徴收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ當該官吏ノ承認ヲ得テ廢棄シタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 左ノ酒類ハ酒税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ搬出シ又ハ保税地域若ハ郵便局ヨリ引取リタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 災害ニ罹リタル酒類ニシテ廢棄ニ屬シタルモノ
二 腐敗シタル酒類ニシテ當該官吏ノ承認ヲ得飮用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飮用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ蒸餾酒ノ製造ニ供スルモノ
四 容器ノ損傷又ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ因リ亡失シタル酒類

第十九條 酒類ヲ酒類製造用若ハ工業用ニ供シ又ハ關東州外ニ輸出スルトキハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ酒税ヲ免除シ又ハ酒税ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第二十條 酒類製造者ハ豫メ納税ノ保證トシテ一酒造年度ニ於ケル見込造石數ノ酒税額ノ二分ノ一以上ニ相當スル擔保物ヲ提供スヘシ但シ許可ヲ受ケ造石數ノ査定毎ニ其ノ酒税額ノ二分ノ一以上ニ相當スル擔保物ヲ提供スルコトヲ得

前項ノ擔保物ニ關スル規定ハ關東長官之ヲ定ム

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ前條ニ規定スル擔保物ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

一 相當ノ納税保證人ヲ立テタルトキ
二 納税ノ保證トシテ酒税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
三 酒税ヲ前納シタルトキ
四 一酒造年度ニ於ケル見込造石數ノ酒税額五十圓ニ滿タサルトキ

第二十二條 納税保證人ハ酒類製造者カ酒税ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於テ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔ス

第二十三條 酒類製造者納税ノ保證トシテ保存スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第二十四條 酒類製造者又ハ引取人酒税ヲ納付セサルニ因リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ擔保物又ハ納税ノ保證トシテ保存スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徴收スヘシ但シ擔保物又ハ納税ノ保證トシテ保存スル酒類ノ價格カ徴收スヘキ税金及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ付滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十五條 自家用ノ爲支那酒タル清酒、黄酒又ハ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ一酒造年度二石以下ノ製造石數ヲ定メ當該官廳ノ免許ヲ受クヘシ

二種以上ノ支那酒ヲ製造スル場合ニ於テハ前項ノ製造石數ハ各種ヲ通シテ之ヲ計算ス

第二十六條 自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條第三項ノ規定ハ自家用酒類ノ製造ニ之ヲ準用ス

第二十七條 自家用酒類製造者ニハ免許ニ係ル製造石數ニ依リ各種ニ付毎酒造年度左ノ酒税ヲ課ス

製造石數一石以下ノモノ 三圓
製造石數一石ヲ超ユルモノ 六圓

第二十八條 前條ノ酒税ノ納期ハ十月一日ヨリ同三十一日限トス但シ免許消滅シタルトキ又ハ納期後免許ヲ與ヘタルトキハ直ニ税金ヲ徴收ス

第二十九條 酒類製造者ハ造石數査定前ニ於テ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、酒類製造用外ニ消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ關東長官ハ支那酒ニ付別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

自家用酒類製造者ハ其ノ製造ニ係ル酒類、酒母又ハ醪ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第三十條 酒類製造者及酒類販賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒類ノ製造出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セス

第三十一條 當該官吏ハ酒類製造者若ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、酒母醪其ノ他ノ醱酵液、酒粕、滓及酒類ノ製造出入ニ關スル帳簿書類竝酒類ノ製造若ハ販賣上必要ナル建築物、器具、機械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル酒類ヲ檢査シ其ノ出所及到著先ヲ尋問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ貨物若ハ船車ニ封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 當該官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒類製造者又ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、酒母醪其ノ他ノ醱酵液ノ見本ヲ徴收スルコトヲ得

第三十四條 酒類製造者ニ非サル者酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造セムトスルトキハ製造場一箇所毎ニ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受ケタル者ノ製造シタル酒母又ハ醪ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、飲料トシテ消費シ又ハ當該官吏ノ承認ヲ得スシテ製造場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第五條第二項第三項、第三十條第一項及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第三十五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ第八條ノ納期ニ拘ラス直ニ酒税ヲ徴收ス

一 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタルトキ
二 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ因リ酒税ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトシタルトキ
三 第十六條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
四 酒類製造用又ハ工業用ニ供スル爲酒税ヲ課セス又ハ免除セラレタル酒類ヲ其ノ以外ノ用ニ供シタルトキ
五 輸出スル爲酒税ヲ免除セラレタル酒類ヲ關東州内ニ於テ消費シ又ハ關東州内ニ於テ消費スル目的ヲ以テ他人ニ讓渡シタルトキ

第三十六條 自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者製造石數ノ制限ヲ超過シ酒類ヲ製造シタルトキハ超過石數ニ對シ第三條第一項ノ割合ニ依リ酒税ヲ課ス

前項ノ酒税ハ直ニ之ヲ徴收ス

第三十七條 免許ヲ受ケスシテ酒母若ハ醪ヲ製造シタル場合ニ於テハ支那酒タル醸造酒ノ酒母醪ニ在リテハ支那酒タル濁酒、其ノ他ノ酒母醪ニ在リテハ支那酒ニ非サル濁酒ト看做シ直ニ酒税ヲ徴收ス

第三十八條 第三十四條第二項ノ規定ニ違反シ酒母又ハ醪ヲ處分シタルトキハ前條ノ規定ニ準シ酒税ヲ徴收ス

第三十九條 酒類製造者、自家用酒類製造者又ハ第三十四條第一項ノ免許ヲ受ケタル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ期間内製成其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ヲ適用ス

第四十條 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ニ對シテハ酒税完納前ニ在リテハ本令ヲ適用ス酒類製造者ノ相續人ニシテ酒類製造營業ヲ承繼セサル者ニ對シ亦同シ

第四十一條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外酒税ニ關シ必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

附 則

第四十二條 本令ハ大正十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 本令施行ノ際現ニ酒類、酒母、醪、麴又ハ麯子ヲ製造スル者ハ本令施行後三十日内ニ當該官廳ニ免許ヲ申請スヘシ其ノ申請ニ對シ許否ノ處分ヲ受クル迄ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十四條 本令施行ノ際現ニ酒類ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ本令施行後二十日内ニ其ノ酒類ノ種類、石數及所在ヲ申告スヘシ但シ支那酒、麥酒又ハ清酒ニ在リテハ通シテ五斗以下、其ノ他ノ酒類ニ在リテハ通シテ一斗以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 前條ノ規定ニ依リ申告スヘキ酒類ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項ノ割合ニ依リ酒税ヲ課ス

第四十六條 本令施行ノ際現ニ酒類ヲ製造スル者ニシテ第四十三條ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニ付テハ本令施行ノ日ヲ含ム酒造年度及其ノ後ノ三酒造年度間第六條第一項ノ規定ヲ適用セス

附 則（大正十五年勅令第六十四號）

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

（大正十五年關東廳令第二十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

●關東州酒税令施行規則

（大正十一年四月十九日 關東廳令第二十四號）
改正 大正一五年第二四號

關東州酒税令施行規則左ノ通定ム

第一條 酒類製造ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ製造場ノ位置、製造スヘキ酒類ノ種別、製造見込石數及製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ヲ記載シタル免許申請書ニ製造場ノ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ製造場所在地ヲ管轄スル民政署ニ提出スヘシ

第二條 酒類製造者製造場ノ位置、製造スヘキ酒類ノ種別又ハ製造場ノ土地建物ノ圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造場ノ位置ヲ民政署管轄ヲ異ニスル地域内ニ變更セムトスルトキハ變更先ノ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ圖面ヲ添附スヘシ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ酒類ノ製造ハ之ヲ免許セス

一 民政署所在地外又ハ關東長官ノ指定シタル地域外ニ於テ製造場ヲ設ケムトスルトキ
二 免許申請者カ關東州酒税令（以下單ニ税令ト稱ス）第三十九條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ナルトキ又ハ民政署長ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者ナルトキ

第四條　酒類製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第五條　酒類製造ノ免許ヲ得タル者ハ其ノ製造場毎ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ製造著手前民政署ニ提出スヘシ

第六條　前條ノ酒造用容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ直ニ民政署長ニ申告スヘシ

第七條　酒類製造者ヨリ第五條ノ目錄ヲ提出シ又ハ前條ノ申告ヲ爲シタルトキハ民政署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ

酒類製造者ハ前項ノ檢定ヲ受ケタル後ニ非サレハ酒造用容器器具器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　酒類製造者ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ酒類ノ種別毎ニ見込造石數、製造期間、製造方法、仕込數ヲ記載シタル申告書ヲ酒造年度開始前ニ民政署ニ提出スヘシ

新ニ免許ヲ得タル者ハ製造開始前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

酒類製造者一酒造年度ヲ通シ製造ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由及休止期間ヲ定メ民政署長ニ申告スヘシ

前三項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ直ニ申告スヘシ但シ釀造酒タル支那酒ニ非サル酒類ノ製造方法ヲ變更スル場合ハ承認ヲ受クルヲ要ス

第九條　酒類製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ民政署長ニ申告スヘシ

第十條　酒類製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第十一條　酒類製造者ノ相續人ハ相續開始ノ日ヨリ六十日內ニ民政署長ニ申告シ其ノ製造ヲ承繼スルコトヲ得

前項ノ申告書ニハ相續開始ノ事實竝相續人タルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ申告アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ製造ヲ承繼シタルモノト看做ス

第十二條　稅令第七條第二項ノ證明ハ酒造年度終了後三十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　釀造酒タル支那酒製造者ハ民政署長ノ指定スル期限ニ從ヒ其ノ造石數ヲ申告スヘシ

釀造酒タル支那酒ノ造石數ハ前項酒類製造者ノ申告及證憑物件ニ依リ之ヲ查定ス

第十四條　犯則其ノ他ノ事故ニ依リ酒類ノ造石數及含有純酒精容量ヲ製成ノ時ニ於テ實測シ難キ場合ニ在リテハ證憑物件ニ依リ之ヲ查定ス

第十五條　稅令第十一條第一項但書ノ規定ニ依リ滓引減量及貯藏減量トシテ控除スルハ查定石數ノ百分ノ七トス

犯則ニ係ル清酒ニ付テハ滓引減量及貯藏減量ヲ控除セス

第十六條　酒類製造者清酒ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前豫メ其ノ數量及時期ヲ民政署長ニ申告スヘシ

清酒ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原清酒ノ石數ヲ證明スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ付造石數ヲ查定スヘシ

第十六條ノ二　稅令第十四條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケムトスルトキハ酒類製造者ハ其ノ種別、數量、使用ノ目的、讓渡先及其ノ日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署長ニ提出スヘシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ酒類製造者ハ直ニ民政署長ニ申告スヘシ

一　稅令第十三條ニ規定シタル原料用酒類又ハ同令第十四條ニ規定シタル酒母醪其ノ他ノ醱酵液ヲ他人ニ讓渡若ハ質入セムトスルトキ、之ヲ酒類製造用外ニ消費シ又ハ製造場外ニ搬出セムトスルトキ又ハ之ヲ公賣セラルルトキ但シ前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ揭クル原料用酒類又ハ酒母醪其ノ他ノ醱酵液ヲ廢棄セムトスルトキ又ハ之ヲ亡失シ若ハ之ニ異狀アルヲ發見シタルトキ

三　製造場內ニ酒類又ハ酒母醪其ノ他ノ醱酵液ヲ搬入シタルトキ

四　稅令第十四條第一項但書ノ規定ニ依リ讓受ケタル酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ヲ酒類製造用外ニ供シタルトキ

第十八條　輸入酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ラムトスルトキハ其ノ旨民政署長ニ申告スヘシ

但シ第三十二條及第三十三條ノ規定ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　旅客ノ携帶スル輸入酒類ニ付テハ輸入ノ際旅客ヨリ其ノ酒稅ヲ徵收ス

第二十條　日本銀行代理店所在地外又ハ日本銀行代理店執務時間外ニ於テハ稅務官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ酒稅ヲ領收スルコトヲ得旅客ノ携帶セル酒類ニ付酒稅ヲ徵收スル場合亦同シ

第二十一條　稅令第十六條第一項ノ規定ニ依リ酒稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ擔保物提供書ヲ提出シ民政署長ニ其ノ旨申請スヘシ

第二十二條　保稅地域又ハ郵便局ヨリ常時酒類ノ引取ヲ爲ス者ハ民政署長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔保物ヲ提供スルコトヲ得

第二十三條　稅令第十六條第一項ノ規定ニ依ル擔保物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢

二　國債證券

三　關東長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券

四　火災保險ニ附シタル建物

五　關東長官ニ於テ指定シタル有價證券

擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外民政署長ノ指定スル所ニ依ル

第一項第一號乃至第三號又ハ第五號ノ擔保物ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ民政署ニ提出スヘシ但シ登錄國債ヲ擔保物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登記ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第一項第四號ノ擔保物ヲ提供シタルトキハ民政署長ニ於テ抵當權設定登記ヲ爲スヘシ

第二十四條　擔保物ノ價格減少シタルトキ又ハ擔保物ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ民政署長ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ民政署長ハ直ニ酒稅ヲ徵收ス

第二十五條　保稅地域タル藏置場ハ藏置場一箇所毎ニ民政署長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ其ノ所在ヲ管轄スル民政署ニ提出スヘシ

前項ノ申請書記載ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ圖面記載ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ之ニ圖面ヲ添附スヘシ

藏置場ハ關東長官ノ指定スル地域內ニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

藏置場ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ設置ノ特許ノ取消ヲ求ムヘシ

藏置場ニ藏置スヘキ貨物ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ稅務官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第二十六條　民政署長ハ保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル保證金ノ提供ニ付テハ第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　民政署長ノ承認ヲ受ケ毎回一石以上ノ酒類ヲ左ノ用途ニ使用スルトキハ酒稅ヲ免除シ又ハ酒稅ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

一　火藥、尼斯、依的兒、石鹼、單寧酸、龍腦、食醋、セルロイドノ製造

二　蒸氣汽罐其ノ他發動機燃料、セルロイドノ加工用

三　酒類ノ製造

承認ヲ受ケタル際酒類ヲ直ニ所定ノ用途ニ使用スルトキハ一石未滿ト雖酒稅ヲ免除シ又ハ酒稅ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第二十八條　前條ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ使用スヘキ酒類ヲ製造場外ニ搬出シ又ハ保稅地域若ハ郵便局ヨリ引取ル前ニ於テ其ノ酒類ノ所在、種別、數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

稅務官吏前項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル酒類ヲ使用スル場所ニ就キ酒類、酒類ト混和スヘキ物品、使用ノ方法、製品、殘渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ酒類ノ變性ヲ命シ其ノ他監督上必要ト認メタル處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テ其ノ檢査若ハ處分ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタルトキハ民政署長ハ第一項ノ承認ヲ取消スコトヲ得酒類ヲ申請書ニ記載シタル場所、日時又ハ目的ニ反シ使用シタルトキ亦同シ

第二十九條　酒類ヲ酒類製造用又ハ工業用ニ使用シタル場合ニ於テ作業中酒類ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ種別、數量及含有純酒類容量ニ付民政署長ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒類ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第三十條　酒類製造用又ハ工業用ニ使用シタル酒類ニ付酒稅ノ免除又ハ酒稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ請ハムトスル者ハ使用ノ事實ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第三十一條　酒類ヲ酒類製造用又ハ工業用ニ使用シタル後一年內ニ前條ノ申請書ヲ提出セサルトキハ酒稅ハ之ヲ免除セス又ハ酒稅ニ相當スル金額ハ之ヲ交付セス

前項ノ規定ニ依リ酒稅ヲ免除セサルニ至リタル場合ニ在リテハ酒類ハ之ヲ所定ノ用途ニ使用セサルモノト看做シ酒類製造者又ハ引取人ヨリ其ノ酒稅ヲ徵收ス

第三十二條　民政署長ノ承認ヲ受ケ酒類ヲ關東州外ニ輸出スルトキハ酒稅ヲ免除シ又ハ酒稅ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第三十三條　前條ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ輸出スヘキ酒類ヲ製造場外ニ搬出シ又ハ保稅地域若ハ郵便局ヨリ引取ル前ニ於テ其ノ酒類ノ所在、種別、數量、輸出地、輸出先及輸出日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第三十四條　前條ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ民政署長ハ酒稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル擔保物ノ提供ニ付テハ第二十三條及第二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ民政署長ハ輸出ノ承認ヲ取消スヘシ

第三十五條　輸出シタル酒類ニ付酒稅ノ免除ヲ受ケ又ハ酒稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ請ハムトスル者ハ仕向先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀其ノ他輸出ノ事實ヲ證明スヘキ書類ト共ニ其ノ申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第三十六條　酒類ヲ輸出シタル後相當期間內ニ前條ノ書類ヲ提出セサルトキハ酒稅ハ之ヲ免除セス又ハ酒稅ニ相當スル金額ハ之ヲ交付セス

前項ノ規定ニ依リ酒稅ヲ免除セサルニ至リタルトキハ酒類ハ之ヲ輸出セサルモノト看做シ酒類製造者又ハ引取人ヨリ其ノ酒稅ヲ徵收ス

第三十七條　稅令第十七條第二項、本令第三十一條第二項及前條第二項ノ規定ニ該當スルモノアルトキハ民政署長ハ其ノ石數ヲ證憑物件ニ依リ査定シ酒稅ヲ徵收スヘシ

第三十八條　第三十三條ノ規定ニ依リ保稅地域又ハ郵便局ヨリ引取ル前ニ於テ輸出ノ承認ヲ受ケサル酒類ト雖民政署長ニ於テ其ノ酒類ニ付左記各號ノ事實アリト確認シタルトキハ其ノ酒稅ヲ免除スルコトヲ得

一　引取後容器ノ改裝ナキコト

二　引取タル日ヨリ一年ヲ經過セサルコト

三　酒稅納付濟又ハ酒稅徵收猶豫中ナルコト

前項ノ規定ハ酒稅徵收猶豫中ノモノヲ除クノ外免除スヘキ酒稅ヲ爾後納付スヘキ酒稅ニ充ツルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ適用ス

前各項ノ規定ニ依リ酒稅ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ輸出スヘキ酒類ノ所在、種別、數量、輸出地、輸出先及輸出日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第三十九條　第三十四條及第三十六條第一項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　酒類製造者ハ酒類製造著手前稅令第二十條第一項ノ規定ニ依リ擔保物ヲ提供スヘシ但シ同條第一項但書ノ規定ニ依リ造石數査定毎ニ擔保物ヲ提供セムトスル者ニ在リテハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨民政署長ニ申請シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十一條　酒類製造者擔保物ヲ提供シタル後見込造石數ヲ十石以上增加シタルトキ又ハ稅令第二十一條第四號ノ規定ニ依リ擔保物ヲ免除セラレタル後見込造石數ヲ增加シ其ノ酒稅額五十圓以上ト爲リタルトキハ稅令第二十條第一項ノ割合ニ依リ之ニ相當スル擔保物ヲ增補シ又ハ提供スヘシ

酒類製造者擔保物ヲ提供シタル後見込造石數ヲ十石以上減少シタルトキハ前項ノ割合ニ依リ擔保物ノ減少ヲ申請スルコトヲ得

第四十二條　稅令第二十條第一項ノ規定ニ依ル擔保物ニ付テハ第二十三條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條　酒類製造者稅令第二十條第一項ノ擔保物ヲ提供セサルトキハ稅務官吏ハ製造酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルヲ停止スヘキコトヲ命

スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅務官吏ハ酒類ニ封印ヲ施スヘシ

第四十四條　酒類製造者稅令第二十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ擔保物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ民政署長ニ其ノ旨申請スヘシ

第四十五條　稅令第二十一條第一項第一號ノ規定ニ依ル納稅保證人ハ民政署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認メタル者ニ限ル

民政署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四十六條　納稅保證トシテ保存スル酒類ニハ稅務官吏之ニ封印ヲ施スヘシ

民政署長ハ納稅保證トシテ保存スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四十七條　民政署長ハ酒類製造者酒稅ヲ納付セサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ酒稅ヲ納付セシムヘシ

第四十八條　酒稅納付濟ニ至リタルトキハ民政署長ハ遲滯ナク擔保物又ハ納稅保證書返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十九條　酒類ヲ保稅地域タル藏置場ヨリ搬出若ハ搬入スルハ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ限ル但シ特ニ必要アル場合ニ於テ民政署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　郵便物中酒稅ヲ課スヘキ酒類アルトキハ民政署長ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第五十一條　郵便局前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該郵便物ハ郵便官署ニ留置シ到著通知書ヲ名宛人ニ交付ス名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ二十日以內ニ郵便官署ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ酒稅ハ收入印紙ヲ以テ納付セシム

第五十二條　名宛人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ配達不能ノモノトシテ取扱フヘシ

第五十三條　郵便局ニ於テ前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ之ヲ民政署長ニ通知スヘシ

第五十四條　左ニ揭クル場合ニ於テ民政署長ハ當該酒類ヲ領置スルコトヲ得

一　輸入酒類ヲ保稅地域外ニ置去リタルトキ

二　保稅倉庫以外ノ保稅地域ニ搬入シタル酒類ニシテ其ノ荷主不明ナルトキ

三　旅客ノ携帶品タル輸入酒類ニ付輸入ノ際酒稅ヲ納付セサルトキ

前項ノ規定ニ依リ酒類ヲ領置シタル場合ニ於テ民政署長ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ酒類ヲ領置シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第五十六條　領置酒類ノ引渡ヲ求メムトスル者ハ民政署長ニ申出テ其ノ酒類ニ關スル一切ノ費用ヲ納付スヘシ

第五十七條　酒類領置ノ日ヨリ三月以內ニ前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ民政署長ハ其ノ記號、番號、種別及個數等ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告ノ日ヨリ一月以內ニ仍前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ公告シテ酒類ヲ公賣ニ付シ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料其ノ他其ノ酒類ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被領置者ニ交付スヘシ

第五十八條　領置酒類ニ付腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ前條期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣スルコトヲ得但シ急速ニ要スルトキハ公賣シタル後之ヲ公告スルコトヲ得

第五十九條　領置酒類ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキ又ハ賣得金ノ額公賣費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第六十條　第五十七條第二項及第五十八條ノ規定ニ依ル公告ニハ酒類ノ記號、番號、種別、品名及個數ノ外公賣ノ事由、公賣ノ場所及日時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十一條　第五十七條第二項ノ規定ニ依リ被領置者ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第六十二條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造スヘキ酒類ノ種別、稅令第二十七條ニ揭ケタル製造石數ノ區別及居所、氏名ヲ記載シタル免許申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第六十三條　自家用酒類ノ製造ハ一人一箇所ニ限リ之ヲ免許ス

自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ト同居スル者ニ對シテハ自家用酒類ノ製造ヲ免許セス

第六十四條　酒類販賣、旅人宿、料理店、貸座敷其ノ他之ニ類似ノ營業ヲ爲ス者及之ト同居スル者ニ對シテハ其ノ營業ノ場所ニ於テ自家用酒類ノ製造ヲ免許スルコトヲ得ス

第六十五條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ居宅構內ニ限リ酒類ヲ製造スルコトヲ得

第六十六條　自家用酒類製造ヲ免許シタルトキハ民政署長ハ第一號樣式ノ免許證ヲ交付スヘシ

自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者免許證ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ民政署長ニ免許證ノ再交付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第六十七條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造スヘキ酒類ノ種別又ハ稅令第二十七條ニ揭ケタル製造石數ノ區別ヲ變更セムトスルトキハ酒造年度開始前ニ申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ免許證ヲ添附スヘシ

第六十八條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ製造スヘキ酒類ノ種別又ハ稅令第二十七條ニ揭ケタル製造石數ノ區別ノ變更ハ同一酒造年度內ニ於テハ之ヲ許可セス

第六十九條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ直ニ免許證ノ書換ヲ民政署長ニ申請スヘシ但シ民政署ノ管轄ヲ異ニスル地域內ニ居所ヲ移轉シタル場合ニ在リテハ移轉先ノ民政署長ニ申請スヘシ

第七十條　自家用酒類製造免許證ヲ亡失又ハ毀損シタル爲其ノ免許證ノ再交付ヲ受クルトキハ手數料トシテ一枚ニ付二十錢ヲ納付スヘシ

第七十一條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ免許ヲ取消サレタルトキハ直ニ免許證ヲ返納スヘシ

自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ直ニ免許證ヲ返納スヘシ

第七十二條　自家用酒類製造者ノ酒稅ハ會長ニ於テ之ヲ取纏メ民政署ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十三條　第七十一條及第六十六條第一項ノ規定ハ自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニ付相續開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條　保稅地域又ハ郵便局ニ在ル輸入酒類ニシテ腐敗其ノ他ノ事由ニ依リ飲用ニ適セサルニ至リタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ民政署長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第七十五條　釀造酒タル支那酒ヲ製造スル者ニ在リテハ造石數查定前ニ於テ酒類ヲ他人ニ讓渡若ハ賣入シ、酒類製造用外ニ消費シ又ハ製造場外ニ搬出スルコトヲ得但シ民政署長ニ於テ豫メ其ノ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條　酒類製造者ハ酒母醪其ノ他ノ醱酵液ニ付製造方法ノ異ナル毎ニ記號ヲ附シ且一仕込毎ニ番號ヲ附シテ之ヲ區分シ、稅務官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第七十七條　同一製造場ニ於テ二種以上ノ酒類ヲ製造スル者ニ對シ監督上必要アリト認ムルトキハ民政署長ハ製造、藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ承認ヲ受ケシムルコトヲ得

第七十八條　稅務官吏監督上ノ必要ニ依リ事項ヲ指定シテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ指揮ニ從ヒ承認ヲ受クヘシ

第七十九條　稅務官吏檢查上ノ必要ニ依リ酒類ノ容器ヲ開披スヘキコトヲ命シタルトキハ酒類所持者ハ其ノ指揮ニ從ヒ之ヲ開披スヘシ

第八十條　本令ニ依リ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ酒類製造場、藏置場其ノ他ノ保稅地域又ハ郵便局ニ出張シタル稅務官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第八十一條　酒類製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　使用シタル原料ノ種別、數量及其ノ使用ノ日、原料トシテ他ヨリ酒類、酒母醪其ノ他ノ醱酵液ヲ引取リタルモノハ其ノ種別、數量、引取ノ日及引取先

二　一仕込毎ニ仕込ノ方法及仕込ノ日

三　酒類製成ノ日及其ノ數量

四　他ニ引渡シタル酒類、酒母、醪其ノ他ノ醱酵液ノ種別、數量、價格、引渡ノ日及引渡先但シ小賣ニ付テハ引渡先ノ記載ヲ要セス

第八十二條　第三條第一項第一號、第五條乃至第七條、第十七條及第七十六條ノ規定ハ釀造酒タル支那酒製造者ニ之ヲ適用セス

第八十三條　酒類ノ輸入又ハ販賣ヲ業トスル者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　引取リタル酒類ノ種別、數量、價格、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル酒類ノ種別、數量、價格、販賣ノ日及賣渡先但シ小賣ニ付テハ賣渡先ノ記載ヲ要セス

第八十四條　酒類製造營業者又ハ酒類販賣者ハ店頭其ノ他見易キ場所ニ第二號樣式ノ標札ヲ揭クヘシ

第八十五條　酒類ヲ酒類製造用又ハ工業用ニ使用シ酒稅ノ免除ヲ受ケ又ハ酒稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者又ハ之ヲ受クル者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　酒類ノ種別、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及引取先

二　使用シタル酒類ノ種別、數量、使用ノ目的及日時

三　製品ノ種類、數量及製造ノ日

四　作業中酒類ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒類ノ容量

第八十六條　第一條乃至第十一條、第十七條、第七十三條、第七十六條、第七十八條、第八十一條及第八十四條ノ規定ハ酒類製造者ニ非スシテ酒母若ハ醪ヲ製造スル者ニ付之ヲ準用ス

第八十七條　第一條、第二條、第三條第一項第二號、第八條乃至第十一條、第七十三條、第七十八條、第八十一條及第八十四條ノ規定ハ酒類製造者ニ非スシテ販賣ノ爲麴又ハ麯子ヲ製造スル者ニ付之ヲ準用ス

第八十八條　稅務官吏ハ酒類製造者、酒類販賣者、第二十七條ニ規定シタル酒類製造用又ハ工業用ニ酒類ヲ使用スル者、酒類製造者ニ非スシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者及販賣ノ爲麴又ハ麯子ヲ製造スル者ノ營業ニ關シ知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第八十九條　免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル者ハ其ノ酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

酒類ノ輸入又ハ販賣ヲ業トスル者輸入酒類ニ關シ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキハ酒稅ノ七倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

前條ノ規定ニ該當スル者ニハ第一項及第二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第九十一條　輸入酒類ヲ酒稅納付前又ハ擔保物提供前ニ於テ消費シ又ハ保稅地域若ハ郵便局ヨリ引取リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十二條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ因リ第二十七條又ハ第三十二條ニ規定スル金額ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ハ交付金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

前項ノ場合ニ於テ交付ヲ受ケタル金額ハ之ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ明治四十年勅令第五十六號ノ規定ヲ準用ス

第九十三條　酒類製造者納稅保證トシテ保存スル酒類ヲ他人ニ讓渡、賣入若ハ消費シ又ハ製造場外ニ搬出シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十四條　自家用酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者製造石數ノ制限ヲ超過シ酒類ヲ製造シタルトキハ超過石數ニ對スル酒稅ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

第九十五條　釀造酒タル支那酒ニ非サル酒類ノ製造者造石數查定前ニ於テ酒類ヲ他人ニ讓渡若ハ賣入シ、酒類製造用外ニ消費シ又ハ製造場外ニ搬出シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十六條　自家用酒類製造者其ノ製造ニ係ル酒類、酒母又ハ醪ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十七條　免許ヲ受ケスシテ酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十八條　酒類製造者ニ非サル酒母醪製造者其ノ製造ニ係ル酒母若ハ醪ヲ他人ニ讓渡若ハ賣入シ、飲料トシテ消費シ又ハ稅務官吏ノ承認ヲ得スシテ製造場外ニ搬出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十九條　酒類製造者、酒類ノ輸入又ハ販賣ヲ業トスル者酒類製造者ニ非サル酒母醪製造者又ハ販賣ノ爲麴若ハ麯子ヲ製造スル者酒類、酒母醪、麴若ハ麯子ノ製造出入ニ關スル事項ヲ記載スヘキ帳簿ヲ調製セス若ハ隱匿シタルトキ又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百條　稅務官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百一條　酒類製造者、酒類製造者ニ非スシテ酒母若ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲麴又ハ麯子ヲ製造スル者又ハ保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ受ケタル者許可ヲ受ケスシテ製造場又ハ藏置場ノ位置ヲ變更シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二條　第四十三條第一項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シ又ハ第七十五條但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受クヘキ場合ニ之ヲ受ケスシテ酒類ヲ他人ニ讓渡、賣入若ハ消費シ又ハ製造場外ニ搬出シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　本令ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ申告ニ付不實ノ陳述ヲ爲シタル者

二　第七條第二項、第四十九條、第六十五條、第六十九條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタル者

三　第八條第四項ノ承認ヲ受ケサリシ者若ハ第七十七條、第七十八條ニ依リ承認ヲ受クヘキ場合ニ之ヲ受ケサリシ者又ハ事實ヲ詐リテ承認ヲ受ケタル者

第百四條　第六十六條第二項、第七十一條、第七十九條又ハ第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第百五條　本令ノ規定中民政署又ハ民政署長トアルハ民政支署ノ管內ニ在リテハ民政支署又ハ民政支署長トス

附　則

第百六條　本令ハ關東州酒稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百七條　稅令第四十五條ノ酒稅ハ本令施行ノ際之ヲ徵收ス但シ保稅地域ニ在ル酒類ニ付テハ之ヲ當該保稅地域ヨリ引取ル際其ノ酒稅ヲ徵收ス

前項ノ酒稅ニ付申告者稅金額ニ相當スル擔保物ヲ提供シ又ハ相當ノ納稅保證人ヲ立テタルトキハ本令施行ノ日ヨリ六月以內酒稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十一條、第二十三條、第二十四條、第四

十五條、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一號樣式

表

免許第　　號

自家用酒製造免許證

（製造者居所）…………………　何　　某

一製造スヘキ酒類　黃酒（何々）

二製造石數　一石以下（二石以下）

右免許ス

大正　年　月　日

何民政署印

第一號樣式

裏

注意

一……………………

一……………………

一……………………

譯文

一……………………

一……………………

一……………………

第二號樣式

免許第　　號

○ 酒類（酒母）（醪製造業）　何　　某

○ 酒類（販賣業）　何　　某

備考
木製又ハ金屬製ニシテ縱一尺五寸以上橫六寸以上トス

●關東州酒類煙草輸入取締規則

大正十一年四月十九日
關東廳令第二十七號
改正　昭和二年第四六號

關東州酒類煙草輸入取締規則左ノ通定ム

關東州酒類煙草輸入取締規則

第一條　關東州外ヨリ輸入スル酒類又ハ煙草ヲ積載シタル船車關東州ニ到著シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ到著ノ時ヨリ二十四時間以內ニ民政署長ニ積荷申告書ヲ提出スヘシ但シ酒類又ハ煙草ノ積卸ヲ爲サスシテ到著ノ時ヨリ二十四時間以內ニ關東州ヲ去ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ提出シタル積荷申告書ハ民政署長ノ認許ヲ得タル場合ノ外訂正補足スルコトヲ得ス

第二條　積荷申告書ハ關東州外仕向ノモノト關東州內仕向ノモノトヲ區分シ各別ニ之ヲ調製スヘシ

第三條　大連港又ハ旅順港以外ノ港ニ入港シタル總噸數二十噸未滿積石數二百石未滿ノ船舶又ハ支那形ノ船舶ニ在リテハ船舶取締規則第三條ノ規定ニ依ル著港屆ノ副本ヲ以テ積荷申告書ニ代用スルコトヲ得

第四條　關東州外ヨリ輸入スル酒類又ハ煙草ヲ積載シタル船車ハ民政署長ノ認許ヲ得タル場合ノ外第一條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ了シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ南滿洲鐵道株式會社及株式會社金福鐵路公司ノ取扱フ貨物、手荷物、旅客ノ携帶品及郵便物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

海難其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲貨物積卸前豫メ前項ノ認許ヲ得ル能ハサルトキハ假ニ積卸ヲ爲シタル後二十四時間以內ニ其ノ理由、積卸シタル貨物ノ品名、箇數、數量及荷受人氏名ヲ記載シタル申告書ヲ民政署ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　關東州外ヨリ輸入スル酒類又ハ煙草ヲ積載シタル船車ハ民政署長ノ定メタル場所ニ依ルニ非サレハ貨物ノ積卸又ハ其ノ他船車若ハ陸地トノ交通ヲ爲スコトヲ得ス但シ民政署長ノ認許ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　沿海通航船關東州外ヨリ輸入スル貨物ヲ積載シタル船車トノ間ニ貨物ノ積卸ヲ爲サムトスルトキハ運送申告書ヲ民政署ニ提出スヘシ

前項ノ申告書ニハ當該船車ノ名稱又ハ車輛番號ヲ附記スヘシ

第七條　第五條但書ノ規定ニ依ル認許ヲ受ケムトスル者ハ貨物積卸ヲ爲サムトスル場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

前項ノ認許ヲ受ケタル者認許ノ條件ニ違反シタルトキハ民政署長ハ其ノ認許ヲ取消スヘシ

第八條　酒類又ハ煙草ヲ輸入セムトスル者ハ輸入ノ際民政署長ニ輸入申告ヲ爲スヘシ但シ通過貨物トシテ輸入スル場合又ハ郵便ニ依リ輸入スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　保稅地域內ニ在ル輸入酒類又ハ煙草ヲ關東州外ニ輸出セムトスルトキハ民政署長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十條　輸入シタル酒類又ハ煙草（以下課稅物件ト稱ス）ニシテ酒稅又ハ煙草稅納付手續未濟ノモノハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ手荷物、旅客携帶品、郵便物、難破貨物、民政署長ノ認許ヲ受ケタルモノ又ハ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　關東州內遞信官署ハ關東州外差立ニ係ル郵便物ニシテ酒類又ハ煙草ヲ包裝スト認メラルルモノ又ハ之ヲ包裝スルノ疑アルモノ到著シタルトキハ輸入郵便物目錄ヲ添ヘ之ヲ民政署ニ送付スヘシ

前項ノ郵便物ハ郵便局員立會ノ上稅務官吏ニ於テ之ヲ檢査スヘシ

第十二條　第十條ノ規定ニ依リ課稅物件ヲ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置セムカ爲認許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ理由、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第十三條　課稅物件ヲ保稅地域ヨリ更ニ他ノ保稅地域ヘ運送セムトスルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ運送申告書ヲ民政署長ニ提出シ其ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ申告書ハ之ニ運送通路ヲ附記シ運送先ヲ異ニスル毎ニ各別ニ之ヲ作成シ運送先カ發送地ト民政署ノ管轄ヲ異ニスル場合ニ在リテハ一運送先毎ニ二通ヲ提出スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル認許ヲ受ケテ運送シタル課稅物件運送先ニ到著シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ遲滯ナク運送申告書ヲ運送先ノ民政署ニ提出スヘシ

第十四條　第二條第六條及第十三條ノ規定ニ依ル積荷申告書及運送申告書ハ別表第一號樣式又ハ第二號樣式ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル輸入申告書ハ別表第三號樣式又ハ第四號樣式ニ依ルヘシ

前項ノ申告書ハ民政署長ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ特別ノ一樣式ニ依ルコトヲ得

第十五條　保稅地域ニ於ケル課稅物件ノ取扱ハ特ニ定メタル場合ノ外總テ民政署長ノ指揮ニ從フヘシ

第十六條　稅務官吏職務ヲ執行スルトキハ其ノ身分ヲ證明スル爲關東州間接國稅犯則者處分令施行規則第十五條ノ規定ニ依ル證票ヲ携帶スヘシ

第十七條　稅務官吏職務ノ爲船車ニ乘込ムトキハ船長又ハ陸路運送人ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第十八條　南滿洲鐵道株式會社及株式會社金福鐵路公司ハ民政署長ノ認許ヲ受ケタル場合ノ外酒稅又ハ煙草稅納付手續未濟ノ課稅物件ヲ他人ニ引渡スコトヲ得ス

第十九條　手荷物及旅客携帶品ニ關スル申告及陸接租借地境ヲ汽車以外ノ車馬ニ依リ關東州內ニ輸入スル貨物及總噸數二十噸未滿、積石數二百石未滿ノ船舶又ハ支那形船舶ニ依リ大連港、旅順港以外ノ關東州港灣ニ入港シテ關東州內ニ輸入スル貨物ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ民政署長ハ必要ト認ムルトキハ書面ニ依ラシムルコトヲ得

第二十條　民政署長ハ必要ト認ムルトキハ輸入貨物又ハ關東州內轉送貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第二十一條　本令ノ規定ニ依リ民政署又ハ民政署長ニ申請又ハ申告スヘキ事項ハ民政署所在地外ニ在リテハ稅務官吏ニ、稅務官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ之ヲ申告スヘシ

第二十二條　警察官吏前條ノ規定ニ依ル申請又ハ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ民政署長又ハ稅務官吏ニ通報スヘシ

第二十三條　民政署長ハ酒類煙草輸入取締ニ關シ必要ナルトキハ稅務官吏ヲシテ運送貨物ノ檢査ヲ爲サシメ又ハ其ノ他必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ稅務官吏ハ船車ニ乘込ムコトヲ得

第二十四條　第八條ノ規定ニ違反シ關東州外ヨリ酒類又ハ煙草ヲ輸入シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　船長又ハ陸路運送人故意又ハ重大ナル過失ニ依リ貨物ト符合セサル積荷申告書又ハ運送申告書ヲ提出シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十六條　船長又ハ陸路運送人故意又ハ重大ナル過失ニ依リ第一條、第四條第一項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條　第五條、第六條第一項、第十條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者
二　稅務官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第二十九條　輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第二十四條ノ規定ニ該當スル罪ヲ犯シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　前條ノ場合ニ於テ營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、同法第三十九條第二項、同法第四十條、同法第四十一條、同法第四十八條第二項、同法第六十三條及同法第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第三十二條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタル場合ニ關シテハ明治三十三年法律第五十二號ノ規定ヲ準用ス

第三十三條　本令ノ規定中民政署又ハ民政署長トアルハ民政支署ノ管內ニ在リテハ民政支署又ハ民政支署長トス

第三十四條　關東州國稅犯則者處分令ノ規定ハ本令違反ノ事件ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ關東州酒稅令及關東州煙草稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

第一號樣式

積荷（運送）申告書
Lading(Shipment) Declaration

船名　Name of Ships……………
船籍國名　Ships Nationality……………
積出地　Place of Shipment……………
仕向地　Place of Destination……………
到著（發送）　年　月　日　Date……………19……………
船長　Signature of master……………

民政署長殿
To The Administrator of the……………Civil Administration Office of Kwantung Government.

船荷證券番號 No. of B/L.	荷印番號 Marks & Number.	品名 Names of Articles.	箇數 Number of Packages.	數量 Quantity.	荷受人 Consignees.	荷出人 Shippers.	摘要 Remarks.

備考　1. 第六條第二項又ハ第十三條第二項ニ依リ附記スヘキ事項ハ之ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

第二號樣式

積荷（運送）申告書

申告者……………

到著（發送）日時大正　年　月　日

民政署長　殿

車輛番號	積出地	到著地	荷印番號	品名	箇數	數量	荷受人	荷出人	摘要

備考　1. 第六條第二項又ハ第十三條第二項ニ依リ附記スヘキ事項ハ之ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

第三號樣式

Import

....19....

To The Administrator of The..........

Civil Administration Office of Kwantung Government.

Vessel .... from..........

Date of arrival..............

Applicants..............

Declared that the following good imported.

輸入申告書

下記貨物汽船便ニ依リ輸入致シ候ニ付此段申告候也

大正　年　月　日

民政署長　殿　　申告者

一　入港月日

一　船名

一　積出地名

Marks. B/L No. 荷印及船荷證券番號	Pkgs. 件數	Place of Production or manufacture. 產出地若ハ製造地	Description of Goods. 品名		Pieces. 箇數	Weight 量目		Value. 價格
			Japanese or English. 日本文又ハ英文	Chinese. 支那文		Piculs. 擔	cts. 斤	

第四號樣式

Import.

....19....

To The Administrator of The..........

Civil Administration Office of Kwantung Government.

By Train..........to..........

Date of arrival..............

Applicant..............

Declared that the following Goods imported.

輸入申告書

下記貨物汽車便（何々）ニ依リ輸入致シ候ニ付此段申告候也

大正　年　月　日

民政署長　殿　　申告者

一　發出地

一　到著月日

一　車輛番號（何々）

Marks. 荷印	Pkgs. 件數	Place of Production or manufacture. 產出地若ハ製造地	Description of Goods. 品名		Pieces. 箇數	Weight. 量目		Value. 價格
			Japanese or English. 日本文又ハ英文	Chinese. 支那文		Piculs. 擔	cts. 斤	

第九款　清涼飲料稅

●清涼飲料稅法　大正十五年三月二十七日法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清涼飲料稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

清涼飲料稅法

第一條　本法ニ於テ清涼飲料ト稱スルハ炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ヲ謂フ但シ全重量ノ萬分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ及全容量ノ百分ノ一以上ノ純酒精ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第二條　清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料稅ヲ課ス

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ

　一石ニ付　七圓

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ

　一石ニ付　十圓

第三種　壜詰以外ノモノ

　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付　三圓

第三條　清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ容器ニ充塡スルコトハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ第二種ノ清涼飲料ノ製造ト看做ス天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ原料トシテ第三種ノ清涼飲料ヲ製造スルコト亦同シ

第四條　清涼飲料稅ハ第一種及第二種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル石數ニ應シ、第三種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ使用セラレタル炭酸瓦斯ノ量ニ應シ清涼飲料製造者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　清涼飲料ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ製造場外ニ移出セラレタルモノト看做ス

一　製造場內ニ於テ飲用セラレタルトキ

二　製造場內ニ現存スルモノ公賣セラレタルトキ

三　製造免許取消ノ場合ニ於テ製造場內ニ現存スルトキ

第六條　清涼飲料製造者ハ毎月其ノ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニ付第二條ノ區分毎ニ其ノ石數又ハ炭酸瓦斯使用量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

但シ前條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ課稅標準額ヲ決定ス

第七條　清涼飲料稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ第五條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第八條　清涼飲料製造者カ外國ニ輸出スル目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料稅ヲ免除ス

前項ノ清涼飲料ニシテ製造場外ニ移出セラレタル後六月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　前條第一項ノ清涼飲料ハ之ヲ內地ニ於テ消費シ又ハ內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ納付スヘシ

第十條　政府ハ清涼飲料稅ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅ノ保證トシテ清涼飲料製造者ニ對シ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十一條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ハ清涼飲料ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ帳簿ニ記載スヘシ

清涼飲料ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條　收稅官吏ハ清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ所持ニ係ル清涼飲料、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及清涼飲料ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器具、器械、原料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　製造免許ヲ受ケスシテ清涼飲料ヲ製造シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料竝其ノ容器、器具及器械ハ之ヲ沒收ス

第十四條　清涼飲料ノ製造者第六條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ清涼飲料稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタル者ハ其ノ清涼飲料稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十六條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者清涼飲料ノ製造出入ニ關スル帳簿書類若ハ原料ヲ隱匿シ又ハ帳簿ノ記載若ハ第十一條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ若ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條　收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條　清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條　第十條ノ規定ニ依ル擔保ヲ提供セサル者、第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依リテ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ清涼飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル清涼飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ清涼飲料ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ石數ニ應シ第二條第二種ノ稅率ニ依リ算出シタル清涼飲料稅ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第二十一條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　第十一條、第十二條、第十六條乃至第十八條及第二十一條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル清涼飲料ノミヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス

附　則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者本法施行後一月以內ニ其ノ旨政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス

●清涼飲料稅法施行規則　大正十五年三月三十一日勅令第三十三號

朕清涼飲料稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

清涼飲料稅法施行規則

第一條　清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルコトヲ得

一　著シク交通不便ナル地ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

二　清涼飲料稅法第十九條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者其ノ他稅務署長ニ於テ免許ヲ與フルニ不適當ト認メタル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條　清涼飲料ノ製造場ハ其ノ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　清涼飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ圖面、製造用器具器械ノ目錄及清涼飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　清涼飲料ノ製造者カ製造ニ著手セムトスルトキ、一月以上製造ヲ休止セムトスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキハ其ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ其ノ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第六條　清涼飲料ノ製造者ハ毎年二月中ニ其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ期間ニ

於テ製造スル清涼飲料ニ付第一種及第二種ニ在リテハ製造見込石數、第三種ニ在リテハ炭酸瓦斯使用見込數量ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ見込石數又ハ見込數量ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　清涼飲料ノ製造者死亡又ハ隱居シタルトキハ相續人ハ其ノ旨ヲ直ニ所轄稅務署ニ申告シ製造免許ノ承繼ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外清涼飲料ノ製造業ヲ承繼セムトスル者ハ製造者ト連署シタル製造免許承繼ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第八條　清涼飲料ノ製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ製造場ヲ定メテ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　清涼飲料ノ製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十條　清涼飲料稅法第六條ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ

清涼飲料ノ製造者前項ノ申告書ヲ提出セス又ハ稅務署長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スヘシ

第十一條　外國ニ輸出スル清涼飲料ニ付清涼飲料稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　前條ノ清涼飲料ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ移出後六月以內ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十三條　外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ製造者ハ其ノ事實ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所カ前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ承認ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所轄稅務署ニ通知スヘシ

第十四條　清涼飲料稅法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ清涼飲料カ前項稅務署ノ管轄外ニ在ルトキハ其ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ所在地所轄稅務署ヨリ承認書ノ交付ヲ受ケ之ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ承認書ノ交付ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所轄稅務署ニ通知スヘシ

製造場所轄稅務署第一項ノ申請ニ因リ承認ヲ爲シ又ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收スヘシ

第十五條　外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ清涼飲料稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十六條　清涼飲料ノ製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ第六條ノ期間ニ於ケル清涼飲料製造見込石數又ハ炭酸瓦斯使用見込數量ニ對スル稅額ノ四分ノ一ニ相當スル金額ノ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一　清涼飲料稅法ヲ犯シテ處罰又ハ處分セラレタルトキ

二　清涼飲料稅ニ付滯納處分ヲ受ケタルトキ

三　清涼飲料稅ノ逋脫ヲ圖ルノ行爲アリト認ムルトキ

第十七條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十八條　擔保物ヲ提供シタル者清涼飲料稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十九條　清涼飲料ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類及數量、他ヨリ引取リタル原料ニ在リテハ尙引取ノ日竝其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三　製造シタル清涼飲料ノ種類、數量及製造ノ日

四　移出シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及移出ノ日竝其ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十條　清涼飲料ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及引取ノ日竝其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二　販賣シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及販賣ノ日竝其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十一條　清涼飲料ノ製造者ハ左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　製造ニ著手セムトスルトキ

二　原料ヲ清涼飲料ノ製造以外ニ使用セムトスルトキ

三　製造場ト同一場所ニ於テ小賣販賣業ヲ兼營セムトスルトキ

四　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第二十二條　第一條、第五條、第七條乃至第九條、第十九條及第二十條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス但シ同規定中免許、免許取消又ハ許可ノ申請ヲ要スル事項ニ付テハ申告書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第二十三條　收稅官吏ハ清涼飲料又ハ炭酸瓦斯ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

清涼飲料稅法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シタル申告書ニ清涼飲料稅法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ第四條第一項ノ書類ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

本令施行前ヨリ引續キ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ハ本令施行後一月以內ニ第一條ニ準シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

大正十五年ニ限リ第六條ノ規定中二月中トアルハ四月中トス

第十款　印紙稅

●印紙稅法（明治三十二年三月十日法律第五十四號）

改正　明治三四年第一六號、四〇年第二七號、四二年第四二號、四三年第一四號、四四年第四一號
大正一一年第四七號、一二年第一二號、一四年第二二號

（昭和二年第七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

印紙稅法

第一條　財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條　削除

第三條　削除

第四條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ、帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一　不動產、鐵道財團、軌道財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書
二　消費貸借ニ關スル證書
三　請負ニ關スル證書
四　運送ニ關スル證書
五　傭船契約書

記載金高五十圓以下ノモノ　二錢
同百圓以下ノモノ　三錢
同五百圓以下ノモノ　十錢
同千圓以下ノモノ　二十錢
同一萬圓以下ノモノ　五十錢
同一萬圓ヲ超ユルモノ　一圓
記載金高ナキモノ　三錢
二錢

六　委任狀
七　約束手形
八　爲替手形
九　銀行預金證書
十　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書
十一　產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル出資證券
十二　船荷證券
十三　運送貨物引換證
十四　倉庫證券
十五　保險證券
十六　株券
十七　債券
十八　相互保險會社ノ發スル基金證券
十九　株式申込證
二十　社債申込證
二十一　地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書
二十二　使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書
二十三　信託行爲ニ關スル證書
二十四　無盡ニ關スル證書
二十五　定款又ハ組合契約書
二十六　權利ノ變更ニ關スル證書
二十七　追認又ハ承認ニ關スル證書
二十八　物品切手
二十九　受取書
三十　質權、抵當權ニ關スル證書
三十一　前各號以外ノ證書　三錢
三十二　預金通帳
三十三　前號以外ノ通帳　五錢
三十四　判取帳　五十錢

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第五條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一　官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
二　官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
三　國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
四　慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書
五　小切手
六　產業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券
七　記載金高十圓未滿ノ約束手形及爲替手形
八　貯金通帳、積金通帳又ハ積金證書（貯蓄銀行法第一條ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル）
九　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ
十　記載金高一圓未滿ノ物品切手
十一　賣買仕切書
十二　物品又ハ有價證券ノ賣買契約證書
十三　送狀
十四　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
十五　主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書
十六　手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
十七　株券又ハ債券ニ記載シタル讓渡ノ證明書
十八　手形ノ引受及保證
十九　手形又ハ證券ノ拒絕證書
二十　手形又ハ證券ノ複本及謄本
二十一　農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券
二十二　質札又ハ質物通帳（質屋營業者ノ發スルモノニ限ル）
二十三　勤務通帳
二十四　乘車券、乘船券又ハ各種入場券
二十五　第四條第一號乃至第五號及第三十一號ノ證書ニシテ記載金高十圓未滿ノモノ

第六條　印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條　一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條　證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條　印紙ヲ貼用スヘキ證書、帳簿ニシテ營業ニ關スルモノハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十一條　證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書、帳簿一箇每ニ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス

第十二條　第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第十三條　第九條ニ違背シタル者ハ證書、帳簿一箇每ニ二圓ノ科料ニ處ス

第十四條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法中犯罪ノ不成立、刑ノ減免、併合罪及酌量減輕ノ例ヲ用ヰス但シ第十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ二　證書、帳簿ノ作成名義人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人等カ名義人ノ爲ニ作成スル證書、帳簿ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ之ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ名義人ヲ處罰ス

附　則

第十五條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附　則（大正十四年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百六十八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

附　則（昭和二年法律第七號）

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙税ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●税印押捺請求方

（明治三十二年三月十一日大藏省令第五號）
改正　明治三四年第一六號、三五年第二八號、三六年第五號、第一一號、第一三號、第二〇號、第二二號、第三一號、三七年第二三號、四二年第五〇號　大正二年第一五號、一一年第一七號、一五年第四六號　昭和二年第二二號

印紙税法第六條ニ依リ税印ノ押捺チ求メムトスル者ハ適宜ノ税務署ニ申出税金チ納付シ其ノ領收書又ハ税務署ノ納税済證明書チ添ヘ用紙ト共ニ請求書チ札幌、東京、大阪、名古屋、仙臺、廣島、熊本、各税務監督局又ハ函館、小樽、上京、横濱、神戸、長崎、金澤、前橋、川越、宇都宮、甲府、大津、靜岡、濱松、姫路、岡山、佐賀、長野、松本、新潟、長岡、足利、四日市（三重縣）、津、岐阜、盛岡、福島、青森、秋田、山形、酒田、米澤、福井、富山、高岡、尾道、下關、松江、高松、徳島、高知、松山、福岡、小倉、大分、鹿兒島税務署ニ提出スヘシ

税印押捺請求者ハ口頭チ以テ前項ノ請求チ爲スコトチ得

税印押捺請求者用紙返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手チ併セ提出スルトキハ税務監督局又ハ税務署ハ税印押捺ノ上郵便チ以テ用紙ノ返送チ爲スヘシ

（明治三十四年五月十四日大藏省告示第二十一號）

明治三十二年省令第五號ニ據リ提出スル税印押捺請求書ニハ其證書用紙ノ價格チ記載ス可シ

（明治三十九年九月二十日大藏省令第四十一號）

印紙税法第六條ニ依リ税印押捺チ受ケタル用紙ニシテ證書又ハ帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙チ提出シテ更ニ税印ノ押捺チ請求スルコトチ得但シ損傷又ハ汚染用紙ノ税印ノ抹消チ受クヘシ

●印紙税令

（大正八年三月二十七日制令第六號）
改正　大正一二年第一二號、一五年第四號

印紙税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁チ得テ玆ニ之チ公布ス

印紙税令

第一條　證書、帳簿チ作成スル者ハ本令ニ依リ印紙税チ納ムヘシ

印紙税ニ關シテハ印紙税法ニ依ル但シ同法中産業組合トアルハ産業組合又ハ金融組合、産業組合聯合會トアルハ産業組合聯合會又ハ金融組合聯合會トス

第二條　印紙税法第四條及第五條ノ證書、帳簿ト類似ノ效用チ有スルモノニ付テハ其ノ名稱ニ拘ラス同條ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之チ施行ス

本令施行前作成シタル帳簿チ引續キ使用スルトキハ新ニ帳簿チ作成シタルモノト看做ス

●税印押捺申請方

（大正八年三月二十八日朝鮮總督府令第三十六號）

印紙税令ニ依ル税印押捺申請方ノ件左ノ通定ム

印紙税法第六條但書ノ規定ニ依リ税印ノ押捺チ受ケムトスル者ハ口頭又ハ書面チ以テ便宜ノ府郡島ニ其ノ旨チ申告シ印紙税額ニ相當スル現金チ納付シ其ノ領收證チ添ヘ押印チ受クヘキ用紙ノ種類、數量及印紙税額チ記載シタル申請書チ朝鮮總督ノ指定スル府郡島ニ提出スヘシ

證書用紙ニ關スル前項ノ申請書ニハ其ノ記載金高チ記載スヘシ

税印押捺申請者其ノ申請ニ係ル用紙チ郵便ニ依リ返送チ受ケムトスルトキハ返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手チ添ヘ其ノ旨申出ツヘシ

税印押捺済ノ用紙ニシテ證書又ハ帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙チ提出シ更ニ税印ノ押捺チ請求スルコトチ得但シ損傷又ハ汚染用紙ノ税印ハ其ノ抹消チ受クヘシ

本令ハ印紙税令施行ノ日ヨリ之チ施行ス

●税印押捺請求方

（大正三年四月十七日臺灣總督府令第二十九號）
改正　大正一四年第五八號

印紙税法第六條但書ニ依リ税印ノ押捺チ受ケムトスル者ハ臺灣總督府若ハ所轄州、廳ニ口頭又ハ書面ニテ其ノ旨申告シ印紙税額ニ相當スル現金チ納付シ其ノ領收證及押印チ受クヘキ用紙、帳簿ト共ニ別記様式ノ押印請求書チ臺灣總督府ニ提出スヘシ

前項ノ請求者其ノ請求ニ係ル用紙、帳簿ノ押印済通知チ受ケタルトキハ別記様式ノ領收證チ臺灣總督府ニ提出シ之チ受領スヘシ

郵便ニ依リ用紙、帳簿ノ返送チ受ケムトスルトキハ郵便料金ニ相當スル郵便切手チ提出シ其ノ返送チ求ムルコトチ得

押印済ノ用紙、帳簿ニシテ證書又ハ帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙、帳簿チ提出シテ更ニ税印ノ押捺チ請求スルコトチ得但シ損傷又ハ汚染シタル用紙、帳簿ハ其ノ税印ノ抹消チ受クヘシ

（別記様式）

押印請求書

臺灣總督府總務長官宛

用紙帳簿ノ種類	何々會社株券（何々會社債券）（物品切手）（通帳）（何々）
用紙帳簿ノ數量	何枚（何册）
印紙税額	總額　何程 一枚（册）ニ付税額何程
用紙帳簿ノ價格	一枚（册）ニ付何程
請求年月日	大正　年　月　日
請求者住所氏名印	何州（廳）何郡（市）（何々）何街（庄）（何々）何區（何々）何番地 何　某　印

領收證

一何々會社株券（何々）　何枚（何册）

但何年何月何日附請求ニ係ル分

右領收候也

大正　年　月　日

臺灣總督府總務長官宛

請求者住所氏名　印

●税印押捺請求方

（大正九年八月二十日樺太廳令第二十一號）

印紙税法ニ依ル税印押捺請求方ノ件左ノ通定ム

印紙税法第六條但書ノ規定ニ依リ税印ノ押捺チ受ケムトスル者ハ口頭又ハ書面ニテ所轄樺太廳支廳又ハ支廳出張所ニ其ノ旨申告シ印紙税額ニ相當スル現金チ納付シ其ノ領收證及押印チ受クヘキ用紙チ添ヘ別記様式ノ請求書チ樺太廳ニ提出スヘシ

税印押捺済ノ用紙ニシテ證書又ハ帳簿調製前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙チ提出シ更ニ税印ノ押捺チ請求スルコトチ得但シ此ノ場合ニ於テハ損傷

又ハ汚染シタル用紙ノ税印ハ抹消チ受クヘシ

前各項ノ請求者郵便ニ依リ其ノ請求ニ係ル用紙ノ返送チ受ケムトスルトキハ之ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手チ添ヘ其ノ旨申出ツヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之チ施行ス

（別記）

様式

税印押捺請求書

「何」郡「何」町（村）大字「何」字「何」「何」番地

「何　某」㊞

大正「何」年「何」月「何」日

樺太廳長官宛

用紙（帳簿）ノ種類	「何々」會社株券（物品切手、通帳何々）
用紙（帳簿）ノ數量	「何」枚（何册）
印紙税額	總額「何程」一枚（册）ノ税額「何程」
用紙（帳簿）ノ價格	一枚（册）ニ付「何程」

第十一款　取引所税

●取引所税法

（大正年三月三十一日法律第二十三號）
改正　大正一一年第六一號

朕帝國議會ノ協贊チ經タル取引所税法改正法律チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

取引所税法

第一條　取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業税チ課ス

第二條　取引所ハ毎月ノ賣買手數料收入金額チ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之チ申告スヘシ

前項ノ申告チ爲サス又ハ政府ニ於テ申告チ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額チ決定ス

第三條　取引所營業税ハ毎月分チ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之チ納付スヘシ

第四條　會員組織ノ取引所ニハ取引所營業税チ課セス

第五條　取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決濟チ爲シ得ルモノニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ税率ニ依リ取引税チ課ス

第一種　地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲　七日以内ノ期限チ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ　萬分ノ〇・六

乙　其ノ他ノモノ　萬分ノ一

第二種　有價證券ノ賣買取引

甲　七日以内ノ期限チ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ　萬分ノ一・五

乙　其ノ他ノモノ　萬分ノ二・五

第三種　商品ノ賣買取引　萬分ノ二・五

賣買チ解約スルモ其ノ税金ハ之チ免除セス

第六條　削除

第七條　國債證券ノ賣買取引ニハ取引税チ課セス

第八條　取引所ノ取引員又ハ會員ハ取引税チ課セラルヘキ毎月分ノ賣買取引ノ賣買各約定金高チ種別及其ノ區分毎ニ記載シタル申告書チ取引所チ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書チ調査シ其ノ當否ニ付意見チ付シ前項ノ期間内ニ之チ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所チシテ申告書ノ調査チ爲サシムル爲取引員又ハ會員ハ第一項ノ期日前相當ノ期間内ニ申告書チ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高チ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額チ決定ス

第九條　取引所ノ取引員又ハ會員ハ毎月分ノ税金チ取引所チ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ

第十條　政府ハ取引税ノ納税告知書チ取引所ニ交付シ取引所ハ之チ其ノ取引員又ハ會員ニ送達スヘシ此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時チ以テ其ノ取引員又ハ會員ニ送達アリタルモノト看做ス

取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ納付スヘキ税金チ取纏メ前條ノ納期内ニ之チ政府ニ送付スヘシ

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル税金チ送付セサルトキハ國税徴收法ニ依リ取引所ヨリ之チ徴收ス

第十一條　取引所ノ取引員又ハ會員カ廢業脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格チ失ヒタルトキハ課税標準額ノ申告及取引税ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之チ爲スヘシ

前項ノ規定ハ取引所ノ廢業シタル場合ニ於テ取引税ニ付之チ準用ス

第十二條　取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ取引税ノ納付ニ付保證ノ責ニ任ス

取引所ノ取引員又ハ會員納期内ニ取引税チ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之チ徴收スルコトチ得

第十三條　取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項チ帳簿ニ記載スヘシ

取引所ノ取引員又ハ會員ハ賣買取引ニ關スル事項チ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條　收税官吏ハ取引所、取引所ノ取引員又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類チ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分チ爲スコトチ得

第十五條　取引所第二條ノ申告チ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金チ徴收ス

第十六條　取引所ノ取引員又ハ會員第八條又ハ第十一條ノ申告チ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金チ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額チ百圓トス

第十七條　取引所法第二十五條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ取引税ニ關シテハ取引所ニ於テ賣買取引チ爲シテ脱税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金チ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額チ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額チ以テ賣買各約定金高トス

第十七條ノ二　取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ第五條ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決濟チ爲シタルトキハ取引物件ノ種別ニ從ヒ其ノ最高税率ノ取引税チ課セラルヘキ賣買取引チ爲シテ脱税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金チ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額チ百圓トス

前項ノ場合ニ於ケル税額ハ賣買各約定金高ニ依リ計算ス

第十八條　取引所ノ取引員又ハ會員ノ爲シタル第八條又ハ第十一條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之チ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脱税スルニ至ラシメタルトキハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額チ百圓トス

第十九條　取引所又ハ取引所ノ取引員若ハ會員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下

ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　取引所第八條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二　賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三　收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第二十條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第二十一條　取引所ノ取引員又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ取引員又ハ會員ヲ處罰ス

第二十二條　北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ取引所營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ規定ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

本法施行前ノ賣買取引ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ取引所稅ヲ徵收ス

本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手數料ニシテ本法施行後ニ收入スルモノハ取引所營業稅ノ課稅標準額ニ算入セス

明治三十九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十一年法律第六十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

●取引所稅法施行規則（大正十一年勅令第三百八十九號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

（大正三年七月六日 大藏省令第十三號）改正　大正一一年第五一號

取引所稅法施行規則左ノ通定ム

取引所稅法施行規則

第一條　取引所設立ノ免許ヲ受ケタルトキハ定款及業務規程ヲ添ヘ免許ノ年月日ヲ十日以內ニ所轄稅務署ニ届出ツヘシ定款若ハ業務規程變更ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ變更ヲ命セラレタルトキ亦同シ

取引所免許繼續ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ届出ツヘシ

第二條　取引所開業シタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ廢業シタルトキ亦同シ

第三條　取引所ハ取引所稅法第二條ニ依ル取引所營業稅課稅標準額申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條ノ一　支所ヲ設クル取引所ニ在リテハ前三條ニ依ル届出又ハ申告ハ本支所各別ニ其ノ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタル者又ハ取引所ノ會員ト爲リタル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、營業所、所屬取引所及免許ヲ受ケ又ハ會員ト爲リタル年月日ヲ直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ届出ツヘシ

取引所ノ取引員又ハ會員カ廢業、脫退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ申告スヘシ但シ死亡又ハ解散シタルトキハ所屬取引所ヨリ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第五條　取引所稅法第八條ニ依ル取引稅課稅標準額申告書ハ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ

附　則

本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開業セル取引所及現ニ仲買人又ハ會員タル者ハ本令施行後二十日以內ニ第一條又ハ第四條ノ届出ヲ爲スヘシ

●朝鮮取引所稅令（大正十年四月十五日 制令第六號）

朝鮮取引所稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮取引所稅令

第一條　取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十ノ割合ニ依リ取引所稅ヲ課ス

第二條　取引所ハ每月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢業シタルトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第三條　取引所稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業シタルトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條　取引所ニ於ケル定期取引ニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ萬分ノ五ノ割合ヲ以テ取引稅ヲ課ス但シ轉賣及買戾ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣買ヲ解約スルモ取引稅ハ之ヲ免除セス

第五條　取引所ノ仲買人ハ每月分ノ定期取引ノ賣買各約定金高ヲ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ附シ前項ノ期限迄ニ之ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲仲買人ハ第一項ノ期限前相當ノ期間內ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ政府其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第六條　仲買人ハ每月分ノ稅金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ

第七條　取引稅ノ納稅告知書ハ取引所ヲ經テ之ヲ其ノ仲買人ニ送達ス此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時ヲ以テ仲買人ニ送達シタルモノト看做ス

取引所ハ仲買人ノ納付スヘキ稅金ヲ取纏メ前條ノ期限迄ニ之ヲ政府ニ送付スヘシ

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル稅金ヲ送付セサルトキハ國稅徵收令ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　仲買人カ廢業、除名其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課稅標準額ノ申告及取引稅ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ

仲買人カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ前項ノ規定ニ準シ課稅標準額ノ申告及取引稅ノ納付ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ハ取引所カ廢業シタル場合ニ於テ取引稅ニ付之ヲ準用ス

第九條　取引所ハ仲買人ノ取引稅ノ納付ニ付保證ノ責ニ任ス

仲買人納期內ニ取引稅ヲ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十條　取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

仲買人ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十一條　稅務官吏ハ取引所又ハ仲買人ニ就キ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査シ又ハ徵稅上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　取引所第二條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ脫稅高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第十三條　取引所ノ仲買人第五條若ハ第八條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ハ百圓トス

第十四條　取引所ノ仲買人委託ヲ受ケタル定期取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲シタルトキハ取引稅ニ關シテハ取引所ニ於テ定期取引ヲ爲シテ脫稅シタルモノト看做シ其ノ稅金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ハ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス

第一項ノ稅金ニ關シテハ第五條乃至第七條及第九條ノ規定ヲ適用セス

第十五條　取引所ノ仲買人ノ爲シタル第五條又ハ第八條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス因リテ脫稅スルニ至ラシメタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ハ百圓トス

第十六條　取引所又ハ其ノ仲買人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　取引所第五條又ハ第八條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二　賣買手數料若ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三　稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

附　則

本令ハ大正十年四月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手數料ニシテ本令施行後ニ收入スルモノハ取引所稅ノ課稅標準額ニ之ヲ算入セス

●朝鮮取引所稅令施行規則（大正十年四月十五日 朝鮮總督府令第五十八號）

朝鮮取引所稅令施行規則左ノ通定ム

朝鮮取引所稅令施行規則

第一條　取引所ハ朝鮮取引所稅令第二條ニ依ル取引所稅課稅標準額申告書ヲ府尹ニ提出スヘシ

第二條　取引所仲買人ノ業務ヲ停止シ又ハ停止ヲ解キタルトキハ其ノ仲買人ノ住所、氏名、事由及事實發生ノ年月日ヲ直ニ府尹ニ申告スヘシ

第三條　取引所ノ仲買人其ノ業務ヲ開始シ、廢止シ又ハ休止シタルトキハ其ノ營業所及事實發生ノ年月日ヲ直ニ府尹ニ申告スヘシ

第四條　朝鮮取引所稅令第五條ニ依ル取引稅課稅標準額申告書ハ取引所之ヲ府尹ニ提出スヘシ

附　則

本令ハ朝鮮取引所稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際仲買人ニシテ現ニ其ノ業務ヲ停止セラレ又ハ之ヲ休止セルモノアルトキハ取引所又ハ仲買人ハ第二條又ハ第三條ノ規定ニ準シ直ニ之ヲ府尹ニ申告スヘシ

●關東州取引所稅規則（大正九年三月十九日 關東廳令第八號）

關東州取引所稅規則左ノ通定ム

關東州取引所稅規則

第一條　取引所營業稅ノ稅率ハ賣買手數料收入金額百分ノ十五トス

第二條　株式會社組織ノ取引所ハ每月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ申告スヘシ但廢業シタルトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ官ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ官ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第三條　取引所營業稅ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業シタルトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條　取引稅ノ稅率左ノ如シ

第一種	地方債證券社債券	（定期取引ノ賣買各約定金高）	萬分ノ一・五
第二種	有價證券	同	萬分ノ三
第三種	商品	同	萬分ノ二
第四種	錢鈔	同	（關東州內十萬分ノ一 關東州外十萬分ノ五）

第五條　國債證券ノ定期取引ニハ取引稅ヲ課セス

第六條　取引人ハ每月分ノ定期取引ノ賣買各約定金高ヲ種別每ニ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ官ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ附シ前項ノ期間內ニ之ヲ官ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲取引人ハ第一項ノ期日前相當ノ期間內ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ官ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ官ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第七條　取引人ハ每月分ノ取引稅金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ官ニ納付スヘシ

第八條　取引稅ノ納稅告知書ハ取引所ヲ經テ之ヲ取引人ニ送達ス此ノ場合ニ於テハ株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ取引所ニ交附シタル時ヲ以テ其ノ取引人ニ送達シタルモノト看做ス

取引所ハ其ノ取引人ノ納付スヘキ稅金ヲ取纏メ前條ノ期間內ニ之ヲ官ニ納付スヘシ

株式會社組織ノ取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル稅金ヲ送付セサルトキハ租稅其ノ他公課徵收ノ例ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第九條　取引人カ廢業其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課稅標準額ノ申告及取引稅ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ取引所廢業シ又ハ官ニ於テ取引所ヲ閉鎖シタル場合ニ於ケル取引稅ニ付之ヲ準用ス

第十條　株式會社組織ノ取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

取引人ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十一條　株式會社組織ノ取引所又ハ取引人第二條、第六條又ハ第九條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ直ニ其ノ稅金ヲ追徵ス

第十二條　關東州取引所規則第二十九條第九號ニ該當スル者アリタルトキハ取引稅ニ關シテハ取引所ニ於テ定期取引ヲ爲シテ脫稅シタルモノト看做シ二百圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ追徵ス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス

第一項ノ稅金ニ關シテハ第六條乃至第八條ノ規定ヲ適用セス

第十三條　取引人ノ爲シタル第六條又ハ第九條ノ申告不當ナル場合ニ於テ株式會社組織ノ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ官ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅スルニ至ラシメタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　株式會社組織ノ取引所又ハ取引人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　株式會社組織ノ取引所第六條又ハ第九條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二　賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三　當該官吏、吏員ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第十五條　取引人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ヲ犯シタルトキハ其ノ取引人ヲ處罰ス

第十六條　本令ニ規定セル官ノ職務ハ關東州ニ在リテハ民政署長、南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二款　兌換銀行券發行稅

●兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律（明治三十二年三月十日 法律第五十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本銀行納稅ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏大臣副署）

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス

納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモノトス

（明治三十二年三月二十七日 大藏省令第九號）改正　明治三三年第二三號、三五年第二八號

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ每日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以テ除シタルモノトス

稅額ハ一箇月每ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス

日本銀行ハ左記樣式ニ準シ每月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限リ之ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

兌換銀行券條例第二條第二項ニ依ル兌換銀行券發行額表

【明治】何年何月分

日本銀行總裁氏名印

何々	何々	差引課税スヘキ高

日付	實際發行高	政府貸上高	銀行紙幣消却貸付金	何々
1				
2				
3				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
,				
計				
平均				
税額				

第十三款　砂鑛區税

●砂鑛區税法（明治四十三年三月二十五日法律第九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛區税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、農商務大臣副署）

砂鑛區税法

第一條　砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區税ヲ課ス

河床　砂鑛區域一町毎ニ　金三十錢

河床ニ非サルモノ　砂鑛區域一千坪毎ニ　金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算ス

第二條　砂鑛區税ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區税ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區税ニ對シ百分ノ十以內ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中砂金採取地税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十四款　噸税

●噸税法（明治三十二年三月二十四日法律第八十八號）

（改正　昭和四年第三一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル噸税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

噸税法

第一條　外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ其ノ入港毎ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付七錢ノ噸税ヲ課ス

但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付二十一錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸税ヲ納ムルヲ要セス

帝國ト測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算ス

第二條　噸税ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關ニ納付スヘシ

第三條　海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル船舶ニハ噸税ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

第四條　稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲スコトヲ得

第五條　噸税ノ逋脱ヲ圖リ又ハ噸税ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ヲ其ノ逋脱ヲ圖リ若ハ納付セサリシ税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第六條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス但シ通告履行ノ期間ハ通告ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以內トス

第七條　噸税ノ徵收ニ關シテハ國税徵收法ヲ適用セス

附　則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十二年勅令第三百十八號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

附　則（昭和四年法律第三十一號）

本法ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前噸税法第一條第一項但書ノ規定ニ依リ一時ニ納付シタル噸税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●噸税法施行規則（明治三十二年六月三十日勅令第三百二十號）

（改正　大正一一年第一七四號）

朕噸税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

噸税法施行規則

第一條　噸税法第一條但書ニ依リ一時ニ噸税ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨税關又ハ税關支署ニ申告スヘシ

第二條　税關又ハ税關支署ニ於テ噸税ヲ徵收セントスルトキハ其ノ税金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シテ納税人ニ告知スヘシ

第三條　海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ税關又ハ税關支署ニ證明スヘシ但シ噸税ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　噸税納付濟ノ證明又ハ噸税法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ税關又ハ税關支署ニ申請シ證書一通ニ付手數料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條　犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關税法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ噸税法施行ノ日ヨリ施行ス

●朝鮮噸税令（大正九年八月二十六日制令第十八號）

朝鮮噸税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮噸税令

外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ噸税ヲ課ス

噸税ニ關シテハ噸税法ニ依ル但シ同法中國税徵收法トアルハ國税徵收令トス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ噸税ヲ納付シタル船舶ニハ其ノ噸税納付ノ日ヨリ四月間噸税ヲ課セス

本令施行前舊令ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●朝鮮噸税令施行規則（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百十八號）

（改正　大正一一年第四六號）

朝鮮噸税令施行規則左ノ通定ム

朝鮮噸税令施行規則

第一條　噸税法第一條但書ニ依リ一時ニ噸税ヲ納付セムトスル者ハ其ノ旨税關ニ申告スヘシ

第二條　噸税ヲ徵收セムトスルトキハ納付スヘキ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル納税告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

前項ノ規定ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則ニ依リ噸税ヲ徵收スル場合ニ之ヲ適用セス

第三條　海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ税關ニ證明スヘシ但シ噸税ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　噸税納付濟ノ證明又ハ噸税法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケムトスル者ハ税關ニ申請シ證書一通ニ付手數料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條　犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關税法及大正九年法律第五十三號施行規則ヲ準用ス

第六條　本令ニ於テ税關トアルハ税關支署ノ管轄內ニ在リテハ税關支署、税關出張所所在地ニ在リテハ税關出張所トス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣噸税規則（明治三十二年七月二十二日律令第二十二號）

（改正　明治四〇年第七號　大正五年第三號、九年第二號、第二二號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣噸税規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣噸税規則

第一條　外國貿易ノ爲外國ニ往來スル西洋形船舶開港ニ入港シタルトキハ其入港毎ニ登簿噸數一噸ニ付五錢ノ噸税ヲ課ス但シ登簿噸數一噸ニ付二十錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸税ヲ納ムルヲ要セス

第一條ノ二　前條ノ船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ噸税ヲ免ス

一　船用ニ供スル石炭、水又ハ食料品積載ノ爲基隆又ハ高雄ニ入港シタルトキ

二　郵便物又ハ仲繼貿易貨物ノ積卸ノ爲基隆又ハ高雄ニ入港シタルトキ

第二條　外國貿易ノ爲外國ニ往來スル日本形及支那形船舶開港ニ入港シタルトキハ其入港毎ニ千石以上ノモノニ在テハ五圓千石未滿ノモノニ在テハ三圓ノ噸税ヲ課ス

第三條　此規則ニ規定セサル事項ハ明治三十二年法律第八十八號噸税法ヲ適用ス

附　則

第四條　此規則施行ノ期日ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十二年臺灣總督府令第七十九號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

●臺灣噸税規則施行細則（明治三十二年八月四日臺灣總督府令第九十號）

（改正　明治三三年第四三號、四二年第四九號、大正一一年第一五三號）

臺灣噸税規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣噸税規則施行細則

第一條　税關又ハ税關支署ニ於テ噸税ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ税金額、期日及納付場所ヲ指定シタル納税告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ卽納セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　海難其他已ムヲ得サル事故ニ依リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其事由ヲ税關又ハ税關支署ニ證明スヘシ但噸税ヲ納付スル場合ハ此限ニアラス

第三條　噸税納付濟ノ證明又ハ噸税法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ税關又ハ税關支署ニ申請シ證書一通ニ付手數料金壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第四條　犯則ノ調査及處分手續ニ關シテハ臺灣關稅規則施行規則ヲ準用ス

附　則

第五條　本令ハ臺灣噸稅規則施行ノ日ヨリ施行ス

第十五款　關稅附出港稅

●關稅法

（明治三十二年三月十四日法律第六十一號）
改正　明治四〇年第二〇號、四四年第四四號　大正九年第四九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

關稅法

第一章　關稅ノ賦課及徵收
第二章　船舶
第三章　貨物
第一節　總則
第二節　輸出輸入及積戾
第三節　運送
第四節　郵便物
第五節　收容
第四章　稅關官吏ノ職權
第五章　異議及訴願
第六章　罰則
第七章　犯則事件ノ調査及處分
第八章　補則

關稅法

第一章　關稅ノ賦課及徵收

第一條　輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

第二條　輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條　關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四條　關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條　擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條　關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス但シ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス

第九條　前二條ノ期限內ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時效ヲ中斷ス

第二章　船舶

第十條　外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ稅關ニ入港屆ヲ爲シ積荷目錄、艙口申告書、船用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條　削除

第十二條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港屆ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條　外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條　削除

第十六條　船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目錄ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第十九條及第二十條　削除

第二十一條　外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條　本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章　貨物

第一節　總則

第二十四條　外國貨物ハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ難破貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　貨物ノ檢査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

保稅地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同シ

第二十七條　保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條　貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

外國貿易船ト沿海通航船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第二十九條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構內、保稅倉庫、稅關假置場、稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第三十條　貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節　輸出、輸入及積戾

第三十一條　貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ揭クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得

一　遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ
二　遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ
三　遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ
四　遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第三十二條　輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十三條　削除

第三十四條　輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條及第三十六條　削除

第三十七條　輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スコトヲ得ス

第三十八條　外國貨物ノ積戾ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戾ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　運送

第三十九條　外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保稅地域間又ハ開港ト保稅地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十九條ノ二　外國貨物ノ陸路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

第三十九條ノ三　外國貨物相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セサルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條ノ四　外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスル每ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十九條ノ五　左ニ揭クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保稅地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

一　假ニ陸揚シタル貨物
二　運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物
三　難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四十條　內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第四十一條　第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四節　郵便物

第四十二條　郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條　關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條　郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條　第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條、第三十七條乃至第三十九條ノ五及第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節　收容

第四十六條　保稅倉庫又ハ稅關假置場ヲ除クノ外保稅地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以內ニ其ノ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間內ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條　貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條　貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及數料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條　前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ貨物ヲ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條　貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、個數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、數料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

第五十一條　收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條　收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章　稅關官吏ノ職權

第五十三條　稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條　稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條　稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ檢査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條　稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五章　異議及訴願

第六十一條　關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條　從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條　評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ揭クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
二　第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者
三　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者
六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
四　當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條　異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條　異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條　第六十二條ノ稅關長ノ判定ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條　訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條　委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條　委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條　委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　罰則

第七十四條　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十五條ノ二　前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條　免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　貨物ト符合セサル積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條　第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條　第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條　第二十六條乃至第二十八條第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十二條　第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十二條ノ二　輸出又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合又ハ稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第八十二條ノ三　前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條ノ四　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第八十三條　本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯則者ヨリ追徵ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ犯則者ト看做ス

前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯則當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用ス

第七章　犯則事件ノ調査及處分

第八十四條　稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ著用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條　稅關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條　稅關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條　稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條　臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

第九十二條　稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條　稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條　犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間內ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條　稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章　補則

第九十八條　船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得

開港ト交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第九十九條　從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條　本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ暦ニ從フ

第百一條　本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百一條ノ二　稅關官吏ハ關稅定率法第五條ノ二ニ規定スル不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十四條、第八十六條、第八十七條、第八十九條及第九十一條ノ規定ヲ準用ス

第百二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三條　明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ牴觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

（明治三十二年勅令第三百十七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

●關稅法施行規則

明治三十二年六月三十日
勅令第三百十九號
改正　明治三八年第一八二號、第二二三號、三九年第二六〇號、四四年第一八四號
大正九年第三〇七號、第五八七號、一一年第一七五號
昭和三年第五六號

朕關稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

關稅法施行規則

第一章　關稅ノ賦課徵收及擔保

第一條　關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域內ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、個數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第二條ノ二　製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ規定ニ從フ

第三條　關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條　納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スヘシ

第五條　旅客ノ携帶品關稅法第三十一條但書ニ揭ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條　關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條　關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條　關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢又ハ國債ニ限ル

第十一條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十二條　削除

第十三條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ爲スヘシ

第十四條　前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、國債ノ種別、證券又ハ登錄ノ記號、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條　公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章　船舶ニ關スル手續

第十七條　船舶ノ入港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第十九條　艙口申告書ニハ艙口ノ所在、箇數、船用品目錄ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條　外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目錄又ハ運送目錄提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　船舶ノ出港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ曩ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條　外國貨物ヲ積載セル船舶日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ船卸ヲ爲ストキ又ハ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　警察官吏關稅法第十八條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關又ハ監視署ニ急報スヘシ

第二十六條　削除

第二十七條　外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サントスルトキハ其ノ記號、番號、品名、箇數、數量及陸揚ノ事由ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏ニ、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條　關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二　警察官吏前二條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關ニ通報スヘシ

第二十九條　沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量、原價及積入地ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章　貨物ニ關スル手續

第一節　總則

第三十條　日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ若ハ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ヲ爲ス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第三十二條　稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲ爲ス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其

ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條　稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第三十一條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第二節　貨物ノ輸出及積戾手續

第三十四條　輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、個數、數量、價格仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

關稅定率法第七條第十七號ニ依リ關稅ノ免除ヲ得ントスル外國產貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ

第三十五條　關稅定率法第八條又ハ第十條ニ依ル關稅免除ノ貨物ヲ法定期間內ニ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條　第三十四條第一項ノ規定ハ積戾申告ニ之ヲ準用ス

第三節　貨物輸入ノ手續

第三十七條　輸入申告書ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、個數、數量及價格ヲ記載スヘシ

第三十七條ノ二　輸入申告書ニ添附スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス

第三十八條　旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　關稅定率法第七條第十七號、第十八號及第二十二號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ輸入貨物內國產ニシテ稅關官吏ニ於テ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スル能ハサル理由アリト認ムルモノニ限リ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十條　關稅定率法第八條第二號乃至第八號及第十條ニ揭ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出ノ場所ヲ記載スヘシ

輸出ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ

第四十一條　削除

第四十二條　關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條　削除

第四十四條　郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ

郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四十五條　郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シタル通知書ニ其ノ理由ヲ記入シ稅關ニ還付スヘシ

第四節　貨物ノ運送

第四十六條　海路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ運送先、內外國貨物ノ區別、記號、番號、品名、個數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

陸路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ貨物ノ運送先、記號、番號、品名、個數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ二　關稅法第三十九條ノ五ニ揭ケタル外國貨物運送ノ認許ヲ受ケントスル者ハ運送先、貨物ノ品名、個數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第四十六條ノ三　關稅法第三十九條ノ五ニ依リ外國貨物ノ運送ヲ認許シタルトキハ其ノ認許證ニ前條ノ申請書ニ記載シタル事項ノ外指定通路ヲ記載スヘシ

警察官吏前項ノ認許ヲ爲シタルトキハ認許證ノ寫ヲ其ノ地所轄ノ稅關ニ送付スヘシ

第四十七條　運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ運送免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運送貨物免狀ト符合スルトキハ稅關ハ免狀ニ運送濟ノ旨ヲ記入シテ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第五節　貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條　關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及個數ヲ記載スヘシ

第四十九條　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨物ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項及關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第四十九條ノ二　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨主ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第五十條　收容貨物ノ敷料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章　異議

第五十一條　關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十二條　異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條　判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十五條　異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十六條　關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條　異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條　稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條　稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十條　評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作リ之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六十一條　評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章　犯則事件ノ調査及處分

第六十二條　差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條　差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條　關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條　臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十七條　稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第六十八條　關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ揭ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條　第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條　沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條　稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十二條　犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第六章　稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條　稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ土曜日ハ午後三時迄トス

第七十四條　稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第七章　雜則

第七十五條　關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚又ハ船積ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條　稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第七十七條　大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條　手數料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條　手數料、使用料收容貨物ノ費用及敷料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料及使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條　稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條　關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十二條　申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第八十三條　關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄內ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附　則

第八十四條　本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第八十五條　明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●關稅通路

（大正六年六月四日大藏省令第二十號）
（改正　大正六年第二七號、七年第一二號、九年第三三號）

明治四十四年大藏省令第二十九號左ノ通之ヲ改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法第三十九條ノ二ノ通路左ノ通之ヲ定ム

一、國有鐵道及之ト連絡運輸ヲ爲ス私設鐵道竝ニ輕便鐵道線路

前項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル左ノ直航水路

青森函館港間
舞鶴宮津港間
下關門司港間
下關港小森江間
下關釜山港間

二、隅田川口ヨリ小名木川、新川、江戶川ヲ經テ野田町ニ至ル水路

隅田川口ヨリ荒川ヲ經テ王子町ニ至ル水路

隅田川口ヨリ小名木川又ハ竪川ニ由リ中川ヲ經テ西小松川ニ至ル水路

前各號ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル橫濱港ヨリ隅田川口ニ至ル直航水路

橫濱港ヨリ帷子川ニ由リ保土ケ谷町ニ至ル水路

三、大阪市ヨリ淀川及疏水運河ニ由リ京都市ニ至ル水路

大阪市ヨリ新淀川及神崎川ヲ橫キリ尼ケ崎市ニ至ル水路

●稅關官吏證票樣式

（明治三十二年七月六日大藏省令第三十六號）

關稅法第八十七條ノ稅關官吏タル資格ヲ證明スル證票ノ樣式左ノ通相定ム

地質象皮　縱二寸　橫一寸五分

表

第何號

證　票

何（稅關 支署）之印

裏

稅關（監視 監吏）何某

●稅關收容貨物敷料

（明治四十二年三月十二日大藏省令第五號）
（改正　明治四四年第三〇號、大正九年第二三號）

關稅法施行規則第五十條ニ依リ收容貨物ノ敷料左ノ通定ム

關稅法第四十六條又ハ第四十九條ニ依リ收容スル貨物ノ敷料左ノ如シ

一　重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物

五百斤迄每ニ一日金三錢

二　前號以外ノ貨物

十立方尺迄每ニ一日金三錢

前項使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得

第一項ノ敷料ハ保稅地域ノ敷料又ハ使用料ノ外別ニ之ヲ徵收スルモノトス

收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年大藏省令第四十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ舊敷料定率表ニ依ル

●稅關所屬起重機使用料

（明治四十一年一月二十一日大藏省令第二號）改正 大正五年第二六號、八年第一一號、第一五號、九年第一八號

關稅法施行規則第七十七條ニ依リ稅關所屬ノ起重機ノ使用料左ノ通定メ明治四十一年三月一日ヨリ施行ス

起重機使用料

一電氣起重機

揚力一噸半ノモノ

一臺一時間迄每ニ　金壹圓

揚力三噸乃至五噸ノモノ

同　金壹圓五拾錢

揚力十五噸ノモノ

同　金四圓五拾錢

揚力五十噸ノモノ

同　金拾五圓

一蒸汽起重機

一浮動スルモノ

揚力二十噸ノモノ

同　金五圓

二其ノ他ノモノ

揚力五噸迄

同　金壹圓

以上揚力五噸迄ヲ增ス每ニ金五拾錢ヲ加フ

一手動起重機

揚力五噸迄

同　金五拾錢

以上揚力五噸迄ヲ增ス每ニ金貳拾五錢ヲ加フ

●稅關所屬土地建物使用料

（大正九年七月一日大藏省令第二十二號）

關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ土地建物ノ使用料左ノ通改正ス

第一條　貨物藏置ノ爲メ上屋又ハ上屋以外ノ土地ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納ムヘシ但シ輸出スヘキ貨物關稅定率法第七條第一號及第二號ノ物品竝ニ旅客ノ携帶セル旅具ハ此ノ限ニ在ラス

一　貨物搬入ノ日ヨリ五日迄　無料

二　貨物搬入ノ日ヨリ六日以上十五日迄

五百斤又ハ十立方尺迄每ニ

一日　金一錢

三　貨物搬入ノ日ヨリ十六日以後

五百斤又ハ十立方尺迄每ニ

一日　金二錢

前項ノ使用料ハ重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物ハ重量ニ依リ其ノ他ハ容積ニ依リ之ヲ徵收ス但シ徵收上便宜ト認ムルトキハ重量ニ依ルヘキモノヲ容積ニ依リ容積ニ依ルヘキモノヲ重量ニ依ラシムルコトヲ得

日數ノ計算ニハ搬入ノ日ハ之ヲ算入シ搬出ノ日ハ之ヲ算入セス

第二條　土地又ハ上屋其ノ他ノ建物ヲ專用スル者ハ左ノ使用料ヲ納ムヘシ

一　貨物藏置ノ爲メ土地又ハ上屋其ノ他ノ建物ヲ專用スル場合

一坪迄每ニ一月金二圓

但シ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

二　倉庫上屋其ノ他貿易設備ヲナス爲メ土地ヲ專用スル場合

一坪迄每ニ一月金一圓

前項ノ使用料ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年七月十六日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前ニ專用使用料ヲ納付シタルモノニハ之ヲ適用セス

●橫濱稅關ニ屬スル電燈使用料

（大正四年四月二十九日大藏省令第十三號）

關稅法施行規則第七十七條ニ依リ橫濱稅關ニ屬スル電燈ノ使用料左ノ通定メ大正四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

十六燭光電燈五燈每ニ一月金五圓

三十二燭光電燈五燈每ニ一月金十圓

但シ一月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ、十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

●稅關曳船使用料

（大正五年十二月十五日大藏省令第二十九號）

關稅法施行規則第七十七條及第七十八條ニ依リ稅關曳船使用料左ノ通定ム

第一條　稅關所屬ノ曳船ヲ使用スル者ハ使用料ヲ納付スヘシ

第二條　曳船使用料ハ一隻一回ニ付金三十圓以下トシ大藏大臣ノ認可ヲ得テ稅關長之ヲ定ム

曳船ノ使用豫定日時ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ稅關長ハ爾後延長一時間迄每ニ一隻ニ付金二圓ノ使用料ヲ增徵スルコトヲ得

第三條　稅關長ハ船舶繫離ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ曳船使用料ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正六年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●稅關手數料額

（明治三十五年七月十一日大藏省令第十七號）改正 明治三八年第四一號、三九年第四五號、四四年第三一號、大正三年第一七號、九年第二四號、第三二號、一二年第四號、昭和二年第一六號

明治三十二年大藏省令第三十四號左ノ通改正シ明治三十五年八月一日ヨリ施行ス

稅關及稅關支署臨時開廳特許手數料

一日出ヨリ日沒マテ

一時間マテ每ニ　十五圓

一日沒ヨリ午後十二時マテ

同　三十圓

一午後十二時ヨリ日出マテ

同　四十五圓

稅關支署ニ在テハ其地ノ狀況ニ依リ半額迄ニ低減スルコトヲ得但シ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手數料ハ前記特許手數料ノ三分ノ一トス

貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料

一日出ヨリ日沒マテ

一時間マテ每ニ　三圓

一日沒ヨリ午後十二時マテ

同　六圓

一午後十二時ヨリ日出マテ

同　九圓

但シ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手數料ハ前記特許手數料ノ三分ノ一トス

稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル檢査特許手數料

普通貨物檢査ノ爲稅關官吏ヲ派出スルトキ

一檢査ニ要スル時間

一時間マテ每ニ　五圓（航空機ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ付テハ二圓）

但旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

船內ニ於テ旅客携帶品檢査ノ爲稅關官吏ヲ乘船セシムルトキ

一乘船官吏一人每ニ

一箇月マテ每ニ　百四十圓

外國貿易船不開港出入特許手數料

一入港一回每ニ　四十五圓

外國貿易航空機ノ稅關飛行場ニ非サル場所ニ著陸スル場合ノ特許手數料

一著陸一回每ニ　拾圓

關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手數料

一證明　每一件　貳圓

一輸出入貨物日計表

每一件一箇月マテ每ニ　十圓

一其ノ他船舶貨物ニ關スル計表

每一件一枚マテ每ニ　五十錢但十三行三段詰ヲ以テ一枚ト計算ス

●航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則

（昭和二年六月三日大藏省令第十五號）

航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則左ノ通定ム

航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則

第一條　本令ニ於テ國際航空條約トハ大正八年十月巴里ニ於テ署名調印セラレタル航空ニ關スル條約及大正九年五月巴里ニ於テ署名セラレタル同條約議定書ヲ謂フ

第二條　外國貿易航空機稅關飛行場ニ著陸シタルトキハ其ノ航空機ノ長ハ直ニ稅關ニ航空機ノ國籍及登錄記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、出發地、著陸ノ日時竝乘組員ノ數ヲ記載シタル著陸屆ヲ爲シ貨物及旅行用品ノ積荷目錄、機用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ航空機ノ登錄證明書ヲ預クヘシ

第三條　國際航空條約第八附屬書九ノ規定ニ依リ航空機ニ對スル輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ其ノ航空機ノ長ハ當該航空機ノ國籍及登錄記號、機體及發動機ノ種類及型式、價格及一年ヲ超エサル限度ニ於テ再輸出ノ期間ヲ記載シタル免稅申請書ヲ最初ノ著陸地所轄稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ航空機ノ輸入稅ニ相當スル擔保ヲ供託セシムルコトヲ得

第四條　外國貿易航空機ノ離陸屆ハ航空機ノ國籍及登錄記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、仕向地及離陸ノ日時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條　外國貿易航空機ハ日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

國內通航機ニ外國貨物ノ積卸ヲ爲サムトスルトキ亦前項ニ同シ

第六條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ遭難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　航空機ノ積荷目錄及積載貨物ニ對スル稅關申告書ハ附屬樣式ニ依ルヘシ

第八條　關稅法及關稅法施行規則中、不開港、船舶ノ名稱及國籍、仕出港、港名及碇泊期間トアルハ之ヲ稅關飛行場ニ非サル場所、航空機ノ國籍及登錄記號、仕出地、飛行場名及停留期間トシ船舶ト陸地トノ交通トアルハ航空機ト飛行場外ノ場所トノ交通トス

第九條　國際航空條約第八附屬書八ノ規定ニ依リ指定セラレタル飛行場ハ該飛行場ニ著陸又ハ離陸ヲ許可セラレタル航空機トノ關係ニ於テハ之ヲ稅關飛行場ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式第一號

航空機積荷目錄

機……………登錄記號……………

機長…………氏名

住所

國籍

免狀ノ番號

貨物…………仕出地……………國

仕向地……………國

稅關申告書ノ番號

稅關官吏記入ノ爲ノ餘白

機長ハ本積荷目錄ノ內容ノ正確ナルコトヲ保障シ之ニ違反スルトキハ法律ノ規定スル刑罰ヲ受クヘキモノトス依テ本目錄末尾ニ日附ヲ記入シ且署名ス

積込番號	包裝ノ記號及番號	包裝ノ箇數（數字及文字ヲ以テス）及種類	貨物ノ性質	數量又ハ重量	荷受人	備考

備考　積荷目錄ハ抹殺又ハ訂正ヲ正當ナル稅關官吏ニ依リ承認セラレタル場合ノ外爲スコトヲ得ス又行間ニ文字ヲ挿入シ又ハ同一行ニ數箇ノ品目ヲ記載スルコトヲ禁ス必要ノ場合ニハ紙數ヲ追加スルコトヲ得

樣式第二號

仕出地

仕向地

稅關申告書　作成者

貨物內譯

包裝		貨物ノ性質	內容ノ詳記	原產國	價額	數量	又ハ重量		備考
記號及番號	箇數						總量	純量	

年　月　日　　ニ於テ　荷送人

●稅關ニ於ケル內國稅賦課徵收ニ關スル件

（明治三十八年三月十八日勅令第五十六號）

朕稅關ニ於ケル內國稅賦課徵收ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

外國ヨリ來航セル旅客ノ携帶品中內國稅ヲ課

スヘキ物品アルトキハ稅關官吏ハ關稅法施行規則第三條及第五條ニ準シ直ニ稅金ヲ徵收スルコトヲ得

●郵便ニ依リ外國ヨリ輸入シタル物品ノ內國稅ニ關スル件

（明治三十七年五月三十一日勅令第百六十五號）

朕郵便ニ依リ外國ヨリ輸入シタル物品ノ內國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務、大藏、遞信大臣副署）

第一條 郵便ニ依リ外國ヨリ輸入シタル物品ニシテ內國稅ヲ課スヘキモノアルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ニ通知スヘシ

第二條 郵便局ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ其ノ名宛人ニ通知スヘシ

第三條 前條ノ通知ヲ受ケタル者其ノ郵便物ヲ受取ラムトスルトキハ通知セラレタル金額ニ相當スル收入印紙ヲ該輸入物品又ハ前條ニ依ル通知書ニ貼用シ郵便局所ノ消印ヲ受クヘシ但シ內國稅中特別ノ印紙ヲ貼用スヘキコトヲ定メタルモノニ付テハ特別ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第四條 受取人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ不能配達ノモノトシテ取扱フヘシ

第五條 郵便局所ニ於テ前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ之ヲ稅關ニ通知スヘシ

●獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入稅免除ニ關スル法律

（大正十年三月十五日法律第四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入稅免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ニシテ政府ノ輸入スルモノノ輸入稅ハ之ヲ免除ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法

（明治四十三年四月十五日法律第五十四號）

（改正 明治四五年第八號、第九號 大正三年第三六號、五年第九號、九年第四號、一〇年第七八號、一五年第三六號 昭和二年第八號、第四二號、四年第三二號、第三三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅定率法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

關稅定率法

第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス

第二條 從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス

第三條 條約ニ依ル特別協定ノ便益ヲ受ケサル地域ノ生產品ニ對シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ該協定ノ限度ヲ超エサル便益ヲ與フルコトヲ得

第四條 本邦ノ船舶、生產品若ハ輸出品又ハ本邦ヲ通過シタル物品ニ對シ他國ノ船舶、生產品若ハ輸出品又ハ他國ヲ通過シタル物品ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生產品若ハ輸出品又ハ其ノ國ヲ通過シタル物品ニ對シテハ勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ別表ニ定メタル關稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得

第五條 外國ニ於テ輸出奬勵金ヲ受クル物品ニ對シテハ別表ニ定メタル關稅ノ外勅令ヲ以テ奬勵金ト同額ノ關稅ヲ課スルコトヲ得

第五條ノ二 不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ因リ本邦ニ於ケル重要產業カ危害ヲ被ルノ虞アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不當廉賣審查委員會ノ審查ヲ經テ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ別表ニ定ムル關稅ノ外其ノ正當價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル物品ニシテ既ニ輸入セラレ不當廉賣者又ハ其ノ代理人ノ所有又ハ所持ニ係ルモノニ對シテハ前項ノ規定ニ準シ不當廉賣者又ハ其ノ代理人ヨリ附加關稅ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ追徵スル附加關稅ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

第六條 米及籾ノ輸入稅ハ凶作ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ每百斤四十錢ヲ限度トシ之ヲ低減スルコトヲ得

第七條 左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免ス

一 御料品

二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並其ノ從者ニ屬スル物品

三 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器、彈藥及爆發物

四 政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油

四ノ二 直接燃料ニ供スル礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、九〇四ヲ超エタルモノ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

五 軍艦

六 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品但シ本邦ヨリ派遣シタル大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品又ハ本邦大使館若ハ公使館ニ屬スル公用品ニ對シ免稅ニ制限ヲ附スル國ニ付テハ相互條件ニ依ル

七 本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品

八 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章

九 記錄文書其ノ他ノ書類

十 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所等ノ營造物及命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校ニ陳列スル標本又ハ參考品ニシテ大藏大臣ノ認許シタルモノ

十一 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈セラレタル給與品及孤兒院、養老院、施療病院等ノ慈善團體ニ寄贈セラレタル物品ニシテ直接慈善ノ用ニ供スルモノ

十一ノ二 社寺、教會又ハ禮拜堂ニ寄贈セラレタル式典用具及禮拜用具

十二 政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品

十三 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル

十四 旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關カ適當ト認メタルモノニ限ル

十五 在外軍隊、軍艦又ハ公館ヨリ送還シタル物品

十六 個人ニ屬スル引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル

十七 輸出シタル物品ニシテ五年以內ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戾ヲ受ケタル物品ヲ除ク

十八 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ但シ第八條ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ除ク

十九 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取シタル魚介類、海獸、海藻其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル

二十 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲引渡ス物品但シ第十條ニ揭クル物品ヲ除ク

二十一 難破シタル本邦船舶ノ解體材及艤裝品

二十二 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戾リタルモノ但シ第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戾ヲ受ケタル物品ヲ除ク

二十三 國道府縣其ノ他ノ公共團體、政府ノ指定スル產業ニ關スル法人又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ輸入スル種用動物、獸疫免疫血淸及獸疫豫防接種液

第八條 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以內ニ再ヒ輸出スルモノニハ輸入稅ヲ免ス但シ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一 加工ノ爲輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

二 輸入貨物ノ容器ニシテ、命令ヲ以テ指定シタルモノ

二ノ二 輸出貨物ノ容器ニ使用スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ

三 修繕ノ爲輸入スル物品

四 學術研究ノ爲輸入スル物品

五 試驗品トシテ輸入スルモノ

六 注文取集ノ爲輸入スル見本品

六ノ二 製作見本品トシテ輸入スルモノ

七 本邦ニ渡來スル巡回興行者カ輸入スル興行用物品

八 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ヘ出品スル爲輸入スル物品

第九條 輸入原料品ニシテ命令ヲ以テ指定シタル輸出品ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戾ヲ爲スコトヲ得

輸入原料品ニシテ茶鉛、厚〇・一七ミリメートルヲ超エサル亞鉛薄板又ハ命令ヲ以テ指定シタル油又ハ油糟ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戾ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第一項又ハ第二項ノ拂戾ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ハ關稅法第七十五條ノ例ニ依リ處分ス

第十條 船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル鐵鋼材、艤裝品、艤裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 左ニ揭クル物品ハ輸入ヲ禁ス

一 阿片及阿片吸煙具但シ政府ノ輸入スルモノヲ除ク

二 僞造、變造又ハ摸造ノ貨幣、紙幣、銀行券及有價證券

三 公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫、彫刻物其ノ他ノ物品

四 特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ヲ侵害スル物品

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年勅令第三百十三號ヲ以テ明治四十四年七月十七日ヨリ施行）

附 則（大正十五年法律第三十六號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年法律第二十二號及大正十四年法律第二號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前第九條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

輸入稅表

番號	品名	單位	稅率
	第一類 植物及動物（生活力ヲ有スルモノ）		
一	植物、枝、幹、莖及根（栽植用又ハ接木用ノモノ）		無稅
二	培殖用菌類		
	一 麴	從價	二割
	二 其ノ他		無稅
三	馬	從價	五分
四	牛	從價	一割
五	緬羊		無稅
六	山羊		無稅
七	豚	從價	二割
八	家禽類		無稅
九	魚介類		
	一 種魚介及魚卵		無稅
	二 其ノ他	從價	二割
一〇	蜜蜂		無稅
一〇ノ二	蠶種		無稅
一一	別號ニ揭ケサル動物	從價	二割
	第二類 穀物、穀粉、澱粉類及種子		
一二	米及籾	每百斤	一・〇〇
一三	大麥	每百斤	〇・六〇
一四	パールバーレー	每百斤	七・一〇
一五	麥芽	每百斤	二・七〇
一六	小麥	每百斤	一・五〇
一七	オート	每百斤	〇・六五
一七ノ二	粟、黍及稗	每百斤	〇・五〇
一八	高粱	每百斤	〇・二五
一九	玉蜀黍	每百斤	〇・三〇
二〇	蕎麥	每百斤	〇・五〇
二一	豆類		
	一 大豆	每百斤	〇・七〇
	二 小豆	每百斤	〇・五五
	三 蠶豆	每百斤	〇・五五
	四 綠豆	每百斤	〇・六五
	五 豌豆	每百斤	〇・六五
	六 落花生		
	甲 脫殼セサルモノ	每百斤	一・二五
	乙 其ノ他	每百斤	一・八〇

	七 其ノ他（醫藥用ノモノヲ除ク）	毎百斤	〇・五〇
二二	穀粉及澱粉類		
	一 小麥粉	毎百斤	二・九〇
	二 オートミール	毎百斤	九・五五
	三 コーンミール	毎百斤	五・六五
	四 タピオカ、マニオカ及セーゴ		
	甲 粉狀ノモノ	毎百斤	一・八〇
	乙 其ノ他	從價	三割
	五 コーンスターチ	毎百斤	二・三〇
	六 其ノ他	毎百斤	二・〇〇
二三	胡麻子	毎百斤	〇・五〇
二四	荏胡麻子	毎百斤	〇・五〇
二五	菜子及芥子	毎百斤	〇・八五
二六	亞麻子		無稅
二六ノ二	大麻子		無稅
二六ノ三	蓖麻子		無稅
二七	棉子		無稅
二七ノ二	桐子	從價	一割
二七ノ三	別錄ニ揭ケサル採油用種子		無稅
二八	アイヴォリーナット、ドゥームナット其ノ他類似ノ鈕釦製造用核子		無稅
二八ノ二	インディアラッパー樹、ガタパーチャ樹、木藍及甜菜ノ種子		無稅
二九	クローヴァー其ノ他牧草ノ種子		無稅
三〇	別錄ニ揭ケサル穀物及種子（醫藥用ノモノヲ除ク）	從價	一割五分
	第三類 飲食物及煙草		
三一	蔬菜、果實及核子		
	一 砂糖、糖蜜、糖水又ハ蜂蜜ヲ以テ貯藏シタルモノ	毎百斤容器共	一二・七〇
	二 其ノ他		
	甲 蔬菜		
	甲ノ一 罐詰ノモノ	毎百斤容器共	七・九〇
	甲ノ二 罎詰ノモノ	毎百斤容器共	七・六〇
	甲ノ三 壺詰ノモノ	毎百斤容器共	一・九五
	甲ノ四 其ノ他	從價	三割
	乙 其ノ他		
	乙ノ一 罐詰ノモノ	毎百斤容器共	七・二五
	乙ノ二 罎詰ノモノ	毎百斤容器共	八・五〇
	乙ノ三 壺詰ノモノ	毎百斤容器共	三・二〇
	乙ノ四 其ノ他		
	イ 生果	毎百斤	四・〇〇
	ロ 乾果	毎百斤	六・九〇
	ハ 核子	毎百斤	七・八五
	ニ 其ノ他	從價	三割
三一ノ二	椰子	毎百斤	二・一〇
三二	茶		
	一 紅茶	毎百斤	八八・一〇
	二 紅茶粉	毎百斤	二九・五〇
	三 包種茶	毎百斤	六・〇〇
	四 其ノ他	毎百斤	一〇・六〇
三三	マーテ其ノ他ノ茶代用物	從價	四割五分
三四	珈琲		
	一 種子	毎百斤	一五・一〇
	二 其ノ他	毎百斤	二五・一〇
三五	チコリー其ノ他ノ珈琲代用物	從價	三割五分
三六	コーコー（砂糖ヲ加ヘサルモノ）		
	一 種子	毎百斤	六・〇〇
	二 其ノ他	毎百斤容器共	二六・〇〇
三七	胡椒		
	一 種子	毎百斤	七・三〇
	二 其ノ他	毎百斤容器共	二四・六〇
三八	カリー		
	一 粉狀ノモノ	毎百斤容器共	二五・二〇
	二 其ノ他	從價	三割
三九	マスタード		
	一 粉狀ノモノ	毎百斤容器共	二三・三〇
	二 其ノ他	從價	三割
四〇	砂糖		
	一 和蘭標本色相第十一號未滿ノモノ	毎百斤	二・五〇

	二 和蘭標本色相第二十二號未滿ノモノ	毎百斤	三・九五
	三 其ノ他	毎百斤	五・三〇
四一	氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ	毎百斤	七・四〇
四二	糖蜜		
	一 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ	毎百斤	一・三〇
	二 其ノ他	毎百斤	二・五〇
四三	葡萄糖、麥芽糖及飴	毎百斤	一三・六五
四四	蜂蜜	毎百斤容器共	二一・六〇
四五	菓子	毎百斤容器共	三二・〇〇
四六	ジャム、フルートゼリー類	毎百斤容器共	二六・三〇
四七	ビスケット（砂糖ヲ加ヘサルモノ）	毎百斤容器共	二〇・四〇
四八	マカロニー、ヴァーミセリー其ノ他各種ノ麵類	毎百斤	八・八〇
四九	果汁及糖水		
	一 果汁（砂糖ヲ加ヘタルモノ）及糖水		
	甲 罎入又ハ罐入ノモノ	毎百斤容器共	一五・三〇
	乙 其ノ他	毎百斤	一〇・七〇
	二 其ノ他	毎百斤容器共	一一・〇〇
五〇	ソース		
	一 樽入ノモノ	毎百斤	一一・八〇
	二 其ノ他	毎百斤容器共	一〇・八〇
五一	食酢 但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル醋酸ノ重量十グラム以上一グラムヲ增ス毎ニ百リットルニ付三圓ヲ加フ	毎百リットル	一八・〇〇
五二	鳥獸肉類		
	一 生鮮ナルモノ		
	甲 牛肉	毎百斤	二・〇〇
	乙 羊肉	毎百斤	四・〇五
	丙 豚肉	毎百斤	四・〇〇
	丁 鯨肉	從價	一割五分
	戊 其ノ他	從價	一割
	二 罐詰、罎詰又ハ壺詰ノモノ	從價	二割五分
	三 其ノ他		
	甲 ソーセージ	毎百斤	一六・五〇
	乙 ハム及ベーコン	毎百斤	一九・五〇
	丙 鹹肉	毎百斤	五・六五
	丁 鹽鯨		
	イ 尾肉	毎百斤	四・二〇
	ロ 其ノ他	毎百斤	二・二五
	戊 其ノ他	從價	一割五分
五二ノ二	魚介類		
	一 生鮮ナルモノ	從價	一割
	二 罐詰、罎詰又ハ壺詰ノモノ		
	甲 鹽油漬	毎百斤	二八・二〇
	乙 其ノ他	從價	二割
	三 其ノ他		
	甲 鹹魚及乾魚（單ニ蒸シ又ハ燒キタルモノヲ含ム）	從價	一割
	乙 其ノ他	從價	一割五分
五三	バター、人造バター及ギー	毎百斤	三六・九〇
五四	チース	毎百斤	三九・三〇
五五	コンデンスドミルク		
	一 乾キタルモノ	毎百斤容器共	一三・四〇
	二 其ノ他	毎百斤容器共	八・三〇
五六	インファントフード	毎百斤容器共	二四・三〇
五七	肉越幾斯	毎百斤容器共	八六・八〇
五八	ペプトン、ソマトーゼ、ヘモグロビン其ノ他類似ノ滋養食料	從價	三割
五九	鳥卵（生鮮ナルモノ）	毎百斤	六・〇〇
五九ノ二	鳥卵液及鳥卵粉		
	一 卵黄粉	毎百斤	三・五五
	二 卵白粉	毎百斤	五・六五
	三 其ノ他	從價	一割
六〇	礦水、曹達水其ノ他砂糖又ハ酒精ヲ含マサル諸飲料	毎百リットル	一六・〇〇
六一	清酒	毎百リットル	二八・一〇
六二	支那酒（醸造シタルモノ）	毎百リットル	二四・二〇
六三	麥酒	毎百リットル	一六・四〇
六四	葡萄酒（ポート、シェリー、ヴェルモット、マデーラ、マルサラ、サンラファエル等ヲ含ム）		

	但シ攝氏十五度ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量二十四ヲ超エサルモノ		
	一　罎入ノモノ	毎百リットル	八一・九〇
	二　其ノ他		
	甲　原容量百分中純酒精ノ容量十四ヲ超エサルモノ		
	イ　攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量一グラムヲ超エサルモノ	毎百リットル	二六・七〇
	ロ　其ノ他	毎百リットル	四五・一〇
	但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エタルモノハ二十グラム以上一グラムヲ増ス毎ニ百リットルニ付二十五錢ヲ加フ		
	乙　其ノ他	毎百リットル	四一・七〇
	但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エタルモノハ二十グラム以上一グラムヲ増ス毎ニ百リットルニ付二十五錢ヲ加フ		
六五	シャンパン其ノ他ノスパークリングワイン	毎百リットル	一七〇・〇〇
六六	別號ニ掲ケサル酒類		
	一　攝氏十五度ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量七ヲ超エサルモノ	毎百リットル	二七・八〇
	二　其ノ他		
	甲　罎入ノモノ	毎百リットル	一二四・〇〇
	乙　其ノ他	毎百リットル	七三・九〇
	但シ攝氏十五度ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量五十以上一ヲ増ス毎ニ百リットルニ付一圓二十八錢ヲ加フ		
六六ノ二	麴		無税
六七	別號ニ掲ケサル飲食物		
	一　砂糖ヲ加ヘタルモノ	從價	六割
	二　其ノ他	從價	四割
六八	煙草		
	一　葉巻煙草、紙巻煙草及刻煙草	從價	三十五割五分
	二　咀嚼煙草	毎斤	二・二三
	三　嗅煙草	毎斤	五・一七
	四　其ノ他	從價	三十五割五分
	第四類　皮毛骨角齒牙甲殼類及其ノ製品		
六九	毛皮		
	一　緬羊皮及山羊皮		
	甲　鞣シタルモノ	毎百斤	九・四〇
	乙　其ノ他		無税
	二　其ノ他	從價	四割
七〇	毛皮製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	五割
七一	皮類（別號ニ掲ケサルモノ）		無税
七二	革類		
	一　牛革、水牛革、馬革、緬羊革及山羊革		
	甲　塗リタルモノ		
	イ　タンニン鞣ノモノニシテ黒色無地ノモノ	從價	四割
	ロ　其ノ他	從價	二割
	乙　染メタルモノ又ハ著色シタルモノ（ローラーレザーヲ除ク）	毎百斤	一四五・〇〇
	丙　其ノ他		
	丙ノ一　牛革、水牛革及馬革		
	イ　靴底革		
	イノ一　バック、ベンド、バット、ストリップ其ノ他之ニ類似スルモノ及靴底形ニ裁チタルモノ	毎百斤	二七・一〇
	イノ二　其ノ他	毎百斤	一五・二〇
	ロ　其ノ他	從價	二割
	丙ノ二　緬羊革及山羊革		
	イ　ローラーレザー	毎百斤	八六・八〇

	ロ　其ノ他	毎百斤	二四・〇〇
	二　羚羊革（摸造羚羊革ヲ含ム）	毎百斤	七四・四〇
	三　豚革	從價	二割
	四　鰐魚革		
	甲　一箇ノ重量百五十グラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二〇七・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一一三・〇〇
	五　リザードレザー	毎百斤	三九四・〇〇
	六　屑	從價	二割
	七　其ノ他	從價	二割
七三	革製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　機械用ノ帶及管	毎百斤	三七・二〇
	二　帽子用裏革（摸造革ヲ含ム）	毎百斤	八八・八〇
	三　其ノ他		
	甲　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	乙　其ノ他	從價	四割
七四	獸毛（別號ニ掲ケサルモノ）		無税
七五	羽毛		
	一　粧飾用ノモノ	從價	四割
	二　其ノ他	從價	二割
七六	羽毛皮		無税
七七	羽毛製品及羽毛皮製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	五割
七八	クイルブリッスル及ホーンブリッスル		無税
七九	獸骨（醫藥用ノモノヲ除ク）		無税
八〇	獸牙		無税
八一	獸牙製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　象牙製ノモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	四割
八二	獸角（醫藥用ノモノヲ除ク）		無税
八三	獸蹄		無税
八四	獸筋		無税
八四ノ二	ガット（テニスラケット用ノモノ）	從價	二割五分
八五	ブラッダー		無税
八六	貝殼		無税
八七	鼈甲		無税
八八	鼈甲製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	五割
八九	珊瑚	從價	四割
九〇	珊瑚製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	五割
九一	眞珠	從價	五分
九二	海綿	從價	二割
九三	別號ニ掲ケサル毛骨角齒牙甲殼類（醫藥用ノモノヲ除ク）	從價	一割
九四	皮毛骨角齒牙甲殼類製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	四割
	第五類　油、脂、蠟及其ノ製品		
九五	植物性揮發油		
	一　芳香性ノモノ		無税
	二　其ノ他		
	甲　松精油		
	イ　罐入又ハ樽入ノモノ	毎百リットル	六・九五
	ロ　其ノ他	從價	一割五分
	乙　其ノ他	從價	一割五分
九六	亞麻子油		
	一　罐入又ハ樽入ノモノ		
	甲　ボイルド油	毎百斤	三・七五
	乙　其ノ他	從價	一割
	二　其ノ他	從價	二割
九七	蓖麻子油		
	一　罐入、樽入又ハ壺入ノモノ	毎百斤	二・二〇
	二　其ノ他	從價	二割
九八	阿列布油		
	一　罐入又ハ樽入ノモノ		無税
	二　其ノ他	毎容器共百斤	一四・六〇
九九	椰子油	毎百斤	二・四五
一〇〇	落花生油	毎百斤	四・六〇
一〇一	大豆油	毎百斤	二・五〇
一〇二	棉子油	毎百斤	四・四五
一〇三	桐油	毎百斤	二・二五
一〇四	カメリヤ油	毎百斤	六・〇〇
一〇五	カカオバター	毎百斤	一八・九〇
一〇六	肝油	從價	二割
一〇七	魚油及鯨油		無税
一〇八	獸脂		
	一　豚脂	毎百斤	九・〇〇

	二　牛脂	毎百斤	一・二〇
	三　其ノ他	從價	一割
一〇九	コムパウンドラード	毎百斤	九・〇〇
一一〇	ステアリン	毎百斤	一二・〇〇
一一一	オレイン	毎百斤	七・六〇
一一二	礦油		
	一　原油（トッピングシタルモノヲ含ム）及重油割温蒸餾法ニ依リ攝氏二百七十五度ニ至ル間ニ於テ蒸餾スル液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率		
	甲　二十ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	一・七〇
	乙　二十五ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	二・〇五
	丙　三十ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	二・四〇
	丁　三十五ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	二・七五
	戊　四十ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	三・一〇
	己　其ノ他	毎百ガロン	三・四五
	但シ百分率四十五以上一ヲ増ス毎ニ百ガロンニ付七錢ヲ加フ		
	二　其ノ他（動植物性ノ油及脂、石鹼等ヲ含有スル機械油ヲ含ム）		
	攝氏十五度ニ於ケル比重		
	甲　〇・八七六二ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	八・〇〇
	乙　〇・九二一八ヲ超エサルモノ	毎百ガロン	七・〇〇
	丙　其ノ他	毎百斤	一・六〇
一一三	ワセリン		
	一　一箇ノ重量容器共一キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一五・九〇
	二　其ノ他	毎百斤	三・五〇
一一四	パラフィンワックス		
	一　融解點攝氏四十五度ヲ超エサルモノ		無稅
	二　其ノ他	毎百斤	一二・〇〇
一一五	漆蠟及櫨蠟	毎百斤	六・〇〇
一一五ノ二	柏油		無稅
一一五ノ三	カーノーバワックス		無稅
一一六	蠟燭	毎百斤	一三・一〇
一一七	石鹼		
	一　薫香ヲ付シタルモノ	内装共毎百斤	二八・六〇
	二　其ノ他	毎百斤	五・七〇
一一八	薫香ヲ付シタル油、脂、蠟及其ノ製品	毎百斤容器及内装共	七八・〇〇
一一九	香水	毎百斤容器及内装共	九〇・〇〇
一二〇	別號ニ掲ケサル油、脂、蠟	從價	二割
一二一	油、脂、蠟製品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	二割五分
	第六類　藥材、化學藥、製藥、其ノ調合品及爆發藥		
一二二	ホップ		無稅
一二三	サフラン	毎百斤	四二・〇〇
一二四	セメンシナ		無稅
一二五	丁香		無稅
一二六	杏仁及苦扁桃仁		無稅
一二七	香木髄		無稅
一二八	大風子、小豆蔻、肉豆蔻、肉豆蔻花、蓽澄茄、コロシント實、コルヒクム子、トンカ豆、ヴァニラ豆、アニース子、大茴香、小茴香、ストロファンツス子及アジョーワン子		無稅
一二九	甘草		無稅
一三〇	吐根		無稅
一三一	人參	從價	二割
一三二	龍膽及ゲンチアナ根		無稅
一三三	大黄		無稅
一三四	セネガ根		無稅
一三四ノ二	遠志		無稅
一三五	甘松	毎百斤	四・八〇
一三五ノ二	イリス根、コロムボ根、海葱、ヤラッパ根及ヴェチヴァー		無稅
一三六	コカ葉、ヤボランヂ葉及パッチュリー葉		無稅
一三七	桂皮		無稅
一三七ノ二	キナ皮		無稅
一三七ノ三	コンジュランゴ皮、カスカラサクラダ、リナロヘ、ローズウッド、サッサフラス木		無稅
一三八	沈香	毎百斤	五一・九〇
一三九	白檀		
	一　サンタラムアルブム		無稅
	二　其ノ他	毎百斤	三・八五
一四〇	麥角		無稅

一四〇ノ二	麝香	毎百斤	一〇一・〇〇
一四〇ノ三	安息香、阿魏、蘆薈及沒藥		無稅
一四〇ノ四	美人膠		無稅
一四〇ノ五	沒食子、五倍子、ミロバラン、檳榔子、オーク樹皮、ミモサ樹皮、栲皮、クェブラチョー木片其ノ他類似ノタンニン材料		無稅
一四一	阿仙藥其ノ他ノタンニン越幾斯		無稅
一四一ノ二	甘草越幾斯	從價	一割
一四二	バルサム	毎百斤	二〇・三〇
一四三	生インディアラッバー、生ガタパーチャ及其ノ代用物		無稅
一四四	アラビアゴム、セルラック、松脂其ノ他別號ニ掲ケサル護謨及樹脂（醫藥用ノモノヲ除ク）		無稅
一四五	阿膠	毎百斤	三・一五
一四六	セラチン	毎百斤	一六・三〇
一四七	魚膠	毎百斤	七一・一〇
一四八	硫黄	從價	二割
一四九	黄燐、赤燐及硫化燐		無稅
一五〇	ヨード	毎百斤	一三五・〇〇
一五一	ブローム	從價	三割五分
一五二	亞鉛粉	毎百斤	一・五〇
一五三	硼酸	毎百斤	三・三〇
一五四	醋酸	毎百斤	一一・〇〇
一五五	乳酸	毎百斤	四〇・七〇
一五六	蓚酸		無稅
一五七	酒石酸	毎百斤	二三・七〇
一五八	サリチール酸及アセチールサリチール酸	毎百斤	四五・〇〇
一五九	石炭酸	毎百斤	一五・七〇
一六〇	枸櫞酸	毎百斤	三三・〇〇
一六一	焦性沒食子酸	毎百斤	一四四・〇〇
一六一ノ二	沒食子酸	從價	三割
一六二	タンニン酸	毎百斤	二三・六〇
一六三	無水アムモニア		無稅
一六四	苛性曹達及苛性加里		
	一　精製ノモノ	毎百斤	一二・八〇
	二　其ノ他	毎百斤	一・五〇
一六五	曹達灰及天然曹達	毎百斤	〇・三五
一六六	重炭酸曹達	毎百斤	〇・九五
一六七	過酸化曹達	毎百斤	一五・六〇
一六八	硝酸曹達（智利硝石）		
	一　精製ノモノ	從價	二割
	二　其ノ他		無稅
一六九	硫酸曹達		
	一　精製ノモノ	從價	二割
	二　其ノ他		無稅
一七〇	硼酸曹達（硼砂）		無稅
一七一	硅酸曹達	毎百斤	一・〇〇
一七二	クロール酸曹達	毎百斤	五・八〇
一七三	青化曹達及青化加里		無稅
一七四	硝酸加里（硝石）	毎百斤	三・〇五
一七五	鹽化加里及硫酸加里		
	一　精製ノモノ	從價	二割
	二　其ノ他		無稅
一七六	クロール酸加里		無稅
一七七	重クロム酸加里及重クロム酸曹達	毎百斤	五・一〇
一七七ノ二	過滿俺酸加里	毎百斤	六・九〇
一七八	ヨード曹達	毎百斤	一五五・〇〇
一七八ノ二	ヨード加里	毎百斤	一二二・〇〇
一七九	ブローム水素酸、ブローム加里其ノ他別號ニ掲ケサルブローム鹽類	從價	三割五分
一八〇	炭酸マグネシウム	毎百斤	三・〇五
一八一	鹽化バリウム	毎百斤	三・三五
一八一ノ二	過酸化バリウム	毎百斤	二・五〇
一八一ノ三	過酸化水素	從價	三割
一八二	明礬	毎百斤	〇・七〇
一八三	フェロ青化曹達	毎百斤	二・九〇
一八四	フェリ青化曹達	從價	一割
一八五	フェロ青化加里（黄色血滷鹽）	毎百斤	五・〇〇
一八六	フェリ青化加里（赤色血滷鹽）	毎百斤	一一・七〇
一八七	次硝酸蒼鉛	毎百斤	八一・一〇
一八七ノ二	次沒食子酸蒼鉛	毎百斤	一三五・〇〇
一八八	鹽化アムモニウム	毎百斤	二・三〇
一八九	硫酸アムモニウム		
	一　精製ノモノ	從價	二割

	二 其ノ他		無稅
一九〇	炭酸アムモニウム及重炭酸アムモニウム	毎百斤	三・四五
一九〇ノ二	硫酸ニッケル及硫酸ニッケルアムモニウム	毎百斤	五・三五
一九一	硝酸トリウム		無稅
一九二	硝酸セリウム		無稅
一九二ノ二	ラヂウム及ラヂウム鹽類		無稅
一九二ノ三	ロヂウム鹽類		無稅
一九三	醋酸石灰	毎百斤	〇・四一
一九四	アセトン	毎百斤	一五・一三
一九五	フォルマリン	毎百斤	五・一〇
一九五ノ二	ウロトロピン	毎百斤	三五・二〇
一九六	木精		無稅
一九七	酒精	毎リットル	一・二〇
一九七ノ二	變性酒精	毎リットル	一・二〇
一九八	グリセリン	毎百斤	一八・〇〇
一九九	クロロフォルム	毎百斤	二二・三〇
一九九ノ二	ヨードフォルム	毎百斤	二〇二・〇〇
二〇〇	ロンガリット、ブランキット、デクロリン其ノ他類似ノ還元劑	毎百斤	二三・七〇
二〇一	デキストリン	毎百斤	一一・七〇
二〇二	乳糖	毎百斤	一一・二〇
二〇三	サッカリン其ノ他類似ノ甘味物	毎百斤	六〇・〇〇
二〇四	ナフタリン		無稅
二〇五	龍腦、艾片及人造龍腦	毎百斤	二五〇・〇〇
二〇六	サリチール酸曹達及サリチール酸曹達シオブロミン	從價	三割五分
二〇六ノ二	ザロール	毎百斤	二三・四〇
二〇六ノ三	安息香酸曹達	毎百斤	四三・三〇
二〇七	ベンゾール、トリユーオル、ザイロール、ソルベントナフサ、アンスラセン、カーバゾール、クレオソート油其ノ他別號ニ揭ケサルコールタール分餾物		無稅
二〇八	コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品（ベンザルデハイド、ナイトロベンゾール及ナイトロトリユーオル以外ノ香料、石炭酸、サリチール酸、ベークライト及醫藥ヲ除ク）		
	一 アニリン及アニリンソルト	毎百斤	一四・五〇
	二 ベタナフトール	毎百斤	一八・七〇
	三 オキシナフトエ酸及其ノ誘導體	毎百斤	一〇〇・〇〇
	四 其ノ他	從價	三割五分
二〇九	アンチフェブリン	從價	三割五分
二〇九ノ二	アンチピリン	毎百斤	八二・〇〇
二〇九ノ三	ピラミドン	毎百斤	一六一・〇〇
二〇九ノ四	フェナセチン	毎百斤	六一・八〇
二一〇	サルヴァルサン類	毎グラム	〇・七五
二一一	サントニン	毎斤	九・三〇
二一二	鹽酸キニーネ	毎百斤	一三五・〇〇
二一二ノ二	硫酸キニーネ	毎百斤	六〇・〇〇
二一二ノ三	エチール炭酸キニーネ	從價	二割
二一三	鹽酸モルヒネ及硫酸モルヒネ	毎斤	一三・五〇
二一三ノ二	燐酸コデイン	毎斤	二一・四〇
二一四	エクゴニン	從價	五分
二一四ノ二	コカイン	從價	五分
二一四ノ三	鹽酸コカイン	從價	三割五分
二一四ノ四	硫酸コカイン	毎斤	一九・三〇
二一五	鹽酸シンコニーネ及硫酸シンコニーネ	毎百斤	三八・八〇
二一六	炭酸クレオソート	毎百斤	三三・四〇
二一六ノ二	炭酸グアヤコール	毎百斤	五八・一〇
二一七	カセイン		無稅
二一七ノ二	ペプシン	毎斤	一・五五
二一八	ベーキングパウダー	毎百斤	二九・三〇
二一九	酒精劑		
	一 フルートエッセンス、リキュールエッセンス其ノ他類似ノモノ	毎リットル	二・一五
	二 其ノ他	毎リットル	一・二〇
二二〇	人造麝香	毎百斤	八一・五〇
二二一	ヴァニリン、クマリン、ヘリオトロピン其ノ他別號ニ揭ケサル類似ノ薰香性化學藥	從價	一割
二二二	齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製薰香類	從價	五割
二二三	線香	從價	四割
二二四	殺蟲粉	毎百斤	二四・三〇
二二四ノ二	蠅取紙	毎百斤	一六・一〇
二二五	ローラーコンポジション	毎百斤	一五・六〇
二二六	プラスター	毎百斤内裝共	五九・七〇
二二七	ガーセ、脫脂綿、繃帶、カットガット其ノ他類似		

	ノ外科用材料	從價	三割
二二八	膠囊	毎百斤内裝共	九〇・二〇
二二八ノ二	オブラート	從價	三割
二二九	別號ニ揭ケサル藥材、化學藥及製藥	從價	二割
二三〇	藥材、化學藥及製藥ノ調合品（別號ニ揭ケサルモノ）	從價	三割
二三一	爆發藥		
	一 火藥	毎百斤	二九・五〇
	二 ダイナマイト	毎百斤	一一・〇〇
	三 デトネートル	毎百斤内裝共	三七・〇〇
	四 フューズ	毎百斤	三七・四〇
	五 其ノ他	從價	三割
二三二	カートリッヂ（裝藥シタルモノ）		
	一 裝彈シタルモノ		
	甲 金屬製ノモノ	毎百斤内裝共	四八・八〇
	乙 其ノ他	毎百斤内裝共	二七・一〇
	二 其ノ他	從價	三割
二三三	銃砲彈（裝藥シタルモノ）	從價	三割
二三四	煙火	毎百斤	一二・七〇
二三五	燐寸	從價	三割
	第七類　染料、顏料、塗料及塡充料		
二三六	天然藍		
	一 乾キタルモノ	毎百斤	三三・七〇
	二 液狀又ハ泥狀ノモノ	從價	二割
二三七	姜黃	毎百斤	一・〇〇
二三八	紅花		
	一 餅紅花	毎百斤	一三・七〇
	二 其ノ他	毎百斤	四・〇五
二三九	ログウード		無稅
二四〇	ログウード越幾斯	毎百斤	一・八五
二四一	燒糖	毎百斤	一三・六五
二四二	人造藍	毎百斤	四〇・〇〇
二四三	別號ニ揭ケサル合成染料		
	一 鹽基性染料	毎百斤	一五五・〇〇
	二 直接染料	毎百斤	一〇七・〇〇
	三 酸性染料	毎百斤	一三五・〇〇
	四 媒染染料及酸性媒染染料	毎百斤	一〇八・〇〇
	五 硫化染料	毎百斤	七八・〇〇
	六 建築染料	毎百斤	一八八・〇〇
	七 油解染料	毎百斤	一〇〇・〇〇
	八 其ノ他	從價	三割五分
二四四	酸化コバルト（呉須ヲ含ム）		無稅
二四五	金液		無稅
二四五ノ二	銀液及白金液		無稅
二四六	青銅粉、アルミニウム粉其ノ他別號ニ揭ケサル類似ノ金屬粉	毎百斤	二八・〇〇
二四七	ブラッシアンブリュー	毎百斤	二三・四〇
二四八	群青	毎百斤	一一・七〇
二四九	鉛白、鉛丹及リサージ	毎百斤	二・八〇
二五〇	亞鉛白（酸化亞鉛及硫化亞鉛）	毎百斤	四・八五
二五〇ノ二	硫酸バリウム	毎百斤	〇・八〇
二五〇ノ三	リッポン	毎百斤	二・三五
二五〇ノ四	酸化チタニウム	從價	一割
二五一	白堊及ホワイチング	毎百斤	一・〇五
二五二	朱及辰砂	毎百斤	二六・八〇
二五三	鷄冠石及雄黃	毎百斤	一・八〇
二五四	雌黃及ドラゴンスブラッド		無稅
二五五	カーボンブラック	毎百斤	一・九五
二五六	漆	毎百斤	六・八〇
二五七	ヴァニシュ	毎百斤	一九・四〇
二五八	木タール		無稅
二五八ノ二	コールタール		無稅
二五九	ピッチ及アスファルト		無稅
二五九ノ二	コールタール、ピッチ又ハアスファルトノ製品ニシテ道路修築用ノモノ		無稅
二六〇	靴墨	毎百斤容器共	一三・六〇
二六一	鉛筆		
	一 鞘ニ入レサルモノ（心）	從價	二割
	二 其ノ他（金屬製ノ鞘ニ入レタルモノヲ除ク）		
	甲 木鞘又ハ紙鞘ニ入レタルモノ	毎グロッス	一・四五
	乙 其ノ他	從價	二割五分
二六二	インキ		

	一　寫字用又ハ筆記用ノモノ	每百斤容器共	八・三五
	二　印刷用ノモノ		
	甲　液狀又ハ泥狀ノモノ		
	甲ノ一　燎入ノモノ		
	イ　黑色ノモノ	每百斤	三・四五
	ロ　其ノ他	從價	二割五分
	甲ノ二　其ノ他	每百斤容器共	二一・五〇
	乙　固形ノモノ	每百斤	一一一・〇〇
	三　其ノ他	從價	二割五分
二六三	墨及朱墨	從價	二割五分
二六四	堅筆及テーラースチョーク	從價	二割五分
二六五	アーチストカラー及アーチストペーント	每百斤容器共	八一・五〇
二六六	ペーント		
	一　コッパーペーント、インターナショナルコンポジション、アンチフォーリングコンポジション、アンチコロシーヴペーント其ノ他類似ノ船底塗料	每百斤	七・四五
	二　パテントドライヤー	每百斤	五・八〇
	三　エナメルペーント	每百斤容器共	一七・二〇
	四　其ノ他		
	甲　一箇ノ重量容器共六キログラムヲ超エサルモノ	每百斤容器共	一三・一〇
	乙　其ノ他	每百斤	九・二〇
二六七	パッテー、マンガンパッテー、マリングリューヒッチ其ノ他類似ノ塡充料		
	一　パッテー	每百斤	二・二〇
	二　マンガンパッテー	從價	二割五分
	三　マリングリューヒッチ	從價	二割五分
	四　其ノ他	從價	二割五分
二六八	封蠟	每百斤	一一・一〇
二六九	別號ニ掲ケサル染料及顏料	從價	一割五分
二七〇	別號ニ掲ケサル塗料	從價	二割五分

第八類　絲縷、繩索及同材料

本類ノ物品カ二種以上ノ纖維ヲ以テ組成セラルル場合ニ於テ全重量ノ百分ノ五ヲ超エサル纖維ハ絹及人造絹ヲ除クノ外分類上之ヲ交ヘサルモノト看做ス

二七一	實綿及繰綿（カード又ハコームシタルモノヲ含ム）		無稅
二七二	綿織絲		
	一　單撚ノモノ及雙撚ノモノ		
	甲　生ノモノ（瓦斯燒シタルモノヲ含ム）		
	イ　英式番手二十四番ヲ超エサルモノ	每百斤	五・八〇
	ロ　英式番手四十二番ヲ超エサルモノ	每百斤	六・四〇
	ハ　英式番手六十番ヲ超エサルモノ	每百斤	九・五〇
	ニ　英式番手八十番ヲ超エサルモノ	每百斤	一一・〇〇
	ホ　其ノ他	每百斤	一一・三〇
	乙　單ニ漂白シタルモノ	生ノモノノ稅率ニ一圓ヲ加フ	
	丙　其ノ他	生ノモノノ稅率ニ三圓ヲ加フ	
	二　其ノ他		
	甲　生ノモノ（瓦斯燒シタルモノヲ含ム）	每百斤	三九・二〇
	乙　其ノ他	每百斤	四一・二〇
二七三	綿絲及長十メートルノ重量三グラムヲ超エサル綿線		
	一　縫造ノモノ（生ノモノ）	每百斤	三九・二〇
	二　木製ノ絲卷ニ卷キタルモノ	每百斤絲卷共	七〇・一〇
	三　其ノ他	從價	三割
二七四	亞麻、苧麻、ラミー、大麻、黃麻其ノ他別號ニ掲ケサル植物纖維		無稅
二七五	亞麻織絲		
	一　單撚ノモノ		
	甲　生ノモノ	每百斤	一〇・七五
	乙　其ノ他	每百斤	一一・四〇
	二　其ノ他		
	甲　生ノモノ	每百斤	四〇・九〇
	乙　其ノ他	每百斤	四四・九〇
二七六	亞麻絲及英式番手七番ヲ超エタル單撚絲ヲ撚合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エサル亞麻線		
	一　生ノモノ	每百斤	四〇・九〇
	二　其ノ他	每百斤	四四・九〇
二七七	苧麻織絲及ラミー織絲		

	一　生ノモノ	每百斤	七・八〇
	二　其ノ他	每百斤	一二・〇〇
二七八	苧麻絲、ラミー絲及英式番手七番ヲ超エタル單撚絲ヲ撚合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エサル苧麻線及ラミー線	從價	二割五分
二七九	大麻織絲	從價	一割
二八〇	黃麻織絲	從價	一割
二八一	大麻絲、黃麻絲及英式番手七番ヲ超エタル單撚絲ヲ撚合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エサル大麻線及黃麻線	每百斤	二七・一〇
二八二	羊毛、山羊毛及駱駝毛		
	一　カード又ハコームシタルモノ	每百斤	一四・五〇
	二　其ノ他		無稅
二八三	毛織絲		
	一　染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ		
	甲　梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ	每百斤	三三・一〇
	乙　番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲	每百斤	三三・一〇
	丙　其ノ他		
	丙ノ一　梳毛ノモノ		
	イ　メートル式番手三十二番ヲ超エサルモノ	每百斤	二七・七〇
	ロ　其ノ他	每百斤	三二・四〇
	丙ノ二　紡毛ノモノ	每百斤	二二・五〇
	二　其ノ他	染メサルモノ又ハ捺染セサルモノノ稅率ニ二圓五十錢ヲ加フ	
二八四	毛綿織絲		
	一　染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ	每百斤	一七・五〇
	二　其ノ他	染メサルモノ又ハ捺染セサルモノノ稅率ニ三圓ヲ加フ	
二八五	繭		無稅
二八六	眞綿及ベニー		無稅
二八七	生絲（撚リタルモノヲ含ム）		
	一　野蠶絲		無稅
	二　其ノ他	從價	二割五分
二八八	紡績絹織絲		
	一　野蠶製ノモノ		無稅
	二　其ノ他	從價	三割
二八九	絹絲	從價	三割
二九〇	人造絹	每百斤	一二五・〇〇
二九一	別號ニ掲ケサル織絲		
	一　絹入、人造絹入又ハ金屬入ノモノ	從價	三割
	二　其ノ他	從價	一割
二九二	別號ニ掲ケサル絲	從價	二割五分
二九三	テグス		無稅
二九四	綿粉、毛粉、絹粉及人造絹粉	從價	二割
二九五	屑又ハ故ノ纖維、屑織絲及屑絲		無稅
二九六	別號ニ掲ケサル線、繩索、組紐及組繩		
	一　綿製ノモノ	每百斤	一八・二〇
	二　亞麻、苧麻、ラミー、大麻、黃麻、マニラヘムプノ一又ハ二以上ニテ製シタルモノ	每百斤	六・〇〇
	三　其ノ他	從價	二割
二九七	故ノ線、繩索、組紐及組繩（トリムミングニ屬スルモノヲ除ク）	每百斤	〇・六〇

第九類　布帛及布帛製品

一　本類中布帛ナル名稱ハフェルト及編物ヲ包含スルモノトス

二　本類中絹ナル名稱ハ人造絹ヲ包含スルモノトス

三　本類ノ布帛カ二種以上ノ纖維ヲ以テ組成セラルル場合ニ於テ全重量ノ百分ノ五ヲ超エサル纖維ハ絹及人造絹ヲ除クノ外分類上之ヲ交ヘサルモノト看做ス

四　織物ノ絲數ハ其ノ絲數ノ最モ多キ部分ニ於ケル單撚絲ニ依リテ之ヲ計算ス

五　紋織布トハ經緯各二十ヲ超エタル絲ヲ以テ一意匠ヲ組織シタルモノヲ謂フ

前項ノ絲數ヲ計算スル場合ニ於テ二以上ノ單撚絲ヨリ成ル撚絲又ハ引揃ヘタル絲ハ之ヲ一トシテ計算ス

二九八	綿織物		
	一　天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）	每百斤	八三・一〇
	二　シュニル絲ヲ以テ織リタル布帛	從價	二割
	三　フランネル其ノ他ノ起毛布	每百斤	二九・五〇
	四　縮	從價	二割
	五　搦織布	從價	二割
	六　レースヲ織込ミタル布帛	從價	二割

	七 平織布（別項ニ揭ケサルモノ）		
	甲 生地ノモノ		
	甲ノ一 百平方メートルニ付五キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	二三・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	三五・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	五〇・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	七〇・〇〇
	甲ノ二 百平方メートルニ付十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	二〇・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	二四・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	二六・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	四〇・〇〇
	甲ノ三 百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	一二・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	一五・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	一八・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	二四・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	三〇・〇〇
	甲ノ四 百平方メートルニ付三十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	一一・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	一三・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	一七・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	二二・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	二五・〇〇
	甲ノ五 其ノ他	每百斤	二三・〇〇
	乙 單ニ漂白シタルモノ		生地ノモノノ稅率ニ六圓ヲ加フ
	丙 其ノ他		生地ノモノノ稅率ニ十五圓ヲ加フ
	八 紋織布及繻織布（別項ニ揭ケサルモノ）		
	甲 生地ノモノ		
	甲ノ一 百平方メートルニ付五キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	三五・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	四五・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	六〇・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	八〇・〇〇
	甲ノ二 百平方メートルニ付十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	二四・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	三四・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	四〇・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	四七・〇〇
	甲ノ三 百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	二四・〇〇
	ロ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	三二・〇〇
	ハ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	三七・〇〇
	ニ 其ノ他	每百斤	四二・〇〇
	甲ノ四 百平方メートルニ付三十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	二二・〇〇
	ロ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	ハ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	三五・〇〇
	ニ 其ノ他	每百斤	四〇・〇〇
	甲ノ五 其ノ他	每百斤	三五・〇〇
	乙 單ニ漂白シタルモノ		生地ノモノノ稅率ニ六圓ヲ加フ
	丙 其ノ他		生地ノモノノ稅率ニ十五圓ヲ加フ
	九 其ノ他		
	甲 生地ノモノ		
	甲ノ一 百平方メートルニ付五キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	二四・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	三二・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	四〇・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	五五・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	七五・〇〇
	甲ノ二 百平方メートルニ付十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 十九ヲ超エサルモノ	每百斤	二二・〇〇
	ロ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	二六・〇〇
	ハ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	二八・〇〇
	ニ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	三五・〇〇
	ホ 其ノ他	每百斤	四五・〇〇
	甲ノ三 百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	一七・〇〇
	ロ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	二〇・〇〇
	ハ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	二六・〇〇
	ニ 其ノ他	每百斤	三二・〇〇
	甲ノ四 百平方メートルニ付三十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 二十七ヲ超エサルモノ	每百斤	一五・〇〇
	ロ 三十五ヲ超エサルモノ	每百斤	一八・〇〇
	ハ 四十三ヲ超エサルモノ	每百斤	二三・〇〇
	ニ 其ノ他	每百斤	二七・〇〇
	甲ノ五 其ノ他	每百斤	二六・〇〇
	乙 單ニ漂白シタルモノ		生地ノモノノ稅率ニ六圓ヲ加フ
	丙 其ノ他		生地ノモノノ稅率ニ十五圓ヲ加フ
二九九	亞麻、苧麻、ラミー、大麻又ハ黃麻ノ織物、其ノ交織物及此等ノ纖維ト綿トノ交織物		
	一 天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）	從價	二割
	二 飾布	從價	一割
	三 搦織布（飾布ヲ除ク）	從價	二割
	四 漂白シタル平織ノ亞麻布及亞麻綿交織布（百平方メートルニ付十七キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數二十五ヲ超エ四十ヲ超エサルモノ）		無稅
	五 平織布、紋織布及繻織布（別項ニ揭ケサルモノ）		
	甲 黃麻布		
	五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ 四ヲ超エサルモノ	每百斤	二・五〇
	ロ 十ヲ超エサルモノ	每百斤	四・〇〇
	ハ 二十ヲ超エサルモノ	每百斤	七・四〇
	ニ 其ノ他	從價	一割
	乙 綿ト交織ノモノ		
	乙ノ一 生地ノモノ		
	イ 百平方メートルニ付四十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イノ一 十ヲ超エサルモノ	每百斤	一〇・〇〇
	イノ二 二十ヲ超エサルモノ	每百斤	二〇・〇〇
	イノ三 三十ヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇

	イノ四　四十チ超エサルモノ	毎百斤	四五・〇〇
	イノ五　其ノ他	毎百斤	五〇・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一二・〇〇
	乙ノ二　其ノ他	生地ノモノノ税率ニ十二圓チ加フ	
	丙　其ノ他		
	丙ノ一　生地ノモノ		
	イ　百平方メートルニ付四十キログラムチ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イノ一　十チ超エサルモノ	毎百斤	一二・〇〇
	イノ二　二十チ超エサルモノ	毎百斤	二二・〇〇
	イノ三　三十チ超エサルモノ	毎百斤	四〇・〇〇
	イノ四　四十チ超エサルモノ	毎百斤	六〇・〇〇
	イノ五　其ノ他	毎百斤	八〇・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一五・〇〇
	丙ノ二　其ノ他	生地ノモノノ税率ニ十二圓チ加フ	
	六　其ノ他		
	甲　綿ト交織ノモノ		
	甲ノ一　生地ノモノ		
	イ　百平方メートルニ付四十キログラムチ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イノ一　十チ超エサルモノ	毎百斤	八・〇〇
	イノ二　二十チ超エサルモノ	毎百斤	一五・〇〇
	イノ三　三十チ超エサルモノ	毎百斤	二五・〇〇
	イノ四　四十チ超エサルモノ	毎百斤	三五・〇〇
	イノ五　其ノ他	毎百斤	四〇・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一〇・〇〇
	甲ノ二　其ノ他	生地ノモノノ税率ニ十二圓チ加フ	
	乙　其ノ他		
	乙ノ一　生地ノモノ		
	イ　百平方メートルニ付四十キログラムチ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イノ一　十チ超エサルモノ	毎百斤	一〇・〇〇
	イノ二　二十チ超エサルモノ	毎百斤	二〇・〇〇
	イノ三　三十チ超エサルモノ	毎百斤	三〇・〇〇
	イノ四　四十チ超エサルモノ	毎百斤	四五・〇〇
	イノ五　其ノ他	毎百斤	六五・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一三・〇〇
	乙ノ二　其ノ他	生地ノモノノ税率ニ十二圓チ加フ	
三〇〇	風梨、葛、マニラヘムプ、アゲーヴ其ノ他ノ植物纖維（綿、亞麻、苧麻、ラミー、大麻及黄麻チ除ク）ノ織物及其ノ交織物		
	五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	一　四チ超エサルモノ	毎百斤	二・〇〇
	二　十チ超エサルモノ	毎百斤	六・〇〇
	三　二十チ超エサルモノ	毎百斤	一二・〇〇
	四　其ノ他	從價	二割
三〇一	毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト絹トノ交織物		
	一　天鵞絨、フラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルチ切リタルト否トチ別タス）		
	甲　絹入ノモノ	毎百斤	一八〇・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	五〇・〇〇
	二　其ノ他		
	甲　毛製ノモノ		
	イ　一平方メートルニ付百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	五七・五〇
	ロ　一平方メートルニ付二百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	九七・五〇
	ハ　一平方メートルニ付五百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	九〇・〇〇
	ニ　其ノ他	毎百斤	六四・七〇
	乙　毛綿製ノモノ		
	イ　一平方メートルニ付百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	五五・〇〇
	ロ　一平方メートルニ付二百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	五二・五〇
	ハ　一平方メートルニ付五百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	六〇・四〇

	ニ　其ノ他	毎百斤	三二・六〇
	丙　毛絹製ノモノ及毛綿絹製ノモノ		
	丙ノ一　絹ノ重量全重量ノ百分ノ十チ超エサルモノ		
	イ　一平方メートルニ付百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一四四・〇〇
	ロ　一平方メートルニ付二百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一三六・〇〇
	ハ　一平方メートルニ付五百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一二八・〇〇
	ニ　其ノ他	毎百斤	一二〇・〇〇
	丙ノ二　絹ノ重量全重量ノ百分ノ二十五チ超エサルモノ		
	イ　一平方メートルニ付百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一八八・〇〇
	ロ　一平方メートルニ付二百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一八〇・〇〇
	ハ　一平方メートルニ付五百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一七二・〇〇
	ニ　其ノ他	毎百斤	一六四・〇〇
	丙ノ三　其ノ他	從價	四割
三〇二	馬毛布（他ノ纖維チ交ヘタルモノチ含ム）	從價	二割
三〇三	絹織物及別號ニ掲ケサル絹入ノ織物		
	一　天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルチ切リタルト否トチ別タス）		
	甲　絹製ノモノ	毎百斤	五二〇・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一八〇・〇〇
	二　飾布	從價	一割五分
	三　其ノ他		
	甲　絹製ノモノ		
	イ　野蠶絲布	毎百斤	二〇〇・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	五二〇・〇〇
	乙　其ノ他		
	イ　絹ノ重量全重量ノ百分ノ十チ超エサルモノ	毎百斤	九〇・〇〇
	ロ　絹ノ重量全重量ノ百分ノ二十五チ超エサルモノ	毎百斤	一八〇・〇〇
	ハ　絹ノ重量全重量ノ百分ノ五十チ超エサルモノ	毎百斤	二八〇・〇〇
	ニ　其ノ他	毎百斤	三八〇・〇〇
三〇四	別號ニ掲ケサル交織布		
	一　天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルチ切リタルト否トチ別タス）	從價	二割
	二　其ノ他	毎百斤	八六・一〇
三〇五	メリヤス地其ノ他類似ノ編ミタル布帛（起毛シタルト否トチ別タス）		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	四割五分
	二　其ノ他		
	甲　一平方メートルニ付二百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	一三三・〇〇
	乙　一平方メートルニ付五百グラムチ超エサルモノ	毎百斤	六八・八〇
	丙　其ノ他	毎百斤	五五・七〇
三〇六	レース地及網地		
	一　窓掛地		
	甲　綿製ノモノ	從價	二割五分
	乙　其ノ他	從價	三割
	二　蚊幮地		
	甲　綿製ノモノ	毎百斤	一一四・〇〇
	乙　其ノ他	從價	三割
	三　ヴェーリング		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	六八〇・〇〇
	乙　其ノ他	從價	三割
	四　漁網地及蠶網地	從價	二割
	五　其ノ他		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	四割五分
	乙　其ノ他	從價	二割五分
三〇七	フェルト地		
	一　毛製又ハ毛綿製ノモノ	毎百斤	九〇・五〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
三〇八	刺繍布	從價	四割
三〇九	ブックバインダースクロース	毎百斤	三四・〇〇
三一〇	トレーシングクロース	毎百斤	七二・六〇
三一一	アーチストカンヴァス	從價	二割五分

三一二	ウインドーホルランド	毎百斤	四〇・八〇
三一三	エムパイアクロース	毎百斤	三〇・五〇
三一四	革布	毎百斤	四四・〇〇
三一五	牀用油布及リノリユーム	毎百斤	一一・四〇
三一六	ルーフィングカンヴァス	從價	二割
三一七	タードカンヴァス	從價	二割
三一八	金剛砂布（硝子粉ヲ塗リタルモノヲ含ム）	毎百斤	七・八五
三一九	防水布（護謨ヲ塗リ又ハ挿入シタルモノ）		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	四割
	二　其ノ他	毎百斤	五八・二〇
三二〇	護謨入布及護謨紐類		
	一　幅八センチメートルヲ超エタルモノ		
	甲　絹入ノモノ	毎百斤	一四八・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一一八・〇〇
	二　其ノ他		
	甲　織リタルモノ		
	イ　絹入ノモノ	從價	四割
	ロ　其ノ他	從價	二割五分
	乙　其ノ他		
	イ　絹入ノモノ	從價	四割
	ロ　其ノ他	從價	二割五分
三二一	インシユレーチングテープ（布帛ヲ用ヰタルモノ）	毎百斤	二三・七〇
三二二	ラムプ心	從價	二割五分
三二三	タイプライターリボン	從價	二割五分
三二四	手巾（單製ノモノ）		
	一　綿製ノモノ	毎百打	四八・七〇
	二　亞麻製ノモノ	毎百打	八三・七〇
	三　亞麻綿製ノモノ	從價	二割五分
	四　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	五　其ノ他	從價	二割五分
三二五	浴巾（單製ノモノ）		
	一　綿製ノモノ	毎百斤	七八・一〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
三二六	ブランケット（單製ノモノ）	毎百斤	四九・二〇
三二七	旅氈（單製ノモノ）		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	二三二・〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	一三九・〇〇
三二八	地氈（單製連製ヲ別タス）		
	一　毛製又ハ毛入ノモノ		
	甲　パイル織ノモノ		
	甲ノ一　パイルヲ組成スル絲カ一系ノモノ		
	イ　パイルヲ切リタルモノ	毎百斤	三六・一〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	二一・四〇
	甲ノ二　其ノ他		
	イ　パイルヲ切リタルモノ	毎百斤	四四・五〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	二七・二〇
	乙　フエルト製ノモノ	毎百斤	一七・一〇
	丙　其ノ他	從價	三割
	二　大麻製又ハ黄麻製ノモノ	從價	二割五分
	三　其ノ他	從價	二割五分
三二九	テーブルクロース（單製ノモノ）		
	一　綿製、綿大麻製又ハ綿黄麻製ノモノ	毎百斤	一四二・〇〇
	二　亞麻製又ハ綿亞麻製ノモノ	毎百斤	八〇・〇〇
	三　毛製又ハ毛綿製ノモノ	毎百斤	一九二・〇〇
	四　絹製、絹入ノモノ、金屬絲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ	從價	五割
	五　其ノ他	從價	三割五分
三三〇	窓掛		
	一　毛製又ハ毛綿製ノモノ	從價	三割五分
	二　絹製、絹入ノモノ、金屬絲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ	從價	五割
	三　其ノ他		
	甲　レース製ノモノ	毎百斤	三九・五〇
	乙　其ノ他	從價	三割五分
三三一	トリムミング		
	一　リボン、レース、小緣、平紐、丸紐、組紐類		
	甲　絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ加ヘタルモノ	從價	五割
	乙　擬造貴石、硝子珠、卑金屬等ヲ加ヘタルモノ	從價	四割

	丙　其ノ他		
	イ　レース編ノモノ、綷リタルモノ又ハ刺繡シタルモノ	從價	四割
	ロ　其ノ他	從價	三割
	二　其ノ他（總、ノット、ループ、スター等）		
	甲　絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ加ヘタルモノ	從價	五割
	乙　其ノ他	從價	四割
三三二	蚊幮	從價	三割五分
三三三	ハムモック	從價	三割五分
三三四	漁網及蠶網	從價	二割
三三五	エーアクッション		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	三一五・〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	一二四・〇〇
三三六	ベッドクィルト及クッション		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　羽毛ヲ塡充シタルモノ	毎百斤	一二四・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	七八・一〇
三三七	ホース及機械用ベルチング（織製ノモノ）		
	一　綿製ノモノ	毎百斤	四七・五〇
	二　其ノ他	從價	二割
三三八	濾過囊	從價	二割
三三八ノ二	瓦斯塡充用囊	從價	二割
三三九	ガンニー囊	毎百斤	二・五五
三四〇	故ガンニー囊		無稅
三四一	襤褸		無稅
三四二	別號ニ揭ケサル布帛	從價	二割五分
三四三	別號ニ揭ケサル布帛製品		
	一　絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙若ハ鼈甲ヲ加ヘタルモノ又ハ刺繡シタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	三割五分

第十類　衣類及同附屬品

本類中絹ナル名稱ハ人造絹ヲ包含スルモノトス

三四四	雨衣		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	二　其ノ他	毎百斤	三一二・〇〇
三四五	シャーツ、フロント、カラー及カフス	毎百斤	一三四・〇〇
三四六	肌衣（上下ヲ別タス）		
	一　メリヤス製ノモノ		
	甲　綿製ノモノ	毎百斤	一六六・〇〇
	乙　毛製又ハ毛綿製ノモノ	從價	二割五分
	丙　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	丁　其ノ他	從價	二割五分
	二　其ノ他		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	乙　其ノ他	從價	三割五分
三四七	手袋		
	一　革製ノモノ	毎百斤	四五〇・〇〇
	二　革ト他物トヲ以テ製シタルモノ（絹入ノモノヲ除ク）	毎百斤	一七九・〇〇
	三　綿製、亞麻製、綿亞麻製、毛製又ハ毛綿製ノモノ	毎百斤	二二六・〇〇
	四　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	九四九・〇〇
	五　護謨製ノモノ	從價	二割五分
	六　其ノ他	從價	四割
三四八	足袋		
	一　綿製、毛製又ハ毛綿製ノモノ	毎百斤	二三二・〇〇
	二　亞麻製又ハ綿亞麻製ノモノ	毎百斤	一三八・〇〇
	三　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	四　其ノ他	從價	四割
三四九	肩掛及襟卷		
	一　マフラー		
	甲　絹製ノモノ	毎百斤	八五三・〇〇
	乙　絹入ノモノ	毎百斤	五三〇・〇〇
	丙　其ノ他	從價	四割
	二　其ノ他		
	甲　綿製、亞麻製、苧麻製、毛製又ハ毛綿製ノモノ	毎百斤	一五九・〇〇
	乙　絹製ノモノ	毎百斤	七五〇・〇〇
	丙　絹入ノモノ（毛皮付又ハ羽毛入ノモノヲ除ク）	毎百斤	四〇〇・〇〇

	丁　毛皮製、毛皮付、羽毛製又ハ羽毛入ノモノ	從價	五割
	戊　其ノ他	從價	四割
三五〇	襟飾		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	一一・四〇
	二　其ノ他	毎百斤	三・五五
三五一	袴釣		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	毎百斤	四五四・〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	一〇二・〇〇
三五二	衣服用ベルト		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠又ハ珊瑚ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	乙　革製ノモノ	從價	四割
	丙　其ノ他	從價	四割
三五三	スリーヴサスペンダー及ストッキングサスペンダー類		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	二　金屬製ノモノ	從價	四割
	三　其ノ他	毎百斤	一七八・〇〇
三五四	帽子及帽體		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、羽毛、造花等ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ		
	イ　シルクハット及オペラハット	毎打	二八・八〇
	ロ　支那帽子	從價	五割
	ハ　フード	毎打	三・八〇
	ニ　其ノ他	從價	五割
	乙　フェルト製ノモノ		
	乙ノ一　帽子		
	イ　羊毛製ノモノ	毎打	七・五〇
	ロ　其ノ他	毎打	一五・八〇
	乙ノ二　帽體		
	イ　形ツクリタルモノ		
	イノ一　羊毛製ノモノ	毎打	七・五〇
	イノ二　其ノ他	毎打	一五・八〇
	ロ　其ノ他		
	ロノ一　羊毛製ノモノ	毎打	〇・九五
	ロノ二　其ノ他	從價	二割
	丙　パナマストロー其ノ他類似ノ植物纖維製ノモノ	毎打	三五・六〇
	丁　麥稈製、經木製又ハ其ノ混製ノモノ	毎打	六・二五
	戊　其ノ他		
	イ　ヘルメット帽子	毎打	二〇・九〇
	ロ　キャップ（布帛製又ハメリヤス製ノモノ）	毎打	五・五五
	ハ　フード	毎打	三・五五
	ニ　其ノ他	從價	三割五分
三五五	靴其ノ他ノ履物		
	一　長靴		
	甲　革製ノモノ	毎百斤	一三四・〇〇
	乙　護謨製ノモノ	毎百斤	六五・七〇
	丙　其ノ他	從價	四割
	二　短靴		
	甲　革製ノモノ	毎百斤	一三五・〇〇
	乙　帆布製ノモノ		
	イ　革底ノモノ	毎百斤	八六・七〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	五七・八〇
	丙　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	丁　其ノ他	從價	四割
	三　支那靴		
	甲　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	四割
	乙　其ノ他	從價	三割五分
	四　護謨製被覆靴	毎百斤	六一・一〇
	五　スリッパー		
	甲　革製ノモノ	毎百斤	一一九・〇〇
	乙　布帛製ノモノ		
	乙ノ一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	乙ノ二　フェルト製ノモノ		
	イ　革底ノモノ	毎百斤	七六・四〇
	ロ　其ノ他	從價	四割

	乙ノ三　其ノ他	從價	四割
	丙　其ノ他	從價	四割
	六　其ノ他	從價	四割
三五六	靴紐	從價	四割
三五七	鈕釦（貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノヲ除ク）		
	一　カフス鈕釦及シャーツ鈕釦	從價	三割五分
	二　其ノ他		
	甲　包鈕釦	毎百斤（内裝共）	一三七・〇〇
	乙　金屬製ノモノ	毎百斤（内裝共）	五四・五〇
	丙　陶磁製又ハ硝子製ノモノ	從價	三割五分
	丁　アイヴォリーナット製ノモノ（摸造ノモノヲ含ム）	從價	三割五分
	戊　骨製又ハ角製ノモノ	從價	三割五分
	己　其ノ他	從價	三割五分
三五八	バックル、フック及アイ類（貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノヲ除ク）		
	一　バックル	毎百斤	三二・〇〇
	二　フック及アイ	毎百斤	四四・三〇
	三　シューフック及シューアイレット	毎百斤	一一〇・〇〇
	四　其ノ他	從價	三割五分
三五九	身邊粧飾用細貨類	從價	五割
三六〇	別號ニ揭ケサル衣類、同附屬品及其ノ部分品		
	一　毛皮製、毛皮付、羽毛製、羽毛入、絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	三割五分
	第十一類　製紙用パルプ、紙、紙製品、書籍及繪畫		
三六一	製紙用パルプ		
	一　メカニカルパルプ	毎百斤	〇・二二
	二　其ノ他	毎百斤	〇・二七
三六二	印刷料紙		
	一　アートペーパー	毎百斤	六・六〇
	二　其ノ他		
	甲　有色ノモノ	毎百斤	一・五五
	乙　其ノ他		
	イ　一平方メートルノ重量五十八グラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	二・二〇
三六三	筆記用紙	毎百斤	四・五五
三六四	圖畫用紙	毎百斤	七・五〇
三六五	ブロッチングペーパー	毎百斤	四・九〇
三六六	濾紙	毎百斤	二一・〇〇
三六七	包裝用紙及燐寸用紙（チッシューペーパーヲ除ク）	毎百斤	二・四〇
三六八	煙草用紙	從價	三割
三六九	壁紙	毎百斤	一四・四〇
三七〇	板紙	毎百斤	一・七五
三七一	唐紙（各種）	從價	三割
三七二	摸造日本紙及チッシューペーパー	毎百斤	三・二五
三七三	摸造羊皮紙、パラフィンペーパー及ワックスペーパー		
	一　金屬ノ箔若ハ粉ヲ用ヰタルモノ、押形ヲ付シタルモノ又ハ捺染シタルモノ	毎百斤	三・八五
	二　其ノ他	毎百斤	三・二〇
三七四	トレーシングペーパー	毎百斤	二二・〇〇
三七五	リソトランスファーペーパー	毎百斤	三七・八〇
三七六	油紙	毎百斤	一五・一〇
三七七	窻硝子用グラスペーパー	毎百斤	一〇七・〇〇
三七八	別號ニ揭ケサル紙		
	一　金屬ノ箔又ハ粉ヲ用ヰタルモノ		
	甲　貴金屬ヲ用ヰタルモノ	從價	三割
	乙　其ノ他	毎百斤	一〇・九〇
	二　表面ニ著色シタルモノ		
	甲　押形ヲ付シタルモノ	毎百斤	四・九五
	乙　其ノ他	毎百斤	三・三〇
	三　捺染シタルモノ		
	甲　押形ヲ付シタルモノ	毎百斤	五・三〇
	乙　其ノ他	毎百斤	四・一〇
	四　其ノ他		
	甲　縮揉シタルモノ	毎百斤	一二・七〇

	乙 其ノ他	從價	二割五分
三七九	ペーパーレース及ペーパーボーダー		
	一 金屬ノ箔又ハ粉ヲ用ヰタルモノ	每百斤	三七・八〇
	二 其ノ他	每百斤	九・五〇
三八〇	白紙帳簿		
	一 唐紙製ノモノ	每百斤	一九・七〇
	二 其ノ他		
	甲 紙表裝ノモノ	每百斤	三三・〇〇
	乙 其ノ他	每百斤	五三・六〇
三八一	書式類	每百斤	三八・四〇
三八二	書狀用紙(箱入ノモノ)	每百斤箱共	三〇・三〇
三八三	封筒		
	一 箱入ノモノ(書狀用紙共ノモノヲ含ム)	每百斤箱共	三一・六〇
	二 其ノ他	從價	三割
三八四	アルバム		
	一 革表裝ノモノ	從價	五割
	二 布帛表裝ノモノ		
	甲 絹製又ハ絹入ノモノ	每百斤	四八・九〇
	乙 其ノ他	每百斤	二〇・〇〇
	三 紙表裝ノモノ	每百斤	一五・三〇
	四 其ノ他	從價	四割
三八五	テストペーパー	從價	二割
三八六	寫眞用パライタペーパー、鷄卵紙及感光紙		
	一 パライタペーパー	每百斤內裝共	八・五五
	二 鷄卵紙	每百斤內裝共	八五・六〇
	三 ブロマイドペーパー及プラチナムペーパー	每百斤內裝共	一三四・〇〇
	四 其ノ他	從價	四割
三八七	カーボンペーパー	每百斤	二七・三〇
三八八	金剛砂紙(硝子粉ヲ塗リタルモノヲ含ム)	每百斤	六・三〇
三八八ノ二	ウオールボード	從價	三割
三八九	レーベル	每百斤	八〇・〇〇
三九〇	骨牌	每百斤	一一三・〇〇
三九一	寫眞	從價	五割
三九二	書畫		
	一 印刷シタルモノ		
	甲 轉寫用ノモノ	每百斤	三九・三〇
	乙 其ノ他	從價	五割
	二 其ノ他		無稅
三九三	カードカレンダー及ブロックカレンダー	從價	五割
三九四	繪葉書	每百斤	五二・四〇
三九五	クリスマスカード類	從價	五割
三九六	書籍、習字本、習畫本、樂譜、新聞、雜誌其ノ他別號ニ揭ケサル印刷物		無稅
三九七	設計圖		無稅
三九八	地圖、海圖及學術圖		無稅
三九九	紙幣、銀行券、利札、株券其ノ他ノ有價證券		無稅
四〇〇	屑紙		無稅
四〇一	別號ニ揭ケサル紙製品及パルプ製品	從價	三割五分
	第十二類　礦物及礦物製品		
四〇二	シリカサンド、クォルツサンド其ノ他別號ニ揭ケサル砂及礫		
	一 著色シタルモノ	從價	二割
	二 其ノ他		無稅
四〇三	フリント		無稅
四〇四	パミストーン(粉狀ノモノヲ含ム)		無稅
四〇五	金剛砂、コランダムサンド、トリポリ其ノ他類似ノ研磨用礦物材料		無稅
四〇五ノ二	カーボランダム、アランダム其ノ他類似ノ研磨用人造礦物材料	每百斤	二・一〇
四〇六	パスブリック	每百斤	一・〇〇
四〇七	メタルポリシュ(別號ニ揭ケサルモノ)		
	一 液狀又ハ泥狀ノモノ	每百斤容器共	五・四〇
	二 其ノ他	每百斤	三・一〇
四〇八	砥石		
	一 人造ノモノ	每百斤	二一・五〇
	二 其ノ他		
	甲 天然ノモノニシテ枠、柄等ヲ有セサルモノ		無稅
	乙 其ノ他	從價	一割
四〇九	スレート及別號ニ揭ケサルスレート製品		
	一 エヲ加ヘサルモノ		無稅
	二 其ノ他		
	甲 研磨セサルモノ又ハ彫刻セサルモノ		
	イ 屋背用板	每百斤	〇・二〇

	ロ 其ノ他	從價	一割
	乙 其ノ他	從價	三割五分
四一〇	リソグラフィックストーン		
	一 エヲ加ヘサルモノ		無稅
	二 其ノ他	每百斤	〇・五〇
四一一	ボルト、カーボナード其ノ他ノ黑色ダイヤモンド		無稅
四一二	貴石	從價	五分
四一三	半貴石及別號ニ揭ケサル半貴石製品		
	一 切ラサルモノ又ハ磨カサルモノ		
	甲 水晶	從價	五分
	乙 其ノ他	從價	二割
	二 其ノ他		
	甲 機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ヅクリタルモノ	從價	二割
	乙 其ノ他	從價	五割
四一四	石及石製品(別號ニ揭ケサルモノ)		
	一 エヲ加ヘサルモノ又ハ單ニ割リタルモノ		無稅
	二 其ノ他		
	甲 研磨セサルモノ又ハ彫刻セサルモノ	從價	一割
	乙 其ノ他	從價	四割
四一五	琥珀及琥珀製品(別號ニ揭ケサルモノ)		
	一 エヲ加ヘサルモノ	從價	二割
	二 其ノ他		
	甲 機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ヅクリタルモノ	從價	二割
	乙 其ノ他	從價	五割
四一六	屑琥珀		無稅
四一七	メーアシャウム、人造メーアシャウム及同製品		
	一 エヲ加ヘサルモノ	從價	二割
	二 其ノ他	從價	四割
四一八	石絨及別號ニ揭ケサル石絨製品		
	一 塊、粉及纖維狀ノモノ		無稅
	二 絲	每百斤	八・二五
	三 板	每百斤	四・〇五
	四 其ノ他	每百斤	一八・八〇
四一九	雲母及別號ニ揭ケサル雲母製品		
	一 塊及粉		無稅
	二 板		
	甲 著色セサルモノ又ハ粧飾セサルモノ		無稅
	乙 其ノ他	從價	二割五分
	三 板ヲ貼リ合セタルモノ又ハ布紙等ニ貼リ付ケタルモノ	每百斤	三八・一〇
	四 其ノ他	從價	二割
四二〇	滑石及ソープストーン(粉狀ノモノヲ含ム)		無稅
四二一	燐礦石		無稅
四二二	カイナイト、キーセライト、カーナライト其ノ他類似ノ鹽類		無稅
四二三	石膏		
	一 燒カサルモノ		無稅
	二 其ノ他	每百斤	〇・四五
四二四	石膏製品	從價	四割
四二五	クリオライト		無稅
四二六	粘土		無稅
四二七	石墨		無稅
四二八	石墨製品(別號ニ揭ケサルモノ)		
	一 坩堝	每百斤	六・一五
	二 其ノ他	從價	二割
四二九	石炭		無稅
四三〇	コークス	每一萬斤	五・六五
四三一	磚炭	從價	一割
四三二	ポートランドセメント、ローマンセメント、プゾラナセメント其ノ他類似ノ水硬セメント	每百斤	〇・三〇
四三三	セメント製品		
	一 屋背用又ハ壁用ノ板(瓦ヲ含ム)	從價	三割
	二 其ノ他		
	甲 磨カサルモノ、塗ラサルモノ又ハ彩色セサルモノ	從價	三割
	乙 其ノ他	從價	三割五分
四三四	ドロマイト及マグネサイト(燒キタルト否トヲ別タス)		無稅
四三五	別號ニ揭ケサル礦物及礦物製品		
	一 エヲ加ヘサルモノ		無稅

	二　其ノ他		
	甲　粉碎シタルモノ又ハ燒キタルモノ		無税
	乙　其ノ他	從價	二割五分
	第十三類　陶磁器、硝子及硝子製品		
四三六	煉瓦（セメント製ノモノヲ除ク）		
	一　耐火煉瓦	毎百斤	〇・四五
	二　其ノ他		
	甲　釉藥又ハ彩料ヲ施シタルモノ	從價	二割
	乙　其ノ他		
	イ　孔ヲ穿チタルモノ	從價	一割五分
	ロ　其ノ他	從價	一割五分
四三七	瓦（粘土製ノモノ）		
	一　釉藥又ハ彩料ヲ施シタルモノ	毎百斤	五・〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	三・〇五
四三七ノ二	アランダムタイル其ノ他類似ノモノ	從價	二割
四三八	耐火性粘土製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　坩堝	毎百斤	三・〇〇
	二　瓦斯レトルト	從價	一割五分
	三　ノッズル及ストッパー	從價	一割五分
	四　其ノ他	從價	一割五分
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器		
	一　貴金屬又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬ヲ用キタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　電氣用ノモノ	從價	二割五分
	乙　其ノ他	從價	四割
四四〇	陶磁器ノ破片		無税
四四一	硝子塊	從價	一割
四四二	硝子粉	從價	一割
四四三	硝子棒及硝子管		
	一　フューズドシリカ製ノモノ	從價	一割五分
	二　其ノ他	毎百斤	一八・〇〇
四四四	硝子板		
	一　無色平面ノモノ		
	甲　厚二・二ミリメートルヲ超エサルモノ		
	イ　一平方メートルヲ超エサルモノ	毎百平方メートル	一一・八〇
	ロ　其ノ他	毎百平方メートル	一八・四〇
	乙　厚四ミリメートルヲ超エサルモノ		
	イ　一平方メートルヲ超エサルモノ	毎百平方メートル	四一・二〇
	ロ　其ノ他	毎百平方メートル	四六・六〇
	丙　其ノ他		
	イ　千平方センチメートルヲ超エサルモノ	毎百平方メートル	七六・五〇
	ロ　其ノ他	毎百平方メートル	一八五・〇〇
	二　鍍銀シタルモノ		
	甲　千平方センチメートルヲ超エサルモノ	毎百平方メートル	二一〇・〇〇
	乙　其ノ他	毎百平方メートル	二二〇・〇〇
	三　有色、著色又ハ砂磨ノモノ（條付ノモノ、エンボッスシタルモノ其ノ他類似ノモノヲ除ク）		
	甲　一平方メートルヲ超エサルモノ	毎百平方メートル	六六・七〇
	乙　其ノ他	毎百平方メートル	六八・九〇
	四　條付ノモノ、エンボッスシタルモノ其ノ他類似ノモノ	毎百平方メートル	五二・五〇
	五　其ノ他	從價	二割
四四五	金屬ノ線又ハ網ヲ入レタル硝子板	毎百平方メートル	五五・二〇
四四六	敷寫用硝子（緣ナキモノ）	從價	一割五分
四四七	スカイライトグラス	從價	二割
四四八	眼鏡用硝子（鑄タルモノ又ハ切リタルモノ）	從價	三割
四四九	光學用ノレンズ及プリズム（緣又ハ柄ナキモノ）		
	一　磨カサルモノ	從價	二割
	二　其ノ他	從價	三割
四五〇	顯微鏡用デッキグラス	從價	一割
四五一	顯微鏡用オブゼクトグラス	從價	一割
四五二	寫眞用乾板		
	一　現象セサルモノ	毎百斤内裝共	三三・〇〇
	二　其ノ他	從價	三割
四五三	眼鏡		

	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、象牙又ハ鼈甲ノ緣又ハ柄ヲ有スルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	三割五分
四五四	硝子鏡		
	一　貴金屬又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬ヲ用キタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	三割五分
四五五	硝子珠玉及硝子珠（摸造貴石、摸造金屬、摸造眞珠、摸造珊瑚等ノ硝子珠玉ヲ含ム）	從價	四割
四五六	屑硝子		無税
四五七	別號ニ掲ケサル硝子製品		
	一　貴金屬又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬ヲ用キタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　フューズドシリカ製ノモノ	從價	二割
	乙　其ノ他		
	イ　電氣用ノモノ	從價	二割五分
	ロ　其ノ他	從價	四割
	第十四類　鑛及金屬		
四五八	鑛（燒キタルモノヲ含ム）、マット、ボットム及鑛滓		無税
四五九	白金、イリヂウム、オスミウム、パラヂウム、ロヂウム、インヂウム及ルセニウム		無税
四六〇	金		
	一　塊、錠、粒、板及帶		無税
	二　管及線	從價	二割
	三　箔	從價	二割五分
	四　屑及故（改造用ノミニ適スルモノ）		無税
四六一	銀		
	一　塊、錠、板及帶		無税
	二　管及線	從價	二割
	三　箔	從價	二割五分
	四　屑及故（改造用ノミニ適スルモノ）		無税
四六二	鐵（別號ニ掲ケタル特殊鋼ヲ除ク）		
	一　塊及錠		
	甲　銑鐵	毎百斤	〇・一〇
	乙　スピーゲルアイセン、フェロマンガニース其ノ他ノ不可鍛性鐵合金	從價	一割
	丙　其ノ他		
	丙ノ一　シートバー（ティンバーヲ含ム）	毎百斤	〇・五〇
	丙ノ二　其ノ他	從價	一割五分
	二　條及竿（テー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノヲ含ム）	毎百斤	一・一〇
	三　レール（フィッシュプレートヲ含ム）	毎百斤	〇・九五
	四　ワイヤロッド（卷キタルモノ）	從價	一割八分
	五　板		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ		
	甲ノ一　厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ		
	イ　硅素鋼板（全重量百分中硅素ノ重量一以上ノモノ）	毎百斤	〇・三〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一・九五
	甲ノ二　厚三ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	一・四〇
	甲ノ三　其ノ他	毎百斤	一・一〇
	乙　卑金屬ヲ鍍シタルモノ		
	乙ノ一　錫鍍シタルモノ（葉鐵及葉銅）	毎百斤	〇・七〇
	乙ノ二　亞鉛鍍シタルモノ	毎百斤	二・八五
	乙ノ三　其ノ他	從價	二割
	六　線（卑金屬ヲ鍍シタルト否トヲ別タス）	從價	一割八分
	七　リードワイヤ	從價	五分
	八　リボン	從價	一割
	九　帶（箍鐵）	從價	五分
	十　パラゴンワイヤ（卑金屬ヲ鍍シタルト否トヲ別タス）	從價	一割五分
	十一　線索及撚合線（卑金屬ヲ鍍シタルト否トヲ別タス）	毎百斤	五・五〇
	十二　バーブドツウィストワイヤ	從價	二割
	十三　筒及管（別號ニ掲ケサルモノ）		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ		
	甲ノ一　エルボー及ジョイント	從價	一割八分
	甲ノ二　其ノ他		
	イ　鑄タルモノ	毎百斤	一・〇〇
	ロ　其ノ他		
	ロノ一　內徑百五十ミリメートルヲ超エサルモノ	從價	一割八分

	ロノ二　其ノ他	従價	一割五分
	乙　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	従價	二割
	十四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)		無稅
四六二ノ二	特殊鋼		
	一　全重量百分中ニッケル、クローム、タングステン、モリブデン又ハコバルトノ重量〇・五以上若ハ硅素又ハマンガンノ重量一以上ヲ含有スル塊、錠、條、竿及板(金屬ヲ鍍セサル硅素鋼板ニシテ厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノヲ除ク)	従價	一割八分
	二　全重量百分中炭素ノ重量〇・七以上ヲ含有シ且燐及硫黄ノ各重量〇・〇二以下ノ塊、錠、條及竿	従價	一割八分
四六三	アルミニウム		
	一　塊、錠及粒	毎百斤	三・二〇
	二　條、竿及板	毎百斤	一八・五〇
	三　線及管	従價	二割
	四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	従價	五分
四六四	銅		
	一　塊及錠	毎百斤	七・〇〇
	二　條及竿	毎百斤	一五・〇〇
	三　板	毎百斤	一六・二〇
	四　線		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ		
	イ　徑〇・五ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	一九・三〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一五・七〇
	乙　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	毎百斤	二〇・四〇
	五　撚合線	従價	三割
	六　筒及管		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ	毎百斤	二一・二〇
	乙　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	従價	三割
	七　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	毎百斤	七・〇〇
四六五	鉛		
	一　塊及錠	毎百斤	〇・四〇
	二　板	従價	二割
	三　茶鉛		無稅
	四　線、紐及帶	従價	二割
	五　管	毎百斤	一二・四五
	六　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)		無稅
四六六	錫		
	一　塊及錠	毎百斤	三・七五
	二　板、線及管	従價	二割
	三　箔	毎百斤	二二・五〇
	四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)		無稅
四六七	亞鉛		
	一　塊、錠及粒	毎百斤	三・〇〇
	二　板		
	甲　ニッケルヲ鍍シタルモノ	従價	二割
	乙　其ノ他		
	イ　厚〇・一七ミリメートルヲ超エサルモノ		無稅
	ロ　其ノ他	毎百斤	四・三〇
	三　線及管	従價	二割
	四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	毎百斤	〇・四〇
四六八	ニッケル		
	一　塊及粒		無稅
	二　條、竿及板	毎百斤	二五・二〇
	三　線及管	従價	二割
	四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)		無稅
四六九	水銀及蒼鉛		無稅
四七〇	安知母尼及硫化安知母尼		
	一　塊及錠		無稅
	二　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)		無稅
四七一	眞鍮及青銅		
	一　塊及錠	毎百斤	七・〇〇
	二　條及竿		
	甲　スチームターピン用ノモノ	毎百斤	二一・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一二・六〇
	三　板	毎百斤	一二・八〇
	四　線	毎百斤	一五・〇〇
	五　筒及管		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ	毎百斤	一七・五〇

	乙　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	毎百斤	一九・五〇
	六　箔	毎百斤	三八・三〇
	七　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	毎百斤	七・〇〇
四七二	日耳曼銀		
	一　塊及錠	従價	一割
	二　條、竿及板	毎百斤	一九・七〇
	三　線及管	従價	二割
	四　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	従價	一割
四七三	錻	毎百斤	七・三〇
四七四	バビッツメタル其ノ他ノアンチフリクションメタル		
	一　塊及錠	毎百斤	五・七五
	二　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	従價	一割
四七五	鍍金銀シタル金屬		
	一　鍍金線	毎百斤	一九四・〇〇
	二　鍍銀線	毎百斤	八一・六〇
	三　其ノ他	従價	四割
四七六	前記ノ金屬ニシテ別號ニ掲ケサル形狀ノモノ及別號ニ掲ケサル金屬		
	一　塊、錠及粒	従價	一割
	二　條、竿(テー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノヲ含ム)、板、紐、帶、線、筒及管	従價	二割
	三　線索及撚合線	従價	二割五分
	四　箔	従價	二割五分
	五　屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	従價	一割
	第十五類　金屬製品		
四七七	釘、ウッドスクリュー、ボールト、ナット、リヴェット類(貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノヲ除ク)		
	一　鐵釘		
	甲　金屬ヲ鍍セサルモノ	毎百斤	二・四〇
	乙　其ノ他	毎百斤	三・八〇
	二　銅釘	毎百斤	二二・三〇
	三　ウッドスクリュー(鐵製ノモノ)	毎百斤	五・八五
	四　ウッドスクリュー(眞鍮製又ハ青銅製ノモノ)	毎百斤	三一・八〇
	五　ボールト、ナット及ワッシャー(鐵製ノモノ)	毎百斤	三・七〇
	六　鐵リヴェット	毎百斤	三・六五
	七　ドッグスパイク(鐵製ノモノ)	毎百斤	二・四〇
	八　ブーツプロテクター(鐵製ノモノ)	毎百斤	七・五五
	九　其ノ他	従價	二割五分
四七七ノ二	ベアリングボール	毎百斤	二〇・〇〇
四七八	ベルトファッスナー(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　鐵製ノモノ	毎百斤	一九・四〇
	二　其ノ他	従價	二割
四七九	金屬網		
	一　織リタルモノ		
	甲　鐵製ノモノ(電鍍シタルト否トヲ別タス)	毎百斤	一四・八〇
	乙　銅製、眞鍮製又ハ青銅製ノモノ(エンドレスノモノヲ除ク)	毎百斤	七四・九〇
	丙　其ノ他	従價	二割五分
	二　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ(電鍍シタルト否トヲ別タス)	毎百斤	五・八五
	乙　其ノ他	従價	二割五分
四八〇	リヴェッテッドチューブ(鐵製ノモノ)	従價	二割五分
四八一	フレキシブルチューブ		
	一　鐵製ノモノ	毎百斤	一六・一〇
	二　其ノ他	従價	二割
四八二	鐵道建設用材料(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　タイプレート及スリーパー	毎百斤	二・一五
	二　其ノ他	従價	二割五分
四八三	電線支柱及電線支架用材料(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　電線支柱及同部分品	従價	一割八分
	二　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ	毎百斤	一二・四〇
	乙　其ノ他	毎百斤	二九・二〇
四八四	家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　鐵ノミヲ以テ製シタルモノ(卑金屬ヲ		

	鍍シタルモノヲ含ム）	毎百斤	三・六〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
四八四ノ二	天井、壁等ニ用ヰル金屬板（琺瑯ヲ施シタルモノ又ハエナメルペーント、ヴァニシュ、漆等ヲ塗リタルモノ）	從價	三割
四八五	瓦斯ホールダー、液體タンク及同部分品（鐵製ノモノ）	從價	二割
四八五ノ二	壓搾瓦斯塡充用鐵製シリンダー	毎百斤	四・二五
四八六	絶縁電線		
	一　金屬ヲ以テ鎧裝シタルモノ		
	甲　海底電信線及海底電話線		無稅
	乙　其ノ他		
	イ　インディアラッバー又ハガタパーチャヲ用ヰタルモノ	毎百斤	二〇・〇〇
	ロ　其ノ他		
	ロノ一　電信電話用ノモノ	毎百斤	五・五〇
	ロノ二　其ノ他	毎百斤	一一・二〇
	二　其ノ他		
	甲　フレキシブルコード		
	イ　絹ヲ用ヰタルモノ	從價	二割五分
	ロ　其ノ他	毎百斤	一八・〇〇
	乙　其ノ他		
	イ　インディアラッバー又ハガタパーチャヲ用ヰタルモノ	毎百斤	二六・〇〇
	ロ　其ノ他	從價	二割五分
四八七	漁用銛	從價	二割
四八八	錨（鐵製ノモノ）	毎百斤	三・一五
四八九	鏈（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ		
	イ　ギーアリングチェーン		
	イノ一　自轉車用ノモノ	毎百斤	四九・六〇
	イノ二　其ノ他	從價	二割五分
	ロ　其ノ他		
	ロノ一　一箇ノ重量五百グラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一八・一〇
	ロノ二　其ノ他	毎百斤	五・三五
	乙　其ノ他	從價	三割
四九〇	機械用チェーンベルチング	從價	二割
四九一	懷中時計用鎖、眼鏡用鎖其ノ他身邊粧飾用鎖		
	一　金製又ハ白金製ノモノ	從價	五割
	二　鍍金シタルモノ	毎百斤	一八・〇〇
	三　其ノ他	從價	五割
四九二	コック及ヴァルヴ類（貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノヲ除ク）		
	一　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	毎百斤	七八・七〇
	二　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ		
	イ　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二二・九〇
	ロ　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一六・八〇
	ハ　其ノ他	從價	二割五分
	乙　眞鍮製又ハ青銅製ノモノ	毎百斤	四五・五〇
	丙　其ノ他	從價	二割五分
四九三	蝶鉸、ハットフック及戸、窓、家具等ニ用ヰル金具		
	一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	五割
	二　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	三割
	三　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ	毎百斤	一一・五〇
	乙　眞鍮製又ハ青銅製ノモノ	毎百斤	五五・一〇
	丙　其ノ他	從價	二割五分
四九四	錠及鑰		
	一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	五割
	二　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	三割
	三　其ノ他		
	甲　鐵製ノモノ	毎百斤	二二・〇〇
	乙　眞鍮製又ハ青銅製ノモノ	毎百斤	七〇・〇〇
	丙　其ノ他	從價	二割五分

四九五	白金製ノ坩堝及皿	毎斤	二〇八・〇〇
四九六	工匠具、農具及同部分品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　鑢砥	毎百斤	四・七五
	二　鐵槌	毎百斤	六・八〇
	三　レンチ及スパナー	毎百斤	二三・八〇
	四　パイプカッター及ラッチェット	毎百斤	二五・三〇
	五　トング、ニッパー及プライヤー		
	甲　一箇ノ重量五キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二七・三〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一五・〇〇
	六　ヴァイス	毎百斤	一二・六〇
	七　鉋		
	柄ニ嵌入スヘキ部分ヲ除キタル長		
	甲　十センチメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	三四・六〇
	乙　二十センチメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	三二・六〇
	丙　三十センチメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	二六・四〇
	丁　其ノ他	毎百斤	一七・八〇
	八　オーガー	毎百斤	二七・〇〇
	九　ストック及ダイス又ハスクリュープレート		
	甲　箱入ノモノ	毎百斤 箱共	三七・九〇
	乙　其ノ他	毎百斤	三四・八〇
	十　ショヴェル及スクープ		
	甲　有柄ノモノ	毎百斤	八・七〇
	乙　其ノ他	毎百斤	四・六五
	十一　鋸	毎百斤	四四・三〇
	十二　其ノ他	從價	二割
四九七	ドリル、ビット、リーマー及スクリュータップ（柄又ハ枠ヲ有セサルモノ）	從價	二割四分
四九八	スクリューシャフト	毎百斤	一二・七〇
四九九	刄物（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　ポケットナイフ		
	イ　柄ニ象牙、眞珠貝若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ琺瑯ヲ施シタルモノ	毎百箇	二〇・九〇
	ロ　其ノ他	毎百箇	一五・一〇
	乙　テーブルナイフ		
	イ　柄ニ象牙、眞珠貝若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ琺瑯ヲ施シタルモノ	毎百箇	四七・四〇
	ロ　其ノ他	毎百箇	一五・二〇
	丙　剃刀		
	イ　有柄ノモノ	毎百箇	四〇・四〇
	ロ　其ノ他	從價	三割五分
	丁　其ノ他	從價	三割五分
五〇〇	テーブルフォーク及スプーン		
	一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　フォーク	毎百箇	一二・九〇
	乙　スプーン	毎百斤	一五八・〇〇
五〇一	コルクスクリュー	毎百斤	四一・一〇
五〇二	罎口用キャプシュール	毎千箇	一・一〇
五〇三	クラウンコルク	毎グロッス	〇・一六
五〇四	カートリッヂケース（金屬製ノモノ）	從價	四割
五〇五	縫針、編針、留針類（身邊粧飾用ノモノヲ除ク）		
	一　手縫用針	毎百斤	一九一・〇〇
	二　縫衣機用針	毎百斤	四六四・〇〇
	三　メリヤス機用針	毎百斤	二四九・〇〇
	四　其ノ他	從價	三割
五〇六	筆嘴		
	一　金製ノモノ	毎打	六・七〇
	二　其ノ他	毎グロッス	〇・二五
五〇七	コッピープレッス	從價	三割
五〇八	呼鈴及車用警鈴	毎百斤	八六・九〇
五〇九	自轉車用喞筒	毎百箇	四〇・三〇
五〇九ノ二	消火器	從價	三割五分
五一〇	ミートチョッパー	毎百斤	二一・一〇
五一一	咖啡粉碎器	毎百斤	二〇・〇〇
五一二	アイスクリームフリーザー	毎百斤	二五・三〇

五一三	製茶用及苛性曹達製造用鐵鍋	從價	二割
五一四	ストーヴ及同部分品(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　鑄鐵製ノモノ		
	甲　琺瑯ヲ施シタルモノ	毎百斤	一七・七〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一五・一〇
	二　其ノ他	從價	三割五分
五一五	電氣ストーヴ、電氣鍰其ノ他類似ノ電熱器	從價	三割五分
五一六	ラヂエートル		
	一　鑄鐵製ノモノ	毎百斤	七・〇五
	二　其ノ他	從價	三割五分
五一七	寢臺及同部分品	毎百斤	一五・八〇
五一八	金庫及貨幣匣	從價	三割五分
五一九	ナムバーリングマシン、デーチングマシン、チエックパーフォレーター、ペンシルシャープナー其ノ他類似ノモノ及同部分品	從價	三割
五二〇	貨幣		
	一　金銀貨幣		無稅
	二　其ノ他		
	甲　本邦通貨		無稅
	乙　其ノ他	從價	一割
五二一	貴金屬製品及貴金屬ヲ用キ又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬製品(別號ニ掲ケサルモノ)	從價	五割
五二二	銅製品、眞鍮製品及青銅製品(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	三割五分
	二　其ノ他	毎百斤	一二七・〇〇
五二三	アルミニウム製品(別號ニ掲ケサルモノ)	毎百斤	九四・四〇
五二四	鐵製品(別號ニ掲ケサルモノ)		
	一　琺瑯ヲ施シタルモノ	毎百斤	二三・〇〇
	二　卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	三割五分
	三　其ノ他		
	甲　鑄鐵製ノモノ		
	イ　一箇ノ重量五キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一九・六〇
	ロ　一箇ノ重量五十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一〇・二〇
	ハ　其ノ他	毎百斤	七・八〇
	乙　其ノ他		
	イ　一箇ノ重量五キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	四五・一〇
	ロ　一箇ノ重量五十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二〇・七〇
	ハ　其ノ他	毎百斤	一四・〇〇
五二五	別號ニ掲ケサル金屬製品	從價	三割五分

第十六類　時計、學術器、銃砲、車輛、船舶及機械類

五二六	懷中時計		
	一　金側又ハ白金側ノモノ		
	甲　徑四十ミリメートルヲ超エサルモノ		
	イ　シリンダー機械ノモノ	毎箇	一〇・五〇
	ロ　其ノ他	毎箇	一〇・九〇
	乙　其ノ他		
	イ　シリンダー機械ノモノ	毎箇	一五・五〇
	ロ　其ノ他	毎箇	一五・九〇
	二　銀側又ハ鍍金側ノモノ		
	甲　徑四十ミリメートルヲ超エサルモノ		
	イ　シリンダー機械ノモノ	毎箇	一・二〇
	ロ　其ノ他	毎箇	二・五〇
	乙　其ノ他		
	イ　シリンダー機械ノモノ	毎箇	一・三〇
	ロ　其ノ他	毎箇	二・六〇
	三　其ノ他		
	甲　シリンダー機械ノモノ	毎箇	一・〇五
	乙　其ノ他	毎箇	二・三五
五二七	懷中時計部分品		
	一　側(ウォッチグラスヲ附著シタルモノヲ含ム)		
	甲　金製又ハ白金製ノモノ		
	イ　徑四十ミリメートルヲ超エサルモノ	毎箇	一〇・〇〇
	ロ　其ノ他	毎箇	一五・〇〇
	乙　銀製又ハ鍍金製ノモノ		
	イ　徑四十ミリメートルヲ超エサルモノ	毎箇	〇・五五
	ロ　其ノ他	毎箇	〇・六五

	丙　其ノ他	毎箇	〇・四〇
	二　ムーヴメント(文字板及指針ヲ附著シタルモノヲ含ム)		
	甲　シリンダー機械ノモノ	毎箇	〇・六五
	乙　其ノ他	毎箇	一・九五
	三　撥條	毎百箇	〇・六〇
	四　髭撥條	毎百箇	〇・三五
	五　文字板	毎百箇	四・〇〇
	六　ウォッチグラス	從價	三割
	七　指針	從價	三割
	八　其ノ他		
	甲　金製又ハ白金製ノモノ	從價	五割
	乙　其ノ他(機械用ノ石ヲ除ク)	從價	三割
五二八	置時計及掛時計	從價	四割
五二八ノ二	電氣時計(親時計及子時計ヲ含ム)	從價	三割五分
五二九	ウォッチマンスクロック其ノ他時刻ヲ記錄スル時計	從價	三割
五三〇	置時計、掛時計、電氣時計、タワークロック及ウォッチマンスクロック其ノ他時刻ヲ記錄スル時計ノ部分品		
	一　ムーヴメント(文字板及指針ヲ附著シタルモノヲ含ム)		
	甲　ウォッチマンスクロック其ノ他時刻ヲ記錄スル時計用ノモノ	從價	三割
	乙　其ノ他		
	イ　一箇ノ重量一キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一四九・〇〇
	ロ　一箇ノ重量十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	八二・六〇
	ハ　其ノ他	從價	三割五分
	二　撥條	毎百斤	四五・四〇
	三　髭撥條	毎斤	二・四〇
	四　樂器	毎箇	〇・二五
	五　其ノ他	從價	三割五分
五三一	クロノメーター及同部分品(懷中用ノモノヲ除ク)	從價	二割
五三二	鍼盤及同部分品	從價	二割
五三三	雙眼鏡及隻眼鏡		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙、鼈甲又ハ貝殼ヲ用キタルモノ		
	甲　プリズムヲ用キタルモノ	毎斤	一五・〇〇
	乙　其ノ他	毎斤	三・〇〇
	二　其ノ他		
	甲　プリズムヲ用キタルモノ	毎斤	一五・〇〇
	乙　其ノ他	毎斤	五・三〇
五三四	望遠鏡		
	一　一箇ノ重量一キログラムヲ超エサルモノ	毎斤	三・一〇
	二　其ノ他	從價	二割
五三五	顯微鏡及同部分品	從價	二割
五三六	直尺、曲尺、卷尺、ワイヤゲージ、スクリューピッチゲージ、シックネスゲージ、ミクロメーター、プロトラクター、キャリパー、ディヴァイダー、レヴェル其ノ他類似ノモノ		
	一　木製ノモノ	毎百斤	六二・四〇
	二　金屬製ノモノ	從價	一割五分
	三　布帛製ノモノ		
	甲　ケースヲ有スルモノ	毎百斤	二二九・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	九二・〇〇
	四　其ノ他	從價	二割
五三七	衡器(錘ノ有無ヲ別タス)		
	一　臺秤	從價	一割五分
	二　其ノ他	從價	二割
五三八	衡器部分品及錘	從價	一割五分
五三九	瓦斯計		
	一　一箇ノ重量十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	三一・四〇
	二　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二七・〇〇
	三　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一五・〇〇
	四　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	九・〇〇

	五　其ノ他	毎百斤	六・〇〇
五四〇	水量計		
	一　一箇ノ重量十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	五六・七〇
	二　一箇ノ重量五十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	三二・三〇
	三　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二三・八〇
	四　其ノ他	毎百斤	一一・九〇
五四一	寒暖計		
	一　體温計（ケースノ有無ヲ別タス）		
	甲　二重管式ノモノ	毎斤（ケース共）	二・三〇
	乙　其ノ他	毎斤（ケース共）	六・六〇
	二　其ノ他	從價	二割
五四二	晴雨計		
	一　バログラフ	從價	二割
	二　アネロイドバロメーター	毎百斤	一〇七・〇〇
	三　其ノ他	從價	二割
五四三	アムペアメーター、ヴォルトメーター及ヴォルトアムペアメーター	毎百斤	一四八・〇〇
五四四	ワットメーター		
	一　ワットアワーメーター	毎百斤	五二・三〇
	二　其ノ他	從價	二割
五四五	壓力計（ヴァキュアムゲージヲ含ム）	毎百斤	一二四・〇〇
五四六	タコメーター、ジップスログ、スチーム エンジンインヂケーター、アネモメーター、ダイナモメーター、サイクロメーター、ペドメーター其ノ他類似ノモノ	從價	二割
五四七	電池		
	一　蓄電池	從價	二割
	二　乾電池	毎百斤	一七・三〇
	三　其ノ他	從價	二割五分
五四八	電池部分品（電氣用カーボンヲ除ク）		
	一　エレクトロード	從價	二割
	二　其ノ他	從價	二割五分
五四九	醫療器、オーソペヂックインストルーメント及同部分品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	二割
五五〇	製圖器、測量器及同部分品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	二割
五五〇ノ二	キャッシュレヂスター、計算機其ノ他類似ノモノ及同部分品	從價	二割五分
五五〇ノ三	タイプライター及同部分品	毎百斤	九四・〇〇
五五一	理化學器及同部分品（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	二割
五五二	幻燈器、活動寫眞映寫器及同部分品	從價	四割
五五三	寫眞器		
	一　活動寫眞用ノモノ	從價	四割
	二　顯微鏡用ノモノ及航空機用ノモノ	從價	二割
	三　其ノ他	從價	五割
五五四	寫眞器部分品		
	一　レンズ	從價	三割
	二　カメラ		
	甲　活動寫眞用ノモノ	從價	四割
	乙　顯微鏡用ノモノ及航空機用ノモノ	從價	二割
	丙　其ノ他	從價	五割
	三　製版用スクリーン	從價	二割
	四　其ノ他	從價	五割
五五五	蓄音器	從價	五割
五五六	蓄音器部分品及附屬品		
	一　樂譜用ノ板及圓筒		
	甲　樂譜入ノモノ	毎百斤	七四・三〇
	乙　其ノ他	毎百斤	五七・四〇
	二　其ノ他	從價	五割
五五七	樂器		
	一　ピアノ		
	甲　平形ノモノ	毎百斤	八六・七〇
	乙　其ノ他	毎百斤	六〇・九〇
	二　オルガン	毎百斤	五七・四〇
	三　ハーモニカ	毎百箇	二五・〇〇
	四　其ノ他	從價	四割
五五八	樂器部分品及附屬品		
	一　オルガンリード	毎百斤	二八・〇〇
	二　ピアノヒン（弦捲用ノモノ）	毎百斤	三・〇〇
	三　鍵盤用象牙板	從價	二割
	四　其ノ他	從價	四割
五五九	電信機、電話機及同部分品（別號ニ掲ケサルモノ）		

	一　放送無線電話聽取用ノモノ	從價	四割
	二　其ノ他	從價	二割
五六〇	銃砲及同部分品		
	一　小銃	從價	四割
	二　拳銃	毎箇	五・三五
	三　其ノ他	從價	四割
五六一	鐵道車輛（別號ニ掲ケサルモノ）	從價	三割
五六二	鐵道機關車部分品、鐵道機關車用炭水車部分品其ノ他ノ鐵道車輛部分品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　車輪及車軸	毎百斤	四・三〇
	二　タイヤー	毎百斤	三・五〇
	三　スプリング	毎百斤	六・四〇
	四　電車用コントローラー	毎百斤	二六・五〇
	五　其ノ他	從價	二割
五六三	自動車	從價	五割
五六四	自動車部分品（原動力機ヲ除ク）	從價	三割
五六五	自轉車（サイドカーニ付テハ分離シテ第五百六十六號ヲ適用ス）		
	一　モーターサイクル		
	甲　機關付ノモノ	毎箇	九三・六〇
	乙　其ノ他	毎箇	七七・六〇
	二　其ノ他	毎箇	二五・八〇
五六六	自轉車部分品（原動力機及鏈ヲ除ク）		
	一　タイヤー	毎百斤	一一四・〇〇
	二　リム、スポーク、ワッシャー及マッドガード	毎百斤	三一・九〇
	三　ニップル、ハンドルバー、サッドル、ペダル、スプロケットウィール、ハップ（ブレーキ付ノモノヲ除ク）及ローラーブレーキ	毎百斤	六四・二〇
	四　コースターブレーキ、ギーアケース、フリーウィール及ヴァルヴ	毎百斤	九九・五〇
	五　其ノ他	從價	三割五分
五六七	別號ニ掲ケサル車輛及同部分品	從價	三割五分
五六八	船舶		
	一　機械力又ハ帆ヲ以テ運航スルモノ（噸數ヲ以テ積量ヲ計算セサルモノヲ除ク）		
	甲　船齡二十年ヲ超エサルモノ	總噸數毎噸	一五・〇〇
	乙　其ノ他	總噸數毎噸	二〇・〇〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
五六九	汽罐（メカニカルストーカーニ付テハ分離シテ第五百七十一號ヲ適用ス）		
	一　鑄鐵製ノモノ	毎百斤	五・〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	八・〇〇
五七〇	汽罐部分品及同附屬品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　コルゲーテッドボイラーファーネスチューブ	毎百斤	二・七〇
	二　フランジドボイラープレート	毎百斤	五・七〇
	三　其ノ他	從價	二割
五七一	メカニカルストーカー	毎百斤	六・一〇
五七一ノ二	フューエルエコノマイザー	毎百斤	三・三五
五七二	フィードウォーターヒーター	毎百斤	一二・八〇
五七三	鐵道機關車及鐵道機關車用炭水車		
	一　機關車		
	甲　汽力ニ依ルモノ	毎百斤	一二・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	一五・九〇
	二　炭水車	從價	二割
五七四	蒸汽機關車（軌條ヲ要セサルモノ）及ポータブルスチームエンジン	毎百斤	一〇・四〇
五七四ノ二	ロードローラー		
	一　スチームロードローラー	毎百斤	一〇・六〇
	二　モーターロードローラー	毎百斤	一一・五〇
	三　其ノ他	從價	二割
五七四ノ三	コンクリートミキサー	毎百斤	一〇・七〇
五七五	スチームタービン	從價	二割
五七六	蒸汽機關（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　一箇ノ重量二百五十キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	二三・一〇
	二　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一三・一〇
	三　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一一・三〇
	四　一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサル		

	モノ	每百斤	八・二〇
	五　其ノ他	從價	一割五分
五七七	瓦斯機關及石油機關		
	一　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・〇〇
	二　一箇ノ重量二百五十キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二〇・〇〇
	三　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一七・七〇
	四　一箇ノ重量二千五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一七・〇〇
	五　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一四・七〇
	六　一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一三・七〇
	七　其ノ他	從價	二割
五七八	ウォータータービン及ペルトンウィール		
	一　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	從價	二割
	二　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一五・二〇
	三　其ノ他	每百斤	一四・九〇
五七九	發電機、電動機、廻轉變流機、周波數變換機、廻轉變相機及發電子		
	一　一箇ノ重量二十五キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	四二・四〇
	二　一箇ノ重量五十キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二四・九〇
	三　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二三・二〇
	四　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二〇・六〇
	五　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一七・七〇
	六　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一六・二〇
	七　其ノ他	每百斤	一五・八〇
五七九ノ二	變壓機		
	一　一箇ノ重量二十五キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二六・〇〇
	二　一箇ノ重量五十キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一六・〇〇
	三　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一四・〇〇
	四　一箇ノ重量二百五十キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一三・〇〇
	五　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一二・〇〇
	六　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一〇・〇〇
	七　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	九・〇〇
	八　其ノ他	每百斤	七・〇〇
五八〇	原動力機ト結合シタル發電機		
	一　スチームタービント結合シタルモノ	從價	二割
	二　其ノ他	從價	二割
五八一	別號ニ揭ケサル原動力機	從價	二割
五八二	ブロック及チェーンブロック		
	一　木製ノモノ	從價	二割五分
	二　其ノ他		
	甲　一箇ノ重量五キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二六・九〇
	乙　其ノ他	每百斤	一一・五〇
五八三	クレーン		
	一　原動力機ト結合シタルモノ	每百斤	一二・一〇
	二　其ノ他	每百斤	一〇・一〇
五八四	キャプスタン、ウィンチ、ウィンドラス其ノ他別號ニ揭ケサルワインヂングマシン		
	一　原動力機ト結合シタルモノ		
	甲　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二一・八〇
	乙　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一八・四〇
	丙　其ノ他	每百斤	一四・〇〇

	二　其ノ他	每百斤	一〇・三〇
五八五	浚渫機械		
	一　組立テサルモノ	每百斤	八・九〇
	二　其ノ他	從價	二割
五八六	パワーハムマー		
	一　汽力ニ依ルモノ		
	甲　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	七・三五
	乙　其ノ他	每百斤	四・八五
	二　其ノ他	從價	二割
五八七	氣體壓縮機		
	一　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二五・四〇
	二　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一九・二〇
	三　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一一・三〇
	四　其ノ他	每百斤	九・一五
五八八	縫衣機		
	一　脚部ヲ有セサルモノ（縫衣機ノ頭部ヲ含ム）	每百斤	一六・三〇
	二　其ノ他	每百斤	一一・一〇
五八九	縫衣機部分品及附屬品（針ヲ除ク）		
	一　脚部及ペダル	每百斤	六・七〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
五九〇	潛水器及同部分品		
	一　潛水衣	每箇	一六・〇〇
	二　其ノ他	從價	二割
五九一	喞筒（別號ニ揭ケサルモノ）		
	一　鐵製ノモノ		
	甲　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一八・七〇
	乙　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一四・三〇
	丙　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一三・四〇
	丁　一箇ノ重量一萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一〇・一〇
	戊　其ノ他	從價	一割五分
	二　其ノ他	從價	二割
五九二	インセクター及エセクター	從價	一割五分
五九三	送風機		
	一　扇風機	每百斤	四三・〇〇
	二　其ノ他	從價	二割
五九四	水壓機		
	一　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	從價	一割五分
	二　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一一・五〇
	三　一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	七・八五
	四　其ノ他	每百斤	六・九五
五九五	ニウマチックツール及ニウマチックマシン		
	一　一箇ノ重量二十五キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	一二二・〇〇
	二　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	九四・四〇
	三　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	六五・五〇
	四　其ノ他	每百斤	二二・〇〇
五九六	別號ニ揭ケサル金屬工及木工機械（ローリングマシン、ドローイングマシン、ネールメーキングマシン、モールヂングマシン、プランヂングマシン、ベンヂングマシン、リヴェッチングマシン等ヲ含ム）		
	一　一箇ノ重量二十五キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	八四・四〇
	二　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	五二・六〇
	三　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	三〇・五〇
	四　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	每百斤	二四・二〇
	五　一箇ノ重量二千五百キログラムヲ超エ		

	サルモノ	毎百斤	二三・五〇
	六　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一八・五〇
	七　一箇ノ重量二萬キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一六・〇〇
	八　一箇ノ重量五萬キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	九・〇〇
	九　其ノ他	毎百斤	八・〇〇
五九七	紡績機械、紡績準備機械、紡績絲整理機械、織布準備機械及撚絲製造機械（ジンニングマシン、スコアリングマシン、バンドリングマシン等ヲ含ム）	毎百斤	六・九〇
五九八	織布機		
	一　金屬製ノモノ	毎百斤	五・八五
	二　其ノ他	從價	一割五分
五九九	織布整理機械	毎百斤	一〇・七〇
六〇〇	メリヤス機械		
	一　一箇ノ重量五百キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	四三・八〇
	二　其ノ他	毎百斤	二五・六〇
六〇一	絲布染色機械（捺染機械ヲ含ム）、絲布漂白機械及マーセライジングマシン	從價	一割五分
六〇二	製紙機械及製紙準備機械	從價	二割
六〇三	印刷機械		
	一　一箇ノ重量二百五十キログラムヲ超エサルモノ	從價	二割
	二　其ノ他	毎百斤	一六・五〇
六〇四	別號ニ掲ケサル機械	從價	二割
六〇五	機械部分品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　ウィール（鐵製ノモノ）		
	甲　齒車	毎百斤	一一・八〇
	乙　其ノ他	毎百斤	七・四五
	二　ロール及ローラー		
	甲　鐵製ノモノ		
	甲ノ一　彫刻シタルモノ	從價	二割
	甲ノ二　其ノ他		
	イ　一箇ノ重量五キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一九・四〇
	ロ　一箇ノ重量百キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	一七・二〇
	ハ　一箇ノ重量千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	八・五五
	ニ　一箇ノ重量五千キログラムヲ超エサルモノ	毎百斤	五・四五
	ホ　其ノ他	從價	一割五分
	乙　銅製、眞鍮製又ハ青銅製ノモノ		
	イ　彫刻シタルモノ	毎百斤	二八・六〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一七・三〇
	丙　銅、眞鍮又ハ青銅ヲ著セタルモノ	從價	二割
	丁　其ノ他	從價	二割
	三　ミリングカッター、ギーアカッター及機械用鋸		
	甲　圓形ノモノ、圓塔形ノモノ、圓錐形ノモノ其ノ他類似ノモノニシテ徑二十センチメートルヲ超エサルモノ	從價	二割二分
	乙　其ノ他	從價	一割五分
	四　紡績用及撚絲用スピンドル及フライヤー（鐵製ノモノ）	毎百斤	三一・七〇
	五　紡績用及撚絲用トラヴェラー		
	甲　鐵製ノモノ	毎百斤内裝共	一一三・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤内裝共	四三・九〇
	六　紡績用及撚絲用ボビン		
	甲　木製ノモノ	毎百斤	二五・四〇
	乙　其ノ他	從價	二割
	七　カードカン		
	甲　金屬製ノモノ	毎百斤	一〇・三〇
	乙　ヴァルカナイズドファイバー製ノモノ（底ノ有無ヲ別タス）		
	イ　金屬製ノ底ヲ有スルモノ	毎百斤	一五・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一七・八〇
	丙　其ノ他	從價	二割
	八　カードクロージング		
	甲　皮革ヲ用ヰタルモノ	毎百斤	二八・〇〇
	乙　其ノ他	毎百斤	二四・八〇

	九　杼	毎百斤	三三・九〇
	十　筬（金屬製ノモノ）	毎百斤	二二・三〇
	十一　製紙用フェルト（エンドレスノモノ）	毎百斤	七八・五〇
	十二　製紙用金網（エンドレスノモノ）	毎百斤	五六・〇〇
	十三　スチームタービン部分品	從價	一割五分
	十四　其ノ他	從價	二割
	第十七類　雜品		
六〇六	コプラ		無稅
六〇七	フノリ、石花菜及アイリッシュモッス		無稅
六〇七ノ二	カッサヴァルート	毎百斤	〇・六〇
六〇八	麥稈、藁、パナマストロー、椰葉、藺、莞、菅、莚、楊條其ノ他類似ノモノ		
	一　漂白、染色又ハ著色シタルモノ	從價	一割
	二　其ノ他	從價	五分
六〇九	籐		
	一　割ラサルモノ		無稅
	二　其ノ他	毎百斤	一・七〇
六一〇	竹	從價	二割
六一一	コルク及コルク製品		
	一　樹皮		無稅
	二　板	從價	一割
	三　栓及輪		
	甲　コルクノミニテ製シタルモノ	毎百斤	一六・三〇
	乙　其ノ他	從價	三割五分
	四　屑及故		無稅
	五　其ノ他	從價	二割
六一二	木材		
	一　單ニ切リ、挽キ又ハ割リタルモノ		
	甲ノ一　花梨木及黄楊木	從價	三割
	甲ノ二　鐵刀木、紅木、紫檀及黒檀（縞黒檀ヲ除ク）	毎百斤	〇・五〇
	乙　リグナムヴァイタ		無稅
	丙　チーキ		無稅
	丁　マホガニー	從價	五分
	戊　オーク	從價	五分
	己　パイン、ファー、シダー其ノ他ノ針葉樹		
	己ノ一　長二十センチメートル、幅七センチメートル、厚七ミリメートルヲ超エサルシダー		無稅
	己ノ二　ヒノキ屬（ホワイトシダー及イエローシダー等）		
	イ　厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	九・八五
	ロ　其ノ他（丸太及割材ヲ含ム）	毎立方メートル	五・四〇
	己ノ三　ネヅコ屬（レッドシダー等）及ツガ屬（ヘムロック等）		
	イ　厚六十ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	六・二五
	ロ　厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	五・五
	ハ　厚二百ミリメートルヲ超エタルモノ	毎立方メートル	三・一
	ニ　丸太及割材	毎立方メートル	三・三〇
	己ノ四　モミ屬（トドマツ等）、タウヒ屬（エゾマツ、スプルース等）、マツ屬（紅松等）及カラマツ屬（落葉松等）		
	イ　厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	一・一〇
	ロ　其ノ他（丸太及割材ヲ含ム）		無稅
	己ノ五　其ノ他（ドグラスファー等）		
	イ　厚六十ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	四・五五
	ロ　厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ	毎立方メートル	三・九〇
	ハ　厚二百ミリメートルヲ超エタルモノ	毎立方メートル	二・一〇
	ニ　丸太及割材		
	ニノ一　長十メートルヲ超エ、末口ノ直徑三十センチメートルヲ超エサルモノ		無稅
	ニノ二　其ノ他	毎立方メートル	一・二〇

	庚　桐	毎百斤	〇・九〇
	辛　棕櫚竹		無税
	壬　縞黒檀、ドロノキ、ハコヤナギ及胡桃		無税
	壬ノ二　廣葉杉	從價	一割五分
	癸　其ノ他		
	イ　厚百五十ミリメートルヲ超エサルモノ	從價	六分
	ロ　其ノ他（丸太及割材ヲ含ム）		無税
	二　其ノ他		
	甲　經木	從價	二割五分
	乙　木粉	從價	二割
	丙　燐寸軸木		無税
	丁　花梨木及黄楊木	從價	四割
	戊　其ノ他	從價	二割五分
六一二ノ二	包装用ノ箱、樽等ニ仕組ミタル板		
	一　合板製ノモノ	從價	二割五分
	二　其ノ他	從價	一割五分
六一三	藺草心及藺草紙	從價	二割五分
六一四	フィルターマッス（植物質ノモノ）	毎百斤	五・三五
六一五	薪材		無税
六一六	木炭		
	一　燃料用ノモノ	毎百斤	〇・五五
	二　其ノ他	從價	二割
六一七	骨炭		
	一　徑一・二五ミリメートルノ圓眼ヲ有スル篩ヲ通過スルモノ		無税
	二　其ノ他	毎百斤	〇・七五
六一八	白熱電燈球用フィラメント	從價	二割
六一九	電氣用カーボン（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　粉狀又ハ粒狀ノモノ	毎百斤	八・三〇
	二　其ノ他		
	甲　一箇ノ重量三百グラムヲ超エサルモノ	從價	二割
	乙　其ノ他	毎百斤	八・三〇
六二〇	白金又ハ白金屬類ヲ含ム媒觸劑		無税
六二一	製帽用眞田		

	一　麥稈眞田		
	甲　幅六・五ミリメートルヲ超エサルモノ	從價	三割
	乙　幅一〇・〇ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	二一・七〇
	丙　其ノ他	毎百斤	一〇・九〇
	二　其ノ他	從價	二割五分
六二二	蓆（布帛ニ使用スル纎維以外ノ植物性材料ヲ以テ製シタルモノ）		
	一　包蓆		無税
	二　其ノ他		
	甲　藺蓆	毎百斤	五・六五
	乙　椰皮蓆		
	イ　連製ノモノ	毎百斤	一一・〇〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	一三・四〇
	丙　其ノ他	從價	三割
六二三	麥稈、藁、パナマストロー、椰葉、藺、莞、葦、竹、籐、莚、楊條其ノ他類似ノモノノ製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　アムペラ嚢		無税
	二　其ノ他	從價	三割五分
六二四	傘柄、杖、鞭及其ノ手		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	四割
六二五	傘		
	一　絹製又ハ絹入ノモノ	從價	五割
	二　紙製ノモノ	毎百箇	一一・二〇
	三　其ノ他	從價	三割五分
六二六	木製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他		
	甲　花梨木、鐵刀木、黄楊木、紅木、紫檀及黒檀ノ製品	毎百斤	一三・一〇

	乙　其ノ他		
	イ　額縁及天井縁	毎百斤	二五・三〇
	ロ　曲木椅子	從價	三割五分
	ハ　管	從價	二割
	ニ　釘	毎百斤	四・七五
	ホ　組立家屋	從價	二割五分
	ヘ　其ノ他	從價	三割五分
六二七	ターフェルト、ターペーパー其ノ他類似ノモノ（屋背、船底等ニ用ヰルモノニシテタール、アスファルト、樹脂等ヲ施シタルモノ）	毎百斤	三・七〇
六二八	ボイラーフェルト	從價	二割
六二九	インディアラッパー製品及ガタパーチャ製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　インディアラッパー液	從價	二割五分
	二　インディアラッパーペースト、レクレームドインディアラッパー其ノ他ヴァルカニセーションヲ施ササルインディアラッパー	毎百斤	五・〇五
	三　デンタルラッパー	毎百斤内装共	八九・四〇
	四　其ノ他		
	甲　軟質ノモノ		
	甲ノ一　塊	從價	一割五分
	甲ノ二　竿及紐		
	イ　金屬、布帛、絲縷又ハ纎維ヲ附著シ又ハ挿入シタルモノ	毎百斤	二八・五〇
	ロ　其ノ他	從價	一割五分
	甲ノ三　板		
	イ　金屬、布帛、絲縷又ハ纎維ヲ附著シ又ハ挿入シタルモノ	毎百斤	二一・四〇
	ロ　其ノ他		
	ロノ一　厚一ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	九五・六〇
	ロノ二　其ノ他	毎百斤	五〇・三〇
	甲ノ四　管		
	イ　金屬ヲ以テ内側又ハ外側ヲ鎧装シタルモノ	毎百斤	一九・〇〇
	ロ　其ノ他		

	ロノ一　布帛、絲縷若ハ纎維ヲ附著シ若ハ挿入シ又ハ金屬ヲ挿入シタルモノ	毎百斤	一六・八〇
	ロノ二　其ノ他	毎百斤	四九・三〇
	甲ノ五　帶（機械用ノモノ）	毎百斤	二二・二〇
	甲ノ六　紐、ストリップ、バンド、リング及ワッシャー		
	イ　金屬、布帛、絲縷又ハ纎維ヲ附著シ又ハ挿入シタルモノ	毎百斤	二九・六〇
	ロ　其ノ他	毎百斤	五五・六〇
	甲ノ七　字消護謨	毎百斤	三六・〇〇
	甲ノ八　ウォーターボットル	毎百斤	一〇九・〇〇
	甲ノ九　チーツ	毎百斤内装共	一一一・〇〇
	甲ノ十　マット及マッチング	毎百斤	二四・三〇
	甲ノ十一　其ノ他	從價	三割五分
	乙　其ノ他		
	乙ノ一　塊、條、竿及板	毎百斤	三五・四〇
	乙ノ二　管	毎百斤	三八・九〇
	乙ノ三　リング及ワッシャー	毎百斤	四三・七〇
	乙ノ四　櫛	毎百斤内装共	三二四・〇〇
	乙ノ五　其ノ他	從價	三割五分
六三〇	屑及故ノインディアラッパー及ガタパーチャ（改造用ノミニ適スルモノ）		無税
六三一	ヴァルカナイズドファイバー（竿、板及管ノ類）		
	一　押形ヲ付シタルモノ	毎百斤	一一・四〇
	二　其ノ他	毎百斤	一七・八〇
六三二	セリュロイド及同製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　塊、條、帶、竿、板及管ノ類	毎百斤	五六・〇〇
	二　櫛	毎百斤内装共	三五五・〇〇
	三　其ノ他	從價	三割五分
六三二ノ二	屑及故ノセリュロイド（改造用ノミニ適スルモノ）	從價	二割
六三三	ガラリス及同製品（別號ニ掲ケサルモノ）		
	一　塊、條、帶、竿、板及管ノ類	毎百斤	三六・四〇
	二　其ノ他	從價	三割五分
六三四	ブラッシュ及箒		
	一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、象牙又		

	ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	二　其ノ他	從價	三割五分
六三五	ランプ、提燈及同部分品		
	一　安全燈	從價	二割
	二　紋燈	從價	二割
	三　白熱電燈球	毎百箇	一二・八〇
	四　ソケット及シェードホールダー	毎百斤	八四・九〇
	五　瓦斯マントル	毎百箇	五・三〇
	六　醫療用ランプ	從價	二割
	七　シャンデリヤ、ブラケット、スタンド、シェード及同部分品	從價	四割
	八　其ノ他	從價	三割五分
六三六	寫眞用フィルム		
	一　感光性ノモノ	毎内裝共斤	一・〇〇
	二　現象シタルモノ	毎内裝共斤	八・二五
	三　其ノ他	從價	四割
六三七	セラチンペーパー	毎百斤	八六・四〇
六三八	造花（摸造ノ葉、果實等ヲ含ム）及同部分品	從價	五割
六三九	化粧具匣	從價	五割
六四〇	ビリヤード、テニス、クリッケット、象棋其ノ他ノ遊戯具其ノ他ノ戸外運動具及同附屬品		
	一　テニス具、野球具、フットボール具及同附屬品	從價	二割五分
	二　其ノ他	從價	五割
六四一	翫具	從價	五割
六四二	雛形		無税
六四三	飼料		無税
六四四	麩		無税
六四五	米糠		無税
六四六	肥料（油糟、食用ニ適セサル乾魚、骨粉、血粉、骨灰、鳥糞、過燐酸石灰、石灰窒素等）		無税
六四七	別號ニ掲ケサル物品		
	一　未製品	從價	一割
	二　其ノ他		
	甲　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ	從價	五割
	乙　其ノ他	從價	三割五分

備考　從量税率ノ單位ハ斤トス

●關税定率法第七條第十號ニ依ルコトヲ得ヘキ私立學校指定

（大正十五年三月二十九日　大藏省令第十四號）

關税定率法第七條第十號ニ依ルコトヲ得ヘキ私立ノ學校左ノ如シ

一　幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校、專門學校、高等學校及大學

二　前號ニ掲ケサル學校ニシテ別ニ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

前項第二號ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ學校長、學校長ナキトキハ其ノ管理者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一　學校ノ目的
二　名稱及位置
三　設立年月日
四　學則
五　生徒定員
六　校地及校舍ノ設備
七　經費及維持ノ方法

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十五年三月二十九日　大藏省告示第三十八號）

一　關税定率法第七條第十號ニ依ル大藏大臣ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル認許申請書三通ヲ輸入地所轄ノ税關ヲ經由シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一　品名
二　箇數、數量及價格
三　生産地及仕入地
四　輸入手數ヲ爲スヘキ税關名及豫定輸入時期
五　陳列ノ目的、方法及場所

二　前號ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ受ケタル者ハ當該物品輸入ノ際其ノ認許書ヲ輸入手數ヲ爲スヘキ税關ニ提出スヘシ

三　第一號ノ認許申請及認許ヲ受ケタル物品ノ輸入申告ハ當該學校、博物館又ハ物品陳列所等ノ管理者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

（大正十五年四月十三日　朝鮮總督府令第三十二號）

關税定率法第七條第十號ニ依ルコトヲ得ヘキ私立ノ學校左ノ如シ

一　幼稚園、小學校、普通學校、中學校、高等普通學校、高等女學校、女子高等普通學校、實業學校、專門學校及大學

二　前號ニ掲ケサル學校ニシテ別ニ朝鮮總督ニ於テ指定シタルモノ

前項第二號ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一　學校ノ目的
二　名稱及位置
三　設立年月日
四　學則
五　生徒定員
六　校地及校舍ノ設備
七　經費及維持ノ方法

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十五年四月十二日　朝鮮總督府告示第百二十八號）

一　關税定率法第七條第十號及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル認許申請書三通ヲ輸入地ノ税關ヲ經由シテ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　品名
二　箇數、數量及價格
三　生産地及仕入地
四　輸入地及豫定輸入時期
五　陳列ノ目的、方法及場所

二　前號ニ依リ朝鮮總督ノ認許ヲ受ケタル者ハ當該物品輸入ノ際其ノ認許書ヲ輸入地ノ税關ニ提出スヘシ

三　第一號ノ認許申請及認許ヲ受ケタル物品ノ輸入申告ハ當該學校、博物館、物品陳列所等ノ管理者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

關税定率法第七條第十號ニ依ル認許申請及輸入申告等ニ關スル件左ノ通相定ム（大正十五年五月十一日　臺灣總督府告示第六十二號）

一　大正十五年勅令第二十號ニ基キ關税定率法第七條第十號ニ依ル臺灣總督ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル認許申請書三通ヲ輸入地所轄ノ税關ヲ經由シテ臺灣總督ニ提出スヘシ

一　品名
二　箇數、數量及價格
三　生産地及仕入地
四　輸入手數ヲ爲スヘキ税關名及豫定輸入時期
五　陳列ノ目的、方法及場所

二　前號ニ依リ臺灣總督ノ認許ヲ受ケタル者ハ當該物品輸入ノ際其ノ認許書ヲ輸入手數ヲ爲スヘキ税關ニ提出スヘシ

三　第一號ノ認許申請及認許ヲ受ケタル物品ノ輸入申告ハ當該學校、博物館又ハ物品陳列所等ノ管理者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

●贅澤品等ノ輸入税ニ關スル法律

（大正十三年七月三十一日　法律第二十四號）
改正　大正一四年第四一號　昭和四年第三四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル贅澤品等ノ輸入税ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、大藏大臣副署）

關税定率法別表輸入税表ニ掲クル物品ニシテ本法ノ別表ニ掲クルモノニハ當分ノ内同輸入税表ニ依ラス從價十割ノ輸入税ヲ課ス

切リ若ハ磨カサル貴石若ハ半貴石又ハ工ヲ加ヘサル琥珀ニシテ機械用品又ハ工業用品ノ製造ニ供スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル輸入税ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際免除スヘキ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

輸入税表番號	品名
三一	蔬菜、果實及核子（二　甲ノ四ヲ除ク）
四五	菓子
四九	果汁及糖水
六〇	鑛水、曹達水其ノ他砂糖又ハ酒精ヲ含マサル諸飲料
六二	支那酒（釀造シタルモノ）
六三	麥酒
六六	別號ニ掲ケサル酒類
六七	別號ニ掲ケサル飲食物
	一　砂糖ヲ加ヘタルモノ
六九	毛皮（犬毛皮、猫毛皮、兎毛皮並鞣サヽル綿羊皮及山羊皮ヲ除ク）
七〇	毛皮製品（別號ニ掲ケサルモノ）
七二	革類
	一　牛革、水牛革、馬革、綿羊革及山羊革
	甲　塗リタルモノ（一　甲イヲ除ク）
	二　羚羊革（模造羚羊革ヲ含ム）
	四　鰐魚革
	五　リザードレザー
七三	革製品（別號ニ掲ケサルモノ）
	三　其ノ他
	甲　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ
	乙　其ノ他ノ内　羚羊革、模造羚羊革、鰐魚革及リザードレザーノ製品
七五	羽毛
	一　粧飾用ノモノ
七七	羽毛製品及羽毛皮製品（別號ニ掲ケサルモノ）
八一	獸牙製品（別號ニ掲ケサルモノ）
八八	鼈甲製品（別號ニ掲ケサルモノ）
八九	珊瑚
九〇	珊瑚製品（別號ニ掲ケサルモノ）
九一	眞珠
九四ノ内	化學試驗用ハイドパウダー以外ノ皮毛骨角齒牙甲殼類製品（別號ニ掲ケサルモノ）
九五	植物性揮發油
	一　芳香性ノモノ（大茴香油、桂皮油、桂葉油、シトラネラ油、スパイク油、レモングラス油、シダー油、流動蘇合香、ジンジヤグラス油、カエプト油、タイム油、ユーカリプタス油、ローズマリー油、ベイ油、カナンガ油、ラヴェンダー油、ゼラニウム油、パルマローザ油、プチグレン油、パッチュリー油、丁香油、アジョーワン油、ローズウッド油、冬綠油及日本藥局方所定ノ白檀油ヲ除ク）
一一七	石鹸
一一八	薫香ヲ付シタル油、脂、蠟及其ノ製品
一一九	香水
	二　其ノ他
二〇五	龍腦、艾片及人造龍腦
二二一	ヴァニリン、クマリン、ヘリオトロピン其ノ他別號ニ掲ケサル類似ノ薫香性化學藥
二二二	齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ掲ケサル調製薫香類
二二三	線香
二二九ノ内	人造香料（リナリールアセテート、ベンザールアセテート、アミルサリシレート、イオノーン、ターピネオール及ベンザールアルコールヲ除ク）
二三四	煙火
二九一	別號ニ掲ケサル纖絲
	一　絹入、人造絹入又ハ金屬入ノモノ
二九九	亞麻、苧麻、ラミー、大麻又ハ黄麻ノ織物、其ノ交織物及此等ノ纖維ト綿トノ交織物
	五　平織布、紋織布及綸織布（別項ニ掲ケサルモノ）
	丙ノ二　其ノ他ノ内　百平方メートルニ付十七キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數四十ヲ超エタルモノ
	六　其ノ他
	乙ノ二　其ノ他ノ内　百平方メートルニ付十七キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數四十ヲ超エタルモノ
三〇一	毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト絹トノ交織物
	一　天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）
	二　其ノ他
	丙　毛絹製ノモノ及毛綿絹製ノモノ（絹ノ重量全重量ノ百分ノ五ヲ超ヘサルモノヲ除ク）
三〇三	絹織物及別號ニ掲ケサル絹入ノ織物
	一　天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）
	三　其ノ他
三〇五	メリヤス地其ノ他類似ノ編ミタル布帛（起毛シタルト否トヲ別タス）
	一　絹製又ハ絹入ノモノ
三〇六	レース地及網地
	一　窓掛地
	乙　其ノ他
	二　蚊幮地
	乙　其ノ他

三　ヴエーリング
五　其ノ他
甲　絹製又ハ絹入ノモノ
三〇八　刺繡布
三一九　防水布（護謨ヲ塗リ又ハ挿入シタルモノ）
一　絹製又ハ絹入ノモノ
三二〇　護謨入布及護謨紐類
一　幅八センチメートルヲ超エタルモノ
甲　絹入ノモノ
二　其ノ他
甲　織リタルモノ
イ　絹入ノモノ
乙　其ノ他
イ　絹入ノモノ
三二四　手巾（單製ノモノ）
二　亞麻製ノモノ（五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數三十ヲ超エタルモノ）
四　絹製又ハ絹入ノモノ
三二七　旅氈（單製ノモノ）
一　絹製又ハ絹入ノモノ
三二八　地氈（單製連製ヲ別タス）
一　毛製又ハ毛入ノモノ
三二九　テーブルクロース（單製ノモノ）
二ノ内　亞麻製ノモノ
四　絹製、絹入ノモノ、金屬絲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ
三三〇　寢掛
二　絹製、絹入ノモノ、金屬絲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ
三　其ノ他
甲　レース製ノモノ
三三一　トリムミング
三三五　エーアクッション
三三六　ベッドクイルト及クッション
三四三　別號ニ揭ケサル布帛製品
一　絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙若ハ鼈甲ヲ加ヘタルモノ又ハ刺繡シタルモノ
三四四　雨衣
一　絹製又ハ絹入ノモノ
三四五　シヤーツ、フロント、カラー及カフス
三四六　肌衣（上下ヲ別タス）
一　メリヤス製ノモノ
丙　絹製又ハ絹入ノモノ
二　其ノ他
甲　絹製又ハ絹入ノモノ
三四七　手袋（護謨製ノモノヲ除ク）
三四八　足袋（綿製、毛製又ハ毛綿製ノモノヲ除ク）
三四九　肩掛及襟卷
三五〇　襟飾
三五一　袴釣
三五二　衣服用ベルト
三五三　スリーヴサスペンダー及ストッキングサスペンダー類
三五四　帽子及帽體
一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、羽毛、造花等ヲ用ヰタルモノ
二　其ノ他
甲　絹製又ハ絹入ノモノ
丙　パナマストロー其ノ他類似ノ植物纖維製ノモノ
丁　麥稈製、經木製又ハ其ノ混製ノモノ
三五五　靴其ノ他ノ履物（護謨製ノモノ及支那靴ヲ除ク）
三五六　靴紐
三五九　身邊裝飾用細貨類
三六〇　別號ニ揭ケサル衣類、同附屬品及其ノ部分品
一　毛皮製、毛皮付、羽毛製、羽毛入、絹製、絹入及貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ刺繡シタルモノ
三七三　模造羊皮紙、パラフインペーパー及ワックスペーパー
一　金屬ノ箔若ハ粉ヲ用ヰタルモノ、押形ヲ付シタルモノ又ハ捺染シタルモノ
三七八　別號ニ揭ケサル紙（四乙ヲ除ク）
三七九　ペーパーレース及ペーパーボーダー
三八四　アルバム
三九〇　骨牌
三九四　繪葉書
三九五　クリスマスカード類
四一二　貴石（機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタルモノヲ除ク）
四一三　半貴石及別號ニ揭ケサル半貴石製品（切リ又ハ磨カサル水晶及機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタルモノヲ除ク）
四一五　琥珀及機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタルモノ以外ノ琥珀製品（別號ニ揭ケサルモノ）
四一七　メーアシャウム、人造メーアシャウム及同製品
四三九　別號ニ揭ケサル陶磁器（電氣用ノモノ及二乙ノ内素燒ノモノヲ除ク）
四五三　眼鏡
一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、象牙又ハ鼈甲ノ緣又ハ柄ヲ有スルモノ
四五四　硝子鏡
一　貴金屬又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬ヲ用ヰタルモノ
四五七　別號ニ揭ケサル硝子製品（二甲及二乙イヲ除ク）
四七五　鍍金銀シタル金屬
四八九　鏈（別號ニ揭ケサルモノ）
一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ
四九一　懷中時計用鏈、眼鏡用鏈其ノ他身邊裝飾用鏈
四九三　蝶鉸、ハットフック及戸、窓、家具等ニ用ヰル金具
一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ
四九四　鎖及鑰
一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ
四九九　刃物（別號ニ揭ケサルモノ）
一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ
二　其ノ他
甲　ポケットナイフ
イ　柄ニ象牙、眞珠貝若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ琺瑯ヲ施シタルモノ
乙　テーブルナイフ
イ　柄ニ象牙、眞珠貝若ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ又ハ琺瑯ヲ施シタルモノ
五〇〇　テーブルフォーク及スプーン
一　貴金屬ヲ用ヰタルモノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモノ
五二一　貴金屬製品及貴金屬ヲ用ヰ又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬製品（別號ニ揭ケサルモノ）
五二六　懷中時計
一　金側又ハ白金側ノモノ
五二七　懷中時計部分品
一　側（ウオッチグラスヲ附著シタルモノヲ含ム）
甲　金製又ハ白金製ノモノ
八　其ノ他
甲　金製又ハ白金製ノモノ
五二八ノ内　置時計
五三三　雙眼鏡及隻眼鏡（貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙、鼈甲又ハ貝殼ヲ用ヰタルモノ）

五五三　寫眞器（焦點距離十七センチメートル未滿ノレンズヲ取付ケタルモノ又ハ撮影スル感光面ノ長十六センチメートル未滿ノモノ若ハ幅十一センチメートル未滿ノモノ但シ活動寫眞用ノモノ、顯微鏡用ノモノ及航空機用ノモノヲ除ク）
五五四　寫眞器部分品
一　レンズ（焦點距離十七センチメートル未滿ノモノ）
二ノ内　カメラ（撮影スル感光面ノ長十六センチメートル未滿ノモノ若ハ幅十一センチメートル未滿ノモノ但シ活動寫眞用ノモノ、顯微鏡用ノモノ及航空機用ノモノヲ除ク）
五五五　蓄音器
五五六　蓄音器部分品及附屬品
六一二　木材
一　單ニ切リ、挽キ又ハ割リタルモノ（甲ノ一ヲ除ク）
二　其ノ他
戊ノ内　鐵刀木、紅木、紫檀及黑檀（縞黑檀ヲ除ク）
六二四　傘柄、杖、鞭及其ノ手
六二五　傘
一　絹製又ハ絹入ノモノ
六二六　木製品（別號ニ揭ケサルモノ）
一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ
二　其ノ他
甲　花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀及黑檀ノ製品
六三四　ブラッシュ及箒
一　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ
六三六　寫眞用フイルム（活動寫眞用ノモノ及エッキス光線用ノモノヲ除ク）
六三八　造花（模造ノ葉、果實等ヲ含ム）及同部分品
六三九　化粧具匣
六四〇　ビリヤード、テニス、クリッケット、象棋其ノ他ノ遊戲具及同附屬品（一ヲ除ク）
六四一　甁具
六四七　別號ニ揭ケサル物品
二　其ノ他
甲　貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヰタルモノ

●大正十三年法律第二十四號第二項ニ揭クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税一部免除ニ關スル件

（大正十四年四月一日勅令第五十六號）

朕大正十三年法律第二十四號第二項ニ揭クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税一部免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　大正十三年法律第二十四號第二項ニ揭クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税ニ付テハ左ノ割合ニ依リテ算出シタル金額ヲ免除ス

貴石　輸入税ノ九割五分
半貴石　輸入税ノ八割
琥珀　輸入税ノ八割

第二條　大正十年勅令第二百三十八號第三條第二項、第四條第一號第三號第五號、第五條及第六條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ免除スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件

（大正十四年四月一日大藏省令第八號）

大正十四年勅令第五十六號ノ施行ニ關シテハ大正十年大藏省令第十八號第一條第一項、第二條第一號、第三條、第四條、第五條第一項、第七條、第八條、第十條、第十二條及第十五條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件

（大正十四年四月二十四日朝鮮總督府令第五十號）

大正十四年勅令第五十六號ノ施行ニ關シテハ大正十年朝鮮總督府令第百三號第三條第一項、第四條第一號、第五條、第六條、第七條第一項、第九條、第十條、第十二條、第十五條及第十八條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●輸入鹹魚燻製魚及魚粕ニ關スル法律

（明治三十三年八月二十七日法律第八十六號）
（改正　明治三九年第三六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ヨリ輸入スル鹹魚燻製魚及魚粕ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

外國ヨリ輸入スル鹹魚及燻製魚ニ對シ關税定率法ニ定メタル外仍原價百分ノ五十以下ノ輸入税ヲ增課シ魚粕ニ對シ原價百分ノ五十以下ノ輸入税ヲ賦課スルコトヲ得但シ此ノ税率及其ノ毎年ノ施行期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●關税定率法ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件

（大正九年十一月二十六日勅令第五百五十號）

朕關税定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、農商務大臣副署）

第一條　關税定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ハ左ノ用途ニ供スルモノニシテ豫メ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル
一　鑛業、工業、運輸業又ハ漁業ノ爲ニ使用スル發動機用又ハ汽罐用
二　製錬用
三　窯業用
四　金屬加熱用

第二條　輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ農商務大臣ノ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

輸入申告ハ礦油使用者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第三條　輸入税ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入税ヲ追徵ス但シ之ヲ第一條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ供セムトスル場合ニ於テ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ税關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關税定率法第七條第四號ノ二ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件左ノ通相定ム

（大正九年十一月二十六日農商務省令第四十一號）

第一條　大正九年勅令第五百五十號第一條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ
一　輸入セムトスル礦油ノ數量及豫定價格
二　輸入セムトスル礦油ノ用途、貯藏場、使用場所及之ヲ使用スヘキ設備ノ説明
三　仕出港、輸入港及輸入豫定時期

第二條　輸入税ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク農商務大臣ニ屆出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●加工ノ爲輸入スル物品ニ關スル件

（明治三十九年九月二十六日勅令第二百六十一號）
（改正　大正一五年第三五〇號）

朕關税定率法第八條第一號ニ依リ加工ノ爲輸入スル物品ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

第一條　關税定率法第八條第一號ニ依ルコト

ヲ得ヘキ物品左ノ如シ

一　彫刻、七寶、象眼、珐瑯、塗漆、繪畫、模樣、現像、彩色若ハ印刷ヲ施シ又ハ金屬ヲ鍍スル爲輸入スル製品

二　繪畫又ハ模樣燒附ノ爲輸入スル磁器及陶器

三　精練、漂白、色染、捺染、友禪染又ハ撚ヲ施ス爲輸入スル絲縷、布帛及布帛製品

四　絲拔、絓、刺繡又ハ縁縫ヲ施ス爲輸入スル布帛及布帛製品

五　鞣、色染、裏付又ハ義眼等ヲ施ス爲輸入スル毛皮及獸皮

第二條　前條ノ物品ヲ輸入セムトスル者ハ輸入申告書ニ輸入ノ目的、加工ノ種類及加工者ノ氏名ヲ附記スヘシ

第三條　加工シタル物品ヲ輸出スルトキハ其ノ原品ノ輸入手續ヲ爲シタル稅關ヲ經由スヘシ但シ輸入手續ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　加工シタル物品ヲ輸出セムトスルトキハ輸出申告書ニ加工者ノ作製セル加工證明書ヲ添附スヘシ

加工證明書ニハ物品ノ名稱、物質、數量、加工ノ種類及該證明書作製ノ年月日ヲ記載シ加工者之ニ署名又ハ記名捺印スヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸出入貨物ノ容器

（大正十五年九月八日大藏省令第三十四號）

明治三十九年大藏省令第四十四號ヲ左ノ如ク改ム

關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸出貨物ノ容器左ノ通指定ス

一　礦水、淸涼飲料水、淸酒、麥酒又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル壜但シ麥酒壜ニ付テハ大正十年勅令第二百三十八號ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ受ケタルモノヲ除ク

二　淸酒、麥酒又ハ醬油ノ容器トシテ使用シタル樽

三　硫酸、鹽酸、硝酸又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル壺又ハ罎

四　壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用シタル鐵製シリンダー

五　穀粉又ハセメントノ容器トシテ使用シタル綿製袋

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年六月九日大藏省令第二十七號）

關稅定率法第八條第二號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸入貨物ノ容器左ノ通指定ス

本令ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

一　壓搾瓦斯ヲ塡充セル鐵製容器

（大正十五年十月七日大藏省令第四十號）

大正五年大藏省令第八號ヲ左ノ如ク改ム

關稅定率法第八條第二號ノ二ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ物品左ノ通指定ス

一　壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用スル鐵製シリンダー

二　油類、染料、酸類又ハ糖蜜ノ容器トシテ使用スル鐵製ドラム

三　砂糖、硬化油、小麥粉又ハセメントノ容器トシテ使用スルカンニー袋

四　コールタール、麥酒、味噌、醬油又ハ油類ノ容器トシテ使用スル木製樽

五　麥酒ノ容器トシテ使用スルアルミニウム製罐

六　飲食物罐詰用ノ葉鐵製罐

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ產業ニ關スル法人其ノ他ニ關スル件

（大正九年十一月九日大藏省告示第百八十七號）

一、關稅定率法第七條第二十三號ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ產業ニ關スル法人左ノ如シ

一、畜產組合

二、畜產組合聯合會

二、關稅定率法第七條第二十三號ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ豫メ左記事項ヲ記載シタル申請書ヲ馬ニ付テハ陸軍大臣ニ、其ノ他ノ物品ニ付テハ農商務大臣ニ提出スヘシ

一、輸入セムトスル種用動物ノ種類、性、年齡及頭數又ハ輸入セムトスル獸疫免疫血淸及獸疫豫防接種液ノ種類及數量

二、輸入ヲ必要トスル事由

三、蕃殖計畫

四、種用動物ノ飼育設備

五、購買地、輸入豫定港及輸入豫定時期

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可書ヲ輸入申告書ニ添附シテ稅關ニ提出スヘシ

三、前號ノ許可ヲ與フヘキ種用動物ノ種類左ノ如シ

牛、馬、緬羊、山羊、豚、兎、犬、鷄、鶩、鵞、七面鳥、鴿、雉、蜜蜂、狐、黑貂、ミンク

●關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件

（大正十年五月三十日勅令第二百三十八號）

改正　大正一一年第七七號、一四年第二九二號、一五年第五五號、昭和二年第五九號、四年第一二六號

朕關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽、大藏大臣副署）

第一條　關稅定率法第九條第一項ノ規定ニ依リ製造品竝輸入原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除又ハ拂戾ノ率ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

製造品	輸入原料品	拂戾率	
一　硝子鏡	無色平面ノ硝子板（厚四ミリメートルヲ超エサルモノヲ除ク）		
	イ　千平方センチメートルヲ超エサルモノ	使用原料ニ付毎百平方メートル	七十六圓五十錢
	ロ　其ノ他	使用原料ニ付毎百平方メートル	百八十五圓
二　掛時計又ハ置時計	金屬ヲ鍍セサル鐵線	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
	鋼リボン	製造品中ノ構成量ニ付	稅ノ全部
	時計用樂器	毎一個	二十五錢
三　飲食物罐詰	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤	七十錢
四　木箱用金具	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤	七十錢
五　葉鐵製ノ罐、箱、玩具、鈕釦、卷煙草入若ハ石鹼入又ハ葉鐵ヲ用ヰタル鏡	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤	七十錢
六　罐入礦油又ハ罐入酒精	葉鐵	五ガロン罐毎二個	二錢五厘
七　平紐、丸紐又ハ總類	金屬入撚絲又ハ鍍金銀シタル金屬線	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
八　人造絹製品	人造絹	製造品中ノ構成量毎百斤	百二十五圓
九　衣服	毛織物又ハ毛綿交織物（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物ヲ除ク）		
	イ　一平方メートルノ重量百グラムヲ超エ二百グラムヲ超エサルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	五十二圓五十錢
	ロ　一平方メートルノ重量五百グラムヲ超エサルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	六十圓四十錢
	ハ　一平方メートルノ重量五百グラムヲ超エタルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	三十二圓六十錢
十　洋傘	關稅定率法別表第二百九十八號ノ八ノ丙又ハ九ノ丙ニ屬スル染色又ハ捺染シタル綿織物		
	百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數		
	イ　二十七ヲ超エ三十五ヲ超エサルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	十八圓三十錢
	ロ　三十五ヲ超エ四十三ヲ超エサルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	二十二圓
	ハ　四十三ヲ超エタルモノ	製造品中ノ構成量毎百斤	四十七圓
	金屬ヲ鍍セサル鋼線	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
十一　硝子器	曹達灰	硝子器毎百斤	八錢四厘
十二　硝子板			
イ　厚四ミリメートルヲ超エサルモノ	曹達灰	硝子板毎百平方メートル	四十五錢
ロ　其ノ他	曹達灰	硝子板毎百平方メートル	七十五錢
十三　珐瑯鐵器	金屬ヲ鍍セサル鐵板（全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク）厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ	使用原料ニ付毎百斤	一圓九十五錢
	曹達灰	珐瑯鐵器毎百斤	一錢
十四　罎入麥酒	曹達灰	大罎（三合以上入ノモノ）毎百打	七十九錢
		小罎（三合未滿入ノモノ）毎百打	五十一錢
十五　罎入淸涼飲料	曹達灰	罎毎百斤	五錢八厘
十六　オルガン	オルガンリード	製造品中ノ構成量毎百斤	二十八圓
十七　鑄鐵管	銑鐵	鑄鐵管毎百斤	十錢
十八　アルミニウムノ條、竿、板、線若ハ撚合線（鋼心ノ有無ヲ別タス）又ハ其ノ製品	アルミニウムノ塊、錠、粒、條、竿、板又ハ線	製造品中ノ構成量毎百斤	三圓二十錢
十九　自動車又ハ自動自轉車用インナーチューブ	金屬製ヴァルヴ	毎一個	納付シタル輸入稅ノ全部
二十　花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀又ハ黑檀（縞黑檀ヲ除ク）ノ製品	花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀又ハ黑檀（縞黑檀ヲ除ク）	使用原料ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
二十一　過酸化曹達	苛性曹達	過酸化曹達毎百斤	二圓五十錢
二十二　裝具又ハ指環	硝子製模造貴石	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
二十三　自轉車用リム	リボン	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
	帶（攏鐵）	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部
二十四　アルミニウム箔製容器入茶	アルミニウム箔	製造品中ノ構成量ニ付	納付シタル輸入稅ノ全部

第二種

製造品	輸入原料品	免除率	
一　精製糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ（骨炭濾過又ハ稅務官署ノ承認シタル之ニ代ルヘキ方法ニ依リタルモノニ限ル）	砂糖		
	イ　和蘭標本色相第十一號未滿ノモノ	毎百斤	二圓五十錢
	ロ　和蘭標本色相第二十號未滿ノモノ	毎百斤	三圓九十五錢
二　氷砂糖	砂糖		
	イ　和蘭標本色相第十一號未滿ノモノ	毎百斤	一圓九十錢
	ロ　和蘭標本色相第二十號未滿ノモノ	毎百斤	三圓三十五錢
	ハ　和蘭標本色相第二十號以上ノモノ	毎百斤	四圓六十五錢
三　胡麻子油	胡麻子	毎百斤	三十九錢
四　荏胡麻子油	荏胡麻子	毎百斤	三十九錢
五　菜子油又ハ芥子油	菜子又ハ芥子	毎百斤	四十錢
六　小麥粉（末粉ヲ含ム）	小麥	毎百斤	一圓五十錢
七　麥酒	麥芽	毎百斤	二圓七十錢
八　醋酸	醋酸石灰	毎百斤	四十一錢

九	硫化染料	石炭酸	毎百斤	十五圓七十錢
		クロールベンゾール又ハダイナイトロクロールベンゾール	從價	三割五分
十	銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、撚合線、筒、管又ハ其ノ製品	銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		銅ノ屑又ハ故（改造用ノミニ適スルモノ）	毎百斤	七圓
十一	眞鍮又ハ青銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、撚合線、筒、管又ハ其ノ製品	銅、眞鍮又ハ青銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		銅、眞鍮又ハ青銅ノ屑又ハ故（改造用ノミニ適スルモノ）	毎百斤	七圓
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十二	鉛ノ板又ハ管	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十三	絶緣電線	銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十四	鉛白、鉛丹又ハリサージ	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十五	亞鉛白（酸化亞鉛）及硫化亞鉛	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十六	白色ペーント	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十七	亞鉛鍍鐵板	金屬ヲ鍍セサル鐵板（全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク）		
		厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	一圓九十五錢
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十八	鐵ノ線、線索、撚合線、バーブドワイヤ、ツウィストワイヤ、釘、ステープル又ハ綱（卑金屬ヲ鍍シタルト否トヲ別タス）	ワイヤロッド（卷キタルモノ）	從價	一割八分
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十九	錫箔	錫ノ塊又ハ錠	毎百斤	三圓七十五錢
		鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
二十	織物	家蠶絲	從價	二割五分

第二條　關稅定率法第九條第二項ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除率ヲ定ムルコト左ノ如シ

	製造品	輸入原料品		免除率
一	茶鉛	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
二	厚〇・一七ミリメートルヲ超エサル亞鉛薄板	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
三	油　落花生油	落花生　イ　脱殼セサルモノ	毎百斤	一圓二十五錢
		ロ　其ノ他	毎百斤	一圓八十錢
四	油糟　イ　大豆油糟	大豆	毎百斤	七十錢
	ロ　胡麻子油糟	胡麻子	毎百斤	十一錢
	ハ　荏胡麻子油糟	荏胡麻子	毎百斤	十一錢
	ニ　菜子油糟又ハ芥子油糟	菜子又ハ芥子	毎百斤	四十五錢

第三條　前二條ニ揭クル製造品ノ製造ニハ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用スルコトヲ得ス但シ第一條第二種製造品及前條製造品ノ製造ニ付豫メ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前二條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ以テスル製造ハ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

內國產原料品ヲ混淆使用セサル第一條第二種第一號ノ精製糖ハ同條第二種第二號ノ氷砂糖ノ製造ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ノ輸入申告者ヨリ輸入稅ヲ追徵ス但シ第四號及第五號ノ場合ニ於テ其ノ期間內ニ輸入原料品又ハ其ノ製造品カ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルコトニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　輸入原料品ヲ他ノ用途ニ供シタルトキ

二　前條第三項ノ場合ヲ除クノ外第一條ノ製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供シタルトキ

三　前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

四　第一條第二種原料品輸入ノ日ヨリ左ノ期間內ニ製造品ヲ輸出セサルトキ

第一號、第二號及第二十號ノ製造品ニ付テハ一年

第三號乃至第十九號ノ製造品ニ付テハ二年

五　第二條ノ原料品輸入ノ日ヨリ一年內ニ製造ヲ終ヘサルトキ

第五條　當該官吏ハ隨時製造場又ハ藏置場ニ就キ原料品、製造品、副產物、製造用器具機械又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　當該官吏ハ原料品、製造品、副產物、藏置場又ハ製造用器具機械ニ封印ヲ施シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百六十五號及同年勅令第二百六十六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用ヰテ明治三十九年勅令第二百六十五號第一條ノ製造品ヲ製造シ大正十一年五月三十一日迄ニ輸出シタル者ニハ仍同令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用ヰテ製造シタル者ニ對シテハ仍舊令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

附　則（昭和二年勅令第五十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル酸化コバルトヲ用ヒテ琺瑯鐵器ヲ製造シ本令施行後輸出シタル者ニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

從前ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル砂糖ニシテ本令施行後輸入稅ヲ追徵スルモノニ付テハ仍從前ノ免除率ニ依ル

●關稅定率法第九條施行ニ關スル件

（大正十年五月三十一日大藏省令第十八號　改正　大正一四年第二〇號、一五年第一八號　昭和四年第七號）

關稅定率法第九條施行ニ關スル件左ノ通定ム

大正十年勅令第二百三十八號施行ニ關スル件

第一條　大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種原料品又ハ第二條ノ原料品ヲ用ヰテ製造ヲ爲サムトスル者ハ製造品ノ名稱、製造場、原料品又ハ製造品ノ藏置場、一年間ニ於ケル原料品使用見込高及原料品ノ輸入手續ヲ爲スヘキ稅關名ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ承認ハ落花生油又ハ油糟ニ付テハ一製造場ニ於テ使用スヘキ輸入原料品中一品ノ使用見込高一年三十萬斤ニ達スルモノアル場合ニ限リ之ヲ與ヘ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種第三號乃至第五號ノ物品ニ付テハ落花生油又ハ油糟ノ製造ニ付承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ製造スルモノニ限リ之ヲ與フルモノトス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製造場所轄稅務署ハ前條ノ承認ヲ取消スコトヲ得

一　製造者カ大正十年勅令第二百三十八號又ハ本令其ノ他關稅ニ關スル法令ニ違反シ又ハ當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

二　落花生油又ハ油糟製造者ノ毎二年ノ輸入原料品使用高ノ一年平均カ前條第二項ノ斤數ニ達セサルトキ

第三條　製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一月前ニ製造場所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第四條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル原料品ノ輸入申告ハ第一條ノ承認ヲ受ケタル製造者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ使用ノ目的製造場及藏置場ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用セムトスル者ハ使用前原料品ノ名稱、種類、數量、使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ記シタル文書ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ添附シ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

大正十年勅令第二百三十八號第三條第三項ノ規定ニヨリ氷砂糖ノ製造ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ輸入免狀又ハ證明書ニ代フルニ精製糖ニ對スル稅務署ノ製品檢査書ヲ以テスヘシ

第六條　大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ原料品ヲ混淆使用シテ製造ヲ爲サムトスル者ハ前條第一項ノ規定ニ依ル申告書ニ混淆スヘキ他ノ原料品ノ品名、種類、數量及使用ノ割合ヲ附記スヘシ

第六條ノ二　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ其ノ製造品ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ原料品ノ輸入申告者ハ其ノ事實ヲ原料品ノ輸入手續ヲ爲シタル稅關ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ亡失シタル地ノ所轄稅務署又ハ警察官署ノ亡失證明書ヲ前項申告ノ際提出セシムルコトヲ得

第七條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ他ノ用途ニ供セムトスルトキ又ハ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供セムトスルトキハ製造者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

第八條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ製造品及副產物ハ他ノ同種ノ原料品又ハ製造品及副產物ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第九條　製造者輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ原料品、製造品及副產物ノ名稱及數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ檢査ヲ受クヘシ

第十條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シテ製造シタル物品又ハ副產物ヲ製造場ヨリ搬出セムトスルトキハ其ノ名稱、數量及搬出先ヲ記シタル文書ヲ以テ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條　大正十年勅令第二百三十八號第一條ノ製造品ヲ輸出セムトスルトキハ輸出申告書ニ第一種品ニ在リテハ製造者ノ作成シタル製造證明書第二種品ニ在リテハ稅務署ノ製品檢査書ヲ添附スヘシ但シ第一種第二十號乃至第十五號、第十七號、第十九號、第二十號及第二十二號乃至第二十四號ノ製造品ニ在リテハ其ノ原料品ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書又拂戾率カ從價稅ニ依レルモノニ在リテハ納付シタル輸入稅額ヲ證スヘキ書類ヲモ添附スルコトヲ要ス

前項ノ製造證明書又ハ製品檢査書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一　第二種製造品ニ付テハ原料品ノ輸入免狀番號及輸入手續ヲ爲シタル稅關名

二　製造品ノ名稱及數量

三　第一種製造品ニ付テハ製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ名稱、種類及數量第二種製造品ニ付テハ其ノ製造ニ使用シタル輸入原料品ノ名稱、種類及數量但シ大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副產物ニ付テハ各原料品ノ割合

四　製造場

五　證明書又ハ檢査書作成ノ年月日

第十二條　製造者大正十年勅令第二百三十八號第二條製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ其ノ製造品及副產物ノ名稱、數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シ檢査ヲ受ケ其ノ製品檢査書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ製品檢査書ハ前條第二種品ノ檢査書ニ準シ作成スヘシ

第十三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ用ヰ製造シタル第二種製造品ヲ輸出スルトキハ其ノ原料品ノ輸入手續ヲ爲シタル稅關ヲ經由スヘシ但シ輸入手續ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　輸入稅ノ拂戾ヲ請求セムトスルトキハ製造品輸出稅關ニ申請スヘシ

第十五條　製造者ハ左記事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　輸入原料品ノ名稱、種類、數量、藏置場、輸入手續ヲ爲シタル稅關及製造場ニ搬入ノ年月日

二　使用シタル輸入原料品及之ト混淆使用シタル他ノ同種ノ原料品ノ名稱、種類、數量及使用ノ年月日

三　製造品及副產物ノ名稱、數量及製造ノ年月日但シ輸入原料品ト他ノ同種ノ原料品ヲ混淆使用シタル製造品及副產物ニ付テハ各原料品ノ割合

四　第九條ノ檢査ヲ受ケタル製造品及副產物ノ名稱、數量及檢査ノ年月日

五　搬出シタル製造品及副產物ノ名稱、數量、搬出先及搬出ノ年月日

六　原料品、製造品又ハ副產物ニシテ製造場ニ於テ亡失シタルモノアルトキハ其ノ名稱、種類、數量、亡失ノ事由及其ノ年月日

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件

（大正十年五月三十日勅令第二百三十九號）

朕關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　關稅定率法第十條ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル物品ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用スルモノニ限ル

一　鐵材（船體用、機關用又ハ艤裝品用ノモノ）

鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）

條及竿（T形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及ターピンブレーディングヲ含ム）

板

筒及管（鑄タルモノヲ除ク）

二　艤裝品

操舵用テレモーター及テレモーター付操舵裝置

水壓式支水隔壁扉及其ノ裝置

ウエリン式ボートダビット及其ノ裝置

クレートン式消火消毒裝置

クロノメーター

廚房裝置

洗濯裝置

三　機關部分品

ターピン用ローター、ターピンディスク、フォージドインゴット、ホローアルーム、ロートルドラム及エキスパンジョンジョイント

コルゲーテッドボイラーファーネスチューブ

ハウアン式ファーネスフロント
マックネール式ノマンホールドア及
マンホールドアサッドルプレート

四　新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品ニシテ遞信大臣ノ認許ヲ得タル艤裝品、艤裝品部分品、機關又ハ機關部分品

第二條　前條ニ揭クル物品ヲ使用シテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ハ大藏大臣ノ定ムル事項ニ付豫メ管海官廳ノ承認ヲ受ケ其ノ承認書ヲ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入手續ヲ爲ス稅關ニ提出スヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　前條ニ規定スル者其ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏ノ常時派出ヲ受クル場合ニ於テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ

第四條　第二條ニ規定スル者ハ船舶ノ建造又ハ修繕ノ工事施行ニ付テハ管海官廳、輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ノ取扱ニ付テハ稅關長ノ監督ヲ受クヘシ

第五條　船舶ノ建造又ハ修繕竣リタルトキハ第二條ニ規定スル者ハ其ノ旨管海官廳ニ申告シテ承認ヲ受ケ承認書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ物品ノ輸入免許ヲ取消シ又ハ輸入申告者ヨリ輸入稅ヲ追徵ス但シ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ稅關長ノ認許ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ當該船舶ノ建造ニ使用セサルトキ
二　承認ヲ受ケタル竣工期限迄ニ船舶ノ建造竣ラサルトキ
三　承認ヲ受ケタル期間內ニ修繕ニ使用スヘキ物品ヲ使用セサルトキ

第七條　管海官廳又ハ稅關長ハ第二條ニ規定スル者ニ對シ船舶ノ建造又ハ修繕ニ關シ調査又ハ監督ニ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

當該官吏ハ隨時工場若ハ藏置場ニ就キ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ檢査シ又ハ之ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第八條　海軍工作廳ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ第一條ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セス

海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ本令中管海官廳ノ職務ハ海軍官憲之ヲ行フ但シ其ノ建造又ハ修繕ニ使用スル官給品ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條　本令中大藏大臣及遞信大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法第十條施行ニ關スル件

（大正十年五月三十一日　大藏省令第十九號）
（改正　大正一五年第一九號）

關稅定率法第十條施行ニ關スル件左ノ通定ム

大正十年勅令第二百三十九號施行ニ關スル件

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合
一　船舶ノ製造番號及種類
二　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量
三　工場ノ名稱及位置
四　起工期日及竣工期日

乙　船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合
一　各工場ニ於テ一定期間內ニ特定セサル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量又ハ特定セル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類、數量、船舶ノ名稱、種類、修繕ノ著手期日及竣工期日
二　工場ノ名稱、位置及修繕ヲ爲スヘキ場所

第二條　大正十年勅令第二百三十九號ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ同勅令第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ハ稅關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシメサルコトヲ要ス

前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ稅關官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　大正十年勅令第二百三十九號第六條但書ノ規定ニ依リ輸入免許ノ取消又ハ輸入稅ノ追徵ヲ爲ササル場合左ノ如シ

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使用スル爲メ稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ
二　承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ
三　一定期間內ニ特定セサル船舶修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ豫メ當該物品ノ名稱、數量及同勅令第二條ニ依ル承認書ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ稅關ニ申告スヘシ

第五條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者ハ工場每ニ帳簿ヲ備ヘ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付左記事項ヲ記載スヘシ

一　工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、數量、輸入手續ヲ爲シタル稅關、輸入免狀番號、搬出入ノ年月日及搬出先
二　使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名竝右ニ關スル承認書ノ種類及番號
三　建造又ハ修繕シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名、其ノ起工又ハ著手及竣工ノ年月日、國籍、所有者、種類、資格、總噸數又ハ排水噸數竝機關ノ種類及箇數但シ潛水艦ニ付テハ排水噸數竝機關ノ種類及箇數ヲ除ク

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年大藏省令第十九號）

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件

（大正十年七月二十日　遞信省令第三十六號）
（改正　大正一三年第二四號）

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件左ノ通定ム

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ定ムル遞信大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ本令ニ依リ認許申請ヲ爲スヘシ

第二條　認許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

甲　船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合
一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
二　認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數
三　右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由
四　右物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號
五　工場ノ名稱及位置

乙　船舶ノ修繕ニ使用セムトスル場合
一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
二　認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數
三　右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由
四　工場ノ名稱及位置

第三條　遞信大臣ハ認許申請ノ當否ニ基キ之ヲ認許シ又ハ認許セサリシトキハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ

第四條　認許ハ其ノ通知後三月內ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則又ハ海軍艦船建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ナル理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第五條　申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ申請書ニ記載シタル用途、船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手數料

（大正十年八月二日　大藏省令第二十八號）

大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手數料左ノ通相定ム

大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手數料

一　派出スル稅關官吏　每一人一月迄每ニ七十圓

手數料ハ之ヲ前納スヘシ但シ最初ノ一箇月分ハ稅關カ派出ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

手數料納付後稅關官吏派出ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ派出セサル月分ニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍艦船建造及修繕用物品承認規則

（大正十五年六月十八日　海軍省令第九號）

海軍艦船建造及修繕用物品承認規則左ノ通改正ス

海軍艦船建造及修繕用物品承認規則

第一條　海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス者大正十年勅令第二百三十九號ニ依リ海軍官憲ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

前項ノ承認申請ニ基キ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ承認更正申請書ヲ、承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル艦船ノ建造又ハ修繕ヲ竣リタルトキハ遲滯ナク竣工承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

第二條　前條ノ申請書ハ艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス工場所在地ニ在ル造船監督官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三條　海軍艦船建造用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
二　工場ノ名稱及位置
三　艦船ノ製造番號、名稱又ハ假稱呼、種類及排水量（潛水艦ハ排水量ヲ記載セス）
四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量
五　起工期日及竣工期日

第四條　海軍艦船修繕用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
二　工場ノ名稱、位置及修繕ヲナスヘキ場所
三　艦船ノ名稱及種類
四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量
五　修繕ノ著手期日及竣工期日

第五條　海軍艦船ノ建造竣工承認申請書及修繕竣工承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
二　工場ノ名稱及位置
三　艦船ノ製造番號及名稱
四　艦船ノ建造又ハ修繕ノタメニ使用シタル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケタルモノノ種類及數量
五　竣工ノ年月日

第六條　承認申請書及承認更正申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ（一）船體用鐵鋼材（二）機關用鐵鋼材（三）艤裝品用鐵鋼材（四）機關部分品、艤裝品及艤裝品部分品ニ四類別シ（一）（二）（三）ニ付テハ更ニ（イ）塊（ロ）片（ハ）條及竿（ニ）板（ホ）筒及管ノ五種類ニ分チ各合計重量ヲ明ニスヘシ

竣工承認申請書ニ鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ前項ノ類別及種類ニ依ルノ外塊、片ニ付テハ各品名、箇數、使用重量及用途ヲ、條及竿、板、筒及管ニ付テハ各品名、形狀、寸法、箇數、使用重量及用途ヲ明ニスヘシ

第七條　承認申請書ハ二通トシ署名捺印スルコトヲ要ス

第八條　海軍艦政本部長又ハ造船監督官ハ何時ニテモ申請書又ハ屆書ニ記載シタル事項若ハ添附シタル書類及圖面ノ補正ヲ命シ又ハ關係書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條　海軍艦船ノ建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキハ其ノ都度第六條第二項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル屆書ヲ遲滯ナク所在造船監督官ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十條　海軍艦政本部長ハ申請書ヲ調査シ承認ヲナスヘキモノト認ムルトキハ申請書一通ノ末尾ニ承認ノ旨、番號及年月日ヲ記入シ官印ヲ押捺シテ申請者ニ之ヲ交付スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル法律

（大正十四年六月十八日　法律第五十[illegible]號）
（改正　昭和二年第四三號、四年第六四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關東州ノ生產ニ係ル物品ノ輸入稅免除ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

關稅定率法別表輸入稅表ニ揭クル物品ニシテ關東州ノ生產ニ係リ本法別表甲號ニ揭クルモノノ輸入稅ハ之ヲ免除シ本法別表乙號ニ揭クルモノノ輸入稅ハ關稅定率法別表輸入稅表ニ依ラス本法別表乙號ニ依ル

前項ノ規定ノ適用ヲ受クル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ關東州ノ生產ニ係ルモノナルコトヲ證明スルコトヲ要ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

甲號

輸入稅表番號	品名
三一ノ內	生果
七二ノ內	緬羊革及山羊革（塗リタルモノヲ除ク）
一四一ノ二	甘草越幾斯
一四五	阿膠
一四六	セラチン
一五一	ブローム
一六五ノ內	曹達灰
一六九ノ內	硫酸曹達（精製ノモノ）
二二九ノ內	硫酸マグネシウム
二三〇ノ內	コールタールヲ主要原料トシタル消毒劑
二七二	綿織絲
二七八ノ內	苧麻絲及苧麻線
二八〇	黃麻織絲
二八一ノ內	黃麻絲及黃麻線
二八三	毛織絲
二八四	毛綿織絲
二八九ノ內	野蠶絹絲
二九六ノ內	苧麻繩、黃麻線及黃麻繩
二九九ノ內	黃麻布（關東州ノ生產ニ係ル黃麻絲ヲ原料トシタルモノ）
三〇一ノ內	天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物以外ノ毛織物及毛綿交織物（關東州ノ生產ニ係ル毛織絲又ハ毛綿織絲ヲ原料トシタルモノ）
三二六ノ內	毛製又ハ毛綿製ノブランケット（關東州ノ生產ニ係ル毛織絲又ハ毛綿織絲ヲ原料トシタルモノ）
三三九ノ內	ガンニー袋（關東州ノ生產ニ係ルガンニー布ヲ原料トシタルモノニシテ長九十五センチメートル、幅六十センチメートルヲ超エタルモノ）
三四三	別號ニ揭ケサル布帛製品
	二ノ內內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ノ生產ニ係ル綿布及關東州ノ生產ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ
四三二ノ內	ポートランドセメント
四三五	別號ニ揭ケサル礦物及礦物製品
	二　其ノ他
	乙ノ內マグネサイト又ハドロマイトヲ主要原料トシタル建築材料（粉狀ノモノ）
四三六	煉瓦（セメント製ノモノヲ除ク）
四三七	瓦（粘土製ノモノ）
四三八	耐火性粘土製品（別號ニ揭ケサルモノ）
四四一	硝子塊

四四二　硝子粉
四四四　硝子板
四六二ノ二　特殊鋼
一ノ内全重量百分中クローム、タングステン又ハモリブデンノ重量〇・五以上ヲ含有スルモノ（關東州ニ於テ製錬シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル條、竿及板）
四七六ノ内ニッケル及クロームヲ含ム電氣抵抗材料（關東州ニ於テ製錬シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル紐、帶及線）
五七〇ノ内ゲージグラス
六一七ノ内骨炭（徑一、二五ミリメートルノ圓眼ヲ有スル篩ヲ通過スルモノヲ除ク）
六三五ノ内安全燈ホヤ

乙號

輸入税表番號	品名	單位	税率
五二ノ内	牛肉（生鮮ナルモノ）	毎百斤	一・〇〇
一二〇ノ内	大豆硬化油（關東州ノ生産ニ係ル大豆油ヲ原料トシタルモノ）	毎百斤	一・二〇
三四三	別號ニ掲ケサル布帛製品 二ノ内内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ生産ニ係ル亞麻布（他ノ植物纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム）及關東州ノ生産ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ	毎百斤	二・八五

備考　從量税率ノ單位ハ圓トス

●大正十四年法律第五十一號ニ依ル生産品ノ製産原地證明ニ關スル件（大正十四年六月十八日勅令第二百三十二號）

改正　昭和二年第九三號、四年第一〇一號

朕大正十四年法律第五十一號ニ依ル生産品ノ製産原地證明ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　大正十四年法律第五十一號ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ當該物品ノ産出地又ハ製造地ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長ノ證明シタル製産原地證明書ヲ添附スヘシ

第二條　製産原地證明書ハ別記樣式ニ依ル

製産原地證明書ノ有效期間ハ其ノ發給ノ日ヨリ六十日トス

前項ノ期間ヲ經過シタル製産原地證明書ハ直ニ之ヲ其ノ發給シタル官署ニ返納スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式

第　號　製産原地證明書

申請者ノ住所氏名	品名	數量	價格	記號及番號	包裝及個數	産出地又ハ製造地	仕出地	仕向地	備考

右證明ス

年　月　日　發給官署長氏名印

備考　黃麻布、天鵞絨ブラッシュ其ノ他ノパイル織物以外ノ毛織物及毛綿交織物、毛製又ハ毛綿製ノブランケット、ガンニー嚢、別號ニ掲ケサル布帛製品、特殊鋼、ニッケル及クロームヲ含ム電氣抵抗材料並大豆硬化油ニ對スル製産原地證明書ニハ備考欄ニ大正十四年法律第五十一號所定ノ物品ヲ原料トシタルモノナルコトヲ明記スルヲ要ス

●大正十四年勅令第二百三十二號ニ依ル製産原地證明書ニ關スル件（大正十四年六月十八日關東廳令第三十六號）

改正　昭和二年第一八號、四年第一四號

大正十四年勅令第二百三十二號ニ依ル製産原地證明書ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十四年勅令第二百三十二號ニ依リ製産原地證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ民政署長又ハ民政支署長ニ申請スヘシ

一　品名
二　數量
三　價格
四　記號及番號
五　包裝及個數
六　産出地又ハ製造地
七　仕出地
八　仕向地

前項ノ場合ニ於テ黃麻布、天鵞絨、ブラッシュ其ノ他ノパイル織物以外ノ毛織物及毛綿交織物、毛製又ハ毛綿製ノブランケット、ガンニー嚢、別號ニ掲ケサル布帛製品、特殊鋼、ニッケル及クロームヲ含ム電氣抵抗材料並大豆硬化油ノ製産原地證明書ニ付テハ大正十四年法律第五十一號所定ノ物品ヲ原料トシタルモノナルコトヲ表示スヘシ

綿織絲ニ付第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ尚製産者ノ作成シタル製産證明書ヲ添附スヘシ

第一條ノ二　綿織絲ノ製産證明書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　製産證明書作成番號
二　製産者名
三　番手別數量
四　商標
五　包裝
六　製産證明書作成年月日
七　製産證明書請求者名

製産證明書ハ製産原地證明書交付申請ノ日ヨリ前三十日內ニ作成セラレタルモノナルコトヲ要ス

第一條ノ三　製産者前條ノ製産證明書ヲ作成シタルトキハ其ノ都度所轄民政署長又ハ民政支署長ニ其ノ旨届出ツヘシ

第一條ノ四　關東長官必要アリト認ムルトキハ製産者ニ對シ第一條第三項ニ規定スル製産證明書ニ依リ證明ヲ爲スコトヲ得ヘキ綿織絲ノ數量ヲ制限スルコトアルヘシ

第二條　詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ製産原地證明書ノ下付ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ製産原地證明書ハ之ヲ沒收ス

第三條　製産證明書ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者又ハ之ヲ僞造若ハ變造シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州生産物品ノ輸入税率ニ關スル件（明治三十九年九月二十六日勅令第二百六十二號）

朕關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ハ協定税率ニ依ル但シ關税定率法ニ定ムル税率カ協定税率ヨリ低キトキハ此ノ限ニ在ラス

關税法施行規則第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ協定税率ニ依ルヘキ物品ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●支那國生産物品ノ輸入税率ニ關スル件（明治三十九年十一月二十九日勅令第三百四號）

改正　大正一二年第二三七號

朕韓國及淸國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

支那國ノ生産ニ係ル銑鐵、水銀、毛織物、毛綿交織物及綿織物ノ輸入税率ハ協定税率ニ依ル但シ關税定率法ニ定ムル税率カ協定税率ヨリ低キトキハ此ノ限ニ在ラス

關税法施行規則第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ物品ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土耳其國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ニ關スル件（大正十三年八月十六日勅令第百九十三號）

朕土耳其國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

土耳其國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ハ協定税率ニ依ル但シ關税定率法ニ定ムル税率カ協定税率ヨリ低キトキハ此ノ限ニ在ラス

關税法施行規則第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ協定税率ニ依ルヘキ物品ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●保税倉庫法（明治三十年三月二十九日法律第十五號）

改正　明治四〇年第二〇號　昭和二年第四四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保税倉庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

保税倉庫法

第一章　總則

第一條　保税倉庫ハ輸入手數未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス

保税倉庫ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ內國貨物ヲ藏置スルコトヲ得

第一條ノ二　保税倉庫ニ於テハ税關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ外國貨物ニ使用セムトスルトキハ税關ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　保税倉庫ニ藏置スル輸入手數未濟ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノト看做サス

第三條　保税倉庫ニ藏置シタル外國貨物ノ輸入税ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ庫入ノ際税關ノ檢査ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ輸入税ハ庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ檢査ヲ受ケタル外國貨物カ其ノ藏置中災害ニ因リ滅失若ハ變質シ又ハ税關ノ承認ヲ經テ滅却セラレタルトキハ其ノ現存スル部分ニ付輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ輸入税ヲ徵收ス

第四條　保税倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ

第五條　保税倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ税關長之ヲ定ム

第五條ノ二　保税倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セムトスルトキハ税關ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　保税倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外關税法ヲ適用ス

第七條　保税倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ三年トス

第八條　保税倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス

第九條　保税倉庫ニ若ハ保税倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ税關ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ノ輸入税ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ貨物税關ノ指定期限內ニ仕向地ニ到達セサルトキハ輸入税ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シタルモノニシテ税關ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　保税倉庫ニ藏置シタル貨物カ藏置期限ヲ經過スルモ引取ラレサルトキハ税關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容シ又ハ庫主ヨリ其ノ輸入税ヲ徵收ス

第九條ノ三　税關長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ藏置貨物ノ手入ノ停止又ハ庫出ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ貨物ノ庫出ヲ命セラレタル者之ヲ庫出セサルトキハ税關ハ其ノ者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得

第九條ノ四　關税法第三條中收容ニ關スル規定並同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第二章　官設保税倉庫

第十條　官設保税倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス

第十一條　預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得

第十二條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨税關ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無效トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス

第十三條　前條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス

第十四條　藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス

第十五條　藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　削除

第十七條　藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ税關ハ公告シテ指定ノ期限內ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ税關ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限內ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ徵收セス

第三章　私設保税倉庫

第十八條　保税倉庫ノ業ヲ營マムトスル者ハ税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條　私設保税倉庫ノ庫主ハ税關長ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條　私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付一切ノ責任ヲ有ス

第二十一條　私設保税倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入税ノ擔保トシテ金錢又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條　削除

第二十三條　削除

第二十四條　私設保税倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ税關長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條　當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保税倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　私設保税倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一　庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ
二　庫主死亡シタルトキ
三　庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
四　特許ノ期限滿了シタルトキ
五　税關長ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條　私設保税倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ税關長ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限內ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以內ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ税關長ハ之ヲ官設保税倉庫又ハ他ノ私設保税倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第二十八條　營業特許ノ消滅シタル私設保税倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保税倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條　第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保税倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ税關長ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一　業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ

二　庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ

三　庫主禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章　罰則

第三十一條　第一條ノ二ノ規定ニ違反シテ貨物ノ手入ヲ爲シ又ハ貨物ヲ使用シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ保税倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出シタル者

二　認可ヲ受ケタル貨物保管規則ニ依ラスシテ貨物ノ取扱ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケサル庫敷料ヲ徴シタル者

三　第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

第三十三條　私設保税倉庫ノ庫主又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ其ノ庫主又ハ營業者ヲ處罰ス但シ庫主又ハ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及税關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

税關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ税關貨物取扱人ヲ處罰ス

第三十四條　前條ノ場合ニ於テ庫主、營業者又ハ税關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ二　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第三十二條第三號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ三　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關税法ヲ準用ス

附　則

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

附　則（昭和二年法律第四十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前主務大臣カ私設保税倉庫、藏置貨物ノ種類、貨物保管規則又ハ庫敷料ニ付爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分ハ税關長ノ爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分トシテ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前ヨリ引續キ保税倉庫ニ藏置シタル貨物ニ付テハ其ノ藏置期限ハ最初ノ庫入許可ノ日ヨリ三年トシ其ノ輸入税ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

（昭和二年勅令第二百六十四號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●保税倉庫法施行規則

（昭和二年八月十六日大藏省令第二十三號）

保税倉庫法施行規則左ノ通定ム

保税倉庫法施行規則

第一條　保税倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ内國貨物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　輸出スヘキ貨物

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ノ爲使用スヘキ貨物

三　保税倉庫所在地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認メタル場合ニ於テ税關長ノ許可シタル貨物

前項第三號ノ貨物ニ付テハ外國貨物ヲ藏置スル爲必要アルトキハ税關長ハ何時ニテモ其ノ庫出ヲ命ズルコトヲ得

第二條　外國貨物ト内國貨物及庫入ノ際税關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ税關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　他ノ貨物ヲ損傷スル虞アル貨物ハ他ノ貨物ト混同シテ之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第四條　發火質、燃燒質又ハ爆發質ノ貨物ハ特ニ其ノ貨物ヲ藏置スル爲設ケタル倉庫ノ外之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第五條　貨物ノ藏置及取扱ニ付テハ總テ税關官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第六條　貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第一號樣式ニ依ル手入申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

官設保税倉庫ニ於テ貨物ノ手入ヲ爲サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ手入ヲ終リタルトキ之ガ爲異動ヲ生ジタル事項ニ付記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第七條　手入ヲ終リタルトキハ第二號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク税關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クヘシ

第八條　保税倉庫ニ貨物ヲ庫入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第三號樣式、内國貨物ニ在リテハ第四號樣式ニ依ル庫入申告書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ庫入ノ際檢査ヲ受クヘキ外國貨物ニ付テハ申告書ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ申告書ニハ貨物ノ仕入書又ハ明細書ヲ添附提出スヘシ

第九條　他人ノ貨物ヲ藏置スヘキ保税倉庫ニ藏置スル外國貨物ニ付テハ申請アリタルモノニ限リ庫入ノ際檢査ヲ爲スモノトス

自己ノ貨物ヲ藏置スヘキ保税倉庫ニ藏置スル外國貨物ハ庫入ノ際檢査ヲ受クヘシ

第十條　保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セントスルトキハ輸入、輸出、積戻若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ庫移若ハ保税工場ヘノ移入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第五號樣式ニ依ル庫出申告書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

保税倉庫法第一條ノ二第二項ニ依リ手入ノ材料トシテ内國貨物ヲ使用シタル外國貨物又ハ外國貨物ヲ使用シタル内國貨物ヲ庫出セントスルトキハ其ノ使用シタル材料ノ輸入、輸出、積戻、運送、庫移、保税工場ヘノ移入又ハ庫出申告書ヲ提出シ免許又ハ許可ヲ受クヘシ

第十一條　藏置貨物ヲ庫移セントスルトキハ第六號樣式ニ依ル庫移申告書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ外國貨物ノ庫移ヲ爲ス爲運送ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　保税倉庫法第九條第二項但書ノ規定ニ依リ税關ノ承認ヲ受ケントスルトキハ滅失シタル貨物ノ品名、箇數、數量、價格、滅失ノ年月日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ税關ニ提出スヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ税關ハ貨物ノ滅失シタル地所轄ノ税關又ハ警察官署ノ滅失證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

官設保税倉庫ノ藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ取出ヲ終リタルトキ其ノ見本ノ數量及取出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第十四條　官設保税倉庫ニ貨物ヲ庫入シタルトキハ税關長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス

預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一　貨物ノ品名、品質、記號、番號、包裝ノ種類、箇數及數量

二　貨主ノ住所及氏名又ハ商號

三　庫入年月日

四　倉庫所在地及倉庫番號

五　庫敷料

六　預證券ノ作成年月日

外國貨物ノ預證券ニハ前六號ノ外左ノ事項ヲ記載ス

七　庫入ノ際ニ於ケル檢査ノ濟否及檢査ヲ受ケタル貨物ニ在リテハ其ノ輸入税額又ハ輸入税率

第十五條　預證券ノ所持人ハ税關ニ對シ預證券ノ分割ヲ請フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前ノ預證券ヲ税關ニ返還スルコトヲ要ス

第十六條　預證券ノ裏書ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス但シ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　官設保税倉庫ニ藏置シタル貨物ノ一部ヲ庫出セントスルトキハ當該貨物ノ預證券ヲ税關ニ呈示シ庫出ヲ終リタルトキ庫出シタル貨物ノ箇數、數量及庫出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第十八條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタル場合ニ於テ新證券ノ交付ヲ請ハントスルトキハ再交付申請書ニ除權判決書ノ謄本ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル税關ニ提出スヘシ

第十九條　汚損其ノ他ノ事由ニ因リ預證券ノ書換ヲ請ハントスル者ハ書換申請書ニ預證券ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル税關ニ提出スヘシ

第二十條　預證券ノ分割、再交付又ハ書換ヲ請フ者ハ一通ニ付手數料三十錢ヲ納付スヘシ

第二十一條　官設保税倉庫ノ藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アル場合ニ於テ其ノ當事者ヨリ藏置期限ノ延期ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期限延期申請書ニ訴訟ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添附シテ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ延期豫定期限内ニ訴訟事件終結セザルトキハ更ニ其ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　官設保税倉庫ニ貨物ヲ藏置シ又ハ官設保税倉庫ニ於テ藏置貨物ノ手入ヲ爲ス者ハ官設保税倉庫庫敷料規則ニ依リ庫敷料ヲ納付スヘシ

第二十三條　保税倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、倉庫ノ構造、棟數、坪數、藏置スヘキ貨物ノ種類及特許年限、改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスル者ニ在リテハ其ノ手入ノ種類及其ノ手入ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ニ倉庫及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄税關長ニ出願スヘシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スヘシ

他人ノ貨物ヲ藏置スヘキ保税倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ貨物保管規則及庫敷料ノ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十四條　私設保税倉庫業ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ三十年以内トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ三十年以内トス

第二十五條　私設保税倉庫ノ庫主ハ特許ヲ受ケタル後遲滯ナク保税倉庫法第二十一條ニ依ル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税關ニ提出スヘシ

第二十六條　前條ニ依ル擔保ノ價額ハ倉庫ノ面積三百坪迄ハ二千圓トシ三百坪ヲ超ユルトキハ二百坪迄ヲ增ス毎ニ千圓ヲ加ヘタルモノトス

第二十七條　私設保税倉庫坪數ノ增加ニ因リ擔保ノ增加ヲ必要トスルトキハ庫主ハ遲滯ナク其ノ增加額ニ相當スル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税關ニ提出スヘシ

第二十八條　私設保税倉庫坪數ノ減少ニ因リ擔保ニ過剩ヲ生ズルトキハ庫主ハ其ノ旨ヲ税關ニ屆出テ擔保ノ減少ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　私設保税倉庫ヲ改築シ若ハ構造ヲ變更シ又ハ之ヲ增設シ若ハ減少セントスルトキハ税關長ノ承認ヲ受クヘシ之ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同シ

前項ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ增設若ハ減少ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際税關ニ屆出テ其ノ倉庫ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十條　保税倉庫業ノ特許ヲ受ケタル者特許期限内ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ税關長ニ屆出ヅヘシ

第三十一條　保税倉庫業ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼カントスル者ハ第二十三條ノ規定ニ準據シ税關長ニ出願スヘシ

第三十二條　私設保税倉庫ノ藏置貨物ノ種類、私設保税倉庫ニ於テ爲シ得ヘキ手入ノ種類又ハ手入ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ税關長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條　私設保税倉庫又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ庫主ハ直ニ其ノ旨ヲ税關ニ屆出テ税關官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

藏置貨物腐敗、損傷其ノ他ノ事由ニ因リ滅却ヲ必要トスルトキハ税關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十四條　私設保税倉庫ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ庫主ハ其ノ貨物ニ對スル輸入税ヲ納付スヘシ

第三十五條　私設保税倉庫ノ庫主ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保管上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十六條　私設保税倉庫ノ庫主ハ税關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十七條　私設保税倉庫ノ庫主ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第三十八條　私設保税倉庫ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ税關ニ預クヘシ

第三十九條　私設保税倉庫ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ税關官吏ノ立會ヲ受クヘシ

第四十條　私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ税關ニ屆出ヅヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第四十一條　官設保税倉庫内ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スヘキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ税關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十二條　私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保税倉庫ノ構内ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第四十三條　私設保税倉庫ノ庫主ハ藏置貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　庫入又ハ庫出シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及庫入又ハ庫出ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物ニ在リテハ其ノ品名及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

第四十四條　私設保税倉庫ノ庫主ハ税關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十五條　日沒ヨリ日出迄ノ間及税關ノ休日ニ於テ保税倉庫ノ開庫ヲ必要トスルトキハ第九號樣式ニ依ル臨時開庫申請書ヲ税關ニ提出シ特許ヲ受クヘシ但シ關税法第二十六條及關税法施行規則第七十四條ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ開庫一時間迄毎ニ手數料一圓ヲ納付スヘシ

第四十七條　保税倉庫法第十七條及第二十七條ノ公告ハ當該税關ニ掲示スル外三日以上官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十八條　貨物庫入ノ日ヨリ起算スル期間ハ庫入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第四十九條　貨主藏置貨物ノ調査ヲ爲シ又ハ其ノ保存上必要ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ税關ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

第五十條　保税倉庫内ニハ火氣ヲ入ルルコトヲ得ズ燈火ヲ必要トスルトキハ税關ノ許可ヲ受ケタルモノヲ用ユヘシ

第五十一條　官設保税倉庫ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ税關ニ辨償スヘキモノハ貨物庫出ノ際之ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入許可書

手入許可年月日　　許可番號

手入ヲ爲スヘキ貨物						手入ニ使用スヘキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物					外國貨物	內國貨物	

申請者氏名

保稅倉庫藏置貨物手入申請書

申請番號

庫主氏名捺印

受付年月日

手入ヲ爲スヘキ貨物							手入豫定期間	手入ニ使用スヘキ貨物						
庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類及目的		庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	使用ノ目的
			外國貨物	內國貨物							外國貨物	內國貨物		

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

備考

第二號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入濟申告書

受付年月日　　申告番號

手入ヲ爲シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲生シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ニ使用シタル貨物				
						手入申請番號	外國貨物名	內國貨物名	數量	價格

申告者氏名捺印　　住所

申告年月日

備考

第三號樣式

外國貨物庫入許可書

保稅倉庫名　　申告番號

積載船名　　庫入許可年月日　　庫入番號

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	稅目番號

一箇ノ重量

申告者氏名

外國貨物庫入申告書

積載船名　　船舶入港年月日　　倉庫番號　　申告番號

船舶國籍　　檢査申請年月日　　受付年月日　　庫主氏名捺印　　庫入番號

檢査貨物指定

船荷證券番號	積出地	仕入地	產出地又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	申告價格	鑑定價格	稅目番號	稅率	稅額

一箇ノ重量

申告者氏名捺印　　國籍　　住所

申告年月日

最初庫入年月日

庫入許可年月日

備考

製產原地證明書提出ノ有無

總務課

檢査課

監視部

第四號樣式

內國貨物庫入許可書

申告番號

庫入番號

保稅倉庫名　　庫入許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量

申告者氏名

內國貨物庫入申告書

倉庫番號　　申告番號

受付年月日　　庫主氏名捺印　　庫入番號

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	庫入ノ目的

申告者氏名捺印　　國籍

申告年月日　　住所

最初庫入年月日

庫入許可年月日

備考

總務課

檢査課

監視部

庫出許可書

許可番號

庫出許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

第五號樣式

庫出申告書

申告番號

受付年月日

庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	庫出ノ目的
			外國貨物	內國貨物			

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

庫移許可書

保稅倉庫名
積載船名

申告番號
庫入番號

庫移許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	稅目番號

一箇ノ重量

申告者氏名

第六號樣式

庫移申告書

檢查貨物指定

積載船名
船舶國籍

船舶入港年月日

檢查申請年月日

受付年月日

倉庫番號
庫主氏名捺印

申告番號
庫入番號

船荷證券番號	積出地	仕入地	產出地又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	申告價格	鑑定價格	稅目番號	稅率	稅額

申告者氏名捺印　國籍

申告年月日　住所

一箇ノ重量

最初庫入年月日

庫入許可年月日

備考

原產地證明書提出ノ有無

總務課

檢查課

監視部

見本取出許可書

許可番號

預證券番號
保稅倉庫名
庫入年月日

取出許可年月日

記號及番號	品名	數量

申請者氏名

第七號樣式

見本取出申請書

保稅倉庫名

申請番號

受付年月日

庫入年月日	預證券番號	記號及番號	品名	數量

申請者氏名捺印　住所

申請年月日

藏置期限延期許可書

許可番號

延期許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延期スヘキ期限
		外國貨物	內國貨物			

申請者氏名

第八號樣式

藏置期限延期申請書

申請番號

庫入許可年月日
庫入番號

受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延期スヘキ期限	出訴年月日事由及出訴シタル裁判所名
		外國貨物	內國貨物				

申請者氏名捺印　住所

申請年月日

備考

保税倉庫臨時開庫特許書

特許番號　　　　特許年月日

倉庫番號

開庫期間

事由

手數料

申請者氏名

保税倉庫臨時開庫申請書

受付番號　　　　受付年月日

收入印紙貼用欄

倉庫番號

開庫期間

事由

手數料

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

第九號様式

●官設保税倉庫庫敷料規則（昭和二年八月十六日大藏省令第二十四號）

官設保税倉庫庫敷料規則左ノ通定ム

官設保税倉庫庫敷料規則

第一條　官設保税倉庫庫敷料ハ敷料及專用料トス

第二條　官設保税倉庫ニ貨物ヲ藏置スル者ハ別表ニ依リ敷料ヲ納付スベシ

別表ニ掲ゲザル貨物ノ敷料ハ毎立方尺一月四錢トス

一立方尺未滿ハ一立方尺百斤未滿ハ百斤トシテ之ヲ計算ス

第三條　官設保税倉庫ニ於テ藏置貨物ノ手入ヲ爲ス爲其ノ土地又ハ建物ヲ專用スル者ハ一坪迄毎ニ一月二圓ノ專用料ヲ納付スベシ

第四條　官設保税倉庫庫敷料ハ保税倉庫ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

第五條　一月未滿ノ敷料及專用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徴收ス

敷料ハ貨物庫出ノ際之ヲ納付シ專用料ハ一月毎ニ之ヲ前納スベシ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年大藏省令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

番號	品名	一月數料	
一	麥芽	毎立方尺	圓〇一五
二	穀類、豆類及種子	毎百斤	〇三〇
三	穀粉及澱粉類		
	一　袋入ノモノ	毎百斤	〇三〇
	二　其ノ他	毎立方尺	〇一五
四	蔬菜、果實及核子	同	〇三〇
五	茶、珈琲及コーコー	同	〇三〇
六	乳製品（人造バターヲ含ム）	同	〇三〇
七	粗糖	毎百斤	〇五〇
八	精糖	同	〇四〇
九	酒類		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	〇三〇
	二　其ノ他	同	〇四〇
一〇	毛皮及革類		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	二〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	三〇〇
一一	油、脂、蠟及其ノ製品		
	一　樽入又ハ罎入ノモノ	毎立方尺	〇四〇
	二　其ノ他	同	〇三〇
一二	藥材、化學藥、製藥及其ノ調合品		
	一　樽入又ハ罎入ノモノ	毎立方尺	〇四〇
	二　其ノ他	同	〇三〇

一三	染料及顔料		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	〇八〇
	二　樽入又ハ罎入ノモノ	同	一〇〇
	三　其ノ他	同	〇三〇
一四	塗料及塡充料	同	〇五〇
一五	絲縷及縄索	同	〇四〇
一六	布帛及布帛製品（衣類ヲ含ム）	同	〇五〇
一七	製紙用パルプ及紙類	同	〇三〇
一八	寫眞用紙	同	〇六〇
一九	紙製品及繪畫	同	〇三〇
二〇	寫眞用乾板	同	〇四〇
二一	硝子板	同	〇二〇
二二	其ノ他ノ硝子及同製品、陶磁器	同	〇三〇
二三	鐵		
	一　塊、條、竿、板及線（卑金屬ヲ鍍シタルモノ共）	毎百斤	〇四〇
	二　線索、筒及管	同	〇八〇
二四	銅	同	一〇〇
二五	錫	同	一二〇
二六	鉛及亞鉛	同	〇五〇
二七	釘、リベット、螺旋釘類	毎立方尺	〇三〇
二八	金屬製品	同	〇五〇
二九	置時計及掛時計	同	〇五〇
三〇	車輛、機械類及同部分品	同	〇五〇
三一	籐（割リタルモノ）	毎百斤	〇六〇
三二	懷中時計及同部分品	従價千分ノ五	
三三	寶石、眞珠、珊瑚、同製品、貴金屬製品、貴金屬ヲ鍍シタル細貨類	同	

●保税通路（明治四十一年十一月六日大藏省令第四十二號　改正　大正三年第二四號、四年第二三號、六年第二一號）

保税倉庫法第四條ニ依ル通路左ノ通相定メ明治四十一年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年大藏省令第二十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

横濱東京間	東横濱ヨリ汐留ニ至リ又ハ品川赤羽日暮里ヲ經テ南千住ニ至ル鐵道線路又ハ横濱港ヨリ隅田川口及小名木川ヲ經テ表龜高ニ至リ又ハ隅田川口ヲ經テ南千住ニ至ル直航水路
横濱川崎間	横濱港ヨリ川崎ニ至ル直航水路
横濱新潟間	東横濱ヨリ品川赤羽熊谷高崎直江津ヲ經又ハ原町田八王子甲府直江津ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路
横濱青森間	東横濱ヨリ品川赤羽大宮古河宇都宮仙臺ヲ經又ハ品川田端松戸水戸仙臺ヲ經又ハ品川赤羽大宮古河宇都宮秋田ヲ經テ青森ニ至ル鐵道線路
横濱名古屋間	東横濱ヨリ名古屋ニ至ル鐵道線路
名古屋武豐間	名古屋ヨリ武豐ニ至ル鐵道線路
名古屋四日市間	納屋町ヨリ堀川ヲ經テ四日市港ニ至ル直航水路
名古屋大阪間	名古屋ヨリ米原八幡京都山崎ヲ經テ大阪ニ至リ又ハ柘植奈良ヲ經テ湊町ニ至ル鐵道線路
名古屋敦賀間	名古屋ヨリ岐阜米原ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道線路
四日市神戸間	四日市ヨリ柘植草津京都ヲ經テ神戸ニ至ル鐵道線路
大阪敦賀間	大阪ヨリ山崎京都八幡米原ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道線路
大阪下關間	大阪ヨリ下關ニ至ル鐵道線路
大阪宮津間	大阪ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路又ハ大阪港ヨリ尼ケ崎ニ至ル直航水路、尼ケ崎ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路
神戸宮津間	神戸ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路又ハ神戸港ヨリ尼ケ崎ニ至ル直航水路、尼ケ崎ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路
門司長崎間	門司ヨリ長崎ニ至ル鐵道線路
門司大里間	門司港ヨリ大里ニ至ル直航水路
下關大里間	下關港ヨリ大里ニ至ル直航水路

●保税工場法（昭和二年四月一日法律第四十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保税工場法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

保税工場法

第一條　保税工場ハ外國貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ外國貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲ス工場トス貨物ノ混合ハ之ヲ貨物ノ製造ト看做ス

第二條　保税工場ニ於テハ税關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スコトヲ得

第三條　保税工場ニ於ケル作業ノ原料ニハ內國貨物ト外國貨物トヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ內國貨物ト外國貨物トヲ使用シタル貨物ハ之ヲ外國貨物トス

第四條　保税工場ニ於ケル作業及貨物ノ種類ハ税關長之ヲ定ム

第五條　保税工場ノ外國貨物ノ輸入税ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徴收ス但シ命令ヲ以テ指定シタル外國貨物ニシテ作業ノ際其ノ原料ニ付税關ノ檢査ヲ受ケタルモノノ輸入税ハ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徴收ス

前項但書ノ場合ニ於テハ徴收スベキ輸入税ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ利子ニ相當スル金額ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ徴收スル金額ハ之ヲ輸入税ト看做ス

第六條　保税工場ノ貨物藏置期間ハ移入許可ノ日ヨリ一年トス但シ税關長ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ更ニ一年ヲ超エザル期間內ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ期間ハ他ノ保税工場ヨリ移入シタル貨物ニ付テハ最初ノ移入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第七條　税關官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ保税工場ニ出入スル者ノ身邊搜索ヲ爲スコトヲ得

第八條　私設保税工場ヲ設置セントスル者ハ税關長ノ特許ヲ受クベシ

第九條　私設保税工場ノ使用規則及使用料ハ税關長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムベシ

第十條　保税倉庫法第五條ノ二、第九條ノ二、第九條ノ三、第十九條、第二十條及第二十五條乃至第三十條ノ規定ハ保税工場ニ之ヲ準用ス

第十一條　關税法第三條中收容ニ關スル規定

竝同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第十二條　第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ作業ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケズシテ保稅工場ニ貨物ヲ移入シ又ハ保稅工場ヨリ貨物ヲ移出シタル者

二　第七條ノ搜索又ハ第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　認可ヲ受ケタル使用規則ニ依ラズシテ保稅工場ヲ使用セシメ又ハ認可ヲ受ケザル使用料ヲ徵收シタル者

第十四條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ガ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキトキハ其ノ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者ヲ處罰ス但シ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者ガ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及稅關貨物取扱人ガ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テ特許ヲ受ケタル者、營業者又ハ稅關貨物取扱人ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ第十三條第二號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

假置場法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ特許セラレタル私設假置場ハ之ヲ本法ニ依リテ特許セラレタル私設保稅工場ト看做シ舊法ニ依リテ認可セラレタル貨物藏置規則及庫敷料ハ之ヲ本法ニ依リテ認可セラレタル使用規則及使用料ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル處分及手續ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リテ假置場ニ藏置シタル貨物ニシテ引續キ保稅工場ニ在ル貨物ノ藏置期間ハ最初ノ移入免許ノ日ヨリ一年トス但シ之ヨリ長キ期間ヲ認メラレタル貨物ニ付テハ其ノ期間ニ依ル

前項ノ貨物ノ輸入稅ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

他ノ法令中稅關假置場又ハ假置場トアルハ保稅工場トス

（昭和二年勅令第二百六十四號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●保稅工場法施行規則

（昭和二年八月十六日大藏省令第二十五號）

保稅工場法施行規則左ノ通定ム

保稅工場法施行規則

第一條　保稅工場ニ貨物ヲ移入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第一號樣式、內國貨物ニ在リテハ第二號樣式ニ依ル移入申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第二條　外國貨物ト內國貨物及作業ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第三號樣式ニ依ル作業申告書ヲ稅關ニ提出シ承認ヲ受クベシ

保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ノ適用ヲ受クベキ貨物ノ原料ニ付テハ作業ノ際稅關ノ檢査ヲ受クベシ

第四條　作業ヲ終リタルトキハ加工又ハ製造ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四號樣式ニ依ル加工製造濟申告書ヲ、手入ヲ爲シタル場合ニ於テハ第五號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クベシ

第五條　內國貨物ノミヲ以テ作業ヲ爲ス場合ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前二條ノ手續ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　內國貨物ノミヲ以テスル作業ハ外國貨物ノミヲ以テスル作業又ハ外國貨物ト內國貨物トヲ以テスル作業ト區別シテ之ヲ爲スベシ

第七條　保稅工場ヨリ貨物ヲ移出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ他ノ保稅工場ヘノ移入若ハ保稅倉庫ニ庫入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第六號樣式ニ依ル移出申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第八條　保稅工場法第五條第一項但書ノ適用ヲ受クベキ貨物ノ輸入申告書ニハ其ノ貨物ニ使用シタル原料ノ品名、箇數、數量、價格、作業承認年月日及其ノ承認番號ヲ附記スベシ

第九條　保稅工場法第五條第二項ノ規定ニ依リ徵收スベキ利子ニ相當スル金額ハ原料ニ付檢査ヲ受ケタル日ヨリ起算シ輸入申告ノ日ニ至ル迄輸入稅額ニ對スル年六分ノ割合ヲ以テ計算シタル金額トシ輸入稅ニ加算シテ之ヲ徵收ス

第十條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第十一條　保稅工場法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期間延長申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第十二條　官設保稅工場ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スベシ

一　重量ニ依リ輸入稅ヲ賦課セラルベキ貨物　五十斤迄每ニ一月二錢

二　前號以外ノ貨物　一立方尺迄每ニ一月二錢

三　土地又ハ建物ヲ專用スルトキ　一坪迄每ニ一月二圓

前項第一號及第二號ノ使用料ハ徵收上便宜ト認ムルトキハ第二號ノ定率ヲ第一號ノ貨物ニ、第一號ノ定率ヲ第二號ノ貨物ニ適用スルコトヲ得

第一項第三號ノ使用料ハ保稅工場ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

第十三條　一月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

第十四條　第十二條第一項第一號及第二號ノ使用料ハ貨物移出ノ際之ヲ納付シ同項第三號ノ使用料ハ一月每ニ之ヲ前納スベシ

第十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、建設物ノ構造、棟數、坪數、作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類竝特許年限ヲ記シタル書面ニ地區、工場及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄稅關長ニ出願スベシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スベシ

他人ヲシテ使用セシムベキ私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ使用規則及使用料ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第十六條　保稅工場ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲サントスル者ハ其ノ作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ヲ以テ稅關長ニ出願スベシ

第十七條　私設保稅工場ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ二十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ二十年以內トス

第十八條　私設保稅工場ノ地區ノ面積若ハ建設物ヲ增減シ又ハ建設物ヲ改築シ若ハ其ノ構造ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ建設物ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ建設物ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ其ノ增減ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際稅關ニ屆出デ其ノ建設物ノ檢査ヲ受クベシ

第十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ヅベシ

第二十條　私設保稅工場設置ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼ガントスル者ハ第十五條ノ規定ニ準據シ稅關長ニ出願スベシ

第二十一條　私設保稅工場ノ作業ノ種類又ハ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

第二十二條　私設保稅工場又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

第二十三條　私設保稅工場ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ貨物ニ對スル輸入稅ヲ納付スベシ

第二十四條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保全上必要ナル設備ヲ爲スベシ

第二十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ

第二十六條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第二十七條　私設保稅工場ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クベシ

第二十八條　私設保稅工場ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クベシ

第二十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第三十條　官設保稅工場內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スベキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十一條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保稅工場ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ

第三十二條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　保稅工場ニ移入シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及移入ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

三　加工又ハ製造ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

四　加工又ハ製造シタル貨物竝副產物ノ品名、數量及檢査濟ノ年月日

五　保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ課稅セラレタル貨物ニ在リテハ其ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

六　保稅工場ヨリ移出シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、移出ノ目的及移出ノ年月日

第三十三條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スベシ

第三十四條　保稅工場法第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十七條ノ公告ハ當該稅關ニ揭示スル外三日以上官報ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十五條　官設保稅工場ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スベキモノハ貨物移出ノ際之ヲ納付スベシ

第三十六條　稅關官吏ハ貨物ノ加工又ハ製造ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年大藏省令第十八號ハ之ヲ廢止ス

外國貨物移入許可書

許可番號

移入許可年月日

積載船名	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	立方尺又ハ斤

申告者氏名

第一號樣式

外國貨物移入申告書

申告番號

積載船名

船舶國籍

船舶入港年月日

受付年月日

船荷證券番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	立方尺又ハ斤	移入ノ目的	藏置場所

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

第二號樣式

内國貨物移入申告書

申告番號

受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	立方尺又ハ斤量	移入ノ目的	藏置場所

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

内國貨物移入許可書

許可番號

移入許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	立方尺又ハ斤量

申告者氏名

第三號樣式

保税工場貨物作業申告書

申告番號

受付年月日

作業ヲ爲スベキ貨物								作業ニ使用スベキ貨物						
移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	作業ノ種類	使用ノ目的	移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	使用ノ目的
			外國貨物	内國貨物							外國貨物	内國貨物		

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

保税工場貨物作業承認書

承認番號

作業承認年月日

作業ヲ爲スベキ貨物						作業ニ使用スベキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	作業ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	内國貨物					外國貨物	内國貨物	

申告者氏名

第四號樣式

保税工場貨物加工製造済申告書

申告番號

受付年月日

加工製造品名	數量	價格	副產物ノ品名	數量	價格	作業ニ使用シタル貨物				
						作業申告番號	外國貨物品名	内國貨物品名	數量	價格

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

第五號樣式

保税工場貨物手入済申告書

申告番號

受付年月日

手入ヲ爲シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲ニ生ジタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ニ使用シタル貨物				
						作業申告番號	外國貨物品名	内國貨物品名	數量	價格

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

第六號樣式

移出申告書

申告番號

受付年月日

移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	移出ノ目的
			外國貨物	内國貨物			

申告者氏名捺印　住所

申告年月日

備考

移出許可書

許可番號

移出許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	内國貨物	

申告者氏名

第七號樣式

見本取出許可書

保稅工場名
移入年月日
取出許可年月日
許可番號

記號及番號	品名	數量

申請者氏名

見本取出申請書

保稅工場名
受付年月日
申請番號

移入年月日	記號及番號	品名	數量

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

第八號樣式

藏置期間延長許可書

延長許可年月日
許可番號

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間
		外國貨物	內國貨物			

申請者氏名

藏置期間延長申請書

移入許可年月日
許可番號
受付年月日
申請番號

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間	事由
		外國貨物	內國貨物				

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

備考

●保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルベキ外國貨物

（昭和二年十二月十日大藏省令第三十九號）

保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルベキ外國貨物ハ左ノ各號ニ揭グルモノトス

一　亞鉛鍍鐵板
二　鐵ノ釘又ハ線
三　銅又ハ眞鍮ノ釘又ハ線
四　琺瑯鐵器
五　葉鐵製罐（罐詰用ノモノ）

前項ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルベキ外國貨物ヲ輸入スル場合ニ於テハ其ノ輸入スベキ貨物ノ製造ニ因リ生ジタル副産物ノ輸入ニ付テモ前項ノ例ニ依リ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設保稅倉庫營業ノ特許等ニ關シ特許手數料ヲ徵收スルノ件

（明治三十七年四月十一日勅令第百九號）
改正　明治四五年第一五二號

朕私設保稅倉庫營業ノ特許等ニ關シ特許手數料ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

第一條　私設保稅倉庫營業若ハ假置場私設ノ特許又ハ常時使用ノ爲輸出入貨物ノ上屋若ハ陸揚船積ノ場所ヲ設クルノ特許ヲ受ケタル者ハ每月特許手數料ヲ納付スヘシ

第二條　特許手數料ノ額ハ主務大臣之ヲ定ム

特許手數料ハ每月一箇月分ヲ特許ノ日附ニ應當スル日ニ於テ納付スヘシ但シ其ノ最初ノ月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ特許手數料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二箇月分以上ノ特許手數料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治三十七年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第一條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ特許ヲ受ケタル者ト看做ス

（大正九年七月八日大藏省令第二十七號）

明治三十七年勅令第百九號ニ依ル特許手數料ノ金額左ノ通改正シ大正九年八月一日ヨリ施行ス

特許手數料

稅關官吏ノ派出ヲ要スル人員ニ應シ每一人每一月金七十圓

●稅關貨物取扱人法

（明治三十四年四月十三日法律第二十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル稅關貨物取扱人法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

稅關貨物取扱人法

第一條　本法ニ於テ稅關貨物取扱人ト稱スルハ貨主ノ爲ニ自己又ハ其ノ貨主ノ名ヲ以テ稅關ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　稅關貨物取扱人タラムト欲スル者ハ其ノ業務ニ從事セムトスル地ヲ管轄スル稅關長ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受クルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ免許料ヲ納ムヘシ

第三條　左ニ揭クル者ハ稅關貨物取扱人タルコトヲ得ス

第一　剝奪公權者及停止公權者
第二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分産若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
第三　國稅滯納處分ヲ受ケ滿一箇年ヲ經過セサル者
第四　重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及關稅法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ違反シ處罰ヲ受ケ滿三箇年ヲ經過セサル者

第四條　稅關貨物取扱人ハ其ノ業務ニ關シテ所轄稅關長ノ監督ヲ受ク

第五條　稅關貨物取扱人ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證トシテ金錢又ハ有價證券ヲ提供スルコトヲ要ス但シ身元保證金額ハ五千圓以上トス

稅關貨物取扱人ハ前項ノ身元保證物ヲ提供シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第六條　稅關貨物取扱人稅關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルトキハ稅關ハ身元保證物ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

稅關貨物取扱人ノ業務上ノ過失ニ因リ損害ヲ受ケタル貨主ハ其ノ債權ニ付他ノ債權者ニ先チ身元保證物ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第七條　稅關貨物取扱人ハ貨物ノ受取、引渡、保管及運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ貨物ノ取扱料ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條　稅關貨物取扱人ハ取扱貨物ニ關シ受取ルヘキ取扱料、稅金其ノ他委託者ノ爲ニ爲シタル立替ニ付テノミ其ノ貨物ヲ留置スルコトヲ得

第九條　稅關貨物取扱人ハ取扱料ノ最高額ヲ定メ所轄稅關長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十條　稅關貨物取扱人其ノ業務ニ關スル法令ニ違反シ又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

但シ營業停止ノ期間ハ三箇月以內トス

第十一條　前條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ處分ニ因リテ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十二條　免許ヲ受ケスシテ稅關貨物取扱人ノ業務ヲ行ヒタル者又ハ第五條第二項ニ違反シタル者又ハ第九條ノ認可ヲ受ケス若ハ認可ニ違反シテ取扱料ヲ取得シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタル行爲ハ稅關貨物取扱人ノ行爲ト看做ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●稅關貨物取扱人法施行細則

（明治三十四年五月二十七日大藏省令第八號）
改正　大正九年第五〇號

稅關貨物取扱人法施行細則

第一條　稅關貨物取扱人ノ業務ニ從事セムトスル者ハ營業所ヲ定メ管轄區域每ニ所轄稅關長ニ出願スヘシ但會社又ハ外國會社ノ支店ニ在テハ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

第二條　稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘシ

第三條　免許料ハ貳拾圓トス收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四條　稅關貨物取扱人ハ免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以內ニ身元保證トシテ五千圓又ハ之ニ相當スル國債ヲ提供スヘシ

第五條　稅關貨物取扱人法第六條ノ適用ニヨリ身元保證金額減少シタルトキハ稅關長ハ本人ニ告知シ一箇月以內ニ其ノ不足額ニ相當スル金錢又ハ國債ヲ提供セシムヘシ

第六條　稅關貨物取扱人カ身元保證ヲ提供スルトキハ金錢又ハ無記名國債證券ノ提供ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ登錄國債ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領書ヲ提出スヘシ

第七條　稅關貨物取扱人支店又ハ代理店ヲ設クルトキハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ稅關又ハ稅關支署ニ屆出ツヘシ

營業所又ハ代理店ヲ閉鎖シ若ハ移轉シ又ハ

擔當人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條　稅關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ屆出ツヘシ其ノ變更アルトキ亦同シ

附　則

本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年大藏省令第五十號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス尙其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ稅關長ハ第五條ノ規定ニ準シ增擔保ヲ提供セシムヘシ

●關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律

（大正九年八月七日法律第五十三號）
改正　大正一〇年第四六號、一五年第三七號
昭和四年第三五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　削除

第二條　朝鮮ニ輸入スル左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免除ス

一　國、道、府、面其ノ他ノ公共團體又ハ朝鮮總督ノ指定スル產業ニ關スル法人ノ輸入スル播種用ノ種子

二　朝鮮ニ於ケル金、銀、銅ノ掘採、採取又ハ製錬ノ事業ニ必要ナル器具、機械、爆發藥、溶解劑トシテ使用スル鹽基性鑛物又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲鑛業者又ハ製錬業者ノ輸入スルモノ但シ稅關カ相當ト認メタルモノニ限ル

三　朝鮮ニ於ケル鐵、石炭ノ掘採ノ事業ニ必要ナル器具、機械、爆發藥又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲鑛業者ノ輸入スルモノ但シ稅關カ相當ト認メタルモノニ限ル

四　旅客又ハ貨物ヲ運搬スル爲國境ヲ出入スル車輛其ノ他ノ運搬具及其ノ備品、附屬品

五　前號ノ車輛內ニ於テ消費スル食料品、燃料其ノ他ノ消耗品但シ稅關カ相當ト認メタルモノニ限ル

六　朝鮮ニ於テ從來關稅免除ノ特許ヲ受ケタル者ノ輸入スル免稅品

第三條　一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製銑能力及一年三萬五千噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ朝鮮ニ輸入スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

前項ノ設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者朝鮮總督ノ指定シタル副生物製造ノ設備ヲ爲ス爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮ニ輸入スルトキ亦前項ニ同シ

第四條　朝鮮總督ハ凶作其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ期間ヲ指定シ朝鮮ニ輸入スル米、籾、大麥、小麥、小麥粉、粟、高粱、大豆、小豆、玉蜀黍及稗ノ輸入稅ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

第五條　平安北道新義州停車場ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ於テハ朝鮮總督ノ指定スル地點ニ由ルノ外貨物ノ輸出又ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入、積戻又ハ運送ニ關スル手續ハ朝鮮總督ノ指定スル場合ヲ除クノ外最初ノ到著地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第六條　左ニ揭クル物品ハ平安北道義州郡水口鎭ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ於テハ前條ノ規定ニ拘ラス之カ輸出又ハ輸入ヲ爲スコトヲ得但シ朝鮮總督ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　鐵道旅客以外ノ旅客ノ用品及職業上必要ナル器具

二　朝鮮總督ノ定ムル陸接國境隣接地域內ノ住民カ其ノ地域內ニ於テ收穫又ハ生產シタル物品ニシテ自ラ輸出又ハ輸入スルモノ

三　前號ノ住民カ前號ノ地域內ニ於テ爲ス作業ニ必要ナル物品ニシテ自ラ輸出又ハ輸入スルモノ

第七條　前條ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入スル物品ニ付テハ關稅法ヲ適用セス

第八條　朝鮮ニ於テハ關稅法又ハ關稅定率法中大藏大臣トアルハ朝鮮總督、市町村役場トアルハ府廳又ハ面事務所、市町村吏員トアルハ府ノ官吏若ハ吏員又ハ面ノ吏員、國稅徵收法トアルハ國稅徵收令トス

第九條　從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場所及開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

第十條　本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　本法施行前朝鮮ニ於ケル保稅倉庫ニ庫入シタル外國貨物ニハ仍從前ノ輸入稅ヲ課ス

第十二條　本法施行前朝鮮關稅令、朝鮮保稅倉庫令又ハ朝鮮陸接國境關稅令ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ關稅法、保稅倉庫法又ハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本法施行前朝鮮關稅定率令第三條第十六號、第四條、第四條ノ二及第八條ノ規定ニ依リ輸入稅又ハ移入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十年法律第四十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十年勅令第二百二十九號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年法律第三十七號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年勅令第六十號ヲ以テ第三條ノ改正規定ハ同年四月十日ヨリ施行）

附　則（昭和四年法律第三十五號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ輸入スル鹽ニハ昭和五年三月三十一日迄仍從前ノ輸入稅ヲ課ス

朝鮮ニ輸入スル木材ニシテ別表ニ揭グルモノニハ本法施行ノ日ヨリ昭和五年三月三十一日迄ハ別表ノ輸入稅表甲號ニ依リ、昭和五年四月一日ヨリ昭和七年三月三十一日迄ハ別表ノ輸入稅表乙號ニ依リ輸入稅ヲ課ス

（別表）

輸入稅表甲號

品名	單位	稅率
木材（關稅定率法別表輸入稅表第六一二號一ノ己ノ四ノイニ該當スルモノ）	每立方メートル	〇・四〇

輸入稅表乙號

品名	單位	稅率
木材（關稅定率法別表輸入稅表第六一二號一ノ己ノ四ノイニ該當スルモノ）	每立方メートル	〇・七五

備考　從量稅率ノ單位ハ圓トス

●關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則

（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百十五號）
改正　大正一〇年第六號、第八七號、一一年第三〇號、第四五號、第一五五號、一四年第一〇八號
昭和三年第一四號

關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則左ノ通定ム

關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則

第一章　關稅ノ賦課徵收及擔保

第一條　關稅法第一條但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケムトスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域內ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳、公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、個數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第二條ノ二　製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ規定ニ從フ

第三條　關稅ヲ徵收セムトスルトキハ納付スヘキ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

前項ノ規定ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ之ヲ適用セス

第四條　納稅人前條ノ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ニ依リ日本銀行ニ納付スヘシ

第五條　旅客ノ携帶品關稅法第三十一條但書ニ揭ケタル貨物等ニ付貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條　關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ但シ萬國郵便聯合ノ約定ニ依リ差出人カ關稅ヲ負擔スル郵便物ニ付遞信官署ニ於テ關稅ヲ立換ヘ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ郵便局ノ交付スル納付書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條　關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハムトスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條　關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢又ハ國債ニ限ル

第十一條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十二條　削除

第十三條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ爲スヘシ

第十四條　前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、國債ノ種別、證券又ハ登錄ノ記號、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條　公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章　船舶ニ關スル手續

第十七條　船舶ノ入港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、個數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第十九條　艙口申告書ニハ艙口ノ所在、個數、船用品目錄ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條　外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目錄又ハ運送目錄提出前ニ貨物積卸ノ認許ヲ得ムトスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　船舶ノ出港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ之ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條　外國貨物ヲ積載セル船舶日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類、個數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ第七十七條ノ特許ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ左ノ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ船卸ヲ爲ストキ又ハ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

日出ヨリ日沒迄	二時間每ニ	三圓
日沒ヨリ午後十二時迄	同	五圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	十圓

第二十五條　警察官吏關稅法第十八條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關又ハ稅關監視署ニ急報スヘシ

第二十六條　外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サムトスルトキハ其ノ記號、番號、品名、個數、數量及陸揚ノ事由ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニ在リテハ稅關官吏ニ、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十七條　關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　警察官吏前二條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關又ハ稅關監視署ニ通報スヘシ

第二十九條　沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量、原價及積入地ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章　貨物ニ關スル手續

第一節　總則

第三十條　日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ若ハ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ヲ爲ス爲特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ第七十七條ノ特許ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ左ノ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ關稅法第十七條ノ特許ヲ受ケタル者其ノ船卸シタル貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ船積ノ爲貨物ヲ保稅地域ヨリ搬出スルニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

日出ヨリ日沒迄	二時間每ニ	三圓
日沒ヨリ午後十二時迄	同	五圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	十圓

第三十二條　稅關ノ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲ爲ス爲特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類、個數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條　稅關ノ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケムトスル者アルトキハ稅

關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關税法第三十一條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料トシテ檢査ニ要スル時間一時間迄每ニ三圓ヲ納付スヘシ檢査ノ爲旅費ヲ要スルトキハ更ニ其ノ實費ヲ加フ

第二節　貨物ノ輸出及積戾手續

第三十四條　輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帶品及平安北道新義州停車場ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ由ル貨物ニシテ鐵道ニ依ラサルモノノ輸出申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

關税定率法第七條第十七號ニ依リ關税ノ免除ヲ得ムトスル外國產貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出地税關ニ申告スヘシ

第三十五條　關税定率法第八條ニ依ル關税免除ノ貨物ヲ法定期間內ニ輸出セムトスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書ヲ税關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條　第三十四條第一項ノ規定ハ積戾申告ニ之ヲ準用ス

第三節　貨物輸入ノ手續

第三十七條　輸入申告書ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載スヘシ

第三十八條　輸入申告書ニ添附スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス

第三十九條　旅客携帶品及平安北道新義州停車場ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ由ル貨物ニシテ鐵道ニ依ラサルモノノ輸入申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十條　關税定率法第七條第十七號、第十八號及第二十二號ニ該當スル貨物ヲ輸入セムトスル者關税ノ免除ヲ得ムトスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ輸入貨物內國產ニシテ税關官吏ニ於テ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書ヲ提出スル能ハサル理由アリト認ムルモノニ限リ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十一條　關税定率法第八條第二號乃至第八號ニ揭ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出地ヲ記載スヘシ輸出地ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入地税關ニ申告スヘシ

第四十二條　關税法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ税關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ムトスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條　郵便局ハ輸入郵便物ノ到著シタルトキハ輸入郵便目錄ヲ作リ當該税關ニ通知スヘシ

税關官吏郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四十四條　郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ其ノ理由ヲ記載シ税關ニ通知スヘシ

第四節　貨物ノ運送

第四十五條　海路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ運送先、內外國貨物ノ區別、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

陸路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ貨物ノ運送先、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

第四十六條　關税法第三十九條ノ五ニ揭ケタル外國貨物運送ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ運送先、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第四十七條　關税法第三十九條ノ五ニ依リ外國貨物ノ運送ヲ認許シタルトキハ其ノ認許證ニ前條ノ申請書ニ記載シタル事項ノ外指定通路ヲ記載スヘシ

警察官吏前項ノ認許ヲ爲シタルトキハ認許證ノ寫ヲ其ノ地所轄ノ税關ニ送付スヘシ

第四十八條　運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ運送免狀ヲ税關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運送貨物免狀ト符合スルトキハ税關ハ免狀ニ運送濟ノ旨ヲ記入シテ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第五節　貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十九條　關税法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ

第五十條　關税法第五十條第二項ニ依リ貨物ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項及關税法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十一條　關税法第五十條第二項ニ依リ貨主ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第五十二條　收容貨物ノ敷料ハ五百斤又ハ十立方尺迄每ニ一日三錢トシ收容ノ日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ收容ノ日ニ解除スル場合ヲ除クノ外之ヲ徵收セス

前項ノ敷料ハ官設保税倉庫ノ敷料又ハ税關構內若ハ官設假置場ノ使用料ノ外別ニ之ヲ徵收ス

第一項ノ敷料ハ重量ニ依リ關税ヲ賦課セラルヘキ貨物ニ在リテハ重量ニ依リ其ノ他ニ在リテハ容積ニ依リ之ヲ徵收ス但シ徵收上便宜ト認ムルトキハ重量ニ依ルヘキモノヲ容積ニ依リ容積ニ依ルヘキモノヲ重量ニ依リ徵收スルコトヲ得

第四章　異議

第五十三條　關税ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十四條　異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十五條　判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十七條　異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十八條　關税法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメムトスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十九條　異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ税關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ税關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第六十條　税關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第六十一條　税關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十二條　評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作リ之ヲ税關ニ提出スヘシ

第六十三條　評價終リタルトキハ税關長ハ課税價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章　犯則事件ノ調査及處分

第六十四條　差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十五條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十六條　差押物件ヲ所持者、府廳又ハ面事務所ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ府廳又ハ面事務所ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十七條　關税法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十八條　臨檢、捜索及訊問調書ニハ臨檢、捜索又ハ訊問ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十九條　税關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ税關長ニ報告スヘシ

第七十條　關税法第九十四條ニ依ル處分ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關税法第九十四條ニ揭ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第七十一條　第五十五條及第五十六條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十二條　沒收ニ該當スル物品ニシテ府廳又ハ面事務所ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十三條　税關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アリタルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者、府廳又ハ面事務所ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十四條　犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第七十五條　關税法第八十七條ノ税關官吏タル資格ヲ證明スル證票ハ別記樣式ニ依ル

第六章　税關ノ執務時間及臨時開廳

第七十六條　税關ノ執務時間ハ休日ヲ除クノ外左ノ如シ但シ土曜日ハ午後三時迄トス

五月一日ヨリ十月三十一日迄　午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

十一月一日ヨリ四月三十日迄　午前九時三十分ヨリ午後四時ニ至ル

第七十七條　税關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハムトスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ税關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ左ノ特許手數料ヲ納付スヘシ

日出ヨリ日沒迄	一時間每ニ	七圓
日沒ヨリ午後十二時迄	同	十五圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	二十五圓

税關支署及税關出張所ニ在リテハ税關長ハ其ノ地ノ狀況ニ依リ前項ノ特許手數料ヲ半額迄ニ低減スルコトヲ得

第七章　雜則

第七十八條　關税法第九十八條ノ特許ヲ得ムトスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚又ハ船積ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ税關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ特許手數料トシテ一回ニ付二十圓ヲ税關ニ納付スヘシ

開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フル場合ニ於テ土地ノ狀況及船舶ノ種類ニ依リ必要アルトキハ税關長ハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ前項ノ手數料ヲ減スルコトヲ得

第七十九條　税關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　證明	每一件	二圓
二　輸出入貨物日計表		
税關	每一月	十圓乃至三十圓
税關支署及税關出張所	每一月	五圓乃至二十圓
三　其ノ他船舶貨物ニ關スル計表	每一件	五十錢乃至一圓

第八十條　貨物藏置ノ爲税關構內ヲ使用スル者ハ貨物ヲ搬出スルトキ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ輸出スヘキ貨物、關税定率法第七條第一號及第二號ノ物品竝旅客ノ携帶セル旅具ハ此ノ限ニ在ラス

一　貨物搬入ノ日ヨリ五日迄			無料
二　貨物搬入ノ日ヨリ六日以上十五日迄	五百斤又ハ十立方尺迄每ニ	一日	一錢
三　貨物搬入ノ日ヨリ十六日以後	五百斤又ハ十立方尺迄每ニ	一日	二錢

前項ノ日數ノ計算ニ付テハ搬入ノ日ハ之ヲ算入シ搬出ノ日ハ之ヲ算入セス

第五十二條第三項ノ規定ハ第一項ノ使用料ノ徵收ニ付之ヲ準用ス

第八十條ノ二　貨物藏置貿易設備等ノ爲必要ナル税關構內ノ土地又ハ建物ハ公用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ專用ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ税關構內ノ土地又ハ建物ヲ專用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

土地	一坪迄每ニ	一月	五十錢
建物	同	同	一圓

土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ必要ト認ムルトキハ前項ノ使用料ヲ低減スルコトアルヘシ

第八十一條　手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ヲ納付セムトスル者ハ納付書又ハ申告書ニ貼附シテ之ヲ提出スヘシ

第八十二條　税關官吏及收税官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關税ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十三條　關税法若ハ本令ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十四條　申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第八十五條　關税法若ハ本令ニ依ル公告ハ所轄税關ニ揭示スルノ外朝鮮總督府官報又ハ税關所在地ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第八十六條　關税法又ハ本令ニ依リ税關又ハ税關長ニ提出スヘキ文書ハ税關支署ノ管轄內ニ在リテハ税關支署、税關出張所所在地ニ在リテハ税關出張所ニ提出スヘシ

前項ノ外税關ニ關スル規定ハ税關支署及税關出張所ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前收容シタル貨物ノ敷料ニ付テハ仍舊令ニ依ル

附　則（大正十年朝鮮總督府令第六號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

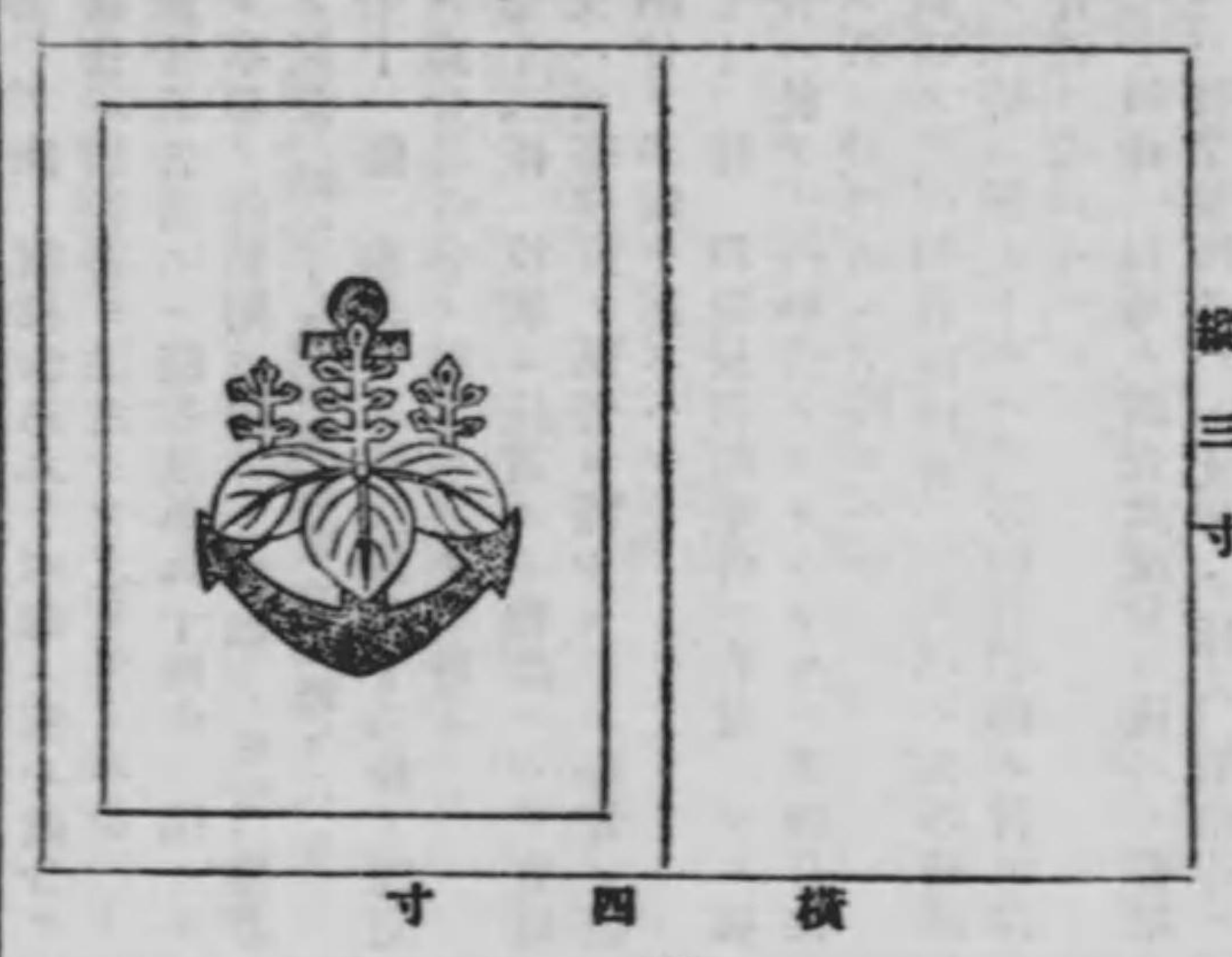
本令施行ノ際現ニ關税ノ擔保トシテ國債以外ノ有價證券ヲ提供スル者ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ引續キ其ノ有價證券ヲ以テ擔保ト爲スコトヲ得

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ税關ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

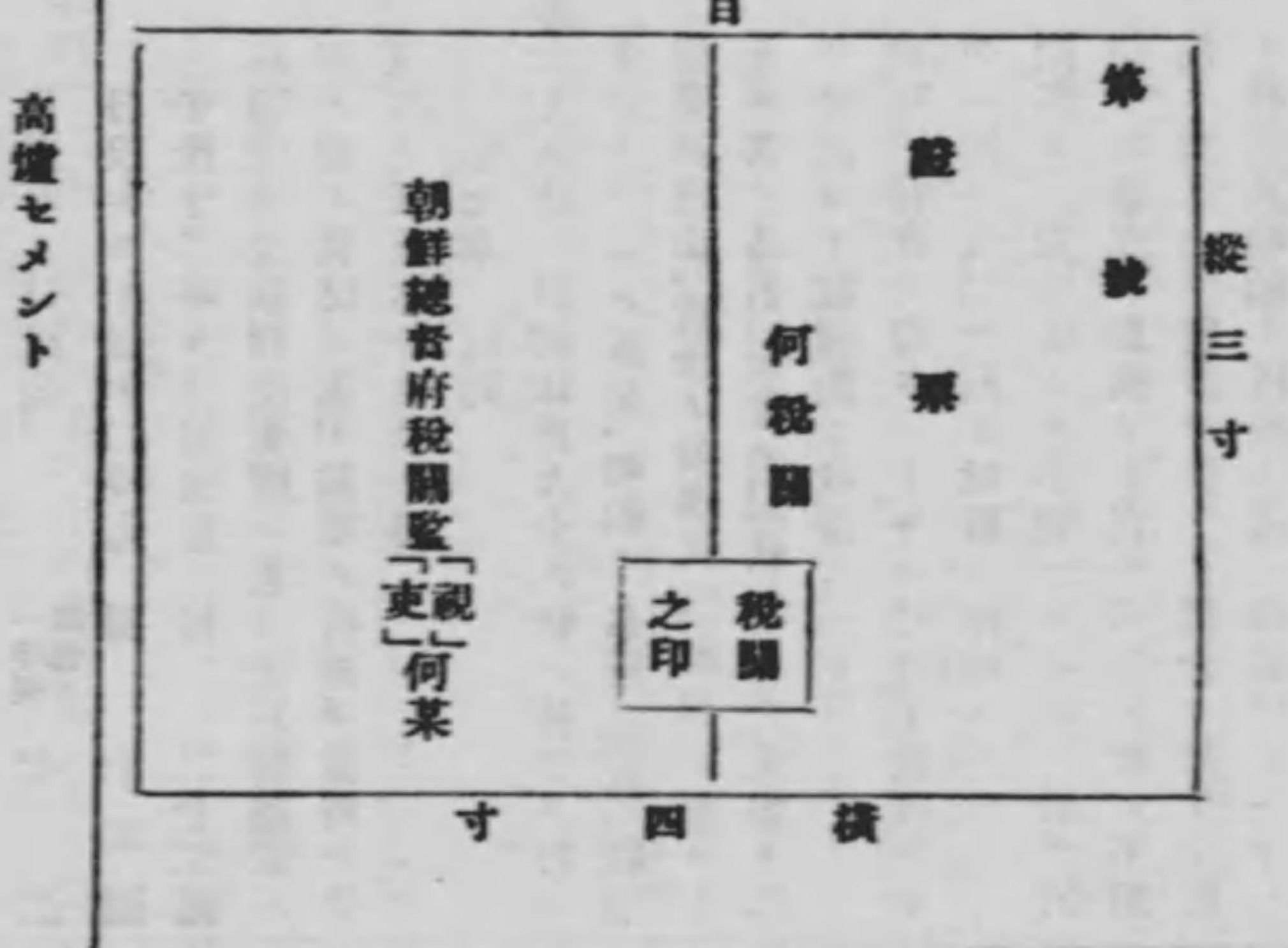
前二項ノ規定ハ移入税又ハ出港税ノ擔保ニ付之ヲ準用ス

（別記樣式）

表面　地質黑皮、桐章及輪廓ハ金色、錨ハ銀色　縱三寸



内面　地質西洋紙黑色印刷　縱三寸


第　號

證票

何税關

税關之印

朝鮮總督府税關監「視」「吏」何某

●製鐵事業用品ノ輸入税免除ニ關スル件（大正十五年四月二十四日朝鮮總督府令第三十五號）

製鐵事業用品ノ輸入税免除ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正九年法律第五十三號第三條第一項ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ハ銑鐵、鋼塊、壓延鋼材（軌條及繼目板ヲ含ム）又ハ鍛鋼製品若ハ鑄鋼製品ノ素材ノ製造ニ關スル事業トシ製銑ニ在リテハ一ノ爐ニ付一日ノ製銑量百噸以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノ、製鋼ニ在リテハ一ノ爐ニ付一回ノ製鋼量平爐ニ在リテハ二十五噸以上、轉爐ニ在リテハ五噸以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノトス

第二條　大正九年法律第五十三號第三條第二項ノ副生物ノ種類左ノ如シ

鑛滓綿
鑛滓煉瓦
鑛滓瓦
高爐セメント
タール
無水タール
輕油
中油
重油
ピッチ
アムモニア
アムモニア水
硫酸アムモニア
粗製ナフサリン
アンスラシン
ベンゾール
トルオール
キシロール
ソルベントナフサ

第三條　大正九年法律第五十三號第三條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ物品ノ種類左ノ如シ

一　碎鑛機、篩鑛選別機、磁選機竝燒結機、原料壓搾機及其ノ附屬裝置
二　製銑爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐、製鋼爐、瓦斯發生爐、灼熱爐又ハ加熱爐ノ構成金物及其ノ附屬機械（但シ送風機ハ毎分二百立方米以上ノ送風能力ヲ有スルモノニ限ル）
三　製銑爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐及製鋼爐ノ耐火材料
四　鑄銑機
五　乾風裝置及其ノ附屬機械
六　瓦斯清淨裝置（瓦斯除塵機ヲ含ム）及其ノ附屬機械
七　洗炭裝置及其ノ附屬機械
八　骸炭爐副生物捕集裝置及其ノ附屬機械
九　壓延用ロール機（引拔機ヲ含ム）及其ノ附屬裝置
十　壓延工場用ノ輸送テーブル、鋸斷機、剪斷機、卷束機及機械的冷却裝置
十一　精整用ノ錐孔機、穿孔機、矯正機、鋸斷機、剪斷機及鋼管螺絲切機
十二　ロール仕上機
十三　鋼材鍛錬用ノ機鎚、水壓機及其ノ附屬裝置
十四　五百馬力以上ノ瓦斯機關、瓦斯發電機、排汽發電機及其ノ附屬裝置
十五　壓延用ロール機（引拔機ヲ含ム）ノ附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置
十六　原料又ハ製品輸送用ノ起重機及連續的輸送裝置
十七　材料强弱試驗機
十八　前各號ニ掲クル機械ノ部分品（但シ壓延用ロールハ徑七百五十粍以上ノチルドロールニ限ル）竝其ノ機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置
十九　徑五百四十粍以上ノ電氣爐用炭素電極

第四條　大正九年法律第五十三號第三條ノ規定ニ依リ輸入ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ輸入地ノ税關ヲ經由シテ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　品名、性質及能力
二　箇數、數量及價額
三　生産地及仕入地
四　物品ノ用途及之ヲ使用セムトスル工場其ノ他ノ設備ノ説明
五　輸入ヲ必要トスル事由
六　輸入地及豫定輸入時期

第五條　輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告ヲ爲ス際前條ノ輸入認可書ヲ税關ニ提出スヘシ

第六條　第四條ノ輸入認可申請及認可ヲ受ケタル物品ノ輸入申告ハ製鐵業者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第七條　輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入税ヲ追徴ス但シ其ノ物品ヲ大正九年法律第五十三號第三條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ旨ヲ税關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル用途變更認可申請書ヲ輸入地ノ税關ヲ經由シテ朝鮮總督ニ提出スヘシ但シ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ他ノ製鐵業者ニ讓渡スルモノナル場合ニ於テハ讓受人ト連署ヲ以テスルコトヲ要ス

一　用途ヲ變更セムトスル物品ノ品名、數量、用途及之ヲ使用セムトスル工場其ノ他ノ設備ノ説明
二　用途ノ變更ヲ必要トスル事由

第九條　輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ輸入地税關ヲ經由シテ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

第十條　税關官吏必要アリト認ムルトキハ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年朝鮮總督府令第百二十九號ハ之ヲ廢止ス

●陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル件（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十一號　改正　大正一〇年第九三號、一二年第五二號　昭和二年第七八號、四年第四號）

陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正九年法律第五十三號第五條ニ依リ貨物ノ輸入又ハ輸出ヲ爲スコトヲ得ル地點ハ左ノ地域ニ於テ税關長ノ指定スル地點トス

平安北道新義州府
平安北道義州郡州内面西湖洞
平安北道義州郡州内面九龍浦
平安北道義州郡水鎭面龍雲洞
平安北道義州郡水鎭面水口鎭
平安北道義州郡加山面玉江浦
平安北道義州郡廣坪面清城鎭
平安北道義州郡昌城面甲巖浦
平安北道昌城郡昌城面廟洞
平安北道昌城郡昌城面私倉浦
平安北道昌城郡昌州面大吉里
平安北道碧潼郡松西面六西洞
平安北道碧潼郡松西面鳳谷里
平安北道碧潼郡碧潼面三朴里
平安北道碧潼郡大平面陽平洞
平安北道楚山郡城面内淵洞
平安北道楚山郡楚山面雲海川洞
平安北道楚山郡楚山面新島場
平安北道渭原郡密山面舊邑洞
平安北道渭原郡密山面江界江口
平安北道江界郡高山面高山鎭
平安北道江界郡高山面美他洞
平安北道江界郡文玉面滿浦鎭
平安北道江界郡文玉面玉洞
平安北道慈城郡三豐面雲峯洞
平安北道慈城郡三興面照牙洞
平安北道慈城郡慈下面慈城江口
平安北道慈城郡長土面長城洞
平安北道慈城郡閭延面中江鎭
平安北道厚昌郡厚昌面富興洞
平安北道厚昌郡厚昌面金昌洞
平安北道厚昌郡東新面衞三洞
平安北道厚昌郡東興面厚州古邑
咸鏡南道三水郡江鎭面新乫坡鎭
咸鏡南道三水郡江鎭面羅暖堡
咸鏡南道三水郡好仁面仁遮堡
咸鏡南道甲山郡普惠面惠山鎭
咸鏡北道茂山郡三長面三上洞
咸鏡北道茂山郡邑面茂山
咸鏡北道茂山郡永北面梁永鎭
咸鏡北道茂山郡永北面西江村
咸鏡北道茂山郡豐溪面下社地
咸鏡北道會寧郡雲頭面上水湖
咸鏡北道會寧郡雲頭面遊仙洞
咸鏡北道會寧郡碧城面永綏洞
咸鏡北道會寧郡會寧面會寧
咸鏡北道會寧郡八乙面金生洞
咸鏡北道會寧郡花豐面高嶺鎭
咸鏡北道鍾城郡南山面三峰洞
咸鏡北道鍾城郡鍾城面鍾城
咸鏡北道鍾城郡鍾關面潼關鎭
咸鏡北道穩城郡柔浦面南陽洞
咸鏡北道穩城郡穩城面穩城
咸鏡北道穩城郡訓戎面訓戎
咸鏡北道慶源郡慶源面慶源
咸鏡北道慶源郡東原面龍堂
咸鏡北道慶源郡安農面金洞
咸鏡北道慶源郡阿山面新阿山洞
咸鏡北道慶興郡慶興面下汝坪洞
咸鏡北道慶興郡慶興面慶興洞
咸鏡北道慶興郡慶興面古邑洞
咸鏡北道慶興郡蘆西面龍峴洞
咸鏡北道慶興郡蘆西面土里洞

第二條　大正九年法律第五十三號第六條第二號ニ規定スル陸接國境隣接地域ハ國境ヨリ各二里以内ノ地域ヲ謂フ

附　則

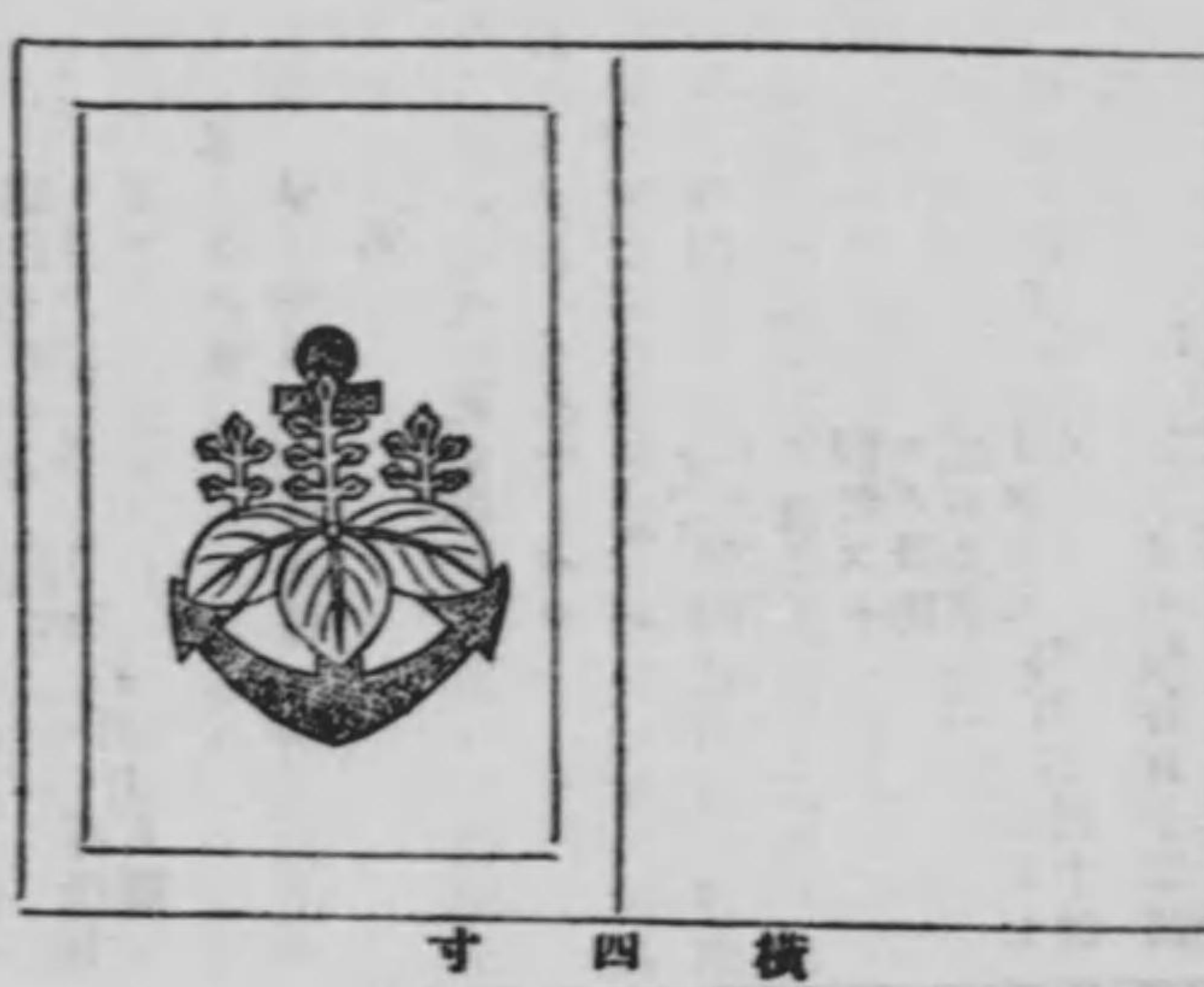
本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●税關官吏證票（明治四十五年三月二十八日朝鮮總督府令第五十四號）

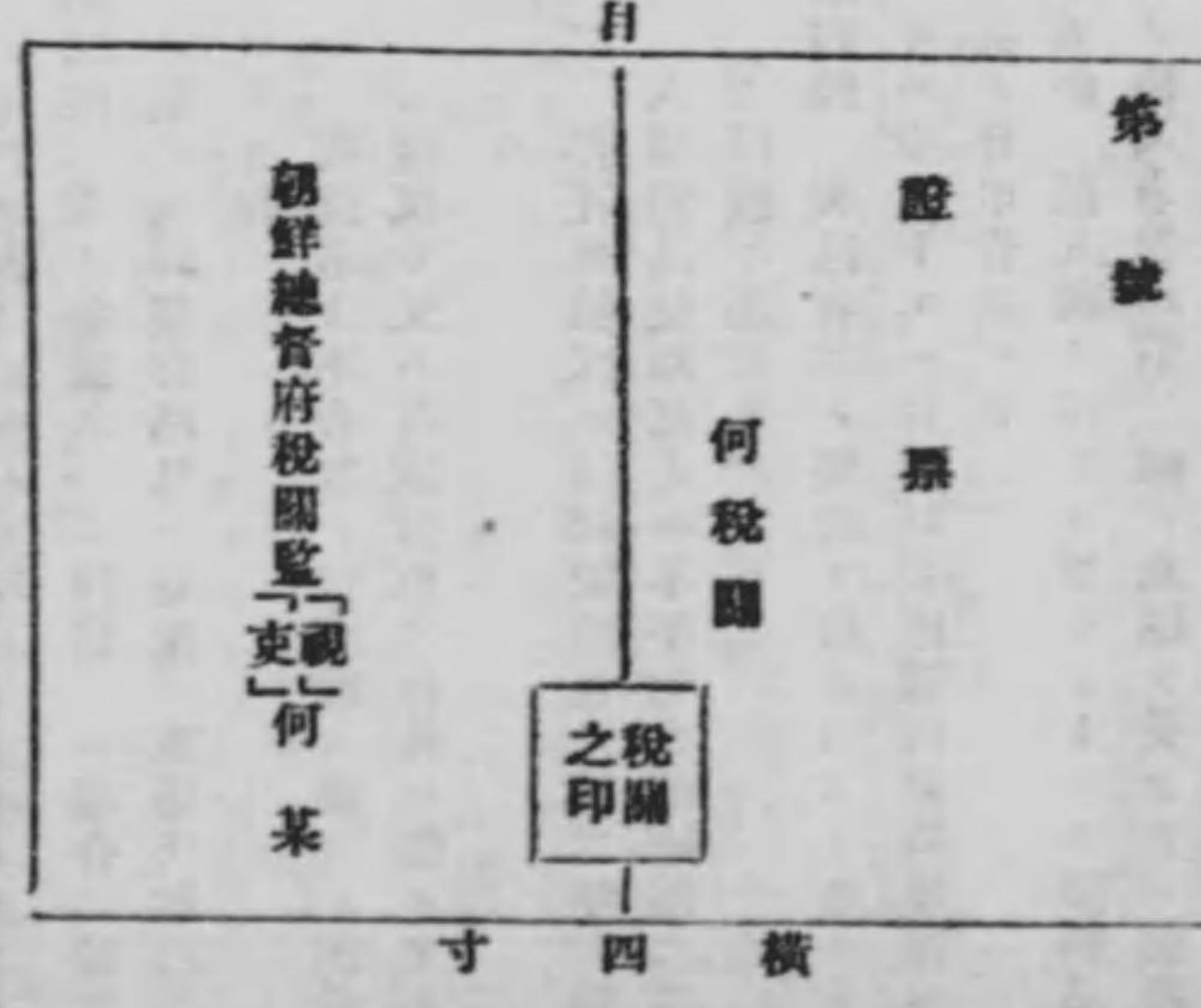
税關官吏證票左ノ通定ム

關税法第八十七條ノ税關官吏タル資格ヲ證明スル證票ハ左ノ樣式ニ依ル

表面地質黑皮、桐章及輪廓ハ金色、錨ハ銀色縱三寸



内面地質西洋紙黑色印刷縱三寸


第　號

證票

何税關

税關之印

朝鮮總督府税關監「視」「吏」何某

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●保税通路ニ關スル件（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十二號　改正　大正一〇年第九四號、第一五六號、一一年第一五八號、一三年第七五號　昭和三年第一五號、四年第五號）

保税地域間ノ運送通路ニ關スル件左ノ通定ム

關税法第三十九條ノ二及保税倉庫法第四條ニ依ル保税地域間ノ運送通路ハ左ノ如シ

一　朝鮮國有鐵道線路及朝鮮國有鐵道線路ト連絡シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル釜山下關間直航水路
二　鎭南浦ヨリ平壤ニ至ル大同江水路
三　雄基ヨリ下汝坪ヲ經テ慶興ニ至ル道路
四　雄基ヨリ阿吾地ヲ經テ新阿山ニ至ル道路
五　清津又ハ雄基ヨリ豆滿江沿岸土里ニ至ル直航水路及土里ヨリ龍堂ニ至ル豆滿江水路
六　會寧ヨリ金生ニ至ル道路
七　會寧ヨリ潼關鎭ニ至ル輕便鐵道線路
八　朝鮮國有鐵道船橋里停車場ニ於テ同鐵道線路ト直通スル大日本製糖株式會社專用鐵道線路
九　朝鮮國有鐵道文坪停車場ニ於テ同鐵道線路ト直通スル「ライジングサン」石油株式會社專用鐵道線路
十　朝鮮國有鐵道兼二浦停車場ニ於テ同鐵道線路ト直通スル三菱製鐵株式會社兼二浦製鐵所專用鐵道線路

朝鮮ト内地、臺灣、樺太及南洋群島トノ間ニ於ケル移出入貨物ノ保税地域間ノ運送通路亦前項ニ同シ但シ釜山下關間ノ直航水路ヲ除ク

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●關税定率法ニ依リ輸入税ヲ免除スヘキ輸出入貨物ノ容器及物品（大正十五年十一月二十二日朝鮮總督府令第八十一號）

大正九年朝鮮總督府令第百二十四號ヲ左ノ通改正ス

關税定率法第七條第十八號ニ依リ輸入税ヲ免除スヘキ輸出貨物ノ容器左ノ通指定ス

一　礦水、清涼飲料水、清酒、麥酒又ハ醋酸ノ

容器トシテ使用シタル場但シ麥酒場ニ付テハ大正十年勅令第二百三十八號ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ受ケタルモノヲ除ク

二　清酒、麥酒、醬油又ハ味噌ノ容器トシテ使用シタル樽但シ味噌ノ容器ニ付テハ朝鮮ヨリ輸出シタルモノニ限ル

三　硫酸、鹽酸、硝酸又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル壺又ハ罎

四　壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用シタル鐵製シリンダー

五　穀粉又ハセメントノ容器トシテ使用シタル綿製袋

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅定率法第八條第一號ニ依ルコトヲ得ヘキ物品ニ關シテハ明治三十九年勅令第二百六十一號ニ依ル（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十五號）

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

關稅定率法第八條第二號ニ依リ輸入稅ヲ免除スヘキ輸入貨物ノ容器左ノ通指定ス（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十六號）

一　壓搾瓦斯ヲ塡充セル鐵製容器

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

關稅定率法第八條第二號ノ二ニ依リ輸入稅ヲ免除スヘキ物品左ノ通指定ス（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十七號　改正　大正一〇年第一三一號）

一　壓搾瓦斯ノ容器ニ使用スル鐵製シリンダー

二　油類、酸類又ハ糖蜜ノ容器ニ使用スル鐵製ドラム

三　砂糖ノ容器ニ使用スルアムペラ袋及ガンニー袋

四　石炭タールノ容器ニ使用スル木製樽

五　セメントノ容器ニ使用スルガンニー袋但シ朝鮮ニ於テ使用スルモノニ限ル

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依ルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件（大正九年十二月二十五日朝鮮總督府令第百九十五號）

關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依ルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ハ左ノ用途ニ供スルモノニシテ豫メ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

一　鑛業、工業、運輸業又ハ漁業ノ爲ニ使用スル發動機用又ハ汽鑵用

二　製錬用

三　窯業用

四　金屬加熱用

第二條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ礦油ヲ輸入スヘキ地ノ稅關ヲ經由シテ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　輸入セムトスル礦油ノ數量及豫定價格

二　輸入セムトスル礦油ノ用途、貯藏場、使用場所及使用スヘキ設備ノ說明

三　積出地、輸入地及輸入豫定時間

第三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ第一條ノ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ輸入申告ハ礦油使用者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第四條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス但シ之ヲ第一條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ供セムトスル場合ニ於テ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ稅關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ規定ハ前項但書ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク輸入地ノ稅關ニ屆出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法第九條施行ニ關スル件（大正十五年四月二十四日朝鮮總督府令第三十六號）

關稅定率法第九條施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十年勅令第二百三十八號第一條ニ規定スルモノノ外關稅定率法第九條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮ニ於テ製造スル製造品竝其ノ輸入原料品及之ニ對スル輸入稅免除ノ率ヲ定ムルコト左ノ如シ

製造品	輸入原料品	免除率
罐入棉子油	葉鐵	每百斤七十錢
革製品	牛革、水牛革、馬革、綿羊革及山羊革	
	一　塗リタルモノ	從價十割
	二　染メタルモノ又ハ著色シタルモノ（ローラーレザーヲ除ク）	每百斤百四十五圓
	三　其ノ他	
	甲　牛革水牛革及馬革	
	イ　靴底革	
	イノ一　パッキング、ベルト、ストラップ其ノ他之ニ類似スルモノ及靴底形ニ裁チタルモノ	每百斤二十七圓十錢
	イノ二　其ノ他	每百斤二十五圓二十錢
	ロ　其ノ他	從價二割
	乙　綿羊革及山羊革（ローラーレザーヲ除ク）	每百斤二十四圓

大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種第三號乃至第十九號ノ製造品及輸入原料品ニ付適用スヘキ同令ノ規定ハ前項ノ製造品及輸入原料品ニ付之ヲ準用ス

第二條　輸入稅ノ免除ヲ受クヘキ原料品ヲ用ヒテ製造ヲ爲サムトスル者ハ製造品ノ名稱、製造場、原料品又ハ製造品ノ藏置場、一年間ニ於ケル原料品使用見込高及原料品ノ輸入手數ヲ爲スヘキ稅關名ヲ製造場所轄府郡島ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ承認ハ落花生油又ハ油糟ニ付テハ一製造場ニ於テ使用スヘキ輸入原料品中一品ノ使用見込高一年十萬斤ニ達スルモノアル場合ニ限リ之ヲ與ヘ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種第三號乃至第五號ノ物品ニ付テハ落花生油又ハ油糟ノ製造ニ付承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ製造スルモノニ限リ之ヲ與フルモノトス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製造場所轄府郡島ハ前條ノ承認ヲ取消スコトヲ得

一　製造者カ本令其ノ他關稅ニ關スル法令ニ違反シ又ハ當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

二　落花生油又ハ油糟製造者ノ每二年ノ輸入原料品使用高ノ一年平均カ前條第二項ノ斤數ニ達セサルトキ

第四條　製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一月前ニ製造場所轄府郡島ニ其ノ旨申告スヘシ

第五條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル原料品ノ輸入申告ハ第二條ノ承認ヲ受ケタル製造者ノ名ヲ以テシ其ノ申告書ニハ使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ附記スルコトヲ要ス

第六條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用セムトスル者ハ使用前原料品ノ名稱、種類、數量、使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ記シタル文書ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ添附シ製造場所轄府郡島ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

大正十年勅令第二百三十八號第三條第三項ノ規定ニ依リ氷砂糖ノ製造ヲ爲サムトスル者ハ前項ノ規定ニ準シ承認ヲ受クヘシ但シ輸入免狀又ハ證明書ニ代フルニ精製糖ニ對スル府郡島ノ製品檢查書ヲ以テスヘシ

第七條　大正十年勅令第二百三十八號第三條第一項但書ノ規定ニ依リ原料品ヲ混淆使用セムトスル者ハ前條第一項ノ規定ニ依ル申告書ニ混淆スヘキ他ノ原料品ノ名稱、種類、數量及使用ノ割合ヲ附記スヘシ

第八條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ其ノ製造品ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ原料品ノ輸入申告者ハ其ノ事實ヲ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ亡失シタル地ノ所轄府郡島又ハ警察署ノ亡失證明書ヲ前項申告ノ際提出セシムルコトヲ得

第九條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ他ノ用途ニ供セムトスルトキ又ハ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種製造品若ハ本令第一條ノ製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供セムトスルトキハ製造者ハ其ノ旨製造場所轄府郡島ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

第十條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ製造品及副產物ハ他ノ同種ノ原料品又ハ製造品及副產物ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第十一條　製造者輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ製造品及副產物ノ名稱及數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄府郡島ニ申告シテ檢查ヲ受クヘシ

第十二條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シテ製造シタル物品又ハ副產物ヲ製造場ヨリ搬出セムトスルトキハ其ノ名稱、數量及搬出先ヲ記シタル文書ヲ以テ製造場所轄府郡島ニ申告スヘシ

第十三條　大正十年勅令第二百三十八號第一條ノ製造品又ハ本令第一條ノ製造品ヲ輸出セムトスルトキハ輸出申告書ニ原料品輸入稅ノ拂戾ヲ受クヘキモノニ付テハ製造者ノ作成シタル製造證明書竝大正十年勅令第二百三十八號第一條第一種第二號乃至第十四號、第十六號、第十八號及第十九號ノ製造品ニ在リテハ其ノ原料品ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書及拂戾率カ從價稅ニ依ルモノニ在リテハ納付シタル輸入稅額ヲ證スヘキ書類、原料品輸入稅ノ免除ヲ受ケタルモノニ付テハ府郡島ノ製品檢查書ヲ添附スヘシ

第十四條　前條ノ製造證明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　製造品ノ名稱及數量

二　製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ名稱、種類及數量

三　製造場

四　證明書作成ノ年月日

前條ノ製品檢查書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　製造品及副產物ノ名稱及數量

二　製造ニ使用シタル輸入原料品ノ名稱、種類及數量

三　大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副產物ニ付テハ各原料品ノ割合

四　輸入原料品ノ輸入免狀番號及輸入手數ヲ爲シタル稅關名

五　製造場

六　檢查書作成ノ年月日

第十五條　製造者大正十年勅令第二百三十八號第二條ノ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ其ノ製造品及副產物ノ名稱、數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄府郡島ニ申告シ檢查ヲ受ケ其ノ製品檢查書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ製品檢查書ハ前條第二項ノ製品檢查書ニ準シ作成スヘシ

第十六條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ用ヒテ製造シタル大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種製造品又ハ本令第一條ノ製造品ノ輸出手數ハ其ノ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ニ由ルヘシ但シ輸入手數ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　輸入稅ノ拂戾ヲ受ケムトスル者ハ製造品輸出稅關ニ之ヲ申請スヘシ

第十八條　製造者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　輸入原料品ノ名稱、種類、數量、藏置場、輸入手數ヲ爲シタル稅關及製造場ニ搬入シタル年月日

二　使用シタル輸入原料品及之ト混淆使用シタル他ノ同種ノ原料品ノ名稱、種類、數量及使用ノ年月日

三　製造品及副產物ノ名稱、數量及製造ノ年月日竝輸入原料品ト他ノ同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副產物ニ在リテハ各原料品ノ使用割合

四　第十一條ノ檢查ヲ受ケタル製造品及副產物ノ名稱、數量及檢查ノ年月日

五　製造場ヨリ搬出シタル原料品、製造品及副產物ノ名稱、數量、搬出先及搬出ノ年月日

六　原料品、製造品又ハ副產物ニシテ製造場ニ於テ亡失シタルモノアルトキハ其ノ名稱、種類、數量竝亡失ノ事由及年月日

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年朝鮮總督府令第百三號ハ之ヲ廢止ス

●關稅定率法第十條施行ニ關スル件（大正十五年四月二十四日朝鮮總督府令第三十七號）

關稅定率法第十條施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合

一　建造セムトスル船舶ニ使用スヘキ物品ノ種類及數量

二　前號ノ物品中輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

三　工場ノ名稱及位置

四　起工日及竣工期限

乙　船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合

一　各工場ニ於テ一定期間內ニ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量

二　前號ノ物品中輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

三　工場ノ名稱及位置

第二條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ前條ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ハ稅關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシメサルコトヲ要ス

前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ稅關官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　大正十年勅令第二百三十九號第六條

但書ノ規定ニ依リ輸入免許ノ取消又ハ輸入稅ノ追徵ヲ爲ササル場合左ノ如シ

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使用スル爲稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

二　承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

三　修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ當該物品ノ名稱、數量及前ニ承認ヲ受ケタル事項ノ變更ニ關スル承認更正書ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ稅關ニ申請スヘシ

第五條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者ハ工場每ニ帳簿ヲ備ヘ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、數量、輸入手續ヲ爲シタル稅關、搬出入ノ年月日及搬出先

二　使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタル船舶名

三　建造又ハ修繕シタル船舶名、其ノ竣工年月日、國籍、所有者及總噸數又ハ排水噸數

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ニ關スル件

（大正十年九月二十二日朝鮮總督府令第百三十五號）

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ認許ヲ得ムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シテ提出スヘシ

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

二　認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及個數

三　前號ノ物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品タルノ理由

四　第二號ノ物品ノ用途

五　工場ノ名稱及位置

尙船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合ハ前各號ノ外前項第二號ノ物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號ヲモ記載スヘシ

第二條　認許ヲ得タル後三月內ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキハ認許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ノ理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第三條　申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ第一條ノ申請書ニ記載シタル用途、船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●保稅倉庫法施行規則

（昭和二年八月三十一日朝鮮總督府令第八十六號）

保稅倉庫法施行規則左ノ通改正ス

保稅倉庫法施行規則

第一章　總則

第一條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ內國貨物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　輸出スヘキ貨物

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ノ爲使用スヘキ貨物

三　土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アリト認メタル場合ニ於テ稅關長ノ許可シタル貨物

前項第三號ノ貨物ニ付テハ外國貨物ヲ藏置スル爲必要アルトキハ稅關長ハ何時ニテモ其ノ庫出ヲ命ズルコトヲ得

第二條　外國貨物ト內國貨物ト及庫入ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　他ノ貨物ヲ損傷スル虞アル貨物ハ他ノ貨物ト混同シテ之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第四條　發火質、燃燒質又ハ爆發質ノ貨物ハ特ニ其ノ貨物ヲ藏置スル爲設ケタル倉庫ニ非ザレバ之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第五條　貨物ノ藏置及取扱ニ付テハ總テ稅關官吏ノ指揮ニ從フベシ

第六條　保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第一號樣式、內國貨物ニ在リテハ第二號樣式ニ依ル庫入申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ庫入ノ際檢査ヲ受ケントスル外國貨物ニ付テハ庫入申告書ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ庫入申告書ニハ貨物ノ仕入書又ハ明細書ヲ添附スベシ

第七條　他人ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ニ付テハ申請アリタルモノニ限リ庫入ノ際檢査ヲ爲スモノトス

自己ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ハ庫入ノ際檢査ヲ受クベシ

第八條　貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第三號樣式ニ依ル手入申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

官設保稅倉庫ニ於テ貨物ノ手入ヲ爲サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ手入ヲ終リタルトキ之ガ爲異動ヲ生ジタル事項ニ付記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第九條　手入ヲ終リタルトキハ第四號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ手入ヲ終リタル貨物ニ付檢査ヲ受クベシ

第十條　保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ庫移若ハ保稅工場ヘノ移入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第五號樣式ニ依ル庫出申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

保稅倉庫法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ使用シタル外國貨物又ハ外國貨物ヲ使用シタル內國貨物ヲ庫出セントスルトキハ其ノ使用シタル材料ノ輸入、輸出、積戾、運送、庫移、保稅工場ヘノ移入又ハ庫出ノ申告書ヲ提出シ免許又ハ許可ヲ受クベシ

第十一條　藏置貨物ヲ庫移セントスルトキハ第六號樣式ニ依ル庫移申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ外國貨物ノ庫移ヲ爲ス爲運送ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　保稅倉庫法第九條第二項但書ノ規定ニ依リ稅關ノ承認ヲ受ケントスルトキハ滅失シタル貨物ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ個數、數量及價格竝滅失ノ年月日、場所及事由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スベシ

前項ノ規定ニ依ル申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ貨物ノ滅失シタル地ヲ管轄スル他ノ稅關又ハ警察官署ノ滅失證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

官設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ取出ヲ終リタルトキ其ノ見本ノ數量及取出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第十四條　保稅倉庫法ニ依ル收容竝犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則ヲ準用ス

第二章　官設保稅倉庫

第十五條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シタルトキハ稅關長ノ記名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス但シ手入ヲ爲ス目的ヲ以テ庫入シタル場合ニ於テハ貨主ノ申請ニ依リ手入終了後預證券ヲ交付スルコトヲ得

第十六條　預證券ニハ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ記載ス但シ第八號ニ揭グル事項ハ外國貨物ノ預證券ニ限ル

一　貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ個數、品質及數量

二　貨主ノ住所及氏名又ハ商號（法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地及名稱又ハ商號）

三　庫入許可年月日

四　庫入年月日

五　倉庫所在地及倉庫番號

六　庫敷料

七　預證券作成年月日

八　庫入ノ際ニ於ケル檢査ノ濟否及檢査ヲ受ケタル貨物ニ在リテハ其ノ輸入稅額又ハ輸入稅率

第十七條　預證券ノ所持人ハ稅關ニ對シ預證券ノ分割ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲サントスルトキハ分割申請書ニ預證券ヲ添附シ之ヲ稅關ニ提出スベシ

第十八條　預證券ノ裏書ハ被裏書人ノ氏名（法人ニ在リテハ名稱及代表者ノ氏名）又ハ商號及裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人記名捺印スルニ依リテ之ヲ爲ス但シ裏書人ノ記名捺印ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ一部ヲ庫出セントスルトキハ當該貨物ノ預證券ヲ稅關ニ提出シ庫出ヲ終リタルトキ庫出シタル貨物ノ個數、數量及庫出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第二十條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失若ハ滅失シタル場合ニ於テ新證券ノ交付ヲ申請セントスルトキハ再交付申請書ニ除權判決書ノ謄本ヲ添附シ之ヲ稅關ニ提出スベシ

第二十一條　汚損其ノ他ノ事由ニ因リ預證券ノ書換ヲ申請セントスルトキハ書換申請書ニ預證券ヲ添附シ之ヲ稅關ニ提出スベシ

第二十二條　預證券ノ分割、再交付又ハ書換ヲ申請セントスルトキハ一通ニ付手數料三十錢ヲ納付スベシ

第二十三條　官設保稅倉庫ノ藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アル場合ニ於テ其ノ當事者ヨリ藏置期限ノ延期ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期限延期申請書ニ訴訟ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添附シテ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ延期豫定期限內ニ訴訟事件終結セザルトキハ更ニ其ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ藏置シタルトキハ別表ニ依リ庫敷料ヲ納付スベシ

庫敷料算出ノ基礎タル日數ノ計算ニ付テハ庫入ノ日ハ之ヲ算入シ庫出ノ日ハ庫入ノ日ニ庫出スル場合ヲ除クノ外之ヲ算入セズ

庫敷料算出ノ基礎タル容積及重量ノ計算ニ付テハ一立方尺未滿ハ一立方尺、百斤未滿ハ百斤トス

第二十五條　官設保稅倉庫ニ於テ貨物ノ手入ヲ爲ス爲其ノ土地又ハ建物ヲ專用スルトキハ左ノ專用料ヲ納付スベシ

土地	一坪迄每ニ	一月	五十錢
建物	同	同	一圓

稅關長ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項ノ專用料ヲ低減スルコトヲ得

第二十六條　一月未滿ノ庫敷料又ハ專用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ、十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

第二十七條　庫敷料ハ貨物庫出ノ際之ヲ納付シ專用料ハ一月每ニ之ヲ前納スベシ

第二十八條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スベキモノハ貨物庫出ノ際迄ニ之ヲ納付スベシ

第二十九條　官設保稅倉庫內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スベキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クベシ

第三章　私設保稅倉庫

第三十條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスルトキハ地區ノ位置及面積、倉庫ノ構造、棟數及坪數、藏置スベキ貨物ノ種類竝特許年限ヲ記載シタル書面ニ倉庫、地區及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄稅關長ニ出願スベシ出願人法人ナルトキハ尙其ノ法人ノ登記謄本及定款又ハ之ニ相當スルモノノ謄本ヲ添附スベシ

他人ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスルトキハ特許ノ出願ト同時ニ貨物保管規則及庫敷料ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第三十一條　保稅倉庫業ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ三十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ三十年以內トス

第三十二條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ特許ヲ受ケタル後遲滯ナク保稅倉庫法第二十一條ノ規定ニ依ル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スベシ

第三十三條　前條ノ擔保ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

平家建總坪數二百坪迄	千圓
以上百坪迄ヲ增ス每ニ	五百圓ヲ加フ
二階建總建坪數二百坪迄	千五百圓
以上百坪迄ヲ增ス每ニ	七百圓ヲ加フ

第三十四條　私設保稅倉庫坪數ノ增加又ハ構造ノ變更ニ因リ擔保ノ增加ヲ要スルトキハ庫主ハ遲滯ナク之ニ相當スル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スベシ

第三十五條　私設保稅倉庫坪數ノ減少又ハ構造ノ變更ニ因リ擔保ニ過剩ヲ生ジタルトキハ庫主ハ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出テ之ニ相當スル擔保ノ減少ヲ求ムルコトヲ得

第三十六條　私設保稅倉庫ヲ改築若ハ增減シ又ハ其ノ構造ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ之ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ改築、增減又ハ構造ノ變更ニ付テハ其ノ終了後遲滯ナク稅關ニ屆出テ檢査ヲ受クベシ

第三十七條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ヅベシ

第三十八條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ

第三十九條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ庫主ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅關ニ屆出テ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

藏置貨物ヲ腐敗、損傷其ノ他ノ事由ニ因リ滅却セントスルトキハ稅關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クベシ

第四十條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ庫主ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ外國貨物ニ付テハ其ノ輸入稅ヲ納付スベシ

第四十一條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保管上必要ナル設備ヲ爲スベシ

第四十二條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ

第四十三條　私設保稅倉庫ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一個ハ之ヲ稅關ニ預クベシ

第四十四條　私設保稅倉庫ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クベシ

第四十五條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第四十六條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ雇人及使用スル人夫ニシテ保稅倉庫ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ

第四十七條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ藏置貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　庫入又ハ庫出シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ個數、內外國別、數量及價格竝庫入又ハ庫出ノ年月日

二　手入ニ使用シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ個數、內外國別、數量及價格竝手入ノ種類

三　手入ヲ爲シタル貨物ノ品名、包裝ノ種

類、包裝ノ箇數及數量並檢査濟ノ年月日

第四十八條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スベシ

第四章　雜則

第四十九條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ保稅倉庫ノ開庫ヲ必要トスルトキハ第九號樣式ニ依ル臨時開庫申請書ヲ稅關ニ提出シ特許ヲ受クベシ但シ關稅法第二十六條又ハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第七十七條ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條　前條ノ規定ニ依リ臨時開庫ノ特許ヲ受ケタルトキハ開庫一時間迄每ニ手數料一圓ヲ納付スベシ

第五十一條　保稅倉庫法第十七條第一項及第二十七條第一項ノ規定ニ依ル公告ハ當該稅關ニ之ヲ揭示スルノ外三日以上朝鮮總督府官報ニ之ヲ登載スベシ

第五十二條　期間ノ計算ニ關シ貨物庫入ノ日トアルトキハ庫入許可ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ庫敷料ノ計算ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條　貨主ガ藏置貨物ノ調査ヲ爲シ又ハ其ノ保存上必要ナル行爲ヲ爲サントスルトキハ稅關ノ承認ヲ受クベシ

第五十四條　保稅倉庫內ニハ火氣ヲ入ルルコトヲ得ズ但シ燈火ヲ必要トスル場合ニ於テ稅關ノ許可ヲ受ケタルモノヲ用フルハ此ノ限ニ在ラズ

第五十五條　庫敷料、專用料又ハ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付セントスルトキハ納付書ニ之ヲ貼附スベシ

第五十六條　本令ニ於テ稅關又ハ稅關長トアルハ稅關出張所所在ノ府面（新義州府ヲ除ク）ニ在リテハ稅關出張所又ハ稅關出張所長トシ其ノ他ノ地域ニシテ稅關支署ノ管轄ニ屬スルモノニ在リテハ稅關支署又ハ稅關支署長トス

但シ第一條、第二十五條第二項、第三十條、第三十六條第一項、第三十七條及第三十八條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

番號	品名	一月庫敷料	
一	穀類、豆類及種子	每百斤	圓 .○三○
二	穀粉及澱粉類		
	一　袋入ノモノ	每百斤	.○三○
	二　其ノ他	每立方尺	.○一五
三	蔬菜、果實及核子	同	.○三○
四	茶、珈琲及コーコー	同	.○三○
五	乳製品（人造バターヲ含ム）	同	.○三○
六	粗糖及精糖	每百斤	.○三○
七	酒類	每立方尺	.○三○
八	毛皮及革類		
	一　箱入ノモノ	同	.○三○
	二　其ノ他	每百斤	.○三○
九	油、脂、蠟及其ノ製品	每立方尺	.○三○
一〇	藥材、化學藥、製藥及其ノ調合品	同	.○三○
一一	染料及顏料	同	.○三○
一二	塗料及塡充料	同	.○三○
一三	絲縷及繩索	同	.○三○
一四	布帛及布帛製品（衣類ヲ含ム）	同	.○三○
一五	製紙用パルプ及紙類	同	.○三○
一六	寫眞用紙	同	.○三○
一七	紙製品及繪畫	同	.○三○
一八	寫眞用乾板	同	.○三○
一九	硝子板	同	.○二○
二〇	其ノ他ノ硝子、硝子製品及陶磁器	同	.○三○
二一	鐵		
	一　塊、條、竿、板及線（卑金屬ヲ鍍シタルモノヲ含ム）	每百斤	.○一五
	二　線索、筒及管	同	.○三○
二二	銅	同	.○一五
二三	錫	同	.○一五
二四	鉛及亞鉛	同	.○一五
二五	釘、リベット及螺旋釘類	每立方尺	.○三○
二六	金屬製品	同	.○三○
二七	置時計及掛時計	同	.○三○
二八	車輛、機械類及同部分品	同	.○三○
二九	懷中時計及同部分品	從價千分ノ五	
三〇	寶石、眞珠、珊瑚、同製品、貴金屬製品及貴金屬ヲ鍍シタル細貨類	同	
三一	別號ニ揭ゲザル物品	每立方尺	.○三○

第一號樣式

外國貨物庫入申告書

申告番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　申告年月日＿＿＿

積載船名＿＿＿

船舶國籍

引替證又ハ船荷證券番號	發出地	仕入地	生產又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	課定價格	稅目番號	稅率	稅額	容積又ハ重量	一月庫敷料

申告者國籍住所氏名捺印

貨主國籍住所氏名

私設保稅倉庫主氏名捺印

庫入許可年月日				
庫入年月日				
倉庫番號				
預證券番號				
	年月日	番號	分割數	
新證券				

內	庫	出	
年月日	記號及番號	箇數	數量

備考

稅務課	檢查課	監視課

注意　雙線內ニハ記入スベカラズ

外國貨物庫入許可書

申告番號＿＿＿　庫入許可年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　（稅關印）

積載船名＿＿＿

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量

申告者氏名

第二號樣式

內國貨物庫入申告書

申告番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　申告年月日＿＿＿

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格

申告者國籍住所氏名捺印

貨主國籍住所氏名

私設保稅倉庫主氏名捺印

備考

稅務課	監視課

庫入許可年月日				
庫入年月日				
倉庫番號				
預證券番號				
	年月日	番號	分割數	
新證券				

內	庫	出	
年月日	記號及番號	箇數	數量

注意　雙線內ニハ記入スベカラズ

內國貨物庫入許可書

申告番號＿＿＿　庫入許可年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　（稅關印）

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量

申告者氏名

第三號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入申請書

申請番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　申請年月日＿＿＿

手入ヲ爲スベキ貨物								手入ニ使用スベキ貨物						
庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類及目的	手入豫定期間	庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	使用ノ目的
			外國貨物	內國貨物							外國貨物	內國貨物		

申請者住所氏名捺印

庫主氏名捺印

備考

稅務課	檢查課	監視課

保稅倉庫藏置貨物手入許可書

申請番號＿＿＿　手入許可年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿　（稅關印）

手入ヲ爲スベキ貨物						手入ニ使用スベキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物					外國貨物	內國貨物	

申請者氏名

第四號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入濟申告書

申告番號＿＿＿

申告年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

手入ヲ爲サムトスル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲生ジタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ニ使用セラルル貨物				
						手入申請番號	外國貨物名	內國貨物名	數量	價格

申告者住所氏名捺印

庫主住所氏名捺印

手入成績檢查年月日

備考

稅務課	檢査課	監視課

庫出許可書

申告番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

庫出許可年月日＿＿＿

（稅關印）

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

庫出申告書

申告番號＿＿＿

申告年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格
			外國貨物	內國貨物		

申告者住所氏名捺印

貨主住所氏名

備考

稅務課	檢査課	監視課

第五號樣式

庫移許可書

申告番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

積載船名＿＿＿

庫移許可年月日＿＿＿

（稅關印）

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量

申告者氏名

庫移申告書

申告番號＿＿＿

申告年月日＿＿＿

最初庫入許可年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

前保稅倉庫名＿＿＿

積載船名＿＿＿

船舶國籍＿＿＿

雙線內ニ記入スベカラズ

引取證又ハ船荷證券番號	積出地	仕入地	生產又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	鑑定價格	稅目番號	稅率	稅額	容積又ハ重量	一月庫敷料

申告者國籍住所氏名捺印

貨主國籍住所氏名

私設保稅倉庫主氏名捺印

庫移許可年月日	
庫入年月日	
倉庫番號	
預證券番號	

新證券		
年月日	番號	分割數

內庫出			
年月日	記號及番號	箇數	數量

備考

稅務課	檢査課	監視課

第六號樣式

見本取出許可書

申請番號＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

許可年月日＿＿＿

（稅關印）

庫入許可年月日	預證券番號	記號及番號	品名	數量

申請者氏名

見本取出申請書

申請番號＿＿＿

申請年月日＿＿＿

保稅倉庫名＿＿＿

庫入許可年月日	預證券番號	記號及番號	品名	數量

申請者住所氏名捺印

稅務課	檢査課	監視課

第七號樣式

藏置期限延期許可書

（稅關印）

申請番號＿＿＿
保稅倉庫名＿＿＿
延期許可年月日＿＿＿

記號及番號	包裝ノ種類及個數	品名		數量	價格	延期スベキ期限
		外國貨物	內國貨物			

申請者氏名

藏置期限延期申請書

申請番號＿＿＿
保稅倉庫名＿＿＿
申請年月日＿＿＿

庫入許可年月日	記號及番號	包裝ノ種類及個數	品名		數量	價格	延期スベキ期限	出張年月日、事由及出張シタル裁判所名
			外國貨物	內國貨物				

申請者住所氏名捺印

備考

稅務課

監視課

第八號樣式

保稅倉庫臨時開庫特許書

（稅關印）

申請番號＿＿＿
特許年月日＿＿＿

保稅倉庫名		倉庫番號	
開庫期限	自　日　午　時 至　日　午　時		
事由			
手數料			
申請者氏名			

保稅倉庫臨時開庫特許申請書

申請番號＿＿＿
申請年月日＿＿＿

保稅倉庫名	
倉庫番號	
開庫期限	自　日　午　時 至　日　午　時
事由	
申請者住所氏名捺印	

收入印紙貼附欄

手數料	
告知番號	稅務課
調定年月日	監視課

第九號樣式

●保稅工場法施行規則

（昭和二年八月三十一日朝鮮總督府令第八十五號）

保稅工場法施行規則左ノ通定ム

保稅工場法施行規則

第一條　保稅工場ニ貨物ヲ移入セントスルトキハ第一號樣式ニ依ル申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第二條　外國貨物ト內國貨物ト及作業ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス

但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第二號樣式ニ依ル作業申告書ヲ稅關ニ提出シ承認ヲ受クベシ

但シ作業ノ際檢査ヲ受ケントスル外國貨物ノ原料ニ付テハ作業申告書ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四條　作業ヲ終リタルトキハ加工又ハ製造ヲ爲シタル場合ニ於テハ第三號樣式ニ依ル加工製造濟申告書ヲ、手入ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ作業ヲ終リタル貨物ニ付檢査ヲ受クベシ

第五條　內國貨物ノミヲ以テ作業ヲ爲ス場合ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前二條ニ規定スル手續ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　內國貨物ノミヲ以テスル作業ハ外國貨物ノミヲ以テスル作業又ハ外國貨物ト內國貨物トヲ以テスル作業ト區別シテ之ヲ爲スベシ

第七條　保稅工場ヨリ貨物ヲ移出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ庫入若ハ他ノ保稅工場ヘノ移入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第五號樣式ニ依ル申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第八條　作業ノ際原料ニ付檢査ヲ受ケタル外國貨物ノ輸入申告書ニハ其ノ貨物ニ使用シタル原料ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ個數、數量及價格竝作業承認ノ年月日及申請番號ヲ附記スベシ

第九條　保稅工場法第五條第二項ノ規定ニ依リ徵收スベキ利子ニ相當スル金額ハ原料ニ付檢査ヲ受ケタル日ヨリ起算シ輸入申告ノ日ニ至ル迄輸入稅額ニ對スル年六分ノ割合ヲ以テ計算シタル金額トシ輸入稅ニ加算シテ之ヲ徵收ス

第十條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第六號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第十一條　保稅工場法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請セントスルトキハ第七號樣式ニ依ル藏置期間延長申請書ヲ稅關ニ提出スベシ

第十二條　官設保稅工場ヲ使用シタルトキハ左ノ使用料ヲ納付スベシ

一　重量ニ依リ輸入稅ヲ賦課セラルベキ貨物	五十斤迄每ニ	一月	一錢五厘
二　前號以外ノ貨物	一立方尺迄每ニ	一月	一錢五厘

前項ノ使用料ハ徵收上便宜ト認ムルトキハ第二號ニ定ムル率ヲ第一號ノ貨物ニ、第一號ニ定ムル率ヲ第二號ノ貨物ニ適用スルコトヲ得

使用料算出ノ基礎タル日數ノ計算ニ付テハ移入ノ日ハ之ヲ算入シ移出ノ日ハ移入ノ日ニ移出スル場合ヲ除クノ外之ヲ算入セズ

第十三條　官設保稅工場內ノ土地又ハ建物ヲ專用スルトキハ左ノ專用料ヲ納付スベシ

土地	一坪迄每ニ	一月	五十錢
建物	同	同	一圓

稅關長ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項ノ專用料ヲ低減スルコトヲ得

第十四條　一月未滿ノ使用料又ハ專用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ、十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

第十五條　使用料ハ貨物移出ノ際之ヲ納付シ專用料ハ一月每ニ之ヲ前納スベシ

第十六條　使用料又ハ專用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付セントスルトキハ納付書ニ之ヲ貼附スベシ

第十七條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスルトキハ地區ノ位置及面積、建設物ノ構造、棟數又ハ個數及坪數、作業ノ種類、作業ニ使用スベキ貨物ノ種類竝特許年限ヲ記載シタル書面ニ建設物、地區及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄稅關長ニ出願スベシ出願人法人ナルトキハ尙其ノ法人ノ登記謄本及定款又ハ之ニ相當スルモノノ謄本ヲ添附スベシ

他人ヲシテ使用セシムベキ私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスルトキハ特許ノ出願ト同時ニ使用規則及使用料ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第十八條　保稅工場ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲サントスルトキハ作業ノ種類及作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ記載シタル書面ヲ提出シ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

第十九條　私設保稅工場ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ二十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ二十年以內トス

第二十條　私設保稅工場ノ地區ノ面積ヲ增減シ又ハ建設物ヲ改築、移轉若ハ增減シ若ハ其ノ構造ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ建設物ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ建設物ノ改築、移轉、增減又ハ構造ノ變更ニ付テハ其ノ終了後遲滯ナク稅關ニ屆出デ檢査ヲ受クベシ

第二十一條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ツベシ

第二十二條　私設保稅工場ノ作業ノ種類又ハ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ

第二十三條　私設保稅工場又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

前項ノ藏置貨物ヲ腐敗、損傷其ノ他ノ事由ニ因リ滅却セントスルトキハ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第二十四條　私設保稅工場ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ外國貨物ニ付テハ其ノ輸入稅ヲ納付スベシ

第二十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保全上必要ナル設備ヲナスベシ

第二十六條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ

第二十七條　私設保稅工場ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クベシ

第二十八條　私設保稅工場ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クベシ

第二十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第三十條　官設保稅工場內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スベキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十一條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ雇人及使用スル人夫ニシテ保稅工場ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ

第三十二條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ各號ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　保稅工場ニ移入シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ個數、內外國別、數量及價格竝移入ノ年月日

二　手入ニ使用シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ個數、內外國別、數量及價格竝手入ノ種類

三　手入ヲ爲シタル貨物ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ個數及數量竝檢査濟ノ年月日

四　加工又ハ製造ノ原料ニ使用シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、內外國別、數量及價格

五　加工又ハ製造シタル貨物及副產物ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ箇數及數量竝檢查濟ノ年月日

六　保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ課稅セラレタル貨物ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、數量及價格竝其ノ原料ニ使用シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、內外國別、數量及價格

七　保稅工場ヨリ移出シタル貨物ノ品名、記號、番號、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、內外國別、數量及價格竝移出ノ目的及年月日

第三十三條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スベシ

第三十四條　保稅工場法第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十七條第一項ノ規定ニ依ル公告ハ當該稅關ニ之ヲ揭示スルノ外三日以上朝鮮總督府官報ニ之ヲ登載スベシ

第三十五條　官設保稅工場ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スベキモノハ貨物移出ノ際迄ニ之ヲ納付スベシ

第三十六條　稅關官吏ハ保稅工場ニ於ケル作業ニ關シ職務上知得シタル祕密ヲ漏洩スルコトヲ得ズ

第三十七條　保稅工場法ニ依ル收容竝犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則ヲ準用ス

第三十八條　本令ニ於テ稅關又ハ稅關長トアルハ稅關出張所所在ノ府面（新義州府ヲ除ク）ニ在リテハ稅關出張所又ハ稅關出張所長トシ其ノ他ノ地域ニシテ稅關支署ノ管轄ニ屬スルモノニ在リテハ稅關支署又ハ稅關支署長トス

但シ第十三條第二項、第十七條、第十八條、第二十條第一項、第二十一條及第二十二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

假置場法施行規則ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リテ爲シタル處分及手續ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一號樣式

保稅工場貨物移入許可書

移入許可年月日＿＿＿＿
（稅關印）

申告番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
積載船舶＿＿＿＿

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

保稅工場貨物移入申告書

申告番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
申告年月日＿＿＿＿
積載船舶＿＿＿＿
船舶國籍＿＿＿＿

引取證又ハ船荷證券番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	移入ノ目的	容積又ハ重量	一月使用料
			外國貨物	內國貨物					

申告者國籍住所氏名捺印

貨主國籍住所氏名

私設保稅工場主氏名

移出作業							
申告種別	申告年月日	申告番號	摘要	作業種別	申告年月日	申告番號	摘要

備考

稅務課	監視課

第二號樣式

保稅工場貨物作業承認書

稅關印

申請番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
作業承認年月日＿＿＿＿

作業ヲ爲スベキ貨物						作業ニ使用スベキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名 外國貨物	品名 內國貨物	數量	作業ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名 外國貨物	品名 內國貨物	數量

申告者氏名

保稅工場作業申告書

申告番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
申告年月日＿＿＿＿

作業ヲ爲スベキ貨物							作業ニ使用スベキ貨物						
移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名 外國貨物	品名 內國貨物	數量	作業ノ種類	使用ノ目的	移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名 外國貨物	品名 內國貨物	數量	使用ノ目的

申告者住所氏名捺印

保稅工場主氏名捺印

備考

稅務課	檢查課	監視課

第三號樣式

保稅工場加工製造濟申告書

申告番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
申告年月日＿＿＿＿

加工製造品名	數量	價格	副產物品名	數量	價格	作業ニ使用シタル貨物				
						作業申告番號	外國貨物名	內國貨物名	數量	價格

申告者住所氏名捺印

保稅工場主氏名捺印

備考

作業成績檢查年月日

稅務課	檢查課	監視課

第四號樣式

保稅工場貨物手入濟申告書

申告番號＿＿＿＿
保稅工場名＿＿＿＿
申告年月日＿＿＿＿

手入ヲ爲シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲生シタル貨物品名	數量	價格	手入ニ使用シタル貨物				
						手入申請番號	外國貨物名	內國貨物名	數量	價格

申告者住所氏名捺印

工場主住所氏名捺印

備考

手入成績檢查年月日

稅務課	檢查課	監視課

第五號樣式

移出申告書

申告番號＿＿＿

申告年月日＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	移出ノ目的
			外國貨物	內國貨物			

申告者住所氏名捺印

貨主住所氏名

備考

稅務課

檢査課

監視課

移出許可書

申告番號＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

移出許可年月日＿＿＿

（稅關印）

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

第六號樣式

見本取出申請書

申請番號＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

申請年月日＿＿＿

移入年月日	記號及番號	品名	數量

申請者住所氏名捺印

稅務課

檢査課

監視課

見本取出許可書

申請番號＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

許可年月日＿＿＿

（稅關印）

移入年月日	記號及番號	品名	數量

申請者氏名

第七號樣式

藏置期間延長申請書

申請番號＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

申請年月日＿＿＿

移入年月日	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間	事由
			外國貨物	內國貨物				

申請者住所氏名捺印

備考

稅務課

監視課

藏置期間延長許可書

申請番號＿＿＿

保稅工場名＿＿＿

延長許可年月日＿＿＿

（稅關印）

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間
		外國貨物	內國貨物			

申請者氏名

●朝鮮ニ於ケル稅關特許手數料ニ關スル件

（明治四十四年六月二十一日勅令第百八十八號）
改正　大正九年第三〇八號

朕朝鮮ニ於ケル稅關特許手數料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　朝鮮ニ於テ私設保稅倉庫營業若ハ假置場私設ノ特許、常時使用ノ爲輸出入若ハ移出入ノ貨物ノ上屋若ハ陸揚船積場所ヲ設クルノ特許又ハ常時官吏ノ派出ヲ得テ旅客手荷物ノ檢査其ノ他關稅上特殊取扱ヲ受クルノ特許ヲ得タル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ特許手數料ヲ納付スヘシ

第二條　前條ノ特許ヲ爲シタル場合ニ於テ常時派出ノ稅關官吏ハ其ノ派出期間中之ヲ定員外トス

附　則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●稅關特許手數料ニ關スル件

（明治四十四年七月十三日朝鮮總督府令第八十六號）
改正　大正九年第一三八號　昭和四年第二〇號

稅關特許手數料ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　明治四十四年勅令第百八十八號ノ特許手數料ハ左ノ區分ニ從ヒ所轄稅關ニ納付スヘシ但シ旅費ヲ要スルトキハ稅關長ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ヲ加フ

派出ヲ要スル稅關官吏一人ニ付

一　事務官補、監視又ハ鑑査官補　一月　百五十六圓

二　監吏　同　百八圓

第二條　特許手數料ハ毎月之ヲ前納スヘシ但シ其ノ特許ヲ爲シタル月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第三條　稅關長ハ土地ノ情況又ハ特許事項ノ性質ニ依リ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ承ケ特許手數料ヲ減額シ又ハ手數料ノ納付方法ヲ變更スルコトヲ得

第四條　納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前一定ノ期間ニ對シ納付シタル特許手數料ニ付テハ其ノ期間滿了ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル

●朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル件

（明治四十四年三月二十五日制令第二號）

朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關シテハ稅關貨物取扱人法ニ依ル但シ身元保證金額ハ千圓以上トス

第二條　稅關貨物取扱人法中大藏大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル制令施行細則

（明治四十四年三月二十五日朝鮮總督府令第二十九號）
改正　大正六年第五二號、一〇年第五號

朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル制令施行細則左ノ通定ム

朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル制令施行細則

第一條　稅關貨物取扱人ノ業務ニ從事セムトスル者ハ營業所（支店、代理店ヲ含ム以下同シ）ヲ定メ管轄區域毎ニ所轄稅關長ニ出願スヘシ同一管轄區域內ニ營業所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

營業者會社ナルトキハ願書ニ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

第二條　稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘシ

第三條　免許料ハ二十圓トス收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四條　稅關貨物取扱人ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二週間內ニ身元保證トシテ各營業所毎ニ左ノ金額又ハ之ニ相當スル國債ヲ提供スヘシ

一　仁川、釜山、京城　二千圓

二　元山、鎭南浦　千五百圓

三　其ノ他　千圓

前項第三號ノ金額ハ稅關貨物取扱人カ同一稅關長ノ管轄區域內ニ在ル他ノ營業所ニ對シ前項ニ依リ身元保證物ヲ提供シタル場合ニ於テハ稅關長ハ土地ノ情況ニ依リ二百圓ヲ下ラサル範圍內ニ於テ之ヲ減額スルコトヲ得

第五條　稅關貨物取扱人ノ提供シタル身元保證金額ニ不足ヲ生シタルトキハ稅關長ハ本人ニ告知シ一月內ニ其ノ不足額ニ相當スル金額又ハ國債ヲ提供セシムヘシ

第六條　稅關貨物取扱人カ身元保證物ヲ提供スルトキハ金錢又ハ無記名國債證券ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ、登錄國債ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ

登錄國債カ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノナルトキハ前項ニ依リ登錄濟通知書ヲ提出スルノ外尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第七條　稅關貨物取扱人支店又ハ代理店ニ於テ業務ヲ開始セムトスルトキハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ稅關、稅關支署又ハ稅關出張所ニ屆出ツヘシ

營業所ヲ閉鎖シ若ハ其ノ所在府面內ニ於テ之ヲ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條　稅關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ屆出ツヘシ其ノ變更アルトキ亦同シ

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ニ移入スル物品ノ移入税等ニ關スル件

（大正九年八月二十六日制令第十九號）

改正　大正一〇年第四號、第一三號、一二年第五號　昭和二年第一〇號

朝鮮ニ移入スル物品ノ移入税等ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ヨリ朝鮮ニ移入スル酒精及酒精ヲ含有スル飲料竝織物ニハ從前ノ朝鮮關税定率令ニ依リ移入税ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ其ノ税率ヲ從價五分トス

第二條　本令ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡紬絲、芭蕉絲其ノ他朝鮮總督ノ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

第三條　移入税ヲ課スヘキ場合ニ於テ同一物品ニ對スル輸入税ノ税額カ移入税ノ税額ヨリ少キトキハ其ノ移入税ハ輸入税ノ税額ニ相當スル金額トシ同一物品カ輸入無税品ナルトキハ之ヲ無税トス

第四條　移入税ヲ課スヘキ物品ニシテ之ヲ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ヨリ外國ニ輸出スル場合ニ於テ關税定率法第九條第一項ノ規定ニ依リ原料品ニ對スル輸入税ノ免除又ハ拂戾ヲ受クヘキモノナルトキハ其ノ物品ノ移入税ハ第一條又ハ前條ノ規定ニ依リ計算シタル移入税ノ税額ヨリ其ノ免除又ハ拂戾ヲ受クヘキ金額ヲ控除シタル金額トシ其ノ免除又ハ拂戾ヲ受クヘキ金額カ第一條又ハ前條ノ規定ニ依リ計算シタル移入税ノ税額ト同額以上ナルトキハ之ヲ無税トス

第五條　移入税ノ免除ニ付テハ從前ノ朝鮮關税定率令ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ移入税ヲ免除スルモノノ外移入物品カ輸入税ヲ免除スヘキモノナルトキハ移入税ヲ免除ス

第六條　關税法第一條乃至第九條、第三十二條乃至第四十二條、第四十五條、第五十三條乃至第七十三條、第七十五條、第七十五條ノ二、第八十二條ノ二乃至第九十七條及第百條竝大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ハ移入税ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前移入税竝朝鮮ト內地、臺灣又ハ樺太トノ間ニ於ケル船舶ノ出入及貨物ノ移出入ニ關シ朝鮮關税令、朝鮮關税定率令又ハ朝鮮保税倉庫令ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●大正九年制令第十九號施行ニ關スル件

（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百二十號）

改正　大正一〇年第一三六號、一二年第四七號　昭和二年第二八號

大正九年制令第十九號施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　左ニ揭クル原料ノミヲ以テ組成スル織物ハ大正九年制令第十九號第二條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ綿織物ト看做ス

一　英式番手二十八號ヲ超エサル絹紡紬絲
二　芭蕉絲
三　黃麻
四　葛
五　藤
六　槿
七　楮
八　鳳梨
九　科
十　竹
十一　紙
十二　襤褸
十三　藁
十四　前各號ノ一種又ハ數種ト綿
十五　前各號ノ一種又ハ數種ト全重量百分中五未滿ノ毛又ハ黃麻以外ノ麻

第二條　大正九年制令第十九號第四條ノ規定ニ依リ課税上ノ便益ヲ受ケムトスル者ハ移入申告書ニ大正十年勅令第二百三十八號第一條第一種製造品ニ相當スル物品ニ在リテハ製造者ノ作製シタル製造證明書、同條第二種製造品ニ相當スル物品ニ在リテハ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル税務官署ノ製品檢査書ヲ添附スヘシ

前項ノ製造證明書及製品檢査書ハ大正十五年朝鮮總督府令第三十六號第十四條ノ規定ニ準シ作製シタルモノナルコトヲ要ス

第三條　加工又ハ修繕ノ爲移出シタル物品ニシテ大正九年制令第十九號第五條第一項ニ依リ移入税ノ免除ヲ得ムトスルモノノ移出入手續ハ從來ノ例ニ依ル

第四條　第三條ニ規定スルモノノ外大正九年制令第十九號ノ施行ニ關シテハ關税法及大正九年法律第五十三號施行規則第一條乃至第十三條、第十六條、第三十八條、第五十三條乃至第七十五條及第八十二條乃至第八十六條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●航空法中關税ニ關スル規定ノ施行規則

（昭和二年十二月八日朝鮮總督府令第百十四號）

航空法中關税ニ關スル規定ノ施行規則左ノ通定ム

航空法中關税ニ關スル規定ノ施行規則

第一條　本令ニ於テ國際航空條約ト稱スルハ大正八年十月巴里ニ於テ署名調印セラレタル航空ニ關スル條約及大正九年五月巴里ニ於テ署名セラレタル同條約議定書ヲ謂フ

第二條　法令又ハ國際航空條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本邦ト外國トノ間ヲ航空スル航空機ガ税關飛行場ニ著陸シタルトキハ貨物ノ積卸ヲ爲スト否トニ拘ラズ當該航空機ノ長ハ税關ニ其ノ航空機ノ國籍、登錄記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、出發地、著陸ノ日時、乘組員ノ數、貨物又ハ旅客積載ノ有無竝航空ノ目的ヲ記載シタル著陸屆ヲ爲シ機用品目錄竝貨物又ハ旅客ヲ積載スル場合ニ於テハ貨物ノ積荷目錄又ハ旅客氏名表及旅行用品ノ積荷目錄ヲ提出スルト同時ニ航空機ノ日誌ヲ呈示スベシ

税關官吏著陸屆ヲ正當ト認メタルトキハ前項ノ日誌ニ記名捺印スベシ

第三條　日本航空機及國際航空條約加盟國ニ屬スル航空機ガ國際航空條約加盟國ヨリ本邦ニ來リタル場合ニ其ノ提出スベキ積荷目錄ハ樣式第一號ニ依リ之ニ樣式第二號ニ依ル税關申告書ヲ添附スベシ

第四條　國際航空條約第八附屬書九ノ規定ニ依リ航空機ニ對スル輸入税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該航空機ノ長ハ其ノ航空機ノ國籍、登錄記號、機體及發動機ノ種類及型式、價格、航空ノ目的竝著陸ノ日ヨリ一年ヲ超エザル期間內ニ於ケル再輸出ノ時期ヲ記載シタル免税申請書ヲ最初ノ著陸地所管税關ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ税關長ハ必要ト認ムルトキハ輸入税ニ相當スル擔保ヲ供託セシムルコトヲ得

第五條　第二條第一項ノ航空機ガ税關飛行場ヲ離陸セントスルトキハ貨物ノ積卸ヲ爲シタルト否トニ拘ラズ當該航空機ノ長ハ税關ニ其ノ航空機ノ國籍、登錄記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、仕向地、離陸ノ日時、貨物又ハ旅客積載ノ有無竝航空ノ目的ヲ記載シタル離陸屆ヲ爲スト同時ニ航空機ノ日誌ヲ呈示スベシ

離陸ノ免許アリタルトキハ税關官吏ハ日誌ニ記名捺印スベシ

第六條　日本航空機及國際航空條約加盟國ニ屬スル航空機ガ本邦ヨリ國際航空條約加盟國ニ赴ク場合ニ於テハ離陸屆ヲ爲スト同時ニ貨物ヲ積載スルモノニ在リテハ樣式第一號ニ依ル積荷目錄ニ樣式第二號ニ依ル税關申告書ヲ添附シ之ヲ税關ニ呈示スベシ

税關官吏前項ノ書類ヲ正當ト認メタルトキハ積荷目錄ニ記名捺印スベシ

第七條　航空法第三十四條ニ規定スル許可（税關飛行場ニ非ザル場所ニ著陸シ又ハ税關飛行場ニ非ザル場所ヨリ離陸スルノ許可）ヲ受ケントスルトキハ航空機ノ長ハ航空機ノ國籍、登錄記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、出發地又ハ仕向地、著陸地又ハ離陸地、著陸又ハ離陸ノ豫定月日、著陸地ニ於ケル停留期間、著陸又ハ離陸ノ目的竝貨物ノ積卸ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、數量、價格及仕向地又ハ仕出地、旅客ノ積卸ヲ爲スモノニ在リテハ旅客ノ員數及出發地又ハ目的地ヲ記載シタル文書ヲ以テ著陸又ハ離陸セントスル地ヲ管轄スル税關ヲ經由シ朝鮮總督ニ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

第八條　警察官吏ニ於テ航空法第四十條第一項ノ屆出（故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ依リ税關飛行場其ノ他許可ヲ受ケタル著陸ノ場所以外ニ著陸（以下單ニ不時著陸ト稱ス）シタルトキノ屆出）ヲ受ケタルトキハ其ノ地ヲ管轄スル税關又ハ税關監視署ニ其ノ旨急報スヘシ

第九條　航空法第四十條第二項ニ規定スル許可（不時著陸シタル航空機ノ離陸ノ許可）ヲ受ケントスルトキハ税關官吏ガ其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ税關官吏ニ、税關官吏ガ其ノ地ニ在ラザル場合ニ於テハ警察官吏ニ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ離陸ノ許可アリタルトキハ税關官吏又ハ警察官吏ハ貨物ヲ積載セザル航空機ニ付テハ日誌ニ、貨物ヲ積載セル航空機ニ付テハ日誌及積荷目錄ニ記名捺印スヘシ

前條ノ規定ハ警察官吏ニ於テ第一項ノ離陸ノ許可ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條　前各條ニ規定スルモノヲ除クノ外航空法ニ依リ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送竝之ニ關スル犯則事件ノ調査及處分ニ付準用セラルル關税法ノ規定ノ施行ニ關シテハ關税法及大正九年法律第五十三號施行規則中ノ當該規定ヲ準用ス但シ船舶ノ名稱トアルハ航空機ノ登錄記號トシ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル特許手數料ハ左ノ割合トス

臨時開廳特許手數料

日出ヨリ日沒迄	一時間毎ニ	二圓五十錢
日沒ヨリ午後十二時迄	同	五圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	九圓

貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料

日出ヨリ日沒迄	一時間毎ニ	五十錢
日沒ヨリ午後十二時迄	同	一圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	二圓

派出檢査特許手數料

檢査ニ要スル時間一時間迄毎ニ	一圓

第十一條　國際航空條約第八附屬書八ノ規定ニ依リ指定セラレタル飛行場ハ該飛行場ニ著陸又ハ離陸ヲ許可セラレタル航空機トノ關係ニ於テハ之ヲ税關飛行場ト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式第一號）

航空機積荷目錄

機……登錄記號……

機長……氏名　住所　國籍　免狀ノ番號

貨物……仕出地　仕向地　税關申告書ノ番號　國區

税關官吏ノ記入ノ爲ノ餘白

機長ハ本積荷目錄ノ內容ノ正確ナルコトヲ保障シ之ニ違反スルトキハ法律ノ規定スル刑罰ヲ受クベキモノトス依テ本目錄末尾ニ日附ヲ記入シ且署名ス

積込番號	包裝ノ記號及番號	包裝ノ箇數（數字及文字ヲ以テス）及種類	貨物ノ性質	數量又ハ重量	荷受人	備考

備考　積荷目錄ハ抹殺又ハ訂正ヲ正當ナル税關官吏ニ依リ承認セラレタル場合ノ外爲スコトヲ得ズ又行間ニ文字ヲ挿入シ又ハ同一行ニ數箇ノ品目ヲ記載スルコトヲ禁ズ必要ノ場合ニハ紙數ヲ追加スルコトヲ得

（樣式第二號）

仕出地
仕向地

税關申告書　作成者
貨物內譯

包裝		貨物ノ性質	內容ノ詳記	原產國	價額	數量又ハ重量			備考
記號及番號	箇數					數量	總量	純量	

年　月　日　ニ於テ　荷送人

●税關起重機使用規則

（昭和四年三月二十五日朝鮮總督府令第二十二號）

税關起重機使用規則左ノ通定ム

税關起重機使用規則

第一條　税關所屬ノ起重機ヲ使用セントスル者ハ別記樣式ノ申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　起重機使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ使用料ヲ税關ニ前納スヘシ

一	電氣起重機	一臺一時間迄毎ニ	七圓
二	蒸氣起重機		
	揚力三十噸ノモノ	一臺一時間迄毎ニ	五圓
	其ノ他ノモノ	同	八十錢
三	手動起重機		
	揚力五噸ヲ超ユルモノ	一臺一時間迄毎ニ	六十錢
	揚力五噸ヲ超エザルモノ	同	四十錢

第三條　使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書又ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第四條　税關長ハ必要ト認ムルトキハ起重機ノ使用ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ起重機ヲ使用セザル時間ハ之ヲ使用時間ニ算入セズ此ノ場合ニ於テハ使用時間終了後之ニ相當スル時間其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得

第五條　税關棧橋、繫船壁及船渠使用規則第七條及第十三條ノ規定ハ起重機ノ使用ニ付之ヲ準用ス

第六條　本令ニ於テ税關又ハ税關長トアルハ税關支署所在地ニ在リテハ税關支署又ハ税關支署長トス

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記

樣式

備考　用紙寸法縱二十糎横三十五糎　輪廓寸法　許可書縱十糎横十二糎　申請書縱十六糎横十八糎

起重機使用申請書

番號＿＿＿＿　　告知番號＿＿＿＿

收入印紙		
起重機種別及場所		
揚力	噸	
使用時間	自　月　日午　時 至　月　日午　時	時間
使用料	一時間迄毎ニ 金　圓　錢	金　圓　錢
申請年月日		税務課
申請者住所 氏名捺印		監視課
年　月　日調定	年　月　日收入	

起重機使用許可書

年　月　日　税關

噸
自　月　日午　時　時間 至　月　日午　時
金　圓　錢

番號＿＿＿＿

起重機種別及場所	
揚力	
使用時間	
使用料	
申請者	

●朝鮮出港税令

（大正九年八月二十六日制令第二十一號）
改正　大正一〇年第一〇號、一二年第二號、一五年第一〇號

朝鮮出港税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮出港税令

第一條　朝鮮ヨリ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ出港税ヲ課ス

一　移出先ニ於テ內國税ヲ課スル物品但シ砂糖、糖水及骨牌竝移出先ニ輸入スル場合ニ內國税ヲ課セサル物品ニシテ朝鮮ニ輸入シタルモノヲ除ク

二　朝鮮ニ於テ移出先ニ於ケル輸入税ノ税率ヨリ低キ税率ニ依リ輸入税ヲ課シ又ハ朝鮮ニ於テノミ輸入税ヲ免除シ若ハ無税ト爲シタル物品

三　帝國內ニ於テ製造シタル織物製品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ但シ移出先ニ於テ內國税ヲ課セサル織物ヲ以テ製造シタルモノヲ除ク

第二條　出港税ノ税率ハ左ノ區分ニ依ル

一　前條第一號ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル內國税ノ税率ト同一ノ税率

二　前條第二號ノ物品中輸入税ヲ免除シ又ハ無税ト爲シタル物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル輸入税ノ税率ト同一ノ税率、其ノ他ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル輸入税ノ税率ト朝鮮ニ於ケル輸入税ノ税率トノ差ニ相當スル税率

三　前條第三號ノ織物製品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル織物ノ價格ノ百分ノ十

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ從價税品ノ課税價格ハ移出港ニ於ケル市價ニ依ル

同一物品ニシテ前條第一號及第二號ニ該當スルモノニ付テハ第一項第一號及第二號ノ税率ヲ適用ス

第三條　關税定率法第七條第一號、第二號、第六號、第七號、第十號乃至第十一號ノ二、第十三號、第十四號及第十六號ノ物品竝內地、臺灣又ハ樺太ニ通航スル船舶ノ船用品ニシテ税關ニ於テ適當ト認メタルモノニハ出港税ヲ免除ス但シ關税定率法第七條第六號ノ物品ニ付テハ移出先ニ於テ免税ヲ爲ス場合ニ限ル

第四條　左ニ揭クル物品ニシテ移出ノ日ヨリ一年內ニ移入スルモノニハ出港税ヲ免除ス但シ移出ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一　加工ノ爲移出スル物品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ

二　學術研究ノ爲移出スル物品

三　試驗品トシテ移出スルモノ

四　注文取集ノ爲移出スル見本品

五　製作見本品トシテ移出スルモノ

六　博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スル爲移出スル物品

第五條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ出港税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシメテ六月以內出港税ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六條　出港税ヲ課スヘキ物品ノ移出者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品又ハ其ノ包裝ニ納税濟又ハ檢査濟ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼付ヲ受クヘシ

第七條　出港税ヲ課スヘキ物品ヲ郵便ニ依リ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出セムトスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ移出手續ヲ爲スヘシ

郵便物ノ出港税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第八條　出港税ノ逋脫ヲ圖リ又ハ出港税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ逋脫シタル者ニ付テハ直ニ出港税ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港税ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國税徵收ノ例ニ依ル

第九條　出港税ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　內地、臺灣又ハ樺太ニ於テ前二條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本令ニ於ケル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第十一條　第六條及第七條第一項ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依リ出港税ヲ課スル物品ト同種ノ物品ニシテ出港税ヲ課セサルモノニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二　第一條第一號ノ物品又ハ內地、臺灣若ハ樺太ニ於テ製造シタル織物製品ニシテ保税倉庫又ハ假置場ニ藏置スルモノヲ內地、臺灣又ハ樺太ニ積戾ストキハ之ヲ移出ト看做シ本令ヲ適用ス

第十二條　關税法第一章第四章及第七章ノ規定竝大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ハ出港税ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前朝鮮ニ輸入若ハ移入シタル外國產物品又ハ大正九年法律第五十三號第十一條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ課セラレタル外國產物品ヲ本令施行後一年內ニ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出スルトキハ關税定率法ニ依ル輸入税ニ相當スル出港税ヲ課ス

前項ニ規定スル物品ニシテ第一條第一號ニ該當スルモノニ付テハ仍第一條第一號ノ規定ニ依ル出港税ヲ課ス

第六條及第七條第一項ノ規定ハ本令施行後一年內ニ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出スル外國產物品ニシテ第十一條及前項ノ規定ニ該當セサルモノニ付之ヲ準用ス

附　則（大正十五年制令第十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年四月一日以後出港税ヲ課セサルニ至リタル物品ニシテ大正十五年三月三十一日迄ニ朝鮮出港税令第四條ノ規定ニ依リ出港税ヲ免除シ又ハ朝鮮出港税令第五條ノ規定ニ依リ出港税ノ徵收ヲ猶豫シタルモノニ付テハ仍大正十五年三月三十一日以前ノ例ニ依ル

●朝鮮出港税令施行規則

（大正九年八月二十八日朝鮮總督府令第百十九號）
改正　大正一〇年第四四號、第一〇七號、第一一八號、一二年第一〇六號、一三年第三八號、一五年第二六號、第五五號

朝鮮出港税令施行規則左ノ通定ム

朝鮮出港税令施行規則

第一條　朝鮮出港税令第一條第三號ニ依リ出港税ヲ課スヘキ織物製品ハ左ノ如シ但シ既ニ使用シタルモノヲ除ク

一　衣服

二　帽子

三　帶

四　足袋

五　蚊幮

六　浴巾

七　手巾

八　テーブルクロース

九　窓掛

十　蒲團及寢具

第二條　朝鮮出港税令第一條ノ規定ニ依リ出港税ヲ課スル物品ト同種ノ物品ニシテ出港税ヲ課セサルモノヲ移出セムトスル者ハ證憑書類ヲ税關ニ提出シテ課税品ニ非サル旨ヲ證明スヘシ但シ税關カ其ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　削除

第四條　朝鮮出港税令第四條第一號ニ依リ出港税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ物品ハ左ノ如シ

漂白、仕上、色染、捺染又ハ友禪染ノ爲移出スル織物

第五條　朝鮮出港税令第四條ノ規定ニ依リ出港税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ第九條ノ場合ヲ除クノ外貨物移出ノ際移出ノ目的、再移入ノ方法及場所ヲ税關ニ申出ツヘシ

第六條　朝鮮出港税令第四條ノ規定ニ依リ出港税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ再移入スル場合ニ於テハ引取前税關ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケムトスル者ハ貨物ノ品名及數量、最初ノ移出ノ目的、方法及場所ヲ記載シタル申請書ヲ税關ニ提出スヘシ

税關ハ前項ノ貨物ニ付移入濟ヲ認メタルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ申請者ニ交付スヘシ

第七條　左ニ揭クル物品ニ付朝鮮出港税令第五條ノ規定ニ依リ出港税徵收ノ猶豫ヲ請フ者アルトキハ左ニ揭クル期間之カ徵收ヲ猶豫ス

糖蜜	六月以內
織物	三月以內
酒精及淸酒	三月以內

前項ニ揭ケサル物品ニ付朝鮮出港税令第五條ノ規定ニ依リ出港税徵收ノ猶豫ヲ請ハムトスル者ハ其ノ理由及出港税ヲ納付スヘキ期限ヲ記載シタル申請書ヲ税關ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　削除

第九條　朝鮮出港税令第七條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ移出手續ヲ爲ス場合ニ於テハ郵便物ヲ差出ストキ其ノ宛先及包有品ノ品名、數量、價格、朝鮮出港税令第四條ノ規定ニ依リ出港税ノ免除ヲ得ムトスル物品ニ在リテハ仍移出ノ目的竝再移入ノ方法及場所ヲ記載シタル郵便物移出申告書ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

郵便局所ハ前項ノ郵便物ノ差出人ニ其ノ包有品ノ開示ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ申告シタル再移入ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ移出手續ヲ爲シタル郵便局所ニ申告スヘシ

郵便物移出申告書用紙ハ郵便局所ニ於テ之ヲ交付ス

第十條　前條ノ郵便物ニ出港税ヲ課シタルトキハ郵便局所ハ郵便物移出申告書ニ其ノ税額ヲ記入シ之ヲ郵便物差出人ニ交付ス

前項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル者ハ出港税額ニ相當スル收入印紙ヲ其ノ申告書ニ貼附シ之ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第十一條　前條第一項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三日內ニ出港税ヲ納付セサルトキハ郵便局所ハ郵便物ヲ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ郵便物ヲ還付シタルトキハ其ノ郵便物ニ付爲シタル移出手續ハ無效トス

第十二條　郵便局所ハ第九條ノ郵便物ニ付出港税ノ納付ヲ受ケ又ハ其ノ納付ヲ要セスト認メタルトキハ朝鮮出港税令第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ其ノ郵便物ニ證票ヲ貼附シ之ヲ宛先ニ發送スヘシ

第十三條　第二條及第七條中税關ニ關スル規定ハ第九條ノ郵便物ニ付テハ郵便局所ニ之ヲ準用ス

郵便局所ニ提出スル出港税徵收猶豫ノ申請書ニハ第十條ニ依リ交付ヲ受ケタル郵便物移出申告書ヲ添附スヘシ

第十四條　第九條ノ郵便物ニ付郵便局所ニ提供シタル擔保ヲ出港税ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ所在地ヲ管轄スル税關長之ヲ出港税ニ充ツ

第九條ノ郵便物ニ付過納又ハ誤納シタル出

港税ノ拂戻ハ出港税ヲ納付シタル郵便局所ヲ經由シ其ノ所在地ヲ管轄スル税關長ニ請求スヘシ

第十五條　朝鮮出港税令第六條及第十一條ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼附ハ物品ノ包裝ニ、包裝ナキトキハ其ノ物品ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼附ハ旅客ノ携帶スル用品ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ證印及證票ハ別記樣式ニ依ル

第十六條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外關税法及大正九年法律第五十三號施行規則ハ出港税ニ付之ヲ準用ス

附　則

第十七條　本令ハ朝鮮出港税令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　本令施行後一年內ニ外國產物品ヲ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出セムトスル者ハ朝鮮出港税令附則第二項ノ規定ニ依リ出港税ヲ納付スル場合ヲ除クノ外其ノ輸入又ハ移入ノ時及大正九年法律第五十三號第十一條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ課セラレタルモノニ非サル旨ヲ證スル書類ヲ税關又ハ郵便局所ニ提出スヘシ但シ税關又ハ郵便局所カ其ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

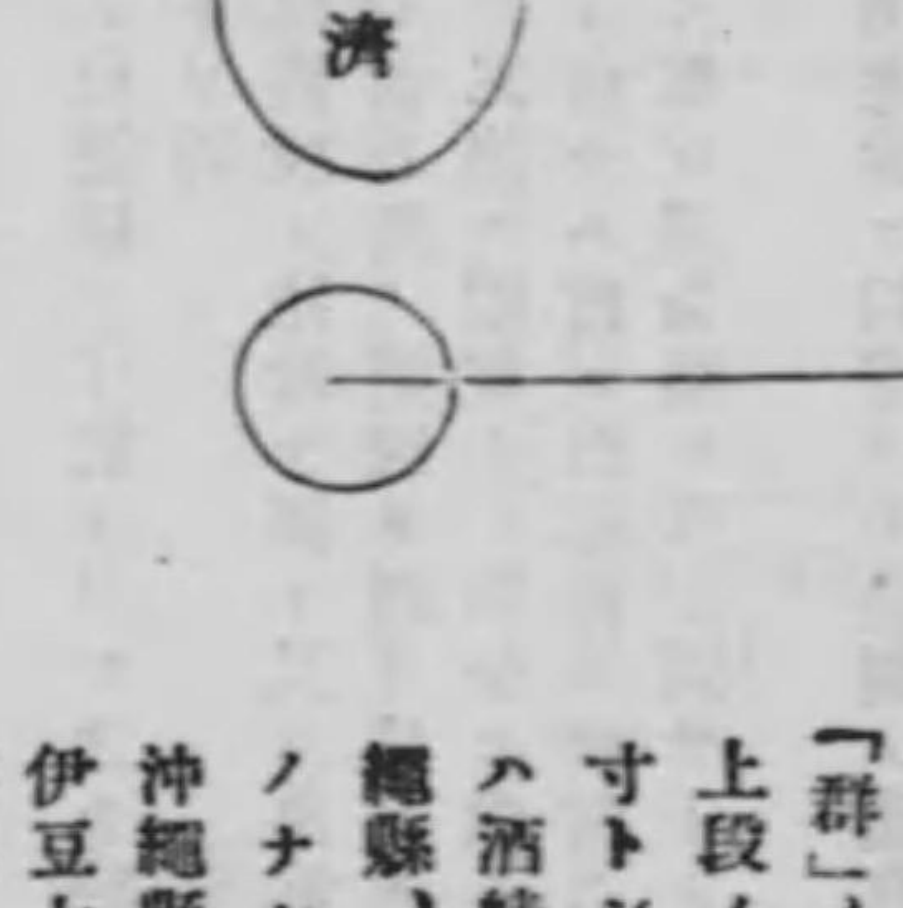
第十五條ノ規定ハ本令施行後一年內ニ內地、臺灣又ハ樺太ニ移出スル外國產物品ニ付之ヲ準用ス

（別記樣式）

納税濟證印及證票（税關ノ使用スルモノ）

箱、莚包、アンペラ包其ノ他類似ノ包裝ニ押捺スル納税濟證印

大形貨物ニ使用スルモノ

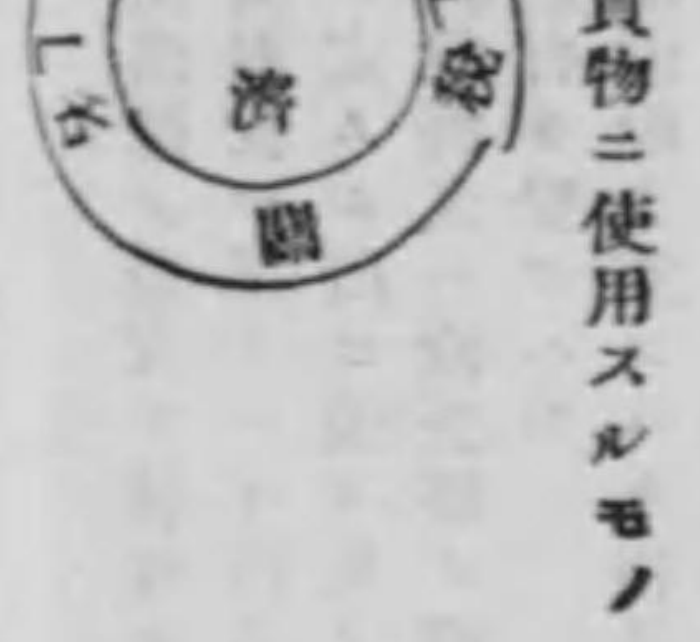


税關名ノ頭字ヲ表ハス例ヘハ仁川税關ハ「仁」群山税關支署ハ「群」ノ如シ

上段ノ印ハ楕圓形長徑四寸短徑三寸、下段ノ印ハ圓形直徑三寸トシ二箇ノ毛判ヲ使用シ印ノ肉色ハ紫トス但シ酒造税法又ハ酒精及酒精含有飲料税法ノ課税品ニ相當スル物品ニシテ沖繩縣、東京府小笠原島、伊豆七島、臺灣又ハ樺太ニ移出スルモノナルトキハ印ノ肉色ハ左ノ如シ

沖繩縣、東京府小笠原島又ハ伊豆七島ニ移出スルモノハ　黑
臺灣ニ移出スルモノハ　赤
樺太ニ移出スルモノハ　青

小形貨物ニ使用スルモノ



圓形直徑一寸二分トシ護謨判ヲ使用ス印ノ肉色ハ前ニ同シ

罎、壺、罐其ノ他證印ノ押捺ニ適セサル包裝ニ貼附スル納税濟證票

輪廓寸法

大形貨物ニ使用スルモノ
縱　三寸二分
横　二寸四分

小形貨物ニ使用スルモノ
縱　二寸五分
横　一寸五分

納税濟證票　㊞

印ハ小形貨物ニ使用スル納税濟證印ヲ使用ス印ノ肉色ハ前ニ同シ

檢査濟證印及證票（税關ノ使用スルモノ）

納税濟證印及證票ノ例ニ依ル但シ「税濟」トアルハ「檢濟」、「納税濟證票」トアルハ「檢査濟證票」トス

郵便局所ノ使用スル納税濟證票及檢査濟證票ハ税關ノ使用スル證票ノ例ニ依ル但シ印ハ郵便局所日附印ヲ使用シ印ノ肉色ハ黑トス

●關税法、大正九年制令第十九號及朝鮮總督府税關貨物取扱人ノ訴願ニ關スル制令

（明治四十五年三月二十八日勅令第二十一號）
改正　大正九年第二二號

朝鮮關税令及明治四十四年制令第二號ニ基ク訴願ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

關税法、大正九年制令第十九號及明治四十四年制令第二號ニ基ク訴願ニ關シテハ訴願法ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣關税規則

（明治四十二年三月三十一日律令第一號）

臺灣關税規則改正ノ件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

臺灣關税規則

船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關シテハ關税法ニ依ル但シ同法中大藏大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行ヒ第九十九條ニ依リ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ種類ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣關税規則施行方

（明治四十四年六月三十日臺灣總督府令第四十五號）

臺灣關税規則ノ施行ニ關シテハ明治三十二年勅令第三百十九號關税法施行規則ニ依ル但シ同令中大藏大臣トアルハ臺灣總督ニ、裁判所トアルハ法院ニ、市町村役場トアルハ區長役場ニ該當スルモノトス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ關税法施行規則第三十四條及第三十五條中改正ニ關スル規定ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月府令第三十八號臺灣關税規則施行規則ハ之ヲ廢止ス

●關税通路

（昭和四年二月十日臺灣總督府令第八號）

關税法第三十九條ノ二ノ通路左ノ通相定ム

一　臺灣官設鐵道竝之ニ接續スル私設鐵道及私設軌道線路
二　淡水港ヨリ淡水河ニ由リ臺北市ニ至ル水路

附　則

本令ハ臺灣開港規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年府令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

●税關手數料、使用料及敷料規則

（昭和三年三月十四日臺灣總督府令第十號）

税關手數料、使用料及敷料規則左ノ通相定ム

税關手數料、使用料及敷料規則

第一條　關税法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二十四條及第三十一條ニ依ル貨物ノ積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料左ノ如シ但シ税關、税關高雄支署及保税工場ヲ除クノ外ハ各之ヲ半額トス

一　日出ヨリ日沒迄　一時間迄毎ニ　金二圓
二　日沒ヨリ後十二時迄　一時間迄毎ニ　金三圓
三　午前零時ヨリ日出迄　一時間迄毎ニ　金五圓

第二條　規則第三十三條ニ依ル税關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル檢査特許手數料左ノ如シ但シ檢査ニ付旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

檢査ニ要スル時間　一時間迄毎ニ　金三圓

第三條　規則第七十四條ニ依ル税關臨時開廳特許手數料左ノ如シ但シ税關、税關高雄支署及保税工場ヲ除クノ外ハ各之ヲ半額トス

一　日出ヨリ日沒迄　一時間迄毎ニ　金十圓
二　日沒ヨリ後十二時迄　一時間迄毎ニ　金十五圓
三　午前零時ヨリ日出迄　一時間迄毎ニ　金二十五圓

第四條　規則第七十五條ニ依ル外國貿易船不開港出入特許手數料左ノ如シ

一回ニ付　金十圓

第五條　規則第七十六條ニ依ル證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ノ手數料左ノ如シ

一　證明　一件毎ニ　金二圓
二　輸出貨物日計表　一月迄毎ニ　金十圓
三　前號以外ノ船舶貨物ニ關スル計表　一件毎ニ　金五十錢

第六條　規則第七十七條ニ依リ貨物藏置ノ爲税關所屬ノ土地又ハ建物ヲ使用スル者ハ貨物搬出ノ際左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ輸出又ハ仲繼スヘキ貨物、關税定率法第七條第一號又ハ第二號ノ物品及旅客ノ携帶セル旅具ハ此ノ限ニ在ラス

一　貨物搬入ノ日ヨリ五日迄　無料
二　貨物搬入ノ日ヨリ六日以上十五日迄　五百斤又ハ十立方尺迄毎ニ一日　土地　金五厘　建物　金一錢
三　貨物搬入ノ日ヨリ十六日以後　五百斤又ハ十立方尺迄毎ニ一日　土地　金一錢　建物　金二錢

第七條　規則第七十七條ニ依リ貨物藏置又ハ貿易設備ノ爲税關所屬ノ土地又ハ建物ヲ專用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

一　土地　一坪迄毎ニ一月　金五十錢
二　建物　一坪迄毎ニ一月　金一圓

前項ノ使用料ニシテ一月未滿ノ端數ノモノアルトキハ十五日迄ハ一月ノ半額トシ十六日以上ハ一月分トス

第八條　規則第七十七條ニ依リ税關所屬ノ艀橋又ハ曳船ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

一　艀橋　船舶一隻ニ付一日迄毎ニ　金五圓
二　曳船　船舶一隻ニ付一回　金三圓乃至金三十圓

第九條　關税法第四十六條又ハ第四十九條ニ依ル收容貨物ノ敷料左ノ如シ

五百斤又ハ十立方尺迄毎ニ一日　金三錢

前項ノ敷料ハ保税地域ノ敷料又ハ使用料ノ外別ニ之ヲ徴收ス

第十條　第六條又ハ第七條ノ使用料ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

第十一條　第六條ノ使用料及第九條ノ敷料ノ計算ニ付テハ重量ニ依リ關税ヲ賦課セラルヘキ貨物ニ在リテハ重量ニ、其ノ他ノ貨物ニ在リテハ容積ニ依ル但シ徴收上便宜ト認ムルトキハ重量ニ依ルヘキモノヲ容積ニ、容積ニ依ルヘキモノヲ重量ニ依ルコトヲ得

第十二條　第六條ノ使用料及第九條ノ敷料ノ日數ノ計算ニ付テハ搬入又ハ收容ノ日ハ之ヲ算入シ搬出又ハ解除ノ日ハ之ヲ算入セス

附　則

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年府令第四十五號及明治四十四年府令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前明治四十二年府令第四十五號ニ依リ既ニ納付シタル使用料ハ第七條ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依ル

●臺灣總督府税關ニ於テ關税法施行規則ニ依リ納付セシムヘキ手數料

（明治四十二年三月三十一日大藏省令第十八號）
改正　明治四二年第四一號、四四年第三二號
昭和三年第五號

臺灣總督府税關ニ於テ關税法施行規則ニ依リ納付セシムヘキ左ノ手數料ニ關シテハ昭和三年臺灣總督府令第十號税關手數料、使用料及敷料規則ヲ準用ス

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　税關及税關支署輸入貨物ニ關スル臨時開廳特許手數料
二　輸入貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料
三　税關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル輸入貨物檢査特許手數料
四　輸入貨物ニ關スル證明手數料
五　輸入貨物ニ關スル計表手數料

●臺灣內地間出入船舶貨物ニ關シ檢査ノ爲特許若ハ計表竝證明手數料

（大正七年四月六日臺灣總督府令第二十號）
改正　昭和三年第二號

臺灣內地間出入船舶貨物ニ關シ税關ノ執務時間外ニ於テ又ハ税關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ檢査ノ爲特許ヲ請フ者ノ[illegible]其ノ手數料ニ付テハ昭和三年府令第十號税關手數料、使用料及敷料規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年四月府令第二十四號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府税關官吏證票樣式

（明治三十七年十一月十五日臺灣總督府令第[illegible]號）

關税法第八十七條ノ税關官吏タル資格ヲ證明スル證票樣式左ノ通相定ム

地質象皮　縱二寸　横一寸五分

表

第　號
證　票
何税關（税關監視所出張所）之印

裏

臺灣總督府税關監視（監吏）何某

●關税定率法第十條施行ニ關スル件

（昭和二年二月二日臺灣總督府令第八號）

大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關シテ

ハ大正十年遞信省令第三十六號及大正十五年遞信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年府令第百二十一號ハ之ヲ廢止ス

●輸入稅免除品使用ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏常時派出ノ手數料ニ關スル件

（大正十年七月三十一日臺灣總督府令第百二十二號）

輸入稅免除品使用ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏常時派出ノ手數料ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　關稅定率法第十條ノ規定ニ依ル輸入稅免除品使用ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏ノ常時派出ヲ受ケムトスル者ハ毎月左ノ手數料ヲ納付スヘシ

稅關官吏ノ派出人員ニ應シ毎一人毎一月金百圓

第二條　前條ノ手數料ハ毎月分ヲ最初派出ノ日ニ應當スル日ニ於テ納付スヘシ但シ最初ノ月ニ係ルモノハ派出ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ手數料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二月分以上ノ手數料ヲ前納シタル場合ハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法中免稅貨物指定ニ關スル大藏省令臺灣ニ適用ノ件

（大正十年九月二十一日臺灣總督府令第百四十八號）

（改正　大正一五年第三四號）

關稅定率法中輸入稅ノ免除又ハ拂戾ニ關スル大藏省令ハ特ニ規定アルモノノ外之ヲ臺灣ニ適用ス

前項ノ省令中大藏大臣トアルハ臺灣總督、稅務署トアルハ州又ハ廳トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件

（大正十一年三月二十八日臺灣總督府令第三十二號）

輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ハ左ノ用途ニ供スルモノニシテ豫メ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

一　鑛業、工業、運輸業又ハ漁業ノ爲メニ使用スル發動機用又ハ汽鑵用

二　製鍊用

三　窯業用

四　金屬加熱用

第二條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

一　輸入セムトスル礦油ノ數量及豫定價格

二　輸入セムトスル礦油ノ用途、貯藏場、使用場所及之ヲ使用スヘキ設備ノ說明

三　仕出港、輸入港及輸入豫定時期

第三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ第一條ノ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ輸入申告ハ礦油使用者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第四條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス但シ之ヲ第一條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ供セムトスル場合ニ於テ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ稅關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク臺灣總督ニ屆出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅定率法第八條第二號ノ二ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ物品指定

（大正十三年五月四日臺灣總督府令第四十二號）

關稅定率法第八條第二號ノ二ニヨリ輸入稅ヲ免除セラルヘキ物品左ノ通指定ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一　酒精ノ容器ニ使用スル木製樽及鐵製「ドラム」

二　糖蜜ノ容器ニ使用スル木製樽

●關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸出貨物ノ容器指定

（大正十三年五月四日臺灣總督府令第四十三號）

關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸出貨物ノ容器左ノ通指定ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一　酒精容器木製樽及鐵製「ドラム」

二　糖蜜容器木製樽及鐵製「ドラム」

●保稅倉庫法施行規則

（昭和二年八月三十一日臺灣總督府令第五十號）

保稅倉庫法施行規則左ノ通相定ム

保稅倉庫法施行規則

第一條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ內國貨物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　輸出スヘキ貨物

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ノ爲使用スヘキ貨物

三　保稅倉庫所在地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認メタル場合ニ於テ稅關長ノ許可シタル貨物

前項第三號ノ貨物ニ付テハ外國貨物ヲ藏置スル爲必要アルトキハ稅關長ハ何時ニテモ其ノ庫出ヲ命スルコトヲ得

第二條　外國貨物ト內國貨物及庫入ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケサル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　他ノ貨物ヲ損傷スル虞アル貨物ハ他ノ貨物ト混同シテ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第四條　發火質、燃燒質又ハ爆發質ノ貨物ハ特ニ其ノ貨物ヲ藏置スル爲設ケタル倉庫ノ外之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第五條　貨物ノ藏置及取扱ニ付テハ總テ稅關官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第六條　貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第一號樣式ニ依ル手入申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

官設保稅倉庫ニ於テ貨物ノ手入ヲ爲サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ手入ヲ終リタルトキ之カ爲異動ヲ生シタル事項ニ付記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第七條　手入ヲ終リタルトキハ第二號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クヘシ

第八條　保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第三號樣式、內國貨物ニ在リテハ第四號樣式ニ依ル庫入申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ庫入ノ際檢査ヲ受クヘキ外國貨物ニ付テハ申告書ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ申告書ニハ貨物ノ仕入書又ハ明細書ヲ添附提出スヘシ

第九條　他人ノ貨物ヲ藏置スヘキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ニ付テハ申請アリタルモノニ限リ庫入ノ際檢査ヲ爲スモノトス

自己ノ貨物ヲ藏置スヘキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ハ庫入ノ際檢査ヲ受クヘシ

第十條　保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ庫移若ハ保稅工場ヘノ移入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第五號樣式ニ依ル庫出申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

保稅倉庫法第一條ノ二第二項ニ依リ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ使用シタル外國貨物又ハ外國貨物ヲ使用シタル內國貨物ヲ庫出セントスルトキハ其ノ使用シタル材料ノ輸入、輸出、積戾、運送、庫移、保稅工場ヘノ移入又ハ庫出申告書ヲ提出シ免許又ハ許可ヲ

受クヘシ

第十一條　藏置貨物ヲ庫移セントスルトキハ第六號樣式ニ依ル庫移申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ外國貨物ノ庫移ヲ爲ス爲運送ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　保稅倉庫法第九條第二項但書ノ規定ニ依リ稅關ノ承認ヲ受ケントスルトキハ滅失シタル貨物ノ品名、個數、數量、價格、滅失ノ年月日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ貨物ノ滅失シタル地所轄ノ稅關又ハ警察官署ノ滅失證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

官設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ取出ヲ終リタルトキ其ノ見本ノ數量及取出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第十四條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シタルトキハ稅關長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス

預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一　貨物ノ品名、品質、記號、番號、包裝ノ種類、個數及數量

二　貨主ノ住所及氏名又ハ商號

三　庫入年月日

四　倉庫所在地及倉庫番號

五　庫敷料

六　預證券ノ作成年月日

外國貨物ノ預證券ニハ第六號ノ外左ノ事項ヲ記載ス

七　庫入ノ際ニ於ケル檢査ノ濟否及檢査ヲ受ケタル貨物ニ在リテハ其ノ輸入稅額又ハ輸入稅率

第十五條　預證券ノ所持人ハ稅關ニ對シ預證券ノ分割ヲ請フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前ノ預證券ヲ稅關ニ返還スルコトヲ要ス

第十六條　預證券ノ裏書ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス但シ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ一部ヲ庫出セントスルトキハ當該貨物ノ預證券ヲ稅關ニ呈示シ庫出ヲ終リタルトキ庫出シタル貨物ノ個數、數量及庫出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クヘシ

第十八條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタル場合ニ於テ新證券ノ交付ヲ請ハントスルトキハ再交付申請書ニ除權判決書ノ謄本ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル稅關ニ提出スヘシ

第十九條　汚損其ノ他ノ事由ニ因リ預證券ノ書換ヲ請ハントスル者ハ書換申請書ニ預證券ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル稅關ニ提出スヘシ

第二十條　預證券ノ分割、再交付又ハ書換ヲ請フ者ハ一通ニ付手數料三十錢ヲ納付スヘシ

第二十一條　官設保稅倉庫ノ藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アル場合ニ於テ其ノ當事者ヨリ藏置期限ノ延期ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期限延期申請書ニ訴訟ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添附シテ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ延期豫定期限內ニ訴訟事件終結セサルトキハ更ニ其ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ藏置シ又ハ官設保稅倉庫ニ於テ藏置貨物ノ手入ヲ爲ス者ハ官設保稅倉庫庫敷料規則ニ依リ庫敷料ヲ納付スヘシ

第二十三條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、倉庫ノ構造、棟數、坪數、藏置スヘキ貨物ノ種類及特許年限、改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスル者ニ在リテハ其ノ手入ノ種類及其ノ手入ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ニ倉庫及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ稅關長ニ出願スヘシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スヘシ

他人ノ貨物ヲ藏置スヘキ保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ貨物保管規則及庫敷料ノ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十四條　私設保稅倉庫業ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ三十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ三十年以內トス

第二十五條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ特許ヲ受ケタル後遲滯ナク保稅倉庫法第二十一條ニ依ル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十六條　前條ニ依ル擔保ノ價額ハ倉庫ノ面積三百坪迄ハ二千圓トシ三百坪ヲ超ユルトキハ二百坪迄ヲ增ス每ニ千圓ヲ加ヘタルモノトス

第二十七條　私設保稅倉庫坪數ノ增加ニ因リ擔保ノ增加ヲ必要トスルトキハ庫主ハ遲滯ナク其ノ增加額ニ相當スル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十八條　私設保稅倉庫坪數ノ減少ニ因リ擔保ニ過剩ヲ生スルトキハ庫主ハ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出テ擔保ノ減少ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　私設保稅倉庫ヲ改築シ若ハ構造ヲ變更シ又ハ之ヲ增設シ若ハ減少セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クヘシ之ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同シ

前項ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ增設若ハ減少ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際稅關ニ屆出テ其ノ倉庫ノ檢査ヲ受クヘシ

第三十條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ツヘシ

第三十一條　保稅倉庫業ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼カントスル者ハ第二十三條ノ規定ニ準據シ稅關長ニ出願スヘシ

第三十二條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ種類、私設保稅倉庫ニ於テ爲シ得ヘキ手入ノ種類又ハ手入ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條　私設保稅倉庫又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ庫主ハ直ニ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出テ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

藏置貨物腐敗、損傷其ノ他ノ事由ニ因リ滅却ヲ必要トスルトキハ稅關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十四條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ庫主ハ其ノ貨物

ニ對スル輸入稅ヲ納付スヘシ

第三十五條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保管上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十六條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十七條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第三十八條　私設保稅倉庫ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クヘシ

第三十九條　私設保稅倉庫ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クヘシ

第四十條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十一條　官設保稅倉庫內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スヘキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出テ承認ヲ受クヘシ

第四十二條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保稅倉庫ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第四十三條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ藏置貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　庫入又ハ庫出シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及庫入又ハ庫出ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物ニ在リテハ其ノ品名及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

第四十四條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十五條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ保稅倉庫ノ開庫ヲ必要トスルトキハ第九號樣式ニ依ル臨時開庫申請書ヲ稅關ニ提出シ特許ヲ受クヘシ但シ關稅法第二十六條及關稅法施行規則第七十四條ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ開庫一時間迄每ニ手數料一圓ヲ納付スヘシ

第四十七條　保稅倉庫法第十七條及第二十七條ノ公告ハ當該稅關ニ揭示スル外三日以上府報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十八條　貨物庫入ノ日ヨリ起算スル期間ハ庫入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第四十九條　貨主藏置貨物ノ調査ヲ爲シ又ハ其ノ保存上必要ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

第五十條　保稅倉庫內ニハ火氣ヲ入ルルコトヲ得ス燈火ヲ必要トスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケタルモノヲ用ヰヘシ

第五十一條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スヘキモノハ貨物庫出ノ際之ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年府令第九號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入許可書

許可番號

手入許可年月日

手入ヲ爲スヘキ貨物						手入ニ使用スヘキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物					外國貨物	內國貨物	

申請者氏名

保稅倉庫藏置貨物手入申請書

申請番號

庫主氏名捺印

受付年月日

手入ヲ爲スヘキ貨物							手入豫定期間	手入ニ使用スヘキ貨物						
庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	手入ノ種類及目的		庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	使用ノ目的
			外國貨物	內國貨物							外國貨物	內國貨物		

申請者氏名捺印

住所

備考

申請年月日

第二號樣式

保稅倉庫藏置貨物手入濟申告書

申告番號

受付年月日

手入ヲ爲シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲生シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ニ使用シタル貨物				
						手入申請番號	外國貨物名	內國貨物名	數量	價格

申告者氏名捺印

住所

備考

申告年月日

第三號樣式

外國貨物庫入許可書

申告番號

庫入番號

保稅倉庫名

積載船舶

庫入許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	稅目番號

一箇ノ重量

申告者氏名

檢査貨物指定

外國貨物庫入申告書

積載船名

船舶入港年月日

倉庫番號

申告番號

船舶國籍

檢査申請年月日

受付年月日

庫主氏名捺印

庫入番號

船荷證券番號	積出地	仕入地	產出地又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	申告價格	鑑定價格	稅目番號	稅率	稅額

申告者氏名捺印

國籍

申告年月日

住所

一箇ノ重量

最初庫入年月日

庫入許可年月日

備考

製產原地證明書提出ノ有無

庶務課

檢査課

監視部

第四號様式

內國貨物庫入申告書

倉庫番號　　申告番號
庫主氏名捺印　　庫入番號
受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	庫入ノ目的

申告者氏名捺印	國籍	最初庫入年月日	備考	庶務課
申告年月日	住所	庫入許可年月日		檢査課
				監視部

內國貨物庫入許可書

申告番號
庫入番號
保稅倉庫名　　庫入許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量

申告者氏名

第五號様式

庫出申告書

申告番號
受付年月日

庫入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	庫出ノ目的
			外國貨物	內國貨物			

申告者氏名捺印	住所	備考
申告年月日		

庫出許可書

許可番號
庫出許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

第六號様式

庫移申告書

積載船名　　船舶入港年月日　　倉庫番號　　申告番號
船舶國籍　　庫主氏名捺印　　庫入番號
檢査申請年月日　受付年月日

檢査貨物指定

船荷證券番號	積出地	仕入地	產出地又ハ製造地	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	申告價格	鑑定價格	稅目番號	稅率	稅額

申告者氏名捺印	國籍	一箇ノ重量	最初庫入年月日	備考	製產原地證明書提出ノ有無	庶務課
申告年月日	住所		庫入許可年月日			檢査課
						監視部

庫移許可書

保稅倉庫名　　申告番號
積載船名　　庫入番號
庫移許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	稅目番號

申告者氏名	一箇ノ重量

第七號様式

見本取出申請書

保稅倉庫名　　申請番號
受付年月日

庫入年月日	預證券番號	記號及番號	品名	數量

申請者氏名捺印　　住所
申請年月日

見本取出許可書

預證券番號　　許可番號
保稅倉庫名
庫入年月日　　取出許可年月日

記號及番號	品名	數量

申請者氏名

第八號様式

藏置期限延期申請書

庫入許可年月日　　申請番號
庫入番號　　受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延期スヘキ期限	出訴年月日事由及出訴シタル院名
		外國貨物	內國貨物				

藏置期限延期許可書

許可番號
延期許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延期スヘキ期限
		外國貨物	內國貨物			

第九號樣式

申請者氏名

保税倉庫臨時開庫特許書

特許番號	
倉庫番號	
開庫期間	
事由	
手數料	
申請者氏名	

特許年月日

申請者氏名捺印
申請年月日

住所

備考

保税倉庫臨時開庫申請書

受付年月日

收入印紙貼用欄

受付番號

倉庫番號	
開庫期間	
事由	
手數料	
申請者氏名捺印 申請年月日	

住所

●官設保税倉庫敷料定率表

（大正十年二月一日臺灣總督府令第十四號）

官設保税倉庫敷料定率表左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官設保税倉庫敷料定率表

番號	品名	一箇月庫敷料	圓
一	麥芽	毎立方尺	〇一五
二	穀類、豆類及種子	毎百斤	〇三〇
三	穀粉及澱粉類		
	一　袋入ノモノ	毎百斤	〇三〇
	二　其ノ他	毎立方尺	〇一五
四	蔬菜、果實及核子	同	〇三〇
五	茶、珈琲及コーコー	同	〇三〇
六	乳製品（人造バターヲ含ム）	同	〇三〇
七	粗糖	毎百斤	〇五〇
八	精糖	同	〇四〇
九	酒類		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	〇三〇
	二　其ノ他	同	〇四〇
一〇	毛皮及革類		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	二〇〇
	二　其ノ他	毎百斤	三〇〇
一一	油、脂蠟及其ノ製品		
	一　樽入又ハ罐入ノモノ	毎立方尺	〇四〇
	二　其ノ他	同	〇三〇
一二	藥材、化學藥、製藥及其ノ調合品		
	一　樽入又ハ罐入ノモノ	毎立方尺	〇四〇
	二　其ノ他	同	〇三〇
一三	染料及顏料		
	一　箱入ノモノ	毎立方尺	〇八〇
	二　樽入又ハ罐入ノモノ	同	一〇〇
	三　其ノ他	同	〇三〇
一四	塗料及塡充料	同	〇五〇
一五	絲縷及繩索	同	〇四〇
一六	布帛及布帛製品（衣類ヲ含ム）	同	〇五〇
一七	製紙用パルプ及紙類	同	〇三〇
一八	寫眞用紙	同	〇六〇
一九	紙製品及繪畫	同	〇三〇
二〇	寫眞用乾板	同	〇四〇
二一	硝子板	同	〇二〇
二二	其ノ他ノ硝子及同製品、陶磁器	同	〇三〇
二三	鐵		
	一　塊、條、竿、板及線（卑金屬ヲ鍍シタルモノ共）	毎百斤	〇四〇
	二　線索、筒及管	同	〇八〇
二四	銅	同	一〇〇
二五	錫	同	一二〇
二六	鉛及亞鉛	同	〇五〇
二七	釘、リベット、螺旋釘類	毎立方尺	〇三〇
二八	金屬製品	同	〇五〇
二九	置時計及掛時計	同	〇五〇
三〇	車輛、機械類及同部分品	同	〇五〇
三一	籐（割リタルモノ）	毎百斤	〇六〇
三二	懷中時計及同部分品	從價千分ノ五	
三三	寶石、眞珠、珊瑚、同製品、貴金屬製品、貴金屬ヲ鍍シタル細貨類	同	

本表ニ掲ケサル物品ハ毎立方尺一月四錢ノ庫敷料ヲ徴收ス

一月未滿ノ庫敷料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徴收ス

一立方尺未滿ハ一立方尺百斤未滿ハ百斤トシテ計算ス

庫敷料ハ貨物庫出ノトキ之ヲ徴收ス

●保税工場法施行規則

（昭和二年八月三十一日臺灣總督府令第五十一號）

保税工場法施行規則左ノ通定ム

保税工場法施行規則

第一條　保税工場ニ貨物ヲ移入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第一號樣式、內國貨物ニ在リテハ第二號樣式ニ依ル移入申告書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　外國貨物ト內國貨物及作業ノ際税關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケサル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ税關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第三號樣式ニ依ル作業申告書ヲ税關ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

保税工場法第五條第一項但書ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ貨物ノ原料ニ付テハ作業ノ際税關ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　作業ヲ終リタルトキハ加工又ハ製造ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四號樣式ニ依ル加工製造濟申告書ヲ、手入ヲ爲シタル場合ニ於テハ第五號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク税關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クヘシ

第五條　內國貨物ノミヲ以テ作業ヲ爲ス場合ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前二條ノ手續ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　內國貨物ノミヲ以テスル作業ハ外國貨物又ハ外國貨物ト內國貨物トヲ以テスル作業ト區別シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　保税工場ヨリ貨物ヲ移出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ他ノ保税工場ヘノ移入若ハ保税倉庫ニ庫入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第六號樣式ニ依ル移出申告書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第八條　保税工場法第五條第一項但書ノ適用ヲ受クヘキ貨物ノ輸入申告書ニハ其ノ貨物ニ使用シタル原料ノ品名、箇數、數量、價格、作業承認年月日及其ノ承認番號ヲ附記スヘシ

第九條　保税工場法第五條第二項ノ規定ニ依リ徴收スヘキ利子ニ相當スル金額ハ原料ニ付檢査ヲ受ケタル日ヨリ起算シ輸入申告ノ日ニ至ル迄輸入税額ニ對スル年六分ノ割合ヲ以テ計算シタル金額トシ輸入税ニ加算シテ之ヲ徴收ス

第十條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第十一條　保税工場法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期間延長申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第十二條　官設保税工場ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

一　重量ニ依リ輸入税ヲ賦課セラルヘキ貨物　五十斤迄毎ニ一月二錢
二　前號以外ノ貨物　一立方尺迄毎ニ一月二錢
三　土地又ハ建物ヲ專用スルトキ　一坪迄毎ニ一月二圓

前項第一號及第二號ノ使用料ハ徴收上便宜ト認ムルトキハ第二號ノ定率ヲ第一號ノ貨物ニ、第一號ノ定率ヲ第二號ノ貨物ニ適用スルコトヲ得

第一項第三號ノ使用料ハ保税工場ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

第十三條　一月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徴收ス

第十四條　第十二條第一項第一號及第二號ノ使用料ハ貨物移出ノ際之ヲ納付シ同項第三號ノ使用料ハ一月毎ニ之ヲ前納スヘシ

第十五條　私設保税工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、建設物ノ構造、棟數、坪數、作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スヘキ貨物ノ種類竝特許年限ヲ記シタル書面ニ地區、工場及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ税關長ニ出願スヘシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スヘシ

他人ヲシテ使用セシムヘキ私設保税工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ使用規則及使用料ノ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第十六條　保税工場ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲サントスル者ハ其ノ作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ヲ以テ税關長ニ出願スヘシ

第十七條　私設保税工場ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ二十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ

得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ二十年以內トス

第十八條　私設保稅工場ノ地區ノ面積若ハ建設物ヲ增減シ又ハ建設物ヲ改築シ若ハ其ノ構造ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クヘシ建設物ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同シ

前項ノ建築物ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ其ノ增減ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際稅關ニ屆出テ其ノ建設物ノ檢査ヲ受クヘシ

第十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ツヘシ

第二十條　私設保稅工場設置ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼カントスル者ハ第十五條ノ規定ニ準據シ稅關長ニ出願スヘシ

第二十一條　私設保稅工場ノ作業ノ種類又ハ作業ニ使用スヘキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條　私設保稅工場又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出テ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

第二十三條　私設保稅工場ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ貨物ニ對スル輸入稅ヲ納付スヘシ

第二十四條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保全上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十六條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第二十七條　私設保稅工場ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クヘシ

第二十八條　私設保稅工場ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クヘシ

第二十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第三十條　官設保稅工場內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スヘキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十一條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保稅工場ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第三十二條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　保稅工場ニ移入シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及移入ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

三　加工又ハ製造ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

四　加工又ハ製造シタル貨物竝副產物ノ品名、數量及檢査濟ノ年月日

五　保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ課稅セラレタル貨物ニ在リテハ其ノ品名、箇數、數量、價格及其ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

六　保稅工場ヨリ移出シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、移出ノ目的及移出ノ年月日

第三十三條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スヘシ

第三十四條　保稅工場法第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十七條ノ公告ハ當該稅關ニ揭示スル外三日以上府報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十五條　官設保稅工場ニ藏置シタル貨物ニ保ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スヘキモノハ貨物移出ノ際之ヲ納付スヘシ

第三十六條　稅關官吏ハ貨物ノ加工又ハ製造ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ保稅工場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年府令第十號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

外國貨物移入許可書

許可番號

移入許可年月日

積載船名	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	立方尺又ハ斤量

申告者氏名

外國貨物移入申告書

申告番號

受付年月日

積載船名

船舶國籍

船舶入港年月日

船荷證券番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	立方尺又ハ斤量	移入ノ目的	藏置場所

申告者氏名捺印

申告年月日

住所

備考

第二號樣式

內國貨物移入許可書

許可番號

移入許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	立方尺又ハ斤量

申告者氏名

內國貨物移入申告書

申告番號

受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名	數量	價格	立方尺又ハ斤量	移入ノ目的	藏置場所

申告者氏名捺印

申告年月日

住所

備考

第三號樣式

保稅工場貨物作業承認書

承認番號

作業承認年月日

作業ヲ爲スヘキ貨物						作業ニ使用スヘキ貨物				
記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	作業ノ種類	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物					外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

保稅工場貨物作業申告書

申告番號

受付年月日

作業ヲ爲スヘキ貨物								作業ニ使用スヘキ貨物						
移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	作業ノ種類	使用ノ目的	移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	使用ノ目的
			外國貨物	內國貨物							外國貨物	內國貨物		

申告者氏名捺印

申告年月日

住所

備考

保税工場貨物手入済申告書

申告番號

受付年月日

手入ヲ爲シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ノ爲生シタル貨物ノ品名	數量	價格	手入ニ使用シタル貨物				
						作業申告番號	外國貨物品名	內國貨物品名	數量	價格

申告者氏名捺印　　住所

申告年月日

備考

第五號樣式

保税工場貨物加工製造済申告書

申告番號

受付年月日

加工製造品名	數量	價格	副産物ノ品名	數量	價格	作業ニ使用シタル貨物				
						作業申告番號	外國貨物品名	內國貨物品名	數量	價格

申告者氏名捺印　　住所

申告年月日

備考

第四號樣式

移出許可書

許可番號

移出許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量
		外國貨物	內國貨物	

申告者氏名

移出申告書

申告番號

受付年月日

移入申告番號	記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	移出ノ目的
			外國貨物	內國貨物			

申告者氏名捺印　　住所

申告年月日

備考

第六號樣式

見本取出許可書

保税工場名

移入年月日

許可番號

取出許可年月日

記號及番號	品名	數量

申請者氏名

見本取出申請書

保税工場名

申請番號

受付年月日

移入年月日	記號及番號	品名	數量

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

第七號樣式

藏置期間延長許可書

許可番號

延長許可年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間
		外國貨物	內國貨物			

申請者氏名

藏置期間延長申請書

申請番號

移入許可年月日
許可番號

受付年月日

記號及番號	包裝ノ種類及箇數	品名		數量	價格	延長スヘキ期間	事由
		外國貨物	內國貨物				

申請者氏名捺印　　住所

申請年月日

備考

第八號樣式

●保税工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ輸入税ヲ徵收セラルヘキ外國貨物ニ關スル件

（昭和三年一月十三日臺灣總督府令第一號）

保税工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ輸入税ヲ徵收セラルヘキ外國貨物ニ關スル件左ノ通相定ム

保税工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ輸入税ヲ徵收セラルヘキ外國貨物ハ左ノ各號ニ揭クルモノトス

一　亞鉛鍍鐵板
二　鐵ノ釘又ハ線
三　銅又ハ眞鍮ノ釘又ハ線
四　琺瑯鐵器
五　葉鐵製罐（罐詰用ノモノ）

前項ノ規定ニ依リ輸入税ヲ徵收セラルヘキ外國貨物ヲ輸入スル場合ニ於テハ其ノ輸入スヘキ貨物ノ製造ニ因リ生シタル副産物ノ輸入ニ付テモ前項ノ例ニ依リ其ノ輸入税ヲ徵收ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設保税倉庫營業【假置場】私設等ノ特許手數料ニ關スル件

（大正三年三月三十一日臺灣總督府令第二十二號　改正　大正九年第一八九號）

私設保税倉庫營業、假置場私設等ノ特許手數料ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　私設保税倉庫營業若ハ假置場私設ノ特許又ハ常時使用ノ爲輸出入貨物ノ上屋若ハ陸揚船積ノ場所ヲ設クルノ特許ヲ受ケタル者ハ毎月左ノ特許手數料ヲ納付スヘシ税關官吏ノ派出ヲ要スル人員ニ應シ毎一人

毎一月金百圓

第二條　特許手數料ハ毎月一月分ヲ特許ノ日附ニ應當スル日ニ於テ納付スヘシ但シ其ノ最初ノ月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ特許手數料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二月分以上ノ特許手數料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣關税規則ニ依ル訴願ニ關スル律令

（明治三十四年十月二日律令第十三號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣關税規則竝臺灣輸出税及出港税規則ニ依ル訴願ニ關スル律令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣關税規則【竝臺灣輸出税及出港税規則】ニ依ル訴願ニ關シテハ明治二十三年法律第百五號訴願法ヲ準用ス

●樺太酒類出港税法

（大正元年八月十二日法律第一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太酒類出港税法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

樺太酒類出港税法

第一條　本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造税法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料税法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

第二條　樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造税法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料税法ノ造石税ト同一ノ税率ニ依リ出港税ヲ課ス

第三條　酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス

第四條　酒類ヲ移出セムトスル者出港税ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

第五條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ收税官吏ニ屆出ツヘシ

第六條　收税官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收税官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第七條　出港税ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ處分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第八條　第五條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　收税官吏又ハ警察官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正元年勅令第八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●樺太酒類出港税法施行規則

（大正元年八月二十日勅令第九號　改正　大正一一年第三二〇號）

朕樺太酒類出港税法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

樺太酒類出港税法施行規則

第一條　樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルハ開港ニ由ルヘシ

第二條　酒類ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄樺太廳支廳ニ提出スヘシ

一　酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量

二　容器ノ種類及箇數

三　積載船舶ノ名稱

四　移出先及移出ノ日

五　移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三條　前條ノ申告アリタルトキハ所轄樺太廳支廳ハ酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ出港税ヲ徴收スヘシ

第四條　船積免狀ハ所轄樺太廳支廳之ヲ交付スヘシ

船積免狀ノ樣式ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正元年八月樺太廳令第六號）

樺太酒類出港税法施行規則第四條ニ依リ船積免狀ノ樣式左ノ通リ相定ム

本令ハ酒類出港税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

契印

船　積　免　狀

第「何」號	
移出者ノ住所氏名又ハ名稱	
酒類ノ種目及數量	
容器ノ種類及箇數	
含有純酒精ノ容量	
出港税納付濟年月日	
積載スヘキ船舶ノ名稱	
移出年月日	

樺太酒類出港税法ニ依リ本免狀ヲ交付ス

大正「何」年「何」月「何」日

樺太廳「何」支廳印

注意

一、本免狀ハ酒類船積ノ際船長ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

二、積載スヘキ船舶又ハ移出年月日ノ變更ヲ要スルトキハ本免狀ヲ返付シ其書換ヲ求ムヘシ

●樺太酒類出港税法及間接國税犯則者處分法ニ依ル樺太廳又ハ樺太廳支廳收税官吏ノ携帶スル證票樣式

（大正元年八月樺太廳令第七號　改正　大正一〇年第二六號）

樺太酒類出港税法第六條及間接國税犯則者處分法第四條ニ依リ樺太廳又ハ樺太廳支廳收税官吏ノ携帶スル證票ノ樣式左ノ通相定ム

本令ハ酒類出港税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

用紙厚質白紙　縱四寸　横二寸五分

契印

第「何」號

樺太廳（又ハ何支廳）

官　氏　名

收税官吏之章

樺太廳（又ハ樺太廳何支廳）

樺太廳（又ハ樺太廳何支廳）印

●關東州租借地税關假規則

（明治四十年六月二十六日關東都督府令第三十八號　改正　明治四〇年第四二號、第四四號、第五三號、四三年第二六號、大正三年第二七號）

關東州租借地税關假規則左ノ通リ相定ム

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州租借地税關假規則

第一條　外國ヨリ輸入セル外國貨物又ハ外國ヨリ輸入セル外國貨物ヲ以テ製造シタル物品ヲ內地ニ輸送セントスルトキハ輸入税ヲ納付スヘシ

【清國】通商港ヨリ輸入セル外國貨物ヲ內地ニ輸送セントスルトキ納税濟證ヲ所持セサルモノハ輸入税ヲ納付スヘシ

【清國】通商港ヨリ輸入セル外國貨物ニシテ租借地內ニ於テ消費セラレタルトキ若ハ租借地ヨリ再輸出セラレタルトキハ納税地ノ税關ニ請求シ税金ノ拂戾ヲ受クルコトヲ得

但シ仕出港税關ノ發行ニ係ル納税濟證ヲ所持スル場合ニ限ル

第二條　【清國】通商港ヨリ輸入セル【清國】貨物ヲ內地ニ輸送セントスルトキ納税濟證ヲ所持スルモノハ沿岸貿易税ヲ納付スヘシ

第二條ノ一　租借地ノ生產物又ハ租借地ノ生產物ヲ以テ製造シタル物品ヲ內地ニ輸送セントスルトキハ輸入税ヲ納付スヘシ

第三條　【清國】通商港ヨリ【清國】貨物ヲ輸入セルトキ納税濟證ヲ所持セサルモノハ輸入税金ニ相當スル金額ヲ税關ニ供託スヘシ若不正ノ行爲アリタルトキハ貨物竝供託金ヲ沒收スルコトアルヘシ

第四條　陸路租借地ニ輸入セラレタル【清國】貨物ヲ輸出セントスルトキハ輸出税ヲ納付スヘシ

第五條　租借地ノ生產物及租借地ノ生產物若ハ外國ヨリ輸入セル材料ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出セントスルトキハ輸出税ヲ納付スルニ及ハス但シ日本官憲ノ發行ニ係ル產地證明書ヲ所持スル場合ニ限ル

第六條　內地又ハ海路【清國】港ヨリ輸入セル材料ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出セントスルトキハ輸出者ノ撰擇ニ依リ材料若ハ製造品ニ對シ輸出税ヲ納付スヘシ

第七條　【清國】通商港ニ於テ輸入税ヲ納付シタル外國貨物若ハ輸出税ヲ納付シタル【清國】貨物ヲ大連ヨリ再輸出セントスルトキハ輸出税ヲ納付スルニ及ハス

第八條　內地ヨリ又ハ內地ニ向テ內地通過規則ニ依リ貨物ヲ輸送セントスルトキハ輸出税又ハ輸入税ノ外ニ通過税ヲ納付スヘシ

第九條　海路又ハ陸路ヨリ租借地內ニ阿片ヲ輸入セントスルトキハ直ニ税關ニ屆ケ出ツヘシ

第十條　阿片ヲ內地ニ輸送セントスルトキハ輸入税竝ニ釐金ヲ納付スヘシ但シ【清國】通商港ヨリ輸入セル外國又ハ【清國】阿片ニシテ納税濟證ヲ所持スルトキ若ハ戶部證票ノ貼付アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　阿片ヲ內地ニ輸送セントスルトキハ税金ノ有無ヲ問ハス税關ニ申請シ證票ノ貼付竝關印ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條　內地又ハ【清國】通商港ヨリ【清國】阿片ヲ輸入セントスルトキ納税濟證ヲ所持セサルモノハ統税ヲ納付スヘシ輸入阿片ニ戶部證票ノ貼付アラサルトキ亦同シ

第十三條　武器、彈藥、爆發物及其ノ製造材料ヲ輸入セントスルトキハ税關ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ船卸又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　【清國】官憲ノ發行ニ係ル護照ヲ所持スル者ニ非サレハ之ヲ內地ニ輸送シ若ハ【清國】港ニ輸出スルコトヲ得ス

第十五條　前二條ノ規定ハ日本陸海軍又ハ警察ノ用ニ供スル武器、彈藥其ノ他ニ之ヲ適用セス

第十六條　船舶入港シタルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ遲滯ナク船舶證書又ハ領事報告書竝輸入積荷目錄ヲ税關ニ提出スヘシ輸入積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、箇數、數量、噸量及荷受人ヲ記載シ船長又ハ其ノ代理者之ニ署名スヘシ

內地仕向ノ積載貨物ノ數量獨立貨物トシテ取扱フニ足ルモノナルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ內地行及租借地行ヲ區分シ各積荷目錄ヲ調製スヘシ

積荷目錄ハ其ノ提出後二十四時間以內ニ限リ訂正補足スルコトヲ得

第十七條　輸入貨物ノ荷受人ハ其ノ貨物ノ內地行ナルト租借地行ナルトヲ問ハス船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、產出地又ハ製造地、記號番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル報告書ヲ税關ニ提出スヘシ

第十八條　船舶出港セントスルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ輸出積荷目錄ヲ作製シ出港許可申請前少クモ二時間ニ之ヲ税關ニ提出スヘシ輸出積荷目錄ニ記載スヘキ事項ハ輸入積荷目錄ノ記載事項ニ同シ輸出積荷目錄ニハ船長又ハ其ノ代理者之ニ署名スヘシ

第十九條　貨物ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告書ヲ税關ニ提出シ貨物ノ檢査ヲ受クヘシ

貨物ノ檢査終了シタルトキハ申告者ハ税關ノ交付スル關税納入告知書ニ記載セル税金ヲ税關指定ノ銀行ニ納付シ其ノ領收證ヲ税關ニ提出シ船積許可書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十條　出港許可書ハ一切ノ税金ヲ完納シタル後ニ非サレハ之ヲ發行セス

第二十一條　船積許可書ノ交付ヲ受ケタル其ノ貨物ヲ船積スルコト能ハサルトキハ遲滯ナク税關ニ屆出テ船積停止通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十二條　或ル船舶ヨリ他ノ船舶ニ貨物ノ船移シヲ爲サントスルトキハ税關ノ許可ヲ受クヘシ若許可ヲ得スシテ船移ヲ爲シタルトキハ其ノ貨物ヲ沒收シ船長ヲ罰金ニ處スルコトアルヘシ

貨物ノ船移ハ積荷目錄ニ符合シ且ツ原包裝ノ儘ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　税關ニ於テ適用スル税率左ノ如シ

一　輸入外國貨物ニ對シテハ千九百二年ノ改正輸入税率

二　輸出入【清國】貨物ニ對シテハ舊清國税率

「ジャンク」ニ依リ輸出入スル貨物ニ對シ特別ノ税率ヲ適用スル場合ニハ別ニ之ヲ告示ス

第二十四條　税關長ノ罰金又ハ沒收ノ處分ニ對シ不服ヲ申立ツル者アルトキハ千八百六十八年五月三十一日北京ニ於テ協定セラレタル罰金及沒收ニ關スル會審規則ノ精神ニ基キ處理スルモノトス

第二十五條　税關執務時間ハ日曜日及祭日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ貨物ノ檢査場ハ午前八時ヨリ午後四時迄トス

第二十六條　午前六時前午後六時後若ハ日曜日及祭日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非ラサレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス

但シ旅客ノ手荷物及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

特許手數料左ノ如シ

午前六時前	海關兩	十兩
午後六時ヨリ午後十二時マテ	同	十兩
午後六時ヨリ翌日午前六時マテ	同	二十兩
日曜日（終日）	同	四十兩
日曜日（半日）	同	二十兩
祭　日（終日）	同	四十兩
祭　日（半日）	同	二十兩

第二十六條ノ一　大連税關ニ納付スヘキ海關兩ノ換算率ハ牛莊建相場ニ依リ之ヲ定ム

第二十七條　税關事務ニ關スル照會通信ハ總テ税關長ニ提出スヘシ

附　則

第二十八條　此ノ規則ニ於テ內地ト稱スルハ租借地境界外ノ【清國】領土ヲ云フ

（別表）

品名	單位	稅率			
		海關兩	錢	分	厘
各種穀物	每擔			四	○
粟、高粱、玉蜀黍	每擔			一	○
大豆、小豆	每擔			三	○
豆油	每擔		一	五	○
細磁器	每百支	一	○	○	○
粗磁器	每百支		六	四	○
土器	每千箇		一	四	○
羅海紙	每百塊		六	二	○
茶、綠茶、紅茶	每擔		七	○	○
各種【淸國】產綿布	每擔		七	○	○

（明治四十一年十二月二十八日關東都督府告示第百二十號）

明治四十二年一月一日以降關東州及滿洲內地輸出入貨物ニ就テハ關東州租借地稅關假規則第十六條乃至第十九條ニ規定セル事項ヲ具シ左記手續ニ依リ大連海關ニ提出スヘシ

一　關東州租借地稅關假規則第十七條ニ依ル荷受人ノ報告書ハ二通ヲ提出スヘシ

二　同規則第十九條ニ依ル輸出貨物申告書ニハ產地又ハ製造地ヲ記入シ二通ヲ提出スヘシ

三　滿洲內地ニ輸出スル貨物ニ就テハ同規則第十七條ノ事項ヲ具シタル申告書ヲ大連海關ニ提出シ檢査ヲ經タル後更ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

四　前各項ノ報告書及申告書各一通ハ日本文字又ハ漢字ヲ以テ記載シ價額又ハ數量ヲ表示スル數字ハ漢字又ハ亞剌比亞數字ノ外用ウヘカラス

●產地證明書規則

（大正七年三月五日關東都督府令第八號）

產地證明書規則左ノ通定ム

產地證明書規則

第一條　關東州租借地稅關假規則第五條ニ依ル產地證明書ハ民政署長、民政支署長又ハ民政支署出張所長之ヲ發給ス

第二條　產地證明書ノ下附ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政署、民政支署又ハ民政支署出張所ニ願出ツヘシ

一　品名
二　數量（荷造ノ番號記號アルモノハ之ヲ併記スヘシ）
三　價格
四　生產地
五　製造地
六　仕向地
七　輸送港ノ定マレル場合ハ其ノ港名

民政署、民政支署又ハ民政支署出張所ノ所在地外ニ於テハ前項ノ願書ハ警察官吏派出所ニ提出スルコトヲ得

第三條　產地證明書ノ有效期間ハ下附ノ日ヨリ起算シ五十日トス

前項ノ期間ヲ經過シタル產地證明書ハ之ヲ下附官署ニ返納スヘシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金拘留又ハ科料ニ處ス其ノ發給ニ係ル證明書ハ之ヲ沒收ス

一　第二條第一項各號中ノ事項ヲ詐稱シ其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ證明書ノ下附ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者
二　第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者

附則

第五條　本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　本令第三條ノ規定ハ本令施行ノ前ニ下附シタル產地證明書ニ之ヲ準用ス但シ其ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

（附錄樣式）

五寸四分

第　號

產地證明書

出願者住所氏名	
品名	
數量	
生產地	
製造地	
仕向地	
輸出港	
備考	

右證明ス

年　月　日

發給官署長　官印

五寸八分

注意　本證明書ハ下附ノ日ヨリ五十日ヲ經過シタルトキハ必ス返納スヘシ

●關東州租借地稅關兵器彈藥輸入規則

（明治四十二年三月三十一日關東都督府令第六號）

關東州租借地稅關兵器彈藥輸入規則左ノ通定ム

關東州租借地稅關兵器彈藥輸入規則

第一條　【淸國】軍督若ハ官廳カ關東州ヲ經テ兵器及彈藥ヲ輸入セムトスルトキハ千九百八年七月一日施行ニ係ル【淸國】改訂槍彈進口新章第一款ノ規定ニヨリ其ノ所轄ノ將軍、總督又ハ巡撫カ發給スル護照ヲ稅關ニ提示スヘシ

稅關ハ兵器及彈藥カ護照ニ記載セラレタル箇數ニ符合スルトキ其ノ陸揚ヲ許可ス

第二條　商人ニシテ【淸國】軍督又ハ官廳ニ差出ス爲兵器及彈藥ノ見本ヲ輸入セムトスルトキハ日本人ニ在リテハ所轄民政署長又ハ領事外國人ニ在リテハ所轄領事ヲ經海關監督ニ對シテ輸入許可書（准運護照）ノ交付ヲ申請シ該輸入許可書ヲ輸入申告書ト共ニ稅關ヘ提出シ輸入ノ許可ヲ受クヘシ

見本トシテ輸入スル一回ノ數量ハ同一種類ノ銃砲四挺及其ノ彈丸二千發ヲ超ユルヲ得ス

軍用兵器及彈藥ノ見本ヲ輸入セムトスル商人ハ之ヲ何人ニモ賣却セサルコトヲ保證スル爲稅關ニ證書ヲ提出スルヲ要シ尙該輸入兵器彈藥ハ稅關ノ要求ニヨリ何時ニテモ檢査ノ爲提出スヘシ

海關監督ハ疑アリト認メタルトキハ許可書ノ發給ヲ拒ムコトヲ得但シ當該領事、民政署長ニ對シ其ノ旨ヲ通告スヘキモノトス

第三條

（甲）信用アル日本人又ハ外國人カ關東州ヲ經テ【淸國】內地ニ入ラムトスルトキハ護身用トシテ拳銃一挺同旋短銃一挺及其ノ彈丸五百發以內ヲ携帶スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ其ノ旨ヲ屆出ツルヲ要ス稅關ハ檢査ノ上之ヲ許可スヘシ

本規程ニ反シ申告洩ノ貨物アルトキハ之ヲ稅關ニ沒收ス

（乙）【淸國】內地ニ在留セル信用アル日本人又ハ外國人ニシテ護身用トシテ兵器及彈藥ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ輸入ニ先タチ所轄領事ヲ經海關監督ニ輸入許可書（准運護照）ノ發給ヲ申請シ之ヲ輸入申告書ニ添附シテ稅關ニ差出シ輸入ノ許可ヲ受クヘシ

護身用トシテ輸入ヲ許可セラルヘキ數量ハ一人一箇年一回ヲ限リ拳銃一挺同旋短銃一挺及彈丸五百發以內トス

海關監督ハ疑アリト認メタルトキハ許可書ノ發給ヲ拒ムコトヲ得但シ所轄領事ニ對シ其ノ旨ヲ通告スヘキモノトス

（丙）旅行券ヲ有スル日本人又ハ外國人ニシテ西藏、蒙古、土耳基斯坦等ノ【淸國】內地ヘ旅行セムトスルトキハ護身用トシテ前項ニ規定セル數量ノ二倍以內ノ兵器及彈藥ヲ携帶スルコトヲ得

（丁）日本人又ハ外國人ハ拳銃及同旋短銃ノ外他ノ武器ヲ護身用トシテ輸入スルコトヲ得ス

（戊）護身用刀劍ハ仕込杖其ノ他暗藏ノ刀ヲ除キ本條ノ規定ヲ適用シ輸入スルコトヲ得

陸海軍用ノ兵器及彈藥ハ左ノ場合ニ限リ輸入スルコトヲ得

一　見本用ノモノニシテ海關監督ノ發給シタル護照アルトキ
二　【淸國】陸海軍又ハ其ノ他ノ官廳ノ爲輸入スルモノニシテ確實ナル證明書ヲ有シ且該證明書ヲ海關監督カ證明シタルトキ

日本人又ハ外國人ハ自用ニ供スル口實ノ下ニ軍用兵器及彈藥ヲ輸入スルコトヲ得ス

軍刀及銃劍ハ軍用兵器ト同樣ノ取扱ヲナスモノトス

第四條

（甲）信用アル日本人又ハ外國人カ關東州ヲ經テ【淸國】內地ニ入ラムトスルトキハ獵銃三挺彈丸三千發以內ヲ携帶スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ稅關ニ屆出ツルヲ要シ稅關ハ貨物檢査ノ上其ノ輸入ヲ許可スヘシ

本規定ニ反シ申告洩ノ貨物アルトキハ之ヲ稅關ニ沒收ス

前記ノ手續ニ依リ輸入スル古獵銃及之ニ用フル彈藥ハ共ニ輸入稅ヲ免セラルヘシ

（乙）【淸國】內地ニ在住セル信用アル日本人又ハ外國人カ獵銃及彈藥ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ輸入ニ先タチ所轄領事ヲ經海關監督ニ對シテ輸入許可書（准運護照）ノ發給ヲ申請シ之ヲ輸入申告書ト共ニ稅關ニ差出シ輸入ノ許可ヲ受クヘシ

遊獵用トシテ輸入ヲ許可セラルル數量ハ一人一箇年一回ヲ限リ獵銃三挺其ノ彈丸三千發以內トス

海關監督ハ疑アリト認メタルトキハ許可書ノ發給ヲ拒ムコトヲ得但シ所轄領事ニ其ノ旨ヲ通告スヘキモノトス

（丙）信用アル日本又ハ外國商會ハ獵銃及彈藥ヲ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄領事ヲ經海關監督ニ對シテ輸入許可書ノ發給ヲ申請シ尙輸入ノ際該品ヲ直接若ハ間接ニ法規違反者ニ賣渡ササルコトヲ保證スル爲稅關ヘ證書ヲ提出スルコトヲ要ス

右輸入獵銃一回ノ數量ハ注文ヲ受ケタル場合ニハ六挺以內トシ其ノ他ノ場合ハ四挺以內トス

輸入商會ハ注文ニヨリ輸入スル場合ニハ其ノ注文者ノ氏名及宿所ヲ輸入申告書ニ記入シ稅關ニ屆出ツルヲ要シ注文ヲ受ケスシテ輸入シタル場合ニハ其ノ獵銃彈藥數量、購買者ノ氏名宿所竝賣渡月日ヲ詳記シタル帳簿ヲ備ヘ稅關ヨリ其ノ檢閱ヲ要求スルトキハ何時ニテモ之ニ應スヘキモノトス

日本又ハ外國商店カ輸入スル獵銃用彈藥ハ各種合計一回一萬發ヲ超過スルコトヲ得ス但シ同一人ニ一萬發以上ヲ賣却セサル保證書ヲ提供シタルトキハ二萬五千發ニ上ホスコトヲ得

第五條　陸軍若ハ海軍用兵器彈藥ハ【淸國】陸海軍又ハ他ノ官廳ノ購買スルモノヲ除クノ外現行條約ノ規定ニ依リ其ノ輸入ヲ禁止ス

第六條　本規則第二條第三條及第四條ノ規定ニ從ヒ輸入セラルル兵器彈藥ニ對シテハ從價五分ノ輸入稅ヲ課ス

第七條　大連以外ノ土地ニ居住スル日本人又ハ外國人カ護身用若ハ遊獵用ノ爲兵器彈藥ヲ輸入セムト欲シ之ヲ大連ニ於テ他ノ船舶ニ轉載セムトスル場合ニ其ノ輸入者カ日本人ナルトキハ民政署長外國人ナルトキハ所轄領事ヨリ同地稅關ニ輸入者ノ氏名貨物ノ箇數等ヲ通報シテ船移ヲ請求スル場合ニ限リ許可セラルヘシ船移ヲナシタル貨物カ目的地ニ到著シタルトキハ輸入者ハ所轄領事ヲ經テ海關監督ニ對シ輸入許可書ノ發給ヲ申請シ該許可書ト共ニ稅關ニ呈示シ其ノ檢査及課稅ヲ受ケタル上其ノ輸入ノ許可ヲ受クルモノトス

前項ノ規定ハ【淸國】ノ開港場ニ於テ船移シタル兵器彈藥カ大連ニ到達シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律

（大正十一年四月十八日法律第五十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理兼大藏大臣副署）

內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ內國稅ヲ免除シ又ハ內國稅ニ相當スル金額ヲ下戾シ若ハ交付スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前南洋群島ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前南洋群島ニ輸出シタル貨物ニ對スル稅金ノ免除又ハ稅金ニ相當スル金額ノ下戾若ハ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（大正十一年勅令第二百九十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

●南洋群島ニ於ケル關稅ニ關シ關稅法及關稅定率法等ニ依ルノ件

（大正十一年五月三十日勅令第二百九十五號　改正　大正一三年第一七一號、一四年第二三七號、第二六一號　昭和二年第二八五號）

朕南洋群島ニ於ケル關稅ニ關シ關稅法及關稅定率法等ニ依ルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理兼大藏大臣副署）

第一條　南洋群島ニ於ケル關稅ニ關シテハ關稅法第六十八條乃至第七十三條及第九十九條ノ規定ヲ除クノ外關稅法、關稅定率法、大正十三年法律第二十四號、大正十四年法律第五十一號、保稅倉庫法、保稅工場法、關稅法施行規則及關稅定率法ニ基ク勅令ニ依ル

第二條　大正九年勅令第五百四十九號及大正十年勅令第二百三十九號ヲ除クノ外前條ノ法律及勅令中大藏大臣トアルハ南洋廳長官トス

前條ノ法律及勅令中稅關又ハ市町村役場ト